大晦日興行10周年!! 今年は何が起きるのか……!?

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

10周年だメ～ン!

enterbrain MOOK

2010
154
特別定価 940yen

10th thanks! eb!

大晦日よりもアメリカへ!!
来春、日本軽量級の至宝がUFCに殴り込み!

山本"KID"徳郁
小見川道大

KID、小見川、UFCに"流失"!!
日本に突きつけられる圧倒的現実!

う～ん、ダイナマイッ!!

大会速報、選手ブログは携帯で!
kamipro Move

2010 No.154 CONTENTS

kamipro

IGF軍団、年末興行殴り込みなるか!?

特集 大晦日だメ～ン!

—!!

だのか

か

山本KID徳郁、小見川道大が来春UFC参戦へ——!!

UFCが大きくなりすぎたのか日本が小さくなったのか

「we did sign KID」

12月10日、ダナ・ホワイトUFC代表が自身のツイッターアカウントで衝撃的なツイートを行なった。山本KID徳郁がUFCの試合契約書にサインしたことを明かしたのだ——(なお、このゴキゲンなツーショットは2年前にKIDがUFC観戦した際に撮影したんだメ〜ン!)。

この数日前にはアメリカのMMAサイトがKIDとUFCが参戦交渉と行なっている、と報じていたが、多くの関係者は寝耳に水の動き。12月16日現在、KID陣営はこの件について沈黙を保っているが、アメリカではKIDのUFCデビュー戦が2月5日『UFC126』ラスベガス大会になると報じている。事実上、大晦日のKID参戦は消えたといえる。

激震は続いた。現在、日本人軽量級の実力ナンバーワンファイター、小見川道大のUFC参戦も報じられたのである。こちらも正式なアナウンスはされていないが、KIDサイドも小見川サイドも今年度中に記者会見を行なって、UFC参戦を正式に発表すると言われている。年末決戦を前に「ダイナマイッ!!」な話題が炸裂してしまうわけだ……。

両雄がUFC参戦を決めた背景には、これまで軽量級部門だったWECがUFCに統合されることもある(どちらもズッファ主催のイベント)。あくまでローカルイベントでしかなかったWECがメジャーイベントに統合されることで待遇面や知名度等が向上することはあきらか。詳しいことは6ページからの大晦日座談会をお読みいただきたいが、アメリカの軽量級シーンが一気に魅力的になるというわけだ。

それにしても、だ——。

数年前までは世界最大のMMAイベントが催されてきた日本の大晦日を前にしてのこの決断。両者にはもちろん大晦日イベントに出場するという選択はあったが、しかし、彼らは大晦日よりもアメリカを選んだ。アメリカ市場のビッグバンにより揺らぎまくる"ジャパニーズMMA"の価値観、存在意義がまたまた問われてくる事態となったのだ。

しょせんアメリカの出来事、去る者は追わず——ではなく、日本の今後を見据えるうえでKID、小見川のUFC参戦は決して目をそらしてはいけないのだメ〜ン!!

2011年を占う
格闘技
総力戦!

はたして最後の隠し球はあるのか!?
年末二大決戦観戦ガイド!!

12.31『Dynamite!! ～勇気のチカラ 2010～』

Fight Card

［DREAMフェザー級タイトルマッチ　1R10分、2R-3R5分］
(王者)**ビビアーノ・フェルナンデスvs高谷裕之**(挑戦者)

［DREAMウェルター級タイトルマッチ　1R10分、2R-3R5分］
(王者)**マリウス・ザロムスキーvs桜庭和志**(挑戦者)

［DREAM/K-1 MIX特別ルール(詳細未定)］
青木真也vs長島☆自演乙☆雄一郎

［DREAMライト級　1R10分、2R5分］
川尻達也vsジョシュ・トムソン

［DREAMフェザー級　5分3R］
所英男vs渡辺一久

［DREAMフェザー級　5分3R］
宮田和幸vs宇野薫

［K-1 63kg契約］
大和哲也vs西浦“ウィッキー”聡生

［K-1 ヘビー級］
ゲガール・ムサシvs京太郎

［DREAMウェルター級　5分3R］
桜井“マッハ”速人vsジェイソン・ハイ

ウ～、ダイナマイッ!!

と、元気よく書き出したものの、続々とカードを発表し続ける『戦極』とは裏腹に、まるで今年のDREAMのマッチメイク事情を象徴するかのように、出足が遅れていた『Dynamite!!』。11月19日にビビアーノ・フェルナンデスvs高谷裕之を発表してから、12月13日までなんのアナウンスもなかったことからも、その混迷ぶりがうかがえる。谷川貞治EPの顔色が日に日に悪くなっているのは気のせいだろうか? んあ～。

そうは言っても、12月15日現在で発表されている試合は9カードであり、予定では残すところあと3試合。『Dynamite!!』といえば、TBSの好みの有名人を担ぎ出すのが恒例だが、いまのところまだそれらしき発表がないのが気になるところ。

噂では長島一茂や南海キャンディーズのしずちゃんなどの名前も挙がったようだが、いずれもどうやら不発に終わった模様。「ヒョードルよりもホンマンのほうが有名」という赤坂の某局のハードルを越えられるようなカードは発表されるのか?

さて、今年の『Dynamite!!』で特徴的なのが、DREAM vs K-1という図式。それぞれルールは異なるが、どうしても目がいくのが青木真也vs長島☆自演乙☆雄一郎のミックスルールマッチ。今年もガチガチの相手とばかり対戦してきた青木が〝大晦日らしい〟カードに臨むあたり、どういういきさつがあったのか気になるところだ。

ほかの注目カードといえば、やはり川尻達也vsジョシュ・トムソンの一戦。青木戦以来、イライラモードの続く川尻が、非UFCファイターではギルバート・メレンデスと並ぶ実力者のトムソン相手に、『Dynamite!!』の発火点となることに期待したい。

なお、今大会では〝一寸先のハプニング〟で、アントニオ猪木がエグゼグティブプロデューサーに就任。となると、気になるのは猪木軍の参戦だ。〝新暴走王〟鈴川真一が練マザファッカーを引き連れて参戦するところをぜひとも観たいものだメ～ン!

FieLDS
Dynamite!!
～勇気のチカラ 2010～
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
12月31日(金) 開場14:00 開始16:00

チケット料金
VIP【特典=専用入場ゲート・グッズ付】¥100,000
RRS ¥30,000／スタンドS ¥15,000／スタンド ¥6,000

お問い合わせ
DREAM事務局 TEL.03-5775-5065

PPV中継放送スケジュール

スカパー!HD	【初回放送】Ch.193	12/31(金)深夜0:00～翌前7:00	ほか
スカパー!	【初回放送】Ch.183	12/31(金)深夜0:00～翌前7:00	ほか
スカパー!e2	【初回放送】Ch.803	12/31(金)深夜0:00～翌前7:00	ほか

【視聴料金】3,150円　【事前申込】販売期間=12/15(水)～12/30日(木)
詳しくはスカチャンHPまで http://www.sukachan.com/

12.30『戦極 Soul of Fight』

「朝から晩まで格闘技！」

この、普通なら考えてもなかなか実行しないような、前代未聞のテーマを掲げた日本最大級の格闘技フェスティバル、それが『戦極Soul of Fight』だ！

当初はSRC単独での開催が予定されていたものの、キックボクシングから道衣着用マッチ、さらには女子格まで、日本格闘競技連盟傘下のさまざまなジャンルの試合が「シャキーン!!」と勢揃い。12月15日現在で、な、な、な～んと26個ものカードが発表されている（当初の予定は全25～30試合）。

『Dynamite!!』とは異なり、テレビ局の意向に振り回されない、地味ながらも本格志向なカードが出揃ったのが特徴の今大会。本格的すぎて、正直『Kamipro』読者にはピンとこないであろう選手名がチラつくのはいなめないところ。でも大丈夫！今大会はパスを発行して会場の出入りが自由となっており、向井代表も「大会の合間にご自由にお台場で買い物してきてください」と、お気楽なコメント。まぁ、冷静に考えると「え、それでいいの？」と思わず心配したくなるのだが。

しかし、決して質より量というわけではなく、もちろんビッグマッチにふさわしく、格闘技ファン垂涎のカードもマッチメイク。マルロン・サンドロvs日沖発のフェザー級チャンピオンシップは、日本ならず世界が注目する同級屈指の好カードだし、ブアカーオ・ポー・プラムックvs中島弘貴に至っては「え、なんで『戦極』で？」と、クエスチョンマークが浮かぶファンがいてもおかしくないほど、無駄に贅沢なカード。

もちろん、SRCきっての〝名勝負製造器〟三崎和雄をはじめ、まだ対戦相手は決まっていないものの、金原正徳や郷野聡寛といった人気ファイターも出場予定選手に名を連ね、さらにはアッと驚くような隠し球の噂も……？　ちなみに本誌ガセネタ記者・堀江ガンツによるヒョードル参戦情報はガセだったのであしからず。

さて、今大会で本誌イチオシなのが〝21世紀のレジー・ベネット〟こと中井りん。向井社長が出場女子格選手の条件として挙げた、「武家の娘さんのような凛としたイメージの人」かどうかはさておき、初のビッグイベント出場ということでハズカシイけど頑張ってくれるはずだ！　ダッダーン、ボヨヨンボヨヨン、シャキーン!!

PPV中継放送スケジュール

スカパー!HD	[生中継]	Ch.191	12/30（木）午後3:00～9:00 ほか
スカパー!	[生中継]	Ch.162	12/30（木）午後3:00～9:00 ほか
スカパー!e2	[生中継]	Ch.801	12/30（木）午後3:00～9:00 ほか

【視聴料金】3,150円　【事前申込】販売期間＝12/1（水）～12/29（水）
SRC×スカパー!豪華プレゼントキャンペーンも実施中!
詳しくはスカチャンHPまでhttp://www.sukachan.com/
※「戦極Souloffight」11:00～15:00までサムライTV（スカパー!ch.301、スカパー!e2ch.804）にて無料生中継!
詳しくはFIGHTINGTVサムライHPまで http://www.samurai-tv.com/

Fight Card

[SRCフェザー級チャンピオンシップ　5分5R]
（王者）マルロン・サンドロvs日沖発（挑戦者）

[SRCルール　ミドル級　5分3R]
三崎和雄vsマイク・シール

[SRCウェルター級グランプリシリーズ2010決勝　5分3R]
中村K太郎vsYasubei榎本

[SRCルール　ミドル級　5分3R]
マメッド・ハリドヴvs佐々木有生

[SRCルール　ライト級　5分3R]
真騎士vsパーキー

[SRCルール　ヘビー級　5分3R]
中尾“KISS”芳広vsデイブ・ハーマン

[SRCルール　ライト級　5分3R]
横田一則vsジャダンバ・ナラントンガラグ

[SRCバンタム級ASIAトーナメント2010準決勝　5分2R]
井上学vs清水俊一

[SRCバンタム級ASIAトーナメント2010準決勝　5分2R]
田村彰敏vs中原太陽

[SRCジャケットルール　ライト級　5分1R]
坂口征夫vsジョン・ジンソク

[SRCジャケットルール　ライト級　5分1R]
山田崇太郎vsキム・イサク

[SRCジャケットルール　59kg契約　5分1R]
清水清隆vs杉田一朗

[女子総合格闘技　53.5kg契約]
藤井恵vs藤野恵美

[女子総合格闘技　無差別級]
中井りんvsHARI

[女子総合格闘技　61kg契約]
赤野仁美vsロクサン・モダフェリ

[女子総合格闘技　61kg契約]
瀧本美咲vsエイミー・デイビス

[戦極ムエタイルール　52kg契約　3分5R]
藤原あらしvs江幡睦

[戦極ムエタイルール　ライト級　3分5R]
カノンスック・ウィラサクレックvs山本元気

[戦極ムエタイルール　女子ミニフライ級　2分5R]
神村エリカvsちはる

[戦極ムエタイルール　73kg契約　3分3R]
宮本武勇志vs小又大貴

[戦極ムエタイルール　ヘビー級　3分3R]
ファビアーノ・サイクロンvs野地竜太

[戦極キックボクシングルール　70kg契約　3分3R]
ブアカーオ・ポー・プラムックvs中島弘貴

[戦極キックボクシングルール　ヘビー級　3分3R]
イ・チャンソクvs小澤和毅

[戦極キックボクシングルール　70kg契約　3分3R]
山内佑太郎vs横山剛

[戦極キックボクシングルール　70kg契約　3分3R]
池井佑丞vs松倉信太郎

[戦極キックボクシングルール　ライト級　3分2R]
池上大将vs田中雄士

センコー presents
戦極 Soul of Fight
東京・有明コロシアム
12月30日（木）開場10:00 開始11:00（予定）

チケット料金
ロイヤルVIP席 ¥30,000円
VIP席 ¥20,000/戦極シート ¥15,000/RRS席 ¥10,000
SS席 ¥8,000/S席 ¥5,000

お問い合わせ
ワールドビクトリーロード TEL.03-5725-7311

——猪木で始まり猪木で終わる大晦日、ムフフフ……。というわけで、今日は今年の大晦日総まとめ座談会と

部分もありますけど。
ガンツ　そして発表されたのがまず桜庭和志vsマリウス・ザロムスキー

ということなんですけど、今年の大晦日はSRCの年末興行も含めて、普段からしたら豪華なんだけど、な

田会長とテリーさんが親しくて、そのなかから生まれた話らしいんですよね。これは格闘技関係ではなく、テ

座談会出席者
高橋ターヤン

“ガセネタ”から極秘情報までを総まとめ!

2010年 大晦日の舞台裏 座談会

[大会前バージョン]

アヤシイ噂から“大事件”まで、すでにいろんな情報が飛び交っている2010年大晦日。
やっと大晦日らしくなってきたぞ! というわけで、ここではその情報を整理&分析し、
今後のマット界の展開なども考えてみた。元気があれば座談会も読める!　ダーッ!!

構成／松下ミワ

——猪木で始まり猪木で終わる大晦日、ムフフフ……。というわけで、今日は今年の大晦日総まとめ座談会ということで、さっそく始めたいと思います。語っていただくのは、大晦日裏事情にやたら詳しい大晦日ライターの堀江ガンツ氏と……。

高橋　大晦日素人の高橋ターヤンです（笑）。

——しかし、今日はようやく『Dynamite!!』のカードが発表されましたね。

高橋　僕、まだ見てないんですけど、何が発表されたんですか？

ガンツ　今日はUSTで生放送されてたんで、ボクはそれで見たんですけど、さすがにみんなこんだけ待たされたんでド凄いカードが出てくるんじゃないかと思ってたら、いきなり画面に映ったのがポツンと座ってる猪木さんだったという（笑）。

高橋　ええ⁉　猪木さんが出てたんですか？

ガンツ　猪木さんが今回の『Dynamite!!』のエグゼクティブプロデューサーというわけですよ！　しかも、開口一番「えー、俺には何も聞かないでください」っていう。

高橋　ワハハハ！　なんじゃそりゃ。

——今日は完全にマスコット的な感じでしたよねえ。もう毒とか野心というのは2003年の大晦日にすべて置いてきましたという感じで。そこは和む部分でもあり、逆に寂しい部分もありますけど。

最初に目玉として考えてたのは小川直也vs石井慧だったんですよ

ガンツ　そして発表されたのがまず桜庭和志vsマリウス・ザロムスキーのウェルター級タイトルマッチ。

高橋　噂のカードですね。

ガンツ　そして宇野vs宮田、大和哲也vs西浦〝ウィッキー〟聡生……。

——あとは川尻vsジョシュ・トムソン、そして青木vs自演乙のミックスルールマッチ、という感じなんですが、いかがでしょうか？

高橋　うーん、いや、悪くはないんじゃないですか？　ホントに持てる力を振り絞ったという感じで。

——確かにナンバーシリーズで考えると豪華ですけど、大晦日という部分を考えると……。

ガンツ　まあ驚きはなかったよね。一番のビッグカードと言える川尻vsジョシュ・トムソンだって、なぜか事前にストライクフォースから全世界に向けてプレスリリースが流れてたし（笑）。

——それに、ズバリ言って発表されたカードを見るかぎりでは、今回は核がないですよね。なぜ大晦日に興行をやるかと言ったら、世間の注目を集めるプロモーションの場だからということなんですけど、今年の大晦日はSRCの年末興行も含めて、普段からしたら豪華なんだけど、なんか対世間の部分が薄いというか。

高橋　そう言われると、今年の総決算でもないですし、来年に対する決起大会でもないし、という感じはいまのところしちゃいますよね。

——なので、まず裏ではどういう話が挙がっていたのかから見直していきたいんですが、やはりここは今回の大晦日に関して血の滲むような情報収集をしてこられた堀江ガンツさんにおうかがいしたいな、と。

写真はちょっと困った顔をしている向井代表だが、12月30日『戦極』ではテリー伊藤プロデュース計画が進んでいたとか。なんだか凄いぞ『戦極』！

ガンツ　「トップ屋」と呼んでください（キリッ）。

高橋　いつの時代の言葉なんだ（笑）。

——そのトップ屋がまず最初に取ってきた情報というのが、SRC興行をテリー伊藤がプロデュースするというガセネタだったわけですが……。

ガンツ　だからガセじゃないっていうの！

——これはどういうことだったんですか？

ガンツ　単純にドン・キホーテの安田会長とテリーさんが親しくて、そのなかから生まれた話らしいんですよね。これは格闘技関係ではなく、テレビ関係の人から「こんな話が来てるんだけど」という情報を仕入れたんですけど。

——つまり、音楽と格闘技の融合が実現しかけた、と。

高橋　音楽と格闘技の融合……。そういう試みを見せられて、何回ガッカリしたことか（笑）。

ガンツ　それが結局なくなったんだけど、一説によるとテリーさんには一応、アイデア料みたいなのを払われたとか払われてないとかいう話も聞きましたね。

——へえ、じゃあまるっきりガセでもなかったんですね。

ガンツ　ガセなんて流しませんよ、失礼な！

——そして今度は『Dynamite!!』に関して噂が出たのが長島一茂の参戦。

ガンツ　でも、よくよく考えてみると、フジテレビのK―1解説者がTBSでデビューしていいのかという問題もあるし、一応読売ジャイアンツの要職に就いているわけだから、日テレ的にも難しそうだよね。

——それを投げ捨ててまで『Dynamite!!』に懸けるかというと、まあ懸けないですよねえ。

ガンツ　あとは、トップ屋が仕入れた情報としては、南海キャンディーズのしずちゃんを出せないかとか、ビリー隊長を出せないかとか、TBS方面からそんな案が出たとか出ないとか……。

高橋　なんか、レベル的に『kamipro』の企画会議みたいだ（笑）。

ガンツ　いや実際、企画会議段階の話が漏れ伝わってきたわけですからね。こっちとしても「どうせ実現しないから、言っちゃっていいや！」っていう感じですからね。

——そのマッチメイクの一つに桜庭vs曙という案がありましたよね？

ガンツ　それは、今回の猪木さんが『Dynamite!!』に来るというのも同じタイミングで聞いたんだよね。だから要は大晦日興行も10年目だから、「10年間の象徴みたいな人が集めたらいいんじゃないのか」ということで曙さんの名前が挙がった感じなんでしょう。

——一方、ボクが谷川さんから入手した情報では、最初に目玉として考えてたのは小川直也vs石井慧だったんですよ。でも、これはやろうと思えばできたんじゃないですかね？

ガンツ　まあPUJIの資金調達ができてさえいれば、という感じだよねえ。僕は小川さんと最近話した数少ない格闘技マスコミの人間ですけど、話した感じでは「ちゃんとしたも

座談会出席者

高橋ターヤン
UFCをはじめ、おもに海外系の情報に詳しいフリーライター。携帯サイトkamiproMoveでも海外情報を扱うコラム「This Week MMA」を連載中。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファンでならし、『週プロ』の「プレッシャー」会員という恥ずかしい過去を持つ。変態座談会主宰者。

[司会]ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『kamipro』編集部へ。永久電機など、アントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。

のを出してくれれば、異論はないよ」というのを感じたんだけどね。残念。

——そして、もう一つ谷川さんは「サクちゃんと○○できないかな」という話だったんですけど、あれはなんとヴァンダレイ・シウバだったんですよ。「どう考えてもできないでしょ⁉」って話なんだけど（笑）。

高橋　はー、それはいろんな意味で困った話ですねえ。

——だって、ヴァンダレイってUFCと契約して、今後の人生を懸けるつもりでラスベガスにジムまで出してますからね。だからUFCと切るんだったら1億や2億じゃすまない話ですよ。だからそういった様子を見ていて、今年の大晦日はちょっとヤバイなあって感じだったんですけど、そんななかで発表されたカードが冒頭に話したカードだったという。

高橋　なるほど。

——さらに言うと、話としてあったのが、TBSがヒョードル参戦を断ったという話です。

高橋　えー‼

ガンツ　これはこのあいだ、俺がツイキャスであまりにもおもしろく言いすぎたためにけっこうおもしろおかしく広まっちゃったんで、若干修正させてください（笑）。

——説明すると、おそらく来年ヒョードルはストライクフォースで復帰するんでしょうけど、その前にそんなに高くないギャラで日本で調整試合をやってもいいよ、と。そういうことをヒョードルもワジムさんもインタビューで言ってたんですよね。

ガンツ　単純に大晦日に試合をするというのは好きらしいからね。だからDREAMの渉外の方はM—1と交渉して好感触を得て『Dynamite!!』でヒョードルが使えそうですよ。TBSさんどうですか?」と提案したところ、返ってきた答えが「うーん、ヒョードルじゃ石井の相手として弱いなあ」っていう（笑）。

高橋　贅沢すぎるでしょ！

ガンツ　おそらく、TBSは「いやー、オタクもマニアックなこと言うねえ」みたいなノリなんだろうね（笑）。「やっぱりチェ・ホンマンみたいな感じで『怪物くん』に出たりとかさ、そういうのを連れてきてよ」っていう。

——だから、もともと石井慧の対戦相手としては、ヒョードルとチェ・ホンマンが挙がってて、当然石井慧サイドにまでは話はいってないと思うんですけど、片方のヒョードルはあっという間に選択肢から削られてたという。

高橋　じゃあ、チェ・ホンマンしか残ってないじゃないか（笑）。

——でもチェ・ホンマンも、じつはなくなっちゃったんですよね。どうやら、いまは試合ができるような状況ではないらしくて。

高橋　ほう。それは精神的なものですか、それとも肉体的な？

——どっちもらしいです。お金の問題でもないし、格闘家としてはちょっと難しいみたいな話らしいですね。だから石井慧の相手は相当困ってるみたいなんですよ。

ガンツ　というかよく解釈すると、TBSも数字を獲れる要素は今年は石井しかないから、とにかく石井の相手は世間的に知られてる人でってことだったんだろうけど。となると、

今年の『Dynamite!!』が世間にアピールできる一番のカードはやはり石井慧がらみ。これまで小川、ヒョードル、チェ・ホンマン、そのほかK-1ファイターも含め、いろんな噂が聞こえてくるが、はたしてどんなカードになるのか!? 頼むよ、TBS！

メレンデス本人も青木との試合はホーム&アウェーでやるつもりで

マニアックだったんだろうなあ、ヒョードルじゃあ。

——そのヒョードルですが、SRCが匂わせているサプライズが、じつはヒョードルなんじゃないかという噂を！……我々が勝手に流してるんですけどね（笑）。

ガンツ　なんの根拠もなしに（笑）。ただ、一番最初にこのトップ屋が仕入れた情報によると、SRCは当初からヒョードル参戦を狙ってたらしいんだよね。

——確かに、昔から忘れた頃に「SRCにヒョードルを出すんじゃないか」みたいなのが出ますからね。

ガンツ　SRCの場合はTBSと真逆で、ビッグボス安田会長が「ヒョードルが出せるのか⁉　それなら金は出すぞ！」というタイプだからね。

——でも、よくよく考えたらSRCの感性って我々のふざけたものとはひと味違う部分があるんで、もしかしたらたとえば真騎士vs郷野あたりをビッグカードと言ってる可能性もあるという。

ガンツ　でも郷野はそれこそ青木真也戦という案もあったとかいう噂も聞きましたよ。

高橋　へえー、それはおもしろいですね。

ガンツ　ま、それも「郷野？　マニアックだね～」ってことで却下だったのかもしれないけど（笑）。

——で、青木ですけど、メレンデス戦がなくなったという経緯もありました。そもそも今回は青木vsメレンデスはほぼ内定みたいな感じで、10月くらいから噂されてましたけど、これはなぜ急になくなったんですか？

ガンツ　聞く人によって話が違うんだけど、間違いなくわかってることは、合意してたのはDREAMとストライクフォースの団体間だけだったということ。だから、スコット・コーカーはOKで「メレンデスに話してみるね」という感じだったんだけど、そこからが難航したという。で、メレンデス本人も、もともと青木との試合はホーム&アウェーをやるつもりだったから「いいよ」ということだったんだろうけど、青木に勝ったことによってメレンデスのバリューって予想以上に上がっちゃったんだよ。

高橋　各MMAサイトでもランキング的には2位、3位に普通に入ってきてますからね。

ガンツ　で、ストライクフォースとは残り1試合の契約なんだけど、次の契約となると、UFCももちろん取りにくるだろうし、そういうなかでの契約更新は金額も全然変わってくるわけで。だから、ひょっとしたら黒星がついちゃうような試合は、マネージャーとしてはなかなか受けられないよね。

高橋　アメリカは戦績にシビアですから。

ガンツ　だから逆に言うと、ストライクフォースが「来期はこんだけのお金でドンとお願いします」ということだったらOKなんだろうけど、そっちの話がまとまってないんで、次の契約が決まるまでちょっと試合は待ってね、という感じだったという。

高橋　しかも、残り1試合を『Dynamite!!』で消化しちゃうと、へタしたらチャンピオンシップをやらないまま離脱される可能性もあるから、ジェイク・シールズのときと同様、チャンピオン不在になる可能性だってあるというか。

——そのなかで青木の相手がいなくなってしまって、いろんな噂が流れましたよね。小見川選手、郷野選手、あとはアンディ・サワーという話もあって。結局、今回は自演乙選手という。あ、あとジョシュ・トムソンという話もありました。それは川尻選手の相手になりましたけど、トムソン参戦になかなかGOが出なかったのはCBSの許可が必要だったんじゃないかという話もありますよね。

高橋　確かにストライクフォースって、アメリカではCBSとかショータイムというテレビ局で放送してて、ストライクフォースの代表として『Dynamite!!』に出ると、『Dynamite!!』ってHDネットという別のテレビ局で放送してるので、その調整って間違いなく必要になるでしょうし。

青木のカードはその後、小見川、郷野、サワー、それから……

——それもDREAMとか昔のPRIDEみたいに上位にあればすんなりいくんでしょうけどね。

高橋　ショータイムでスターにしてやったジョシュ・トムソンという選手が、別のテレビ局にストライクフォースの代表として出るというのは問題だという調整は、間違いなく必要になってくる。それで、そこのところをどのように放送するのかというのも不透明かもしれないですね。

——だから、今回のメレンデスのような件がないにしても、海外系のトップファイターを呼ぶときって、そういういろいろやっかいなことが続出しそうですよ。

ガンツ　でも、話を戻しちゃうけど、ホント石井慧の相手ってどうなるんだろうねえ。

高橋　アリスターということはないですよね？

——うーん、ちょっと実力差が厳しすぎるとは思うんですけど、アリスターって結果的にいま一番世間に届くファイターになっちゃったじゃないですか（笑）。

高橋　K—1WGPで優勝しちゃいましたからね（笑）。

©Esthe Lin (STRIKEFORCE)

今年春に日本中を熱狂させた大一番、青木真也vsギルバート・メレンデスがこんなかたちで大晦日興行に響いてくるとは……。本当に対抗戦の恐ろしさというものを感じるばかりである。

——それに、フジテレビでは1ヵ月前からどんどんプロモーションして結果的に視聴率13パーセント獲ったじゃないですか。そういうアリスターにはTBSは確実に出てもらいたいと思ってるはずですよね。

ガンツ　だからあのプロモーション活動を見て、「大晦日は石井vsアリスターはどうですか？」と急に言い出したという（笑）。

高橋　言い出しかねない！

——確かにそれは観たいけど、TBSが言うと「おまえが言うな」というね（笑）。でも、たぶん石井戦は実現しないでしょうね。

高橋　正直まだ早いですよね。

ガンツ　それに、石井はホントに競技者なんで、負けるとわかってるような試合をやろうとはしてないですよ。でも、ヒョードルはもともと憧れてた選手だったんで、オファーがあったらもしかしたらやってたかもしれないよ。ただ去年石井はデビュー戦で負けてるんで、2年連続で大晦日に負ける姿は見せたくないでしょう。しかも、負け戦がわかっているような試合はやるというのは、ちょっと競技ではないというような頭があるだろうし。

——そうなると、逆にアリスターの相手もいないですよ。たとえばジョシュとかアルロフスキーとか、いるんでしょうけど、すでに2週間切ってますから（笑）。

ガンツ　アリスターがK—1で優勝する前にアルロフスキーとDREAMのヘビー級タイトルマッチを闘うという話もちらっとありましたけど、きっとアルロフスキーには話はいってないでしょう（笑）。それでもアリスターvsアルロフスキーは観たいけどね。

——いや実際、アリスターと石井のカードがけっこう肝になってくると思うんですよ。正直、世間に対してアプローチができるカードって、今回ないじゃないですか。だから、このカードによって大晦日の成功は決まると思ってますけどね。

ガンツ　……俺は石井の相手はアーツがいいんじゃないか思うんだよねえ。ワールドGP終わってボロボロだけど（笑）。

——ああ、それはいい。アーツの感動物語をTBSが煽り映像でやると考えただけでもう、腹が立ってしょうがないですけど（笑）。

ガンツ　ちなみに、うちで連載してる椎名基樹さんは、関根シュレックを推薦してました（笑）。

高橋　アハハハ！　観たい、観たい。

ガンツ　知名度はないけど、あの風貌で現役警察官という、それこそプロモーションしたら、みんな観たくてしょうがなくなるよ。

——今日の会見で内定しているはずの水野竜也vsバンナが発表されなかったところをみると、バンナは石井の相手に回されるんじゃないかって気も……。

ガンツ　ありえるねえ。

——10周年経ったけど、結局猪木さんと安田vsバンナの呪縛からは離れられない大晦日（笑）。というなかで、今回の大晦日は参戦する選手よりも、じつは参戦しなかった選手に注目が集まってますよね。まずは北岡選手。これはやっぱり向井代表との確執というのがまずかったんですかね。

ガンツ　どうなんだろ？　ただ、パンクラスを辞めて「ハイ、こっち」っていうのは、あまりにもタイミングがよすぎるのかも。それに、そもそも最初から頭数に入れてなかったというフシを感じるんだよね。TBS案に入ってないという。

——まあそれは後出の北岡選手のインタビューを読んでいただくとして。気になるのはやっぱり小見川選手とKID選手ですよ。もう、このタイミングでKIDと小見川選手のUFC参戦発表って、日本マット界に大打撃というか。

ガンツ　KIDはとくにそうですよね。小見川選手の場合は、来年以降のDREAMでの楽しみがパタっと閉

2010年 大晦日の舞台裏 座談会

2010年大晦日の舞台裏 座談会

ざされちゃった感じで、ビビアーノvs高谷というのも、その勝者と小見川が闘うという絵があったからこそ成り立ってたわけで。

高橋 やっと線になりつつあったところですよね。

ガンツ 純粋なタイトルマッチに変わってしまったという部分は残念ですよ。それにもし高谷選手がチャンピオンになったとしても、絶対に小見川にノックアウトされたというのがついて回りますから。それが、リベンジする機会はもう訪れない。

――もともと小見川選手は大晦日に出るつもりはあったんですか？

ガンツ 条件とカード次第ではあった。UFCに行くにしても、大晦日に試合をやってから行きたいという気持ちもあっただろうし。

――ただDREAMとしては、アメリカに行っちゃうという前提がある選手は非常に使いづらかったということですね。

ガンツ DREAMもずっと複数の長期契約を結びたかったんだけれども、結べなかったということらしいんだよね。だからタイトルマッチも組めない。もし複数契約してれば「二回勝てばタイトルマッチだから」という話もできたと思うんだよね。いついなくなるかわからない選手にはなかなか絵を描きづらいですよね。

――となると、やはり長期契約を結べるか結べないのかというのが肝だったんですね。

ガンツ でも、なぜ結べなかったかといったら、やっぱり小見川が高谷に勝ってるからだよね。だから立場が強い。しかも、「アメリカという選択肢もありますよ」というのをチラつかせられるという。そのやり方はマネージメント側としたら当然のやり方だよね。ましてやWECがUFCと統合したいまとなったらなおさら。

――ただ、小見川選手からするとファイトマネーの面では日本のほうがまだよかったと思うんですけど、やっぱりUFCというブランドの魅力もあったんでしょうね。

高橋 でも、どうなるんですかね。正直、今回の契約ってそんなに条件よくないと思うんですよ。

ガンツ 推定ですけど、8000ドル＋ウィンボーナス8000ドルじゃないかというようなことですよ。これが上限だって。

――まあ軽量級最大のスターであるユライア・フェイバーが2万＋2万ですから、悪くはないですけど……。

高橋 ただ、日本でこれだけ実績を築いたうえで行ったわりにはというレベルだと思いますけど。

ガンツ 逆に考えると、それでも行くということなんでしょう。金額うんぬんじゃなくて、「ホントにプロになっていまが一番充実してる。ここでなんとか勝負したい」と。だから、それ以外のことで時間を潰したくないんですよ。でも、日本にいてもこれはあんまり思うようにいかないから、じゃあ世界一になれるかどうか確かめてみたいという、そっちの欲を取ったんですよね。そうなると、目先のお金のことよりも自分のファイター人生のほうが大事でしょう。

高橋 でもいまUFCに参戦しても、ホントキツイ闘いにはなりますよ。ホントに2試合、3試合じゃ絶対にタイトルマッチにたどり着けないじゃないですか。WECとUFCを統合して、軽量級もUFCになるんだったら、「俺も軽量級に落とす」というファイターだってゴロゴロいるはずですよ。いまのチャンピオンのフランク・エドガーだって、フェザーの選手ですよ。UFCブランドとして闘っていけるんだったら、という選手がゴロゴロいるんで、逆にそのなかでもの凄い目立った勝ち方をしていかないと、ホントに3試合、4試合ただKOで勝ったぐらいじゃタイトルマッチにたどり着けない可能性は非常に大きいかな、と。

去年から今年にかけて、ストーリーができつつあったDREAMフェザー級。しかし、核にいた小見川がUFCと契約したことによって、高谷vsビビアーノのおもしろさも薄くなってしまったのが残念だ。

KIDも小見川もUFCではそんなに高くない。だけど……

――で、トップ屋はKID参戦の情報をいつ頃入手したんですか？

ガンツ 噂段階だと11月末だったか、そのぐらいかな。当初UFC、ズッファは二人の日本人ファイターを獲得したという噂が流れてて、その一人がKIDだったんだけど、もう一人が小見川だというのは知らなかった。

――でも、何が衝撃って、KIDってホントに日本のスターであって、テレビ格闘技の申し子的なところもあって、最近は連敗が続いてますけど、日本にいれば安泰じゃないですか。それが統合されたとはいえ、ギャラの安いUFCに行くというのは……。

ガンツ これも推測ですけど、日本でのファイトマネーに比べたら凄く安いでしょう。

高橋 やっぱり、まずは戦績ですからね。それに、いくらKIDといえどもアメリカでもホントに知る人ぞ知る選手なんですよ。ただズッファ首脳陣の評価自体は高いと思いますよ。

ガンツ だから、ちゃんとKID用の特別価格にはしてくれてるはずなんですけど、それでも日本よりは全然低いはず。

――トップ屋の推測はいくらぐらいですか？

ガンツ 1万＋ウィンボーナス1万だと思います。もう、KIDが100万円で試合するって、いつの時代の話ですかって話だよね（笑）。いまだと円高で80万円ちょっとだから、税金引かれたらいくらなんだっていう話ですよ。そのKIDがなんで行くんだといったら、もう残り少ないファイター人生、のんべんだらりと行くつもりはない、と。だから引き抜かれたのでもなんでもないし、本当にKIDの希望なんだよね。そう決断したら、大晦日に出て、経歴に傷がついたら一生UFCには行けなくなるからこういうかたちになったというか。

高橋 ぶっちゃけKIDもいま連敗中で、やっとこのあいだ1勝できたところじゃないですか。だからこの決断はホントにギリギリだったと思いますよ。

――へんな話、宇野薫のケースに近い感じですね。

高橋 ええ。リスペクトがあるとUFCは意外とやさしいんですよ。キース・ジャーディンとかも4連敗してリリースされたけど、外で一回勝ったらまた再契約やろうよ、という。

――でも、大晦日ってお祭りだったわけじゃないですか。大晦日価格と言われるぐらいファイトマネーもアップするから、ガイジン選手が「オレも出たい」って売り込みをかけてましたよね。でも、それを蹴ってUFCに

KIDは負けても日本に戻ってくるつもりはないんだと思う

向かう時代が来ちゃってるんですね。

高橋　だからアメリカのプロモーションも、そういうリスクを最初から見込んで契約している状態で、もうUFCに行かれちゃうというのは縛れないですよ。完全に上位概念ですから。だから、小規模団体も結局今後UFCといい関係を作りましょうというか、なんらかの妥協点を持って解決していくしかない感じという。

——なるほど。

高橋　逆にUFCでうまく行かなかったとき、また戻ってきてねとか、うまく循環させながら、ビッグネームをまた戻してというのを繰り返していくというのでしか生き延びる術はないですね。今回のKID選手、小見川選手の件も、日本がUFCを極点にした衛星的なプロモーションだという考えだと普通にあることかな、と。

——UFCの一人勝ちだなあ。

ガンツ　ただ、みんな勘違いしてるかもしれないけど、KIDは負けても日本に戻ってくるつもりはないんだと思うんですよ。引退試合を日本でやるつもりもいまは頭にないんだと思う。だから、結局なんで行くかというと、年齢的にもホントの最後の勝負をしたい、プロになったからにはラスベガスで試合してみたいという。それと、自分がいまのUFCに行ったら、今後のビジネスが全然変わってくるという部分ですよね。日本のスーパースターKIDの試合が全米で放送される。そうすると、それ以降の向こうでアパレルをはじめビジネスが展開できるわけだよね。

——家族ともどもアメリカに引っ越したヴァンダレイみたいに、ラスベガスで活動していくKIDを見られるかもしれない、と。

ガンツ　だからそれこそ、ラスベガスにジム出そうかという話もあるだろうし。それが日本にいると、まあだいたい想像できるような人生だなって。じゃあ、夢を追いたいという気持ちがバーッと広がっちゃったんだろうね。

——実際、日本も来年以降はどうなるんだっていうのもありますし。

高橋　TBSの大晦日中継は今年で終わりなんですか?

——今年が2年契約の最終で、再契約の話し合いはあるとは思いますけど。ただ格闘技にかぎった話じゃないですけど、TBSはあきらかにパワーがないじゃないです。だって大晦日の19時からはドリフの総集編番組なんでしょ?

ガンツ　お金は使わないようにしましょう、と。

——だったらもう『Dynamite!!』も総集編を流すんでいいんじゃないかなって(笑)。

ガンツ　魔裟斗vsKID、サップvsノゲイラ、もうミルコも入れとけ!

高橋　さも、いま試合してるかのように流しそうで怖いですよ(笑)。

——という感じでそろそろ締めに向かおうと思うんですけど、大晦日という特別だった場が、日本でも「それよりもアメリカ」というムードになってきてる、それがこの12月に一気に起きてしまったということですね。

ガンツ　そういうムードは格闘技を一番支えているファンにも情報が入るわけじゃないですか。そうすると、どうしても日本単体では見なくなりますよね。イメージ的に、向こうで勝負するほうがカッコイイじゃんってなりかねない。ホントは日本で頑張ってる選手を応援すべきだけど、そこはもうイベンターの手腕というか、やり方が本当に問われちゃう感じですよね。

03年の『猪木祭り』がその後のマット界におよぼした影響というのは、格闘技を観ている人なら誰でも知っていること。しかし、その猪木さんを引っぱり出してきたからには、もう盛り上がるしかない!

——もともと格闘技とかって「誰が一番強いのか?」という動機を持って観るものですからね。それをいまや完全にUFCが握っているなか、日本のイベントがいろんな知恵を絞った結果出てきたのが「元気ですかー!」というね。ホントに元気を出さないといけない。

高橋　なるほどね(笑)。でも、誰に向けてのアントニオ猪木なのかというのが、イマイチないですよね。

——PRIDEの初期に出てきたときは、いわゆる新日本にあったストロングスタイル幻想を引っぺがすという意味での猪木さんだったわけじゃないですか。でも、いまはホントにその元気が出るオジサンを使ってますよという。

ガンツ　だから、ホントに気合いを入れて観てたファンは、03年の猪木祭りのせいでメチャクチャになった部分があるじゃないですか。だから猪木ファンだけれども、「おいおい、どのツラ下げて」というのもあって当然なんだけど。だから、もうこうなったからにはオレはもっとハチャメチャでもいいような気がするんだよな。だって、なんで猪木さんを使うかといったら、藁をもつかむ思いなわけじゃない。方法論はもう関係ない。なんとか話題にしたいという。

——もう自演乙が猪木軍に入ったり、モンターニャが石井慧を襲ったり、と(笑)。

ガンツ　そう。もう恥ずかしがってる場合じゃない!　だから川尻vsトムソンもあれば、ビリー隊長もいてもいいよ。とにかくこのイベントが成功するために、必死だぞコイツらというのが伝わってくるようなものを期待したいですよ。まだ残り5試合ぐらいはあるとは思うんで。あとはちゃんと発表されたカードを、じっくり掘り下げて観てほしいということです。

——川尻vsトムソンもホントにいいカードですしね。

ガンツ　日本でやれる世界を意識したこういうカードというのは、なかなかないですよ。

高橋　それに、トムソンなんて今後日本に来るかどうかもわからないぐらいいい選手ですから。

ガンツ　UFCだってほしい選手だもんね。強いし華もある選手だし。あと、青木vs自演乙も注目ですよ。これは翌日に五味がUFCで試合するわけだし、川尻はトムソンとやるんだから、どうしたって比較せざるをえなくなる。でも、このハンデ(笑)。そのなかで青木がどんな爆発を見せるのかは、来年以降の試金石にもなるかもしれないからね。

——というわけで、結論的には「馬鹿になれ」、「恥ずかしいけど頑張りましょう」という精神ですね。

高橋　どっかで聞いたことあるような(笑)。

ガンツ　そう。もう、いまこそ中井りんと猪木さんに習って盛り上がりましょう!

【10年12月13日/『kamipro』編集部にて収録】

——川尻さん、お子さんが産まれたそうですね。おめでとうございます！　これ、出産祝いです。

寝言で「クソ、クソ」って言ってるらしいんですよ。

——それ、相当なトラウマですね〜。

ぶやいてましたけど。

川尻　そうです、ネットで知りました（苦笑）。「なんでだろう?」ってちょっと残念

りするような真剣勝負だし、それが自分の役目だと思ってるのに、●●●●●●戦とか話が来たらテンションが落ちちゃいま

「この試合が最後のつもりで闘う」

『Dynamite!!』で念願のジョシュ・トムソン戦実現！
青木戦の呪縛から抜け出すために不退転の決意!!

川尻達也

かねてから希望していたジョシュ・トムソンとの一戦が決定した川尻達也。
あの悪夢の青木戦以来の試合に向けて、クラッシャーはいま何を思っているのか?
父親になったばかりのクラッシャーが、その心中を吐露してくれた。

聞き手／鈴木佑　撮影／今村陽子　試合写真／小林靖

あの悪夢から抜け出すにはトムソンにKOか一本で勝つしかない

――川尻さん、お子さんが産まれたそうですね。おめでとうございます！　これ、出産祝いです。

川尻　あぁ、わざわざありがとうございます。

――どうですか、父親になった気分は？

川尻　いやぁ、よくわかんないですね。実感が湧かない（苦笑）。プレッシャーですよ、「この子を育てなきゃいけないんだな」っていう。

――まぁ、業界全体も厳しいと言われる時期ですし。

川尻　うん、景気のいい時期だったらよかったかもしれないですけどね。

――でも、試合前に背負うものが増えて逆に気合いも入るんじゃないですか？

川尻　そうですね……、そうなのかな？（笑）。

――やっぱり実感が湧かない（笑）。さて、ついに念願のジョシュ・トムソン戦が発表されましたね。7月の青木真也戦からはずいぶん経ちましたけど、コンディションはどうですか？

川尻　肉体的には問題ないですよ。でも、精神的には病んだままですね。ずっと情緒不安ちょう。

――は？　不安ちょう？　噛むくらいに不安定だ、と（笑）。

川尻　いやもう、不安ちょうですよ……（しみじみと）。

――結局、試合の映像は観ました？

川尻　いや、観てないですよ。なんかね、いまはずっと24時間うなされてる感じで、寝言で「クソ、クソ」って言ってるらしいんですよ。

――それ、相当なトラウマですね〜。

川尻　あれから気が休まったことないですから。だいたい、負けても次の試合に勝てば気持ちは晴れやかになるんですけど、あれ以来試合もしてないから、そのままずっと病んでる感じで。

――ちなみにトムソン戦決定はアメリカの発表で知ったんですか？　なんかツイッターで「なんでアメリカから…」ってつぶやいてましたけど。

7.10『DREAM.15』で青木のアキレス腱固めの前に敗北を喫した川尻。この試合が終わったら青木との練習を望んでいた川尻だが、両者の練習は一度だけDEEP道場で実現したという。

川尻　そうです、ネットで知りました（苦笑）。「なんでだろう？」ってちょっと残念でしたね。日本でやる試合なんだし、ファンもアメリカ発信じゃつまんないじゃないですか？　まぁ、なんにしろ実現するのはうれしいですけど。

――ストライクフォースのスコット・コーカー代表もトムソン本人も、以前から川尻vsトムソン戦に興味を示す発言をしてましたし。

川尻　うん、相思相愛なんで楽しみですね。まぁ、楽しみ以外にもいろんな感情がありますけど、とにかく勝ってスッキリしたい。

――スッキリしてないって部分では、ブログで「そして私は何に向かって頑張ればいいのでしょうか……」って書いてたのがちょっと話題になりましたけど。

川尻　まぁ、あれは書くんじゃなかったって後悔してますよ。

――いろいろとファンレベルでも格闘技界に非常ベルが鳴ってるのを認識してる時期に、トップファイターがああいうことを書くと……。

川尻　（さえぎるように）だって、もうトムソン戦が決まったからいいですけど、「大晦日は●●●●●と●●●●●ルールで」って話をされたんですよ？　ナメられてんのかなと思って、そしたら一気にやる気がなくなっちゃって……。でも、あまりにファンの反応が凄かったんで、書くんじゃなかったなって。

――それでその日のうちに「不安やイライラに自分の不甲斐無さ、あれもこれも全部まとめてリングの上で対戦相手にぶつけてやる!!」ってブログに書いた、と。

川尻　やっぱり僕がやりたいのはヒリヒリするような真剣勝負だし、それが自分の役目だと思ってるのに、●●●●●戦とか話が来たらテンションが落ちちゃいますよ。まぁ、正式なオファーがちゃんとくれば考えますけど、そうじゃないなら聞きたくなかったですね。

――昨年も大晦日はカード決定までドタバタしてましたけど、今年はそれ以上というか。

川尻　まだ正式には高谷（裕之）さんの1試合しか発表されてないし（取材は12月11日）、ファンも選手も不安ですよね。

――そんな現状のなかでいま、川尻さんは何をよりどころにして頑張ってるんでしょうか？

川尻　なんだろう……（熟考）。格闘技界がたいへんっていうのはわかるけど、僕もそうだし必死だから、いまはもう自分のことしか見えてないって感じですよね。とにかくあの悪夢から抜け出したい。モヤモヤしてるいまの状態から抜け出したい。それにはKOか一本で勝つしかないって思ってるんで。

――なるほど。トムソンにはどういう印象を持ってます？

川尻　トムソンは……強い（笑）。

――え、それだけ？（笑）。

川尻　いや、石田くん（光洋）がストライクフォースに参戦したときに、トムソンがメインでやってるのを観てるし、石田くんがメレンデスとやる前にAKAで調整してるときにも一緒に会ってますよ。とくに話はしてないですけど。

――トムソンとは共通の対戦相手も何人かいますよね。

川尻　そうですね、JZ（カルバン）と（ギルバート・）メレンデスとイーブス（・エドワーズ）かな。

――もう映像を観て研究してます？

川尻 いや、観てないです。DVDください。

――なんですか、それ（笑）。

川尻 いや、前にトムソンvsJZは観ましたけど、あんまり覚えてないですね。人の試合を覚えてるほど暇じゃないんで。まぁ、いまから研究しますよ。でも、対戦相手の映像観るのってあんまり好きじゃないんだよなぁ。

――あ、そうなんですか？

川尻 なんかイライラしてくるんですよ。カルバン戦のときに『HERO'S』の映像をもらったら、全部カルバンが秒殺勝利してるのしかなくて、「こんなんでどうやって勝つイメージ湧かすんだよ！」みたいな。

――シャオリンとかに凄い勝ち方してましたもんね～。

川尻 まぁ、とにかくトムソンのイメージは強い。あとは有名（笑）。ストライクフォースの元チャンピオンだし、相手にとっては不足なしですよ。

――大晦日だと世間を意識したカードも組まれますけど、これは格闘技ファン向けのゴリゴリの勝負論重視な試合というか。

川尻 そうですね。幸せだと思いますよ。そういうときにこういう試合を組むのが、どれだけたいへんなのかもわかるし、トムソンを日本に呼ぶのがどれだけたいへんなのかもわかるし。

――トムソンは海外で「ギャラが払われない可能性があるなら出ない」って発言してましたからね。

川尻 そういう悪い話も出回ってるなかで、この試合をマッチメイクするのは簡単なことじゃないだろうし。だから、ただ「試合が組まれました、闘いました」だけじゃダメだなって。いつものことですけど、しっかり勝たないとって思いますよね。というかね、いまはもう毎日「クソッタレ！」って感じなんですよ、マジで。

――小見川道大さんみたいですね（笑）。

川尻 だから、そういうネガティブな感情をパワーにしてブッ飛ばそうかなって。勝つならKOか一本じゃないと、たぶん「俺、ダメになるな」って。だから、とにか

©Esthe Lin（STRIKEFORCE）

非UFC系ファイターの中ではメレンデスと並ぶ実力者であるトムソン。日本で試合を行なうのは05年7月の『PRIDE武士道』（杉江“アマゾン”大輔に一本勝ち）以来となる。

ミックルールって中途半端でしょ。ミックスジュースじゃないんだから

く納得いく勝ち方をしたい。それが最後になっても後悔しないような。

――え？ 最後、ですか？

川尻 いや、いつまで格闘技をできるかわからないってことが、前回の試合でホントよく理解できたんで。

――やっぱり青木戦は相当思うところがあったんですね。よく大きな敗戦の次の試合は恐怖心が芽生えるって言いますけど？

川尻 もう、めっちゃ怖いですよ。いつもの3・5倍ぐらい。いや、3・8倍ぐらいかな（笑）。

――刻みますね（笑）。

川尻 3・9かな（笑）。いや、怖いですけど、だからこそ守りに入っちゃう自分が怖いし。もうしがみついてでも勝ちたいし、自分に負けたくない。僕は凄いビビリだし、トムソン戦で結果を出さないと何も変われないと思うんですよ。だから、この試合が最後だと思って闘います。別にこれは引退宣言じゃないですよ。でも、最後だと思って闘います。

――そこまでの決意なんですね。川尻さん、どうやら青木さんは長島☆自演乙☆雄一郎さんとミックスルールで闘うらしいですよ。

川尻 ……もうよくわからない。というか、第1ラウンドが総合ルールだったら、すぐ極まっちゃうじゃないですか？ 僕にはよくわからない。

――川尻さんも大晦日に武田幸三さんと試合しましたけど、あのときはK―1ルールでしたね。

川尻 そうですね。なんかミックスルールって中途半端な感じがしますね。ならK―1ルールでやればいいじゃんって。ミックスルールってミックスジュースじゃないんだから。ハハハ。

――なんかトゲトゲしいなぁ（笑）。

川尻 もうね、とにかくいまは「みんな死ね！」って思ってますから（笑）。「俺以外のやつ、死ね！」って思ってるから、あんまり周りも気にならないですね。

――そんなイライラしてると、周りも腫れものに触わるみたいな感じですか？

川尻 いや、誰かいるときはイライラしてないですよ。ニコニコしながら「死ね！」って思ったり（笑）。でも、練習でストレス発散してるんで。だから、このままイライラしながら試合でストレスを発散しますよ。

――う～ん、かなり溜まってますね……。いつも川尻さんは「業界を盛り上げるため」って意識を強く持ってた選手じゃないですか？ 今日は格闘技界がこういう状況だからこそ、「大晦日に勝って青木にリベンジする」とか「アメリカに乗り込む」みたいな夢のある話になるのかなって、勝手に思ってたんですけど。

川尻 夢？ 夢なんかないですよ、毎日悪夢しか見てないんだから（笑）。いや、ホントに先のことも考えてないんです。いままでは先を考えてよくなかったんで、ホントにこの試合が最後のつもりでやります。ここでなんとか自分を変えないと、僕自身

が終わりだと思うんで。
——DREAMを背負って闘うとかそういう意識は？
川尻　いや、もうそんなの考える余裕ないです。来年、DREAMがどうなるかもわかんないし、もし仮に僕が日本で闘う場所がなくなったら、アメリカに行く可能性もあるし。よくわかんないから、次で闘えなくなってもいいくらいの気持ちで。
——でも、闘う場所に対するこだわりはありますよね？
川尻　もちろん、DREAMに対するこだわり自体は凄くありますよ。やっぱり自分たちで作ってきたっていう自負があるから。だから、DREAM以外の日本のリングで闘うっていうのは全然考えられないし。
——最近、山本〝KID〟徳郁さんとか小見川道大さんとか、トップどころがアメリカに闘いを求める傾向にありますよね。
川尻　うん、寂しいは寂しいですよね。単純に日本で頑張ってから行けばいいのにって思うし。まぁ、いなくなる選手の誰も彼もがトップかどうかわかんないですけどね。まぁ、行きたきゃ行きゃあいいじゃんって感じですよ。僕はDREAMがあるかぎり日本で総合格闘技をやる、それだけです。
——なるほど。今回の『Dynamite!!』は放送時間も短縮するので、〝大晦日らしくないカード〟って意味では川尻さんの試合はダイジェスト扱いかもしれないですけど、その点についてはどう思いますか？
川尻　もう、「どうぞご自由に」って感じですよ。僕はやりたいことをやるだけだからどっちでもいい。べつにテレビに映りたくて格闘技やってるわけじゃないし。もちろん、テレビに映んなきゃいけないっていうのもわかるんですけど、「いまはそれどころじゃないんで、僕」みたいな感じですね。いやもう、ホントこの世界で生き残れるかどうかの瀬戸際だと思ってるから。

僕はDREAM以外の日本のリングで闘うことは全然考えられない

——そういえば川尻さんは今年、青木戦しかやってないんですよね。
川尻　そうですね。その前の年とかは元気でしたけど（笑）。いや、怖いですよ、いろいろ。トムソンっていう対戦相手も怖いし、負けるのも怖いし、格闘技業界が今後どうなるかを考えるのも怖い。でも、考えてもしょうがないから自分は勝つしかない。勝って、またいろいろ背負えるようなファイターになりたい。
——仕切り直しですね。トムソン戦の前日には朝から晩までの格闘フェスティバルもありますけど、気にはなりますか？
川尻　単純にそっちも盛り上がってほしいですよね。両方盛り上がって、格闘技界に何か光が見えたり見せられたらいいかなって。じゃないと、あまりにも最近は日本の話題が寂しいから。もうネガティブなことしか出てこないし、それに僕自身もネガティブだし。でも、マイナス×マイナスはプラスですから！
——ハハハ。無理矢理感はありますけど、前向きになってよかったです（笑）。
川尻　いや、いまは格闘技だけじゃなく、みんな必死な時代じゃないですか？　そんな景気のいい話もなかなか聞かないし、そのなかで自分にできることをやるって感じですよね……。
——……なんかちょっとシンミリした感じになったんで、お子さんの話でもしましょうか？（笑）。
川尻　また、とってつけたみたいに。
——女の子なんですよね、お名前は？
川尻　……いくらくれます？
——なんですかそれ（笑）。さっき出産祝いあげたじゃないですか！
川尻　あぁ、そうか。え〜と、葵子（きこ）です。最初は麻央ちゃんにしようと思ってたんですけど、いまはあんまりイメージ的によくないじゃないですか。小林麻央さんもたいへんそうだし。
——あぁ、海老蔵事件（笑）。
川尻　で、もともと「なんとか子」って名前もいいなと思ってたんで、名前辞典とか使わずに頭の中で考えて葵子にしました。
——どっち似なんですか？
川尻　なんか最初は僕の親父に似てたんですよ。むくんで産まれてきたから、その瞬間は凄く心配しちゃって（笑）。でも、いまはむくみも取れて目も二重っぽいし、僕に似なくてよかったですね。やっぱかわいいですよ、フフフ。
——川尻さん、凄い子煩悩になりそうですね。どうします、いつか娘さんがボーイフレンド連れてきたら？
川尻　全員ブッ飛ばします！（キッパリ）。「俺を倒してから付き合え」って。
——タチ悪いな〜。
川尻　フフフ、僕はあと15年くらい経っても強いですからね。あの、僕の夢は自分の孫が二十歳のときに、ガチンコで闘って勝つことなんですよ。
——は？　おっしゃってる意味がわかりません！（笑）。
川尻　いや、二十歳って若くて一番勢いあるときじゃないですか？　そのときに勝ちたいんです。
——なんとなく理解できますが、なんで孫と闘うのかわからない（笑）。
川尻　（無視して）最強のじいちゃんになりたいんですよ。だからもっともっと強くならないと。
——では、大晦日にはその強さを見せつけるような試合を期待してます！
【10年12月11日／都内・ディファ有明にて収録】

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年、修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEを経て08年からはDREAMを主戦場とする。10年7月にDREAMライト級タイトルマッチで青木真也と対戦するも敗北。今回の大晦日はそれ以来の復帰戦となる。171cm、69.9kg。

大晦日に困惑の一戦……!?

——このインタビューは12月11日にやらせてもらってるんですけど、なんとかカー

自演乙戦は踏み絵です

DREAMライト級チャンピオン

青木真也

大晦日は何が起こるかわからない!! メレンデス戦が噂されていた青木真也だが、急転直下まさかの長島☆自演乙☆雄一郎とのミックスルールマッチに! 大晦日らしいといえばそれまでだが、誰が望んだこのカード!? 本人に直撃した。

聞き手／橋本宗洋　撮影／今村陽子

――このインタビューは12月11日にやらせてもらってるんですけど、なんとかカードが決まったみたいですね。今年はとりわけカード発表が遅れましたけど、やっぱりいつもとは違いますか？

青木 いや、いつもと変わらないですけどね。やることは変わらないので。

――焦れたりとかしないですか。

青木 しょうがないことだと思ってますから。

――「そうは言っても……」って部分はない？

青木 いや、しょうがないんですよ。

――自演乙選手とのミックスルールの試合が近々、発表されるそうで。

青木 正直、まだどうなるかわかりません。発表されてないことだし。年末はどうなるかわからないと思います。

――え、僕らは噂としてというか、ほぼ確定として聞いてたんですけど、青木選手は聞いてないんですか？

青木 話は来てますけど、これまでも何回も崩れてますから。長島選手とっていう予定ですけど、年末だからどうなるかわかんないですよ。

――なるほど。今年もマッチメイクが紆余曲折あったみたいですしね。

青木 最初に言われたのがメレンデス選手で、「ダメそうだ」となったときにもう一人の候補が出たんですよ。で、「それであたってもらえますか」ってお願いしたのがシュートボクシングの『S—cup』のときですね。

――ということは11月23日ですか。

青木 でも、それはテレビ局も含めいろんな都合で「厳しい」となって。そこで話がきた3人の中に長島選手もあって。「誰でもやるんで決めてください」って言ったら

「長島選手でお願いできるか」ってことだったんで「わかりました」って。そんな感じですね。あとは正式に発表されるまではわからないです。
——じゃあ、とにかく長島戦という前提でお聞きするんですけど、こういう試合だと、青木さんの中で〝ねじれ〟が出てきちゃうんじゃないかなと思ったんですよね。
青木　ねじれって？
——言い換えると、競技者としてはジレンマがあるというか。ツイッターを見てるとそういう雰囲気を感じますよ。
青木　いや、ボクはあんまりツイッターとかファンとか……なんだろう、そこまで真正面から取り組んでもしょうがなくないですか？
——まあでも、大半のファンは「自演乙とミックスルール？　青木真也に何をやらせるんだ？」って普通に思うわけじゃないですか。
青木　そんなのボクだって思いますよ。誰だって思うでしょ。ボク、そこまでバカじゃないですよ。物事を一つの側面でだけとらえられるほどバカじゃないんですよ、申し訳ないけど。「バカだったらいいな」と思うときがありますもん、凄く。
——バカっていう表現でいいのかどうかはともかく、「こんな試合やりたくねえ！」「俺は強さを追求したいんだ」って言ってアメリカに行くんだとしたら、もの凄く話はシンプルなわけじゃないですか。アメリカでミックスルールはありえないでしょうから。
青木　だから、ボクは物事を一つの側面でだけとらえてないんですよ。ある種、狂信的な部分もあるんで。「やれ」って言われたらなんでもやりますからね。だから誰に何を言われようと、あんまり気にならない部分があるんですよね。
——青木さん、よく「信者」とか「狂信的」って言葉を使うじゃないですか。青木さんが信じてる宗教の教義ってなんだと思います？
青木　教義とかどうこうじゃないです。「やれ」って言われたことをやる。主従関係ですね。最初に担ぐと決めた神輿だから。
——そこに是非はない、と。
青木　ないです。ブレたことはないですね、残念ながら。現にアメリカに行ってないじゃないですか。よくしてもらってるし、年間でいったらアメリカぐらいのギャラをもらえてると思うし。
——だから契約選手ではなく所属選手というか、言ってみれば会社員に近いんですかね。信頼して、よくしてもらってる上司から頼まれた仕事なんだから是非はない、という。
青木　そうですそうです。ボクは会社勤めなんですよ。どれだけ自分が正しいと思うことをやって、正論を言ってたとしても、責任をかぶるリスクを負うのは会社の最高責任者じゃないですか。だから、ボクはその人の言うことをなんでも聞くんです。
——会社を潰すわけにはいかないし、と。〝競技者・青木真也〟だけが青木さんの本質ではないってことですよね。
青木　それをわかってもらえるとも、わかってもらおうとも思わないですけどね。
——まさに自演乙戦は、会社が受注してきた仕事というか。
青木　これはどんなインタビューでも言ってるんですけど、たとえばボクが試合を断ったとして、困るのはウチの家族だけじゃないですか。その場合は、ボクがなんかしらほかの仕事をして食いつないでいけばいい。でも、今回は困る人がけっこういると思うんですよね。だからこそボクは断らないし、「やりたい」と思いますけどね。やりたいことだけやっても、ボクはまだ全員を食わせてあげられないから。
——個人としてだけ闘ってるならアメリカに行っちゃうのがいいんでしょうけど、青木真也は会社員である、と。
青木　いま、UFCに行く選手が多いじゃないですか。
——KID選手も決まったみたいですね。

「やれ」って言われたことをやる主従関係。最初に担ぐと決めた神輿だから

青木　UFCが正しいんだって風潮もあるし。物事って立ち位置だと思うんですけど、ボクの立ち位置からすると、それは寂しいんですよね。一緒に頑張っていきたい仲間だったので。
——とはいえ「もうちょっと日本で頑張ろうぜ」とも言いにくい状況ではあるし、という。
青木　だから「寂しい」って表現になるんですよね。批判する気はないから。批判する気はないけど、だから寂しいっていう。たとえば、年末でどうなるかはわからないですけど、もし北岡さんが「アメリカに行きたい」って行ったとしても批判する気にはならないです。批判する気はないけど、だから寂しいっていう。
——そうですねぇ。
青木　ただ打算的にいうと、ボクがそういう状況で日本に残り続けるのは凄くおいしいとも思うし。今回の試合も、「やります」と言えた自分が自信になってるところもあるんですよ。
——「このカードを受けることができた俺」っていう。
青木　そこはちょっと凄いなと思います、ホントに。
——イメージとしては「やらない人」ですもんね。でもやる。
青木　それも、悩まず「はい」って言えたんですよ。躊躇なく。「ああ、言われたんでやります」って。「オレってやっぱ凄い」じゃないけど、「オレって大丈夫だったな」と思いましたね。

今年のDREAM総決算としてメレンデス戦はふさわしい試合だったが、ストライクフォースとメレンデスの契約問題が障壁となってお流れに……。再戦の機会はあるんだろうか。

仲間にこの試合のことを言うのはしんどい。中井さんに言うのも正直、きつかったし

——「信者としての軸がブレてないな」じゃないですけど。

青木　そうですね。自分で担ごうと決めた神輿は担げるんだなと思いましたね。

——ミックスルールがどうこうじゃなくて、「言われたことをやる」ってことに関してブレてないわけですよね。へんな話、「バンナとやれ」でも同じかもしれない。

青木　なんでもやりますよ、ボクは。凄いと思いますよ、自分で。……まあ、いろんな意味で悲しいっすけどね。

——そこはもちろん感じますけどね。大晦日の相手が自演乙っていう話を最初に聞いたときは、正直どう思いました?

青木　ビックリはしましたけど、「やりたくない」とは思わなかったです。「ああ、これがいま必要とされてるボクの試合なんだな」って。ボクは格闘技の競技に関しては専門家ですけど、イベントに関してはプロじゃないので。プロの人たちが「やれ」って言ったことに対して「いやいや、でもこういうマッチメイクのほうがいいですよね」とは言えないですよね。プロが言うことは聞かないと、じゃなかったらボクはファンと一緒になっちゃうもん。それは嫌だから、プロから言われたことはちゃんと聞きますけどね。

——一つ思ったのは、青木さんは自分のことをジャパニーズMMAっていう流れ、文化の担い手だっていう意識があるわけじゃないですか。

青木　はい。

——そういうなかで、今回は初めて、青木さんがジャパニーズMMAに〝まみれる〟って感じがするんですよね。

青木　まみれるというか、一種の踏み絵ではあると思いますね。でもそれをボクは躊躇なく踏めたので。そういう意味でボクはジャパニーズMMAなんだなと思います。

——日本にいながら「ボクはシビアなカードしかやりません」とは言ってられない状況をしっかり飲み込んだという。

青木　凄い幅だなとは思いますけどね、自分でも。

——もちろん僕にも「青木真也もこれをやらなきゃいけないのか?」っていう思いもありますけどね。

青木　みんな思ってると思いますよ。でも、みんながそう思ってくれてる状況っていうのはある種、うれしいと思うし。ボクは「やる」って言えた自分が凄くいいと思うし、「ここまでの立場になったんだな」っていうのは正直、ありますね。

——ここまでの立場、ですか。

青木　こういうマッチメイクって、出たての選手が「やれ」って言われるものじゃないから。状況を見ると、イベントの中心というか、年末の中心として考えてもらえる選手になったんだなって。それは凄く感じましたね。

猪木は「俺に質問を振るな！」と投げっぱなし、桜庭はとにかく煙に巻き、青木はとにかくキレてるというカオスな内容となったカード発表記者会見。このスリーショットはなんだか凄いし、青木の表情がいい。

——そうか。大晦日においては、たとえばエディ・アルバレスとやったりすることは、むしろ〝傍流〟なわけですよね。それで済まされてきたともいえる。だけど今回は〝本流〟に入ってきた。

青木　うん。こういう試合も勉強にはなると思いますね。仲間に試合のことを言うのはしんどいっすよ。中井さんに言うのも正直、きつかったし。でも、それだけです。

——試合の中身に関していうと、僕はムエタイスタイルの打撃をする青木さんが、立ち技ルールで闘うことに凄く興味があるんですよね。

青木　正直、MMAでやったほうが簡単なんですけど、それは要求されてることとは違いますよね。負けることを要求されてるってことではないんですけど。

——まあ、第1ラウンドに寝技でパッと極めたら、このカードである必要はないことになりますよね。

青木　勝ち負けを超えたっていう言い方は凄く嫌いなんですけど、そういう部分はあるじゃないですか。だから打撃ルールが先になると思うんですよね。そのことに対して、ボク自身、凄く怖いし、「ひえ～」って思いますけど、でもそこは受け入れなきゃいけないというか。それだけの覚悟はできましたけどね。

——その覚悟って、もしかしたらMMAで凄く強い選手とやるぐらいの覚悟と一緒ですよね。

青木　いや～、もっと怖いですね。KO負けする覚悟もできてますし。

——だからお祭り的なカードと言われがちなんでしょうけど、じつは怖いですよね。極端なルールだけに、結果も極端になる可能性が凄くあって。

青木　相手は日本チャンピオンですからね。

——DREAMのチャンピオンと、K—1 MAXの日本チャンピオンの対決なんですよね。それぞれの分野のスペシャリストなわけで。だから怖さがある。

青木　僕がKO負けする可能性もあるわけじゃないですか。で、長島選手は長島選手で、MMAルールのラウンドになったら凄く大きなケガを負う可能性がある。

——青木真也とMMAをやったら、そうなる可能性はありますよね。もしかしたら来年のMAXを棒に振っちゃうかもしれない。

青木　そういう意味で、ある種、凄くスリリングだと思いますよね。

——まあ格闘技ですから、どんな試合でも危険なんですよね。そういう怖さ、危険みたいなものがこのカードにもあるっていうことは、僕もしっかり伝えたいなと思います。

【10年12月9日／都内・DEEPジムにて収録】

悩める北岡悟

『Dynamite!!』参戦消滅!?
KID、小見川に続き
この男までアメリカ流出か？

10月にパンクラスを退団後、『Dynamite!!』出場が確実視されていた北岡悟。
しかし、12月14日現在、北岡のもとに大晦日のオファーはない。北岡が『Dynamite!!』に
出られない理由はやはりSRCとの問題なのか、それとも別に理由があるのか。
先行き不透明ななか、北岡悟はどんな道を歩もうとしているのか？

聞き手&撮影（試合&人物）／堀江ガンツ

北岡　僕に何を聞こうっていうんです
か？　残念ながら何もないっすよ（笑）。
いや、ファンも気になっている北岡選

でそうなっているわけじゃない、という認
識ですか？
北岡　そうなんですけどね。でも、谷川（貞

たけど、あれは「年末の日本のビッグイベ
ントに出たい」って意味だったんですよ。
――『Dynamite!!』にかぎったこ

ですよね。弘中戦のあと、自分もDEEP
のJCBホール大会とか、パンクラスの11
月、12月の試合も観ましたけど、正直言っ

弘中戦は今年屈指の試合だったと思う。あの試合を観ても僕の力量を買わないのか

北岡　僕に何を聞こうっていうんですか？　残念ながら何もないっすよ（笑）。

――いや、ファンも気になっている北岡選手の近況をうかがおうかな、と。

北岡　練習や普段の生活は試合があるときと同様ですね。

――では、いつでも試合ができる状況というか。

北岡　そうっすね、31日に「試合しろ」って言われても試合はできますね。

――ただ、本日12月14日の時点で、そういったオファーはない、と。

北岡　ないですね。

――10月にパンクラスを退団した時点で、こういう状況になるとは想像していますか？

北岡　う～ん、いきなり言えない話だなあ。でも、こうなる覚悟はしてましたよ。

――いまファンが思ってることは「なぜ、北岡が大晦日の試合に出られないのか」ということと、同時に「おそらく政治的な状況により飼い殺しにされてるんだろうな」ということなんですけど。

北岡　っていうか、それ『kamipro』の向井（徹SRC代表）さんインタビューのせいじゃないですか！

――まあ、そうなんですけどね（笑）。

北岡　あれ載っけたことで、ファンからはそう思われちゃうし、業界のイメージもよくないじゃないですか。責任取ってくださいよ（笑）。

――では、北岡選手的には『Dynamite!!』から話がないのは、政治的な問題でそうなっているわけじゃない、という認識ですか？

北岡　そうなんですけどね。でも、谷川（貞治）さんのツイッターを見たら「そうだったのかな？」とも思っちゃうし。

――ファンからの「北岡選手を出してください」というツイートに対して「前の団体と問題がなければ」と返した件ですよね。

北岡　そうですね。自分では問題があるとは思ってなかったんですけど。

――向井代表のインタビューを読んで、北岡選手はどう思いましたか？

北岡　それは言えんですよ。何も言いません。ただ、俺は「パンクラスを辞める」と言っただけで、「DREAMに行く」とも言ってないですから。「大晦日」とは言いましたけど、あれは「年末の日本のビッグイベントに出たい」って意味だったんですよ。

――『Dynamite!!』にかぎったことではない、と。

北岡　要はフリーエージェント宣言ですから、フリーになった自分に対して「もう一回、しかるべき評価と条件提示をしてください」ということだったんですよ。

――では、よく言われるようにDREAM移籍のために辞めたとか、そんな簡単な話ではない、わけですね。

北岡　そういうことです。「自分を一番評価してくれるところで勝負を懸けたい」ってことですから。これは手前味噌になりますけど、パンクラス最後の試合になった弘中邦佳戦っていうのは、今年の格闘技界のなかでも屈指の試合だったと思うんですよ。客観的に観ても、あれより上かなと思えるのは、三崎さんの試合と青木の試合ぐらいで、指折りのベストの試合だったと思うんですよね。

パンクラスラストマッチとなった10.3弘中邦佳戦は、試合内容、緊張感とも申し分のない闘いだった。ギラギラした北岡が次に観られるのはいつか。

――それは間違いないですね。

北岡　あの試合っていうのは、フリーになる自分にとって一種のプレゼンだと思うし、試合を観て自分の評価を決めてほしいっていう思いがあったんですよ。でも、あぁいう試合をやっても興行主の人たちは、そういう対応なのかっていう。「僕が甘かったな」っていう感じですね。

――プロファイターとしての力量を買ってくれる世界じゃないのか、という。

北岡　いろんな意味でプロとしての力量ですよね。弘中戦のあと、自分もDEEPのJCBホール大会とか、パンクラスの11月、12月の試合も観ましたけど、正直言って俺より上の試合をしてる人は誰もいなかったし。そういう自負はあるんで「この世界って、思ったより残念な世界なんだな」って思いました。僕は自分のことをお行儀がいいとも思わないし、秩序を乱す人間なのかもしれないけど、力量よりもそういうことが優先される世界なのかなって。開き直るわけじゃないですけど、そう思いますけどね。

――ちょっと話を戻すと、パンクラスを退団したときは、今後についてホントに白紙だったんですよね？

北岡　ホントに白紙でしたね。ただ、大晦日に試合ができたらな、とは思ってました。大晦日の試合に出るというのは、格闘技で実現できてない僕の夢の一つでしたから。

――それに向けてのトレーニングもしてたわけですよね？

北岡　してましたね。かなりやり込んでて。それが半ばなくなっても、まだ試合前と同じ練習してるんだから「俺ってドMだな」って思っちゃいますけどね。

――ファンにはなかなかわからない部分ですけど、試合の準備っていうのは、練習や減量も含めて、精神的にも肉体的にもとんでもない負荷がかかるわけですよね？

北岡　かかりますね。あと金銭的にもかなりかかるんですよ。僕は食事もちゃんとしてるし、メンテナンスもやってるんで、燃費がかかるんですよね。だからツイッターとかで「試合に向けての準備だけはしておいたほうがいい」とか書かれると、「いくらかかると思ってるんだよ！」って気持ちになっちゃうんですよね。「言われ

今年4月、青木真也のセコンドとしてナッシュビルに乗り込んだ北岡。今度はセコンドではなく選手としてアメリカに乗り込むことはあるのか？

なくてもやってるけどよ」っていうね。ただ、「北岡の試合が観たい」って書いてくれてる人が思った以上に多いんで、「意外と俺、人気あるのかな?」って思いましたね。このインタビューだって、ツイッター上での北岡待望論あってのものでしょ?

——ま、それもありますね（笑）。あと北岡悟のような選手がなぜか試合に出られないっていうところに、いまの日本格闘技界の根本的な問題が潜んでるんじゃないのかな、とも思うんですよ。

北岡　まあ、それについては何も言えんですよ。

——あの青木真也でさえ、長島☆自演乙☆雄一郎とミックスルールで出なくてはいけないわけですから。

北岡　ねえ。猪木さんがまた出てこなきゃいけない世界ですからね。

——総合格闘技の年間最大のイベントなのに、格闘技ファンが望むものはなかなか提供されないという。

北岡　まあ、コアな格闘技ファンに向けてのイベントじゃないっていうことでしょう。だから僕はお呼びじゃないんだろうし、そこは全然、納得いくっすよ。

——ただ、格闘技イベントってそれでいいのか?とも思うんですよ。北岡選手は、たとえ一般的な知名度はほかの選手より劣っていたとしても、あの場に出たら、初めて観た人にもインパクトを与えられる自信はあるんじゃないですか?

北岡　それはありますよ。一見さんにもインパクトを与える試合をする、それは日本屈指だっていう自負はもちろんありますよ。でも、それ以前に「お呼びじゃない」という理由はわかるし、納得はしてますけどね。

——ただ、来年以降もDREAMがTBSの地上波に合わせていくんであれば、そういう状況は続いちゃうと思うんですよ。

北岡　続くでしょうね。

——それはどこかで軌道修正しないとまずいと思うんですよね。

北岡　格闘技じゃなくなっちゃうってことですよね。それが日本の格闘技なんだって言えばそれまでかもしれないけど。このあいだ青木がツイッターで「この試合（自演乙戦）を受けたことでようやくプロになった気がする」ってつぶやいてましたけど、それはわかる気がしますね。

——でも、北岡さんが憧れたかつてのPRIDEはそうじゃなかったわけですよね。

北岡　まあ、PRIDEもいろんな要素は混じってたと思いますけど、僕が憧れたのはPRIDEのその部分じゃないことは確かですね。でも、今年の大晦日は何よりも知名度が優先されるっていう理由も理解してます。ただ、それだったらジョシュ・トムソンじゃなくて、俺でもよかったでしょ?とは思うけど（笑）。

——そりゃそうですね（笑）。「トムソンと俺、どっちが世間的知名度があるんだよ?」っていう。

北岡　知名度関係なしだったら「どっちが盛り上げられるの?　俺でしょ?」とは思いますよ。

——じゃあ、フリーになってみて、あらためて日本格闘技界の特殊な状況がわかった感じですか?

北岡　「フリーになって」っていうんじゃなくて、今回の一件でっていうことですよね。

——そんななかでKID選手や小見川選手がUFCと契約したという話が伝わってきましたけど、正直、どう思いました?

北岡　その話が出る前によぎるものがあ

に悩んでますね。

——来年以降、日本の格闘技がどうなるか、予想がつきませんからね。

もちろんないわけですよね?

北岡　可能性はゼロですね。

——「可能性はゼロではない」ならぬ「可

りましたけどね。大晦日に出られなさそうだってなったときに。

——その時点で「アメリカで勝負するのも

かわらず、人生の岐路なわけですよ。来年以降、日本でやっていくのか、それとも海外に出るのか。

りましたけどね。大晦日に出られなさそうだってなったときに。

――その時点で「アメリカで勝負するのもいいんじゃないか」という思いがよぎりましたか。

北岡 それはプロのファイターだったらよぎっちゃいますよね。ただ僕はパンクラスっていう、自分と肉親の次に大事なものと別れたんで、中途半端なことはしたくないんですよ。よその団体をどうこう言うつもりはないけど、中途半端にちょこちょこ試合したくないっていう思いはありますよ。自分の力に自信もあるし。

――目先のお金のために、単発でちょこちょこつまみ食いみたいに試合するつもりはない、ということですね。

北岡 そうです。「大晦日はないかも」ってなったとき、その腹も決まりましたね。

――北岡選手は「日本じゃなきゃ嫌だ」っていう思いはないんですよね？

北岡 「日本じゃなきゃ嫌だ」っていうんじゃないですけど、日本の格闘技は好きですよ。海外の格闘技に対するネガティブな気持ちをあまり吐露したくはないんですけど、まず言葉がしゃべれないし、飛行機が嫌いだし、向こうの食べ物が嫌いだし。それに僕は童顔だから、なんか差別されてる気が凄くするし。向こうに対していいイメージはないですね。

――そういううっぷんをケージの中で爆発させる姿も観たいですけどね(笑)。

北岡 なんとも言えないですけどね。だからいまは大晦日に試合があるなしにかかわらず、人生の岐路なわけですよ。来年以降、日本でやっていくのか、それとも海外に出るのか。

――どちらで自分の人生を懸けるかってことですよね。

北岡 そうですね。でも、何度も言いますけど、僕は日本が好きなんです。日本という国自体が好きだし。日本の格闘技イベントや煽りVも好きだし。スタッフの人たちと一緒にイベントを作るっていう感覚は、日本じゃないとできないことだと思うし。僕はPRIDEに憧れてた頃から、それがやりたかったわけですから。でも、人生を大逆転させて、いろんな人を見返すには海外に出たほうがいいのか、と思っちゃう部分も正直あるし。いま日本格闘技界が先行き不透明な状況もあって、ホントに悩んでますね。

大晦日は知名度優先なのは理解してます。でもトムソンを出すなら、俺でしょ？

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。2000年にパンクラスでデビュー。08年から戦極に参戦。戦極ライト級GPに優勝し、09年1月には五味隆典を破って初代戦極ライト級王者となる。09年8月に廣田瑞人に敗れ王座転落。今年10月にパンクラスを退団した。168cm、70kg。

北岡悟

――来年以降、日本の格闘技がどうなるか、予想がつきませんからね。

北岡 う～ん、あんまりしゃべれんですよ。載せられる話をしましょう！ ツイッターでの北岡待望論についてとか(笑)。

――でも、ツイッターでのファンの意見も両方がありますよね。「日本で試合が観たい」っていうのと「海外で勝負かけてほしい」というのが。

北岡 (ジャン)斉藤さんは「こうなったらUFCに行け！」みたいなこと書いてましたよね。それ以前に俺って、UFCに出られるのかな？ まず、それを聞いてみたいですけどね。

――契約はできると思いますよ。確かに去年の二連敗はマイナスポイントですけど、弘中戦で勝ったあとですし。ただ、いまはUFCとWECが統合されて、ライト級ファイターがだぶついてる状況なんで、正直、いまは売り時じゃないかもしれないですね。

北岡 なるほど。う～ん、悩める感じっすよ。でも、ツイッター上でこれだけ「北岡の試合を観たい」言ってもらえたのはうれしいですよ。それはもうホント、ありがたいなと思います。僕はツイッターの返事、ちゃんと全部返してますからね。意外とマジメなんですよ。青木とは違います(笑)。

――大晦日の『Dynamite!!』参戦がない場合、30日のSRCっていうのは、もちろんないわけですよね？

――「可能性はゼロではない」ならぬ「可能性はゼロ」(笑)。

北岡 なんでそんな状況の僕にインタビューしたんですか(笑)。

――人生の岐路に立っているという、北岡選手の現状が伝わればいいな、と。

北岡 ホントに悩みますよ。日本かアメリカか。どう思います？

――北岡選手が何を一番に求めてるかによると思います。

北岡 そういうことですよね。いろんな思いがあるんですよ。日本で頑張って、またインパクトのある試合をいっぱいして、業界自体を盛り上げる気持ちでやって爆発させる。もしくは、アメリカで勝ち上がってチャンピオンになる。どっちも凄く難しいし、どっちも凄く夢のあることですよね。ただ、日本だとお世話になってる人とか、好きな女性に観てもらえるし。そういうのってやっぱり大きいじゃないですか。

――そうですね。

北岡 でも、金銭的には向こうのほうがジャンプアップの可能性があるわけですよね。でも、コンディションは日本で試合をしたほうが絶対にいいと思うし……答えはなかなか出ないですよ。

――ゆっくり考えたらいいと思いますよ。年末は時間ができちゃったわけですし(笑)。

北岡 そうですよね(笑)。でも正直、今回の一件で凄くやる気は起きましたね。やっぱり人間、悔しい気持ちと頑張る元気があればなんとかなるんですよ！

――では来年こそ、北岡悟の爆発を期待してます！

【10年12月14日／都内・某喫茶店にて収録】

――12・4セントルイス大会の評判が非常にいいですね！
コーカー　ありがとう。ファイターが素

満足する結果だったんだ。
――UFCと同日でも視聴率を落とさなかったというのは、ストライクフォースに

るようですしね。
コーカー　そういったファンの評価が一番うれしいよ。

時期であったこともあり、今回は残念ながら流れてしまったけど、契約がまとまり次第日本に送り込むチャンスがあればと思

青木vsメレデンス消滅
川尻vsトムソン実現の真相
今後のDREAMとの
提携関係を語る！

川尻がトムソンに勝ったら

メレンデスのベルトに挑戦させてもいい

ストライクフォースCEO

スコット・コーカー

『Dynamite!!』で当初予定されていた青木真也vsギルバート・メレンデスの再戦が消滅してしまった。それに代わって川尻達也vsジョシュ・トムソン戦が実現したが、これに至るまでどういった交渉が行なわれていたのか？
ストライクフォースCEOスコット・コーカー氏を国際電話インタビューで直撃した。

聞き手／石井史彦　試合写真／Esther Lin（STRIKEFORCE）　構成／堀江ガンツ

現在メレンデスと次の契約を詰めている状況だったためアオキ戦が流れてしまった

——12・4セントルイス大会の評判が非常にいいですね！

コーカー　ありがとう。ファイターが素晴らしい試合を見せてくれて、ファンにも喜んでもらえたので、私もうれしいよ。

——では、まずあの大会の感想を聞かせてもらえますか？

コーカー　ダン・ヘンダーソンがレナート・ババルとの10年ぶりのリマッチを素晴らしいKO勝利で飾るなど、アメージングな試合の連続で最高のイベントになったのはご存知のとおりだと思うけど、セントルイスのファンのMMAへの理解の深さに驚いたんだ。スタンドの打撃戦はもちろん、サブミッションゲームになってもファンはエキサイトして試合を観ていたんだよ。そこに私は感動したね。とにかくセントルイスは〝ストライクフォースタウン〟の一つとなったということだよ。

——今回、初めてUFC（『TUF12 FINAL』）と同日開催になりましたが、何か影響はありましたか？

コーカー　まず、同日開催については意識してそうなったわけじゃないんだ。もちろんUFCに対抗するためにもグッドプロモーションをしなければいけなかったのは事実なんだけど、12月のスケジュールでSHOWTIME（ストライクフォースを放映する大手ケーブルTV局）の放映が可能だったのが、その日しかなかったんだよ。ただ、試合の内容はファンタスティックなものとなったし、テレビの視聴率もいままでと変わりなくSHOWTIMEも満足する結果だったんだ。

——UFCと同日でも視聴率を落とさなかったというのは、ストライクフォースにとって大きなことですね。

コーカー　そうだね。放映中の視聴率平均値も安定していたし、全体を通して1・2パーセントの視聴率だったんだ。いままでの放映も1・2～1・3パーセントだったから、同日開催でもまったく影響はなかったと言えるし、逆にUFCが裏で放映されていたことを考えれば、大成功と言ってもいいんじゃないかい？

——アメリカのファンのあいだでは、「『TUF FINAL』よりストライクフォースのほうがおもしろかった」と言われているようですしね。

コーカー　そういったファンの評価が一番うれしいよ。

——今回、ダン・ヘンダーソンvsレナート・ババルのCM映像で、10年前に行なわれたリングスでの試合映像をふんだんに使っていましたが、アメリカ人が観ていない試合の再戦を印象づけるCMにした理由はなんですか？

コーカー　「10年目のリマッチ」ということで、今回の試合の歴史的重みをアピールするために、SHOWTIMEが過去の試合映像を流したがったからなんだ。それでリングスからライブラリー提供を受けて実現したんだよ。

——あの映像は日本のファンにとってもうれしいものでしたよ。

コーカー　多くの日本のファンに観てもらいたい試合だったね。

——ババルに秒殺勝ちで完全復活したダンヘンの次の試合はライトヘビー級のタイトルマッチになりそうですか？

コーカー　これから調整しなくてはいけないけど、ハファエル・〝フェイジャオン〟・カバウカンチとのライトヘビー級タイトルマッチか、ゲガール・ムサシとの対戦を考えているよ。

——どちらも好カードですね！

コーカー　春先には実現させるつもりだから、楽しみにしていてほしいね。

——では話を変えて、大晦日の『Dynamite!!』で予定されていたメレンデスvs青木の再戦が消滅してしまった理由はなんだったんでしょうか？

コーカー　現在、ストライクフォースとメレンデスは契約の細部にわたって詰めているところで、合意に至るにはもうしばらく時間がかかりそうなんだ。そういった時期であったこともあり、今回は残念ながら流れてしまったけど、契約がまとまり次第日本に送り込むチャンスがあればと思ってるよ。

——メレンデスとの再契約で揉めているということですか？

コーカー　揉めているわけじゃないよ。メレンデスとは交渉の最中だというだけでね。メレンデスとはチャンピオン拘束契約もあるし（現役のチャンピオンであるかぎりはストライクフォースに契約優先権がある）、マネージャーも含めてストライクフォースとの契約には満足しているので、まったく問題はない。ただ、もう少し時間がかかるというだけさ。

——では今後、メレンデスvs青木が実現する可能性はあるわけですね？

コーカー　この再戦はMMAファンの一人としても実現させたいので、引き続きDREAMと協議し、メレンデスにオファーしたいと思っているんだ。

——前ミドル級王者ジェイク・シールズのように、メレンデスがUFCに行ってしまう心配はありませんか？

コーカー　契約交渉の過程で条件を良くするための材料として、そのような噂が出るのが最近の慣例になっているようだけど、先ほども言ったように、とくに心配はしていないよ。メレンデスはストライクフォースにとって大事な選手だし、メレンデス自信もここで闘い続ける気持ちでいるからね。

——メレンデスの次の試合はいつ頃組まれそうですか？

コーカー　来年3月までには組まれる予定だよ、対戦相手はまだ決まってないけどね。

——たとえば、青木選手が再びストライ

[10.12.4 STRIKEFORCE Henderson vs Babalu 2]
米国ミズーリ州セントルイス・スコットレードセンター
◯ダン・ヘンダーソン vs レナート・ババル×
（1R 1分53秒 TKO）
2000年2月に行なわれたリングスKOKトーナメント決勝以来、10年ぶりの再戦となったダンヘンvsババル。10年前は2-1の微妙な判定でダンヘンが勝利したが、今回は序盤からダンヘンがパンチで圧倒。パウンドでババルを殴りつけ、ワンサイドの勝利を挙げた。

王者メレンデスとは1勝1敗の戦績を残し、今年10月にはJZ.カルバンも下しているトムソン。川尻にとっても難敵中の難敵だ。

ヒョードルは1月大会に出場予定。対戦相手も近いうちに発表できそうだ

クフォースに乗り込むかたちなら、再戦が実現する可能性は高まりますか？

コーカー　もちろんそうだね。ストライクフォースでメレンデス以外のトップファイターに一度勝って、その実力をアメリカのファンに見せつけてくれれば、なおいいよ。

――『Dynamite!!』では青木vsメレンデスに代わり、川尻vsジョシュ・トムソンが組まれますが、このカードが実現に至った経緯は？

コーカー　トムソンは格闘技を少しのあいだ休んで映画に出演する話もあったんだけど、まずDREAMからトムソンとアオキの試合を『Dynamite!!』で組みたいという依頼を受け、トムソンと彼のマネージャーと何度も協議したうえで『Dynamite!!』参戦に同意してくれたんだ。相手はアオキではなくカワジリになったけど、カワジリvsトムソン戦は昔から実現させたかったカードなので、ファンの一人としてもこの試合が観られることはうれしいんだ。

――ライト級トップコンテンダーのトムソンを貸し出すのは、ストライクフォースにとってもリスクを伴なうことではありませんか？

コーカー　まったくそんなことないよ。MMAはスポーツであり、強い選手が勝つというシンプルなルールなんだよ。トムソンはオファーがあってから練習する時間も充分にあったので、ベストコンディションで素晴らしい試合をしてくれることを期待しているんだ。

――川尻vsトムソンの勝者が、メレンデスの持つライト級王座への挑戦者になる可能性は？

コーカー　もちろんその可能性は考えられるね。現時点でもトムソンは挑戦者候補の筆頭だから、そのトムソンに勝ったら、カワジリに挑戦権を与えるというのは、自然な流れだと思う。

――それは楽しみですねぇ。逆にトムソンが勝った場合、青木選手の持つDREAMライト級王座に挑戦する可能性もありますか？

コーカー　トムソンが勝った場合、メレンデスとのリマッチ、青木とのDREAMタイトル戦、両方が考えられる。トムソンがDREAM王座挑戦を希望するなら、交渉するよ。

――1月29日にはサンノゼでビッグマッチが予定されていますが、これはどんな大会になりそうですか？

コーカー　いまファイトカードの最終調整をしているところで、来週には発表できる予定なんだ。サンノゼはストライクフォースのホームタウンだからね。ベストのファイトカードを用意するから楽しみにしていてほしい。

――ニック・ディアスの参戦が内定しているそうですが、対戦相手はどうなりそうですか？

コーカー　いや、まだニックの試合が組まれるかどうかは決定してないよ。でも、出場するなら対戦相手はエヴァンゲリスタ・サイボーグ、ポール・デイリーの二人が考えられるね。

――メイヘム・ミラー戦はやはり実現し

いては、どのように考えていますか？

コーカー　リスクよりメリットのほうを考えているよ。もしストライクフォース

ヒョードル再起戦の対戦相手最有力候補と言われているのが"ビッグフット"ことアントニオ・シウバ。12.4セントルイス大会でもマイク・カイルをKOしている。

スコット・コ

ヨンで素晴らしい試合をしてくれること

場するなら対戦相手はエヴァンゲリスタ・サイボーグ、ポール・デイリーの二人が考えられるね。

——メイヘム・ミラー戦はやはり実現しそうにないですか?

コーカー　ニックはウェルター級でメイヘムはミドル級だからね。キャッチウェートで実現できたら、とは思ったんだけど、合意に至らなかったんだ。

——因縁の一戦として観たいんですけどね。

コーカー　私だって観たいよ(笑)。でも、今回はちょっと難しいかな。

——1月の大会はエメリヤーエンコ・ヒョードルの参戦も噂されていますが、どうなりそうですか?

コーカー　これもいまM-1と協議しているところなんだ。来週中には合意に至ればと期待してるよ。

——半年ぶりにヒョードルの再起戦が観られそう、というわけですね。対戦相手の候補には誰が挙がっていますか?

コーカー　ヒョードルのカードについては、正式に決定してからみんなを驚かせたいので、まだ言いたくないんだ(笑)。とは言っても、1~2週間中には発表できると思うよ。

——楽しみにしてます！　一方、なかなかアメリカで試合をしないアリスター・オーフレイムがヘビー級王者である現状について、どう思いますか?

コーカー　それはK-1やDREAMとの契約があったからだし、ストライクフォースもそれを理解して同意していることなんだ。ただし、来年は少なくともアメリカ国内で2~3試合はする予定になってるよ。

——ストライクフォースのヘビー級王者がK-1ワールドGPに出るリスクについては、どのように考えていますか?

コーカー　リスクよりメリットのほうを考えているよ。もしストライクフォースの現役ヘビー級王者がK-1ワールドGPを制覇したら、それは驚くべきことじゃないかい?(このインタビューはアリスター優勝前に収録)。アリスターにはその可能性があるし、ぜひK-1王者となって、ストライクフォースに戻ってきてほしいんだ。

——来年のストライクフォースには、どのような構想がありますか?

コーカー　来年はヘビー級が大変なことになるよ。いまストライクフォースは世界で最高のヘビー級ファイターを抱えている。チャンピオンであるアリスターをはじめ、ファブリシオ・ヴェウドゥム、ヒョードル、ジョシュ・バーネット、ビッグフット(アントニオ・シウバ)、アンドレイ・アルロフスキー、セルゲイ・ハリトーノフ、ブレット・ロジャース……。彼らが真のヘビー級世界最強を争うことになるんだ。ぜひ楽しみにしていてほしい。2011年は合計20のイベント、そのうち12が本大会のビッグイベントで、8つがチャレンジャーシリーズになる予定なんだ。

——今後のDREAMとの関係をどのように考えていますか?

コーカー　いままでどおりオープンで健全な関係を保っていきたいと思ってるんだ。FEGも大変な時期であることは少し耳にしているけど、頑張って一緒に世界の格闘技を盛り上げていきたいね。

——では、来年も期待しています。

コーカー　大晦日の『Dynamite!!』に合わせて日本に行く予定だから、また会おう！

【10年12月11日/国際電話にて収録】

11・28ヴァルキリー無差別級王者に君臨！

ダッダーン！ボヨヨン！ボヨヨン！戦極出陣へ!!

チャンピオンになりました

今号は写真解禁！

中井りん

中井りんがついにチャンピオンに君臨！
11月28日のヴァルキリー無差別級王座決定戦で見事勝利し、
試合後には度肝を抜く衣装でファンサービスに応じた中井。
そして12月30日にはなんと戦極への出場も決定。
勢いに乗る中井は今後何を目指すのか。試合後の言葉を聞け！

聞き手／松下ミワ　撮影／吉場正和

—昨日は念願のベルト獲得おめでとう
ございます！
りん　ホントにありがとうございます！

象があったんですが、結果を見ると気のせ
いだったということでしょうか。
館長　それは試合時間が1ラウンド3分

イントだったんでしょう。
りん　そういう感じです。エヘヘヘへ。
—でも、勝ちとわかったときにはオク

て勝ちじゃないですから！
りん　昨日もそういう感じで、「終わりで
す」って言ってるのに館長は凄く怒ってて。

—昨日は念願のベルト獲得おめでとうございます!

りん ホントにありがとうございます! もう、皆さんの応援のおかげで獲ることができました。

—そんな中井選手は、さっそくマスコミに引っぱりだこだったようですね。聞くところによると試合当日の夜にも収録が入ってたと聞きました。

りん 夜の10時からサムライさんで生放送があって、けっこう遅くまであったので忙しい一日でしたね。

—何時まであったんですか?

りん 12時すぎぐらいですかね。

—そんなに! お疲れのところ、大変でしたねえ。

りん いや、全然疲れてはないんですよ。試合も1ラウンドで終わっちゃいましたから。

—おお、疲れてませんか。ではあらためて試合を振り返って、いかがでしたか?

りん もう、ずっとベルトがほしかったので、ベルトを獲れたことはうれしいです!

—対戦相手の佐藤瑞穂選手は眼窩底骨折で1ラウンド終了時にドクターストップになったんですよね。

りん はい……。

—ご自身で眼窩底骨折の原因は「あの瞬間だな」と、なんとなくわかってるんですか?

りん たぶんヒザ蹴りだと思うんですけどお。でも、パンチもヒザ蹴りも手応えを感じたので、これ一つというのはわかんないですけど、たぶんヒザ蹴りが当たったんだと思います。

—凄まじい破壊力だったんですね。しかし、昨日はいつになく苦戦していると言いますか、中井選手のほうが押されてる印象があったんですが、結果を見ると気のせいだったということでしょうか。

館長 それは試合時間が1ラウンド3分から5分になったのもあるんですよ。3分が5分になると消耗は倍になると思うんです。だから充分時間があるならゆっくり相手を見ていくなかで一本取れるように考えたんです。

—なるほど。そういうことだったんですね。実際、5分というのは長く感じました?

りん 昨日に関しては長くは感じなかったですね。動きも少なかったですし。スタミナの面でも余裕はありました。ただ、再戦ということもあって、中井対策を感じたといいますか……。やっぱり、押しつけられることで打撃を封じ込まれたんですよね。結局は打撃で勝ったわけなんですけど、相手はバンバンもらうと不利だから距離を詰めておこうという作戦だったんだと思います。

館長 まあ、間合いを潰そうとしても、パンチやキックよりヒザ蹴りのほうが近い距離で打てるわけですからね。そこがポイントだったんでしょう。

試合は1ラウンド終了時に佐藤の眼窩底骨折でドクターストップとなったが、試合中は金網に押されていたように見えた中井。試合時間が3分から5分になったこともあり、冷静に対処していたということか? それにしても強い!

Rin Nakai

「勝ったんだ!」ってうれしくて。……けど、館長は怒ってました

りん そういう感じです。エヘヘヘヘ。

—でも、勝ちとわかったときにはオクタゴン上で凄くはしゃいでましたね。

りん レフェリーが両手を振ってたから、一瞬「ノーコンテストなのかな?」とかよくわからなくて。でも、そのあとにレフェリーが私のところに来て、「眼窩底骨折してるので止めます」って言われたんです。それで「私の勝ちですか?」って聞いたら「そうです」と言われたので、それで「あ、勝ったんだ!」ってうれしくて。……けど、館長は怒ってました。

館長 そのときはわからなかったんですが、僕はですね、やっぱり実力できっちり一本取るかKOしないと、スポーツ的に本当の勝ちじゃないと思ってるんです。

—勝ち方にもこだわりがある、と。

館長 男子の試合ではよくローブローで反則勝ちをする人がいるんですけど、実際のケンカとか実戦では負けじゃないですか。そういうのがやっぱりイヤなんですよ。まあ、眼窩底骨折は完全に勝ちなんですけど。

—ほほう。そこは館長なりのポリシーというわけですね。

りん だから「おまえ、まだやれよ!」みたいに言われて(笑)。

館長 いつかの試合で頭部にヒザ蹴り食らって試合中断したときも中井を呼びつけて「バカタレ! 最後までやれ!!」って言いましたから。レフェリーも「反則勝ちにします」ってなったんだけど、反則なんて勝ちじゃないですから!

りん 昨日もそういう感じで、「終わりです」って言ってるのに館長は凄く怒ってて。マウスピースをはずして渡しても全然受け取ってくれなくて、一人でブツブツ言ってるんですよお。アハハハ!

—しかし、あの喜びようを見ると、この試合にかける意気込みはやはり並大抵のものじゃないことがわかりますね。

りん もちろんベルトはずっとほしいと思ってて、今回のベルトも一つの通過点ではあるんですけど、総合格闘技始めてから4年、初めてかたちになるものができたなと思いました。

—やはりベルトというのは格別なわけですね。

りん もちろんです! 何よりも説得力があるし、アピールしやすいじゃないですか。チャンピオンだって言えばわかりやすいじゃないですか。

—初めて中井選手の取材をしたときも「ベルトがないと説得力がない」と言われてましたもんね。

りん そうです。かたちになったんです。だからよかったんです! ただもっと早く挑戦できるときはあったんですけど……。まあ、スマックガールの話なんですけどね。でもスマックガールがなくなっちゃったんで、それで1～2年遅れたんです。スマックガールがなくなったこと事態も残念でしたし。

—じゃあ、そのときに目標を失なったという感じだったんですか?

ればねえ。100人ぐらいに囲まれてましたから。ハハハハハ！

りん ホントに多かったですねえ。だか

ないですか？

りん けっこう悩みましたね。また、サイズが合わないという問題もあって、日本の

りん 壁にベタッと張りついたり。「お尻を突きだしてください」とか。恥ずかしいんですけどねえ。

ボツになった衣装をまた使うかお蔵入りにするかはわからないです

Rin Nakai

りん いや、そんなことはないんですけどお、なんと言いますか。

館長 まあ、国内で女子の試合がゼロになることはないですし、国内で干されたとしても、世界には必ずあるじゃないですか。アマチュアでも参加料を払って出られる大会はありますよね？ それでもいい、と。ホントに自分が練習を積み重ねて、強くなればなんでもいいというのはあったんです。もちろん総合格闘技で一番になるのが一番いいですけどね。

りん だから今回は本当によかったです。やっと強さの称号を手に入れられました。

――そして試合後には「女子格闘技の未来に一緒に行きましょう」という力強いマイクがありました。

りん 最近その言葉、気に入ってるんです。エヘヘヘヘ。

――この「未来」というのが非常に気になるところなんですよ。

りん 私は女子格闘技はこれからますます発展していくと思うんです。そういう意味で「未来」と言ってるんです。たとえば、競技人口が増えるとか、レベルが上がるとか、そういう未来だったり、興行がもっと大きくなることもそうですし。

――そういう意味では、その「未来」を中井選手が作ってるようにも見えますね。前回から比べると、今回の『ヴァルキリー』はお客さんがかなり増えてました。

りん 今回、多かったですね。でも私だけじゃなくて、皆さんが頑張って宣伝したんだと思います。『ヴァルキリー』での二大タイトルマッチというのが初めての試みだったので。

――そんななかでも、やはり中井りん効果はあったんじゃないかと思うんですが。

館長 それは試合後のファンの様子を見

ればねえ。100人ぐらいに囲まれてましたから。ハハハハハ！

りん ホントに多かったですねえ。だから全部は応えられてなくて、たぶん握手とか撮影をあきらめた人もいっぱいいると思うんですよ。それが残念といいますか。やっぱり一人ひとりを大事にしたいと思ってて。中井はファンを大事にしてますから。

館長 今回はりんからチケットを買ってくれた人も多かったですからね。今回、凄く売れたんですよ。

——それも努力の成果なんですかね。中井選手からチケット買ってくれた人には、なんと中井選手のサインが入ったセクシー写真が特典についてきたりしますし。

りん リピーターも凄い増えてうれしいんですよお。一回で終わられると「私の写真、あんまりだったのかなあ？」とか「嫌いになったのかなあ？」とか思うことがあるので。

——でも、昨日の衣装にしても、ファンは相当喜んでましたよね。試合コスチュームとは別の衣装を、大会の最後に着替えて出てこられるという〝演出〟まであって。

りん エヘヘへへ。

——もう、いつもこちらの想像をはるかに超えてこられるといいますか。

りん あ、超えてましたあ？ やったー！ アハハハハ！ でも毛皮とかけっこう悩んだんですけどねえ。真っ白にしようかとも悩んだんですよお。ただ、真っ白だともっと若く、かわいく見えるんですけど、色が入ってるほうがワイルドで動物的じゃないかって。それで時間かけて選んだんですよ。

——皆さんでいろいろ吟味された、と。となると、紫の衣装もかなり悩まれたんじゃないですか？

試合のコスチュームとは別に、大会最後にド派手な衣装で登場した中井。マスコミの撮影が終わると、あっという間にファンに群がられ会場は大変なことに。写真で見ても熱気が凄い！

りん けっこう悩みましたね。また、サイズが合わないという問題もあって、日本のサイズでは小さいんですけど、アメリカから取り寄せると今度は大きすぎたりとか。

——そんなご苦労が……。

りん それで、今回の衣装はもともとの型があって、そこからちょっとデザインを変えてもらって。

——ちなみにどのへんを変えてもらったんでしょう？

りん 上の衣装の裾の部分の話なんですけどね。最初は丸かったんですけど、菱形にしてきれいに見えるようにしてもらいました。そういうのもあって、準備に2ヵ月ぐらいかかったんですよお。

——はー、2ヵ月も！

りん いつも、ギリギリになって間に合わなくてあきらめた衣装とかもあるというか、そういうのが多いんですよ。

——じゃあほかの衣装もたくさんあるということですか？

りん 買ったのに使わなかったものとかもあるんですよ。毎回ですけどね。

——ちょっと待ってください。となると、まだまだ秘蔵の衣装がいろいろあるということですか？

りん まあでもボツになった衣装をまた使うか、お蔵入りするかはわかんないですから。

——もったいないです！

りん でも、ファンの方もどんどん要求が大きくなってきて、前は黙って撮ってただけなのに、今回は「こんなポーズしてください」とか。昨日は凄くおもしろかったんですよお。アハハハハ！

——ちなみに、どんなポーズを要求されたんでしょう？

りん 壁にペタッと張りついたり。「お尻を突きだしてください」とか。恥ずかしいんですけどねえ。

——やっぱり恥ずかしいですか。

りん もう、ミニ撮影会が外で始まっちゃって。

館長 昨日はりんを囲むファンが100人を超えてて、こっちが「やめます」って言わないと終わらなかったですからね。過去最大でしたよ、ホントにねえ。

——撮られてるときはどんな気持ちなんですか？

りん エヘヘへへ。逆にファンの方々が喜んでくれてるので「いいかな」と思います。ギリギリできることだったので。なんか「バックアングルがいい」って言って、ずっとお尻のほうから撮られて……恥ずかしいです。

——やっぱり恥ずかしいですか。

りん エヘヘへへ。

——しかし、競技的にもプロとしても、昨日のパフォーマンスは「来るところまで来たな」という感じでしたが、それでもやっぱりこの4年間、つらいこともちろんあったわけですよね？

りん はい。やっぱり練習は……つらかったですねえ。と言っても成果が出てちょっとずつ強くなってるし、試合にも勝ってるので報われてるとは思いますけど。うーん、あとはなんでしょう。

館長 まあ、人によっては遅咲きの選手もいるわけですからね。でも中井はどんどん成果が出て、注目度も高まって、ファンも凄く増えて。でも、正直言って練習中にしんどさに直面してるときは極限状態でつらいと思いますね。

りん そうなんです。体力がつらい。練習がきついからしんどいです。

武家の娘ではないです。皆さん私がそうだと思ってるんですかね？

館長　僕も納得いくまで絶対に終わらせないんで。何時間でもやるんですよ。もちろん潰さないところの境目は見てるんですけどね。
りん　だから途中で開き直ってやってるんですけどお……。
――そうなると、やはり館長も指導者としてつらいときもあるわけですか？
りん　あ、それ聞いてみたいですね。いつも迷惑かけてるので。エヘヘヘヘ。
館長　たくさんありますよお。でもやっぱり中井がつらいと僕もつらいですよ。ギリギリのところをやらせてるときが一番つらいです。でも、その成果がこうやって出てるわけですからね。
――じゃあ、そうやってお二人で手に入れたベルトはもう宝物以外の何モノでもないですね。
りん　エヘヘヘへ。
館長　ただ、いまは凄くうれしくて大事にしてると思うんですけど、僕は今大会が終わってからすぐに「ストライクフォース！　ストライクフォース！」って言い続けてるんで。前から言ってるようにすぐにとかは無理だとは思うんですけど、何年かかるかわかりません。
――となると、今年はこれで仕事納めですか？　今年あと1試合、年末あたりに観たいというファンも多いんじゃないかと思うんですけども。
館長　まあ、そういう声も実際にいただいてるんですけど、今年もう4試合しましたし、ここ数年かなり無理をさせてきてるので休ませないと潰してしまう可能性も出てくると思いまして、休ませます（のちに12月30日『戦極Ｓｏｕｌ　ｏｆ　Ｆｉｇｈｔ』への参戦が決定。詳細は最後のカコミへ！）。
――なるほど。ちなみに、中井選手は武家の娘だったりするんですしょうか？
りん　あ、また武家の娘！　それってよく聞かれるんですけどなんなんでしょう？
――よく聞かれるんですか（笑）。いや、じつはＳＲＣの向井代表が30日の大会で「武家の娘とかに参戦してほしい」と言われてたんですよ。
りん　その武家の娘が皆さん私のことだと思ってるんですかね？
――いや、そういうわけじゃないんですけど（笑）。でも中井選手は武家の娘なんですか？
りん　いえ、違います（キッパリ）。
――違います、と。じゃあもう武家の娘でもないし、今年はゆっくり休まれて、来年、再来年のストライクフォースに備える、と。
館長　正確には「来年、再来年」ということも言えないんですよ。準備ができたらですね。
りん　そうです。いつ準備ができるかわからないので。館長が見て、ゴーが出たらなんで。
――わかりました。最後に、前回『ｋａｍｉｐｒｏ』に写真が載らなかったので寂しい思いをしたファンの方々にメッセージをいただきたいんですが。
りん　ホントですかあ！
――ええ、「おもしろくない記事＝中井りん　理由＝写真がないから」という苦情が何件もありました。
りん　苦情、クレーム。アハハハハハ！　でも今回の試合で私の格闘技に対する思いが証明できたっていうか、一つのかたちになったので、もう文句はないでしょ？　という感じですね。
館長　そう。試合は真剣勝負ですけど、プロとしてファンの皆さまにパフォーマンスすることも大切ですからね。それに、これはぜひ書いていただきたいんですけど、「女子格闘家が強くなること」＝「男になること」ではないですからね。
――なるほど。またもや館長ポリシーですね。興味深いです。
館長　ありがとうございます。しかし、最近凄く思うんですよ。見た目とか服装とかを強そうに見せることで、闘う女性が男性ふうにするのは僕たちは違うと思うんです。「強さ」＝「女性が男性になること」じゃない。だから中井はかわいらしさというか女性の魅力をアピールする方向でいいんじゃないかと僕は思ってるんですけどね。
りん　私も女性の魅力を伝えていきたいと勝手に思ってます。アハハハハ。
――じゃあ今後は、そっちのほうも期待していいということで。
りん　そうですね。チャンピオンになってみんな「何をするんだ？」みたいに期待してくださる方もいるでしょうし。
――今後も目が離せない、と。
りん　はい。時間ができたらまた写真をブログにアップしようと思っているので、ファンの方はお楽しみにい♥
――……今回もどうもありがとうございました！

【10年11月29日／都内・某ホテルにて収録】

Rin Nakai

なかい・りん■1986年10月22日、愛媛県出身。06年10月にパンクラスでプロデビュー。その後スマックガール→ヴァルキリーに参戦、WINDY智美や藪下めぐみを下し、11月28日のヴァルキリーでは初代無差別級王者に。このページで衝撃を受けた読者の方は、ぜひホームページ（http://rinnakai.sakura.ne.jp/）もご確認ください。156cm、65.0kg。

中井りん、12.30『戦極 Soul of Fight』に参戦決定！

この取材以降、12月9日に中井りんの『戦極 Soul of Fight』出場が決定！ 対戦相手はスマックガールにも参戦経験のあるベテランのHARI。取材時には出場を否定していたかのように見えた中井りん&館長だが、オファーを受けるにあたって「今年5試合目となりますが、中井は女子格闘技を背負っていくために、今大会への出場を決意しました。12月30日に再び出陣しますので、ファンの皆さま応援よろしくお願いいたします。ぜひ観に来てください☆」とのメッセージが。……事情はよくわからんが、恥ずかしがらずに応援しよう。ダッダーン!!

ズバリ言って
俺に聞かねえでください

猪木軍がやってくる!?

アントンがエグゼクティブプロデューサーに就任!
12.31『Dynamite!!』に一寸先のハプニング到来か!?

皆さん私がそうだと思ってるんですかね?

「女子格闘家が強くなること」＝「男になる

——ということで、練マザファッカーのホームタウン、練馬にある秘密アジトにおうかがいしました！　今日は鈴川さんとの関

鈴川のためなら大晦日は300人で乗り込むぜメ～ン!!

ディー・オー
D.O

リファッカー

ディス・イズ・練マザファッカー、ユー・ノウ？（D.O調）。
鈴川真一のデビュー戦でセコンドとして登場し、その強烈なキャラでインパクトを残したラッパー集団に直撃すべく、練馬にあるアジトへ潜入！
話題のHIP HOPグループの中心人物であるD.OとPIT GObが、鈴川との熱い友情を語るって話だぜ！　要チェックメ～ン！

聞き手／鈴木佑　撮影／笹井孝祐　試合写真／平工幸雄

鈴川真一の物騒で愉快な仲間たち

練マザファッカー

コイツらは"平成の将軍KYワカマツ"か!? なかったことになってたあの問題児たちが待望の本誌解禁メ〜ン!!

――ということで、練マザファッカーのホームタウン、練馬にある秘密アジトにおうかがいしました！　今日は鈴川さんとの関係を中心に話を聞かせてもらえますか？

D・O　……。

――……。

D・O　……（舌なめずりしながらこっちをジーっと見つめる）。

――……（汗）。

D・O　いいぜメ〜ン！（握手を求めながら）。

――え？　あ、ありがとうございます。え〜と、そもそも鈴川さんと知り合ったきっかけというと？　前にニュースで見たときは、たしか「後輩の知り合いに紹介された」って供述してた気がしますけど。

D・O　供述？　おい、ディスってんのか？　ディスられてるよな？

PIT　間違いねー（キッパリ）。

――いやいや、ディスってないです！（汗）。え、そもそも鈴川さんとはどういうつながりなんですか？

D・O　まぁ、もともと俺らは手広く音楽関連のビジネスをやってんだけど、その一環として六本木なんかで露天商をやってた時代があったわけ。日本でもストリートで海外のＤＶＤやＣＤを広めよう的な感じで。で、そこにヤツが買いに来てたって話だぜメ〜ン。

PIT　まだ現役の力士時代で、03〜04年くらいだな。もともとヤツはＨＩＰ ＨＯＰが好きだったから。

――じゃあ付き合いもけっこう長いんですね。鈴川さんは浴衣にチョンマゲ姿で買いに？

ピットゴブ
PIT GOb

D・O　いや、俺らと同じようなカッコウ。ディス・イズ・HIP HOPスタイル。ユー・ノウ？

――ア、アイ・ノウ（汗）。

PIT　ジーンズにブーツ履いて、バンダナ巻きながらNew Eraのキャップ被って、大きいB-BOYって感じでさ。六本木だから外国人も多かったし、最初は日本人じゃないと思ってたな（笑）。

D・O　で、話を聞いたら俺らのことをけっこう前からチェックしてたらしくて、そっからはライブに来てくれたり、一緒に飯食ったり、飲んだくれたり。

――いつも鈴川さんとはどんな感じでつるむんですか？　相当豪快だとは思うんですけど。

D・O　たとえばここ3～4年の年末だったら、29日あたりから「忘年会始めるか」って合流して、そのまま普通にノンストップで年明けの3日くらいまで延々と遊び狂ってたぜメ～ン。

――もはや合宿状態ですね（笑）。プレイスポットは六本木なんですか？

PIT　いや、日本全国どこでもだな。年末に俺らのライブが九州とか関西であれば、そのままそこにいたこともあったし。

D・O　俺らの「ドッグス」はどこにだっているから。

――ド、ドッグス？

D・O　信頼できる仲間って意味だぜメ～ン。

PIT　鈴川もタイミングが合えば地方でも当然顔出しにくるし。ていうか、ヤツも練マザファッカーだから。

――あ、そうなんですか？

D・O　だからヤツの試合をドッグスが観に行くのは当然だし、俺らのライブでヤツがステージに上がったりもするし。それがオレらのHIP HOPってわけ。要チェックメ～ン。

ゾロゾロ出てきたデビュー戦時とは裏腹に、モンターニャ戦では二人での登場となった練マザ。いわく「自主規制だぜメ～ン」(D.O)。ウンコ座りしながら試合を見守る姿はいかにも悪そうなヤツ。思わずパシリとして焼きそばパンを買いに行きたくなるって話だぜメ～ン。

――は、はぁ（汗）。そもそも練マザファッカーは何人くらいいるんでしょう？

PIT　多いときはライブで100～200人くらいステージに上がってくることもあるし、パーティやれば普通に500人くらい集まっちゃうときもあるな。

――凄い団結力ですね～。

D・O　で、オリジナルの練マザファッカーっていうのは、俺らみたいに大泉学園で育ったヤツらなわけ。そこからどんどん広がって、日本だけじゃなくて世界中、たとえばニューヨークのハーレムにもつながってるし。それが俺らのやってるHIP HOPだぜメ～ン。

PIT　鈴川も相撲時代から全国各地にドッグスがいるから、試合のときにはいろんなとこから大勢応援に来るし。

――たしか鈴川さんのデビュー戦のときに、D・Oさんが「コイツの仲間は3000人来てるぜ」って言ってましたよね。

D・O　やっぱヤツのライフ自体がHIP HOPで、そのHIP HOPのなかに相撲があったって話だから。

――HIP HOPのなかに相撲⁉　あ、あの、ごめんなさい。さっきからHIP HOPって単語が飛び交ってますけど、そもそもHIP HOPってなんなんですかね？

D・O　そんなもん決まりはねえぜメ～ン！（キッパリ）。

――あ、決まりはない（笑）。

D・O　HIP HOPはいろんなとらえ方があってよくて、「この生き方がHIP HOPだ」って言ったら、それがそいつのHIP HOPだってだけの話。

PIT　HIP HOPは音楽だけじゃなくて、アメリカではカルチャーとして認

練マザがやってくる！　メ～ン！　メ～ン！　メ～ン！

※試合後のコメント（一部抜粋）

――メインを締めたがどんな気持ちか？

鈴川　アマゾンの原始人倒したような気分で。マジ、スカっとしました。何年ぶりかに両国に戻ってきたってこともやっぱり。こっからまた新たなスタート。

D・O　歴代の横綱が笑ってたぜメ～ン。

PIT　上の写真でね。

D・O　ウェルカムメ～ン。

鈴川　朝青龍も観に来てくれたと思いますけど。

――試合のなかで危ない場面は？

鈴川　まあ、お客さんはどう取るかわかんないけど、俺的には全然問題なかったと思ってます。

D・O　おっさんももう、なぁ？　ただでけーヤツももう飽きただろ？　もっとつえーヤツ呼んでみろよって、そんな話だぜメ～ン。

――リングサイドから猪木さんも観てたが？

鈴川　バシバシ感じました。また前よりけっこう……（立ち上がって広背筋を見せる）。

PIT　徐々に徐々に闘魂が浮きあがってきてるから、コイツの背中は。

（鈴川のポージングに合わせて突如歌いだす）

D・O　スズカワ・イズ・バーック♪

PIT　イエー♪

D・O　それだけの話だろ♪

PIT　戻ってきた両国に♪

――最後はリングの中央で四股を？

鈴川　バッチリ決めて。まあ年末、また試合も控えてるかもしんないから、それに向けてトレーニングして。

――それは大晦日？

鈴川　そうですね。いつでも。

D・O　ま、なんにせよ今日のチョンマゲはな？　リスペクトとラブのかたちってそういう話だぜ。

PIT　間違いない。

D・O　いい加かげんにしやがれメ～ン。疲れてんだよ。コイツは勝ったんだよ。でん、伝承者はコイツメ～ン。カモンメ～ン（一瞬、噛みそうになるもなんとか言いきって、コメントブースをあとに）。

PIT　次の相手、誰だ、誰だ、誰だぁ？

D・O　アントニオ猪木、リスペクトメ～ン！

められ、日本でもかなり根づいてきている文化のこと。たとえばグラフィティアートって落書きからDJ、ダンス、RA

って言えば「元気ですよー!」ってな（笑）。
――コール＆レスポンスにも闘魂が宿ってる、と（笑）。今回、練マザファッカーは

スするハメになったってだけの話（ニヤリ）。だいたい、あの野郎から「闘魂」に対するリスペクトは感じられなかったぜメ

められ、日本でもかなり根づいてきている文化のこと。たとえばグラフィティアートって落書きからDJ、ダンス、RAP、これが4大要素。そういう俺らがやってること全部がHIP HOP。ライフスタイル自体がHIP HOPってわけ。

——なるほど～。ちなみに鈴川さんのことは仲間内ではなんて呼んでるんですか？ 鈴川メ～ン？ 真一メ～ン？

D・O ……おい、ディスってんのか？

PIT 間違いねー（キッパリ）。

——いやいや、ディスってないです！（汗）。何か愛称とかあるのかなって。

D・O 俺らはヤツのことを「ごわす」って呼んでるぜメ～ン。

——ダハハハ！ ごわす（笑）。

D・O こっちが「ごわす！」って言えば、あっちは「ドスコイ！」って答えて、こっちが「ドスコイ！」って言えば、あっちは「ごわす」って返してきやがるぜメ～ン！（笑）。

PIT で、最近だと「元気ですかー！」って言えば「元気ですよー！」ってな（笑）。

——コール＆レスポンスにも闘魂が宿ってる、と（笑）。今回、練マザファッカーはIGFに出て注目を集めましたけど、テレビ番組の『リンカーン』に出演したときも大きな反響があったんじゃないですか？

D・O 『リンカーン』は俺らのアートを日本全土に広められるイイきっかけになったし、予定どおり反響は大きかったぜメ～ン。街を歩いてると「あ、メ～ンだ！」って言われたりな（ニヤリ）。まぁ、あれも俺らにとっちゃエンターテインメントであり、HIP HOPだぜメ～ン。

——あの松本人志さんも練マザファッカーに勧誘してましたよね（笑）。

D・O 松本もドッグスだぜメ～ン（ニヤリ）。

——さて、皆さんが鈴川さんのデビュー戦でセコンドについたとき、そのインパクトがあまりにも大きすぎて、じつはIGFでは一度はなかったことになったんですよね。練マザファッカー自体がNGワードになって（笑）。でも、今回のモンターニャ戦でまた登場したってことは、それだけ反響が大きかったってことなんですかね？

D・O それに関してはアントニオ猪木が凄いって話だぜメ～ン。

PIT 間違いねー（キッパリ）。

——え、どういうことですか？

D・O そもそも、俺らは最初のコールマン戦のときも、入場ギリギリまで一緒にリングサイドに行くのはNGだったから。

PIT こっちは鈴川の応援のために集まったんだけど、関係者は「ダメダメ、知らない知らない」って感じでな。まぁ、あんだけガラ悪いのが集まればストップかかるだろうけど（笑）。

D・O で、鈴川も「難しい」って一度は引き下がって。でも、俺らはドッグスとして大会の前夜祭でコールマンとのイントロを作ったわけだ。

——あぁ、コールマンに突っかかって大騒ぎになったんですよね。

D・O あれも俺らにしてみれば鈴川のデビュー戦を盛り上げるためのラブ。ディス・イズ・HIP HOPメ～ン。不祥事を起こして相撲界から追い出された人間がまた大きな舞台にたどり着いて、その一発目でどうやったらインパクトを残せるか。どうしたらほかのレスラーより輝けるか。その答えの一つとして、前夜祭で仕掛けさせてもらったってわけだぜメ～ン。

PIT でも、俺らにしてみればコールマンは小さい頃からテレビで観てた存在だし、リスペクトしかなかったのにな。

D・O そうそう、なのにあの野郎はファイト前日に浮かれて楽しそうに酒飲んで顔を赤くしてやがったから、死神とダンスするハメになったってだけの話（ニヤリ）。だいたい、あの野郎から「闘魂」に対するリスペクトは感じられなかったぜメ～ン。それだけでも大義名分は充分こっちにあるんだぜメ～ン。

——それでからんだ、と。

D・O ……俺らがからんだ？（ジロリ）。フザけるなメ～ン！ 向こうが「闘魂」をディスりやがったんだぜ？ 真の闘魂継承者がダレなのかわからせてやっただけだぜメ～ン。

——そ、そうですか（汗）。そこまでの気持ちでお膳立てをしたのに、団体側に規制されそうになった、と。

D・O そういうこと。それで鈴川に「It's COOLメ～ン。じゃあ『練マザファッカーが一緒じゃないならコールマンとはリングじゃなく、外でタイマン張らせてください。本気です！』って頼め」って伝えて。そしたらそれが猪木会長にまで届いたのか、鈴川が「『好きにやれや』って会長が言ってくれた」って、ちょっと涙ぐみながら戻ってきたってわけだぜメ～ン。

練マザファッカーは世界中につながってる それが俺らのHIP HOPだぜメ～ン

鈴川の勝利の瞬間、狂喜乱舞する練マザファッカー！ しかし、このあとにモンターニャに蹴落とされるオチが。それにしても、宮戸GMと練マザファッカーが一枚の写真に収まるなんて、なかなか感慨深いって話だぜメ～ン。

試合後の練マザ劇場はスッカリ恒例！ 鈴川たちのやりとりをポカーンとした表情で眺めてるプロレス村の住人の方々の姿は、なかなか味わい深いって話だぜメ～ン。

ヤツがステージに上がったりもするし。

くて、アメリカではカルチャーとして認

PIT 次の相手、誰だ、誰だ、誰だぁ？

D・O アントニオ猪木、リスペクトメ～ン！

――は～、猪木さんが「遠慮するこたねえよ」と。

P・I・T　いい話だろ？　だからモンターニャ戦のときも、猪木会長が鈴川に理解を示してくれて、また俺らも出れたってこと。猪木会長マジでリスペクト！

D・O　アントニオ猪木、リスペクトメ～ン！

――そもそもお二人はプロレスとか格闘技は好きなんですか？

P・I・T　もう、ガキのときから観てるから。毎週土曜の夕方に新日、日曜の夜中に全日がやってたのを楽しみにしてたクチだし。

D・O　俺は一度、『ワールドプロレスリング』のエンディング曲に関わったこともあんだよ。そのときもハッピーだったし、いまはさらに、こういうかたちでプロレスと接点があるわけだから、俺らがいうＨＩＰ　ＨＯＰをもの凄く実証できてるって話だぜメ～ン。

――マット界とＨＩＰ　ＨＯＰに相通ずる部分って何か感じます？

P・I・T　かなりあると思うぜ。

D・O　それはやっぱりどっちも極上のエンターテインメントで、みんな本気の世界だから。俺らもマット界のアーティスティックさにはラブとリスペクトしかないぜメ～ン。

P・I・T　俺たちは鈴川が華やかな道を歩いていけるように、サポートしていくって話。

――そういえば今日、『東京スポーツ』制定のプロレス大賞が発表されて、鈴川選手が新人賞を……。

D・O　おぉ、獲ったか!?　ブランニュースクールメ～ン！

――いや、残念ながら接戦の末、次点ということになりまして。

D・O　ビッチ！（吐き捨てるように）。

――まぁ、伝統のある賞なんですけど、その選定基準もよくわかんないんですよね。鈴川さんは「まだ2試合しかやってないから1年様子を見たほうがいいんじゃないか」と。さらに「最低何試合やってないとダメという基準を作ろう」っていう意見もあったらしいんですけど。

D・O　そんなの全然ＨＩＰ　ＨＯＰじゃねえぜメ～ン。オールドスクールすぎるだろ！

――ハハハハ。さて、いつも大晦日は皆さんで飲めや歌えの合宿みたいですけど、今年は鈴川さんが『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』に出場するんじゃないかって噂がありますよね。

D・O　もちろん、そうなったらひっくり返るような展開を考えてるぜメ～ン（ニヤリ）。

P・I・T　ヤツの闘いは俺らの闘いだから。

――なんか一部の噂じゃ相手はゲガール・ムサシなんじゃないかって話もありますけどね（笑）。

D・O　どんなヤツが相手だろうが、俺らのドッグス、３００人でかかってけば問題ないって話だぜメ～ン。

P・I・T　間違いねー（キッパリ）。

――いやいや、大人数でかかっていくのは間違いです（汗）。

D・O　でも去年の大晦日も俺らは闘ってるからな。

――え、どういうことですか？

D・O　年越しライブで地方の山奥まで行ったら、そこで待ち構えてたヤカラたちと乱闘騒ぎになったってわけ。１００人ぐらいが取り囲む中でストリートファイトになったんだけど、そのときは鈴川もうしろで見てて、終わったら「さっきは左フックが甘かった」ってな（笑）。

――アドバイスをくれた、と（笑）。

P・I・T　まぁ、去年は30すぎてそういうバカやってる俺らを見てた鈴川が、今度は日本中が注目するような場所でファイトできるかもしれないっていうのも、感慨深いって話だな。

D・O　俺らも鈴川ももう少しで花開くとこまでいったのに、事件起こしてマイナスからスタートせざるをえなくなった。でも、ヤツはまたこうして大舞台に立つことができた。転んでも立ち上がれることを実証した。だから俺らは夢をばらまくドリームディーラーとして、これからも同じ練マザファッカーである鈴川の御輿を担いでいくだけだぜメ～ン。Ｗｅ　Ｄｏｎ'ｔ ＳＴＯＰ メ～ン！

――それではますますの大暴れを期待してます！　……あの、最後に一つ聞いてもいいですか？

D・O　なんだメ～ン？

――その、語尾に「メ～ン」ってつけるのはなんでなんですか？　しゃべりに英語を織り交ぜるのもルー大柴チックですけど。

D・O　……テメー、やっぱディスってんのかメ～ン？

P・I・T　間違いねー（キッパリ）。

――い、いや、ディスってないです！（汗）。

D・O　これも俺のＨＩＰ　ＨＯＰスタイルって話。ホンモノだってそういう証拠メ～ン。ユー・ノウ？

――ア、アイ・ノウ！

【10年12月9日／都内・練マザファッカーのアジトにて収録】

俺らは猪木会長のおかげでまた出れたアントニオ猪木、リスペクトメ～ン！

ねりまざふぁっかー■東京都練馬区を拠点に活動するHIP HOPグループ。07年にTBS『リンカーン』に出演して人気を博すが、09年にあの事件により鈴川真一と時を同じくして、D.OとPIT GObが逮捕。現在はHIP HOPシーンに復活、IGFでは鈴川のセコンドを務めてるぜメ～ン。D.Office オフィシャルサイト→http://www.dangerous-original.com/

本業のほうも要チェックメ～ン！

『ネリル&JO』
発売＝2011年1月19日　価格＝¥2,500
D.Oが「ジャンルの枠はもちろん、業界の流れまでもひっくり返すぜメ～ン」と語る一枚。ボーナストラックには鈴川真一も参加、ラップを披露しているでごわす!!

椎名基樹のサムライ三昧

第56回

『石井慧の対戦相手にこの男を推薦』

これを書いている時点で、大晦日まで残すところちょうど25日。一方、『Dynamite!!』で発表されている、カードは一試合だけ。本当に「やれんのか!」、いやそれ以上に「やめんのか?」と、開催されるほうが不思議に感じてしまうくらいの静けさである。

目玉カードになりうるのは、ざっと見渡して、やはり石井慧がらみしかなく、本人は出場を拒否していたが、石井の対戦相手を考えることが、つまりはイベントそのものを考えることと同義だろう。本当に出場しないのなら、「やめんのか?」どころではなく「やめんのだ!」である。

そんな状態であるから、つい「石井の対戦相手を考える遊び」をしてしまう。どこの団体にも縛られておらず、石井の対戦相手として、実力的にも世間にアピールできる意味でも、ふさわしいヘビー級の選手を、あれこれ考えてしまうのである。

そんなとき、サムライTVの『DEEP CAGE－MPACT』浜松大会の放送を観て、この一人遊びにピッタリな、素晴らしい選手を発見した。関根〝シュレック〟秀樹がその男だ。一目でインパクトを与えること間違いなしの肉体。そして顔! 不勉強でこの放送を観るまでその存在を知らなかったのだが、調べてみると、今年の『アブダビコンバット』の無差別級で3位に輝く実力者らしい。

この『DEEP CAGE－MPACT』浜松大会が、プロMMAのデビュー戦であるとのことだ。それもそのはず、関根選手は、浜松中央署の現役巡査長であるという。こんな警官怖すぎる〜!

石井慧の対戦相手としては、知名度が足りないと言う人もいるだろう。しかし、このルックスに現役巡査長というプロフィールは、世間の人の記憶に一発で残るはずだ。

浜松の警官、ハマコップ、いや今年テレビ界でもっとも目立った人物にちなんで、関根〝マッコップ〟秀樹とでも名づけて、何度か放送すれば、その名はいっぺんに世間に知れ渡るだろう。なんならマツコ・デラックスと2ショットで登場すれば、効果は絶大なはずだ。もちろん、それになんの意味もないが、この際そんなこと言ってはいられない。

実力のほうだって、この肉体にアブダビ3位の実績だ、真剣勝負で石井が簡単に勝つと予想する人はいないはずだ。

と、まあ、こんなふうに世間的には、師走の忙しい日々の中、阿呆な一人遊びで、時間を潰しているのである。この本が発売されている頃には、だいぶ『Dynamite!!』出場者の発表されているはずだ。「あっと驚く隠し球」が裏番組のダウンタウンに出演する、笑わせ役の豪華ゲストとは、違った意味の「あっと驚く隠し球」であることを祈ろう。

さて、『Dynamite!!』以外にも、格闘技の注目の興行がひしめく、不思議な日本の年の瀬であるが、これまたサムライTVで観戦した11・23の『S－cup 2010』は、それは熱い、ナイスな興行であった。

S－cupスリータイムスチャンピオンである、アンディ・サワーはもちろん、ブアカーオ・ポー・プラムックまで出場して、大メジャーである、K－1 MAXに迫る、注目度となった2010年大会。

彼ら二人のほかにも、準優勝に輝き、準決勝までに効かされたローを、決勝でブアカーオに何度も強烈に攻められながら、あきらめず闘うガッツで観客の心をつかんだ、トビー・イマダ。1回戦でアンディ・サワーと壮絶な倒し合いを演じた、このコラムでも以前に取り上げた、ボーウィー・ソーウドムソン。宍戸、梅野両日本人選手と、出場選手がじつに個性的で、非常に感情移入しやすい。これは、シーザー会長お得意の興行マジック。シュートボクシングらしい、一種ごった煮的な魅力である。

先述したように、決勝戦はブアカーオとトビー・イマダの対戦だったのだが、それに対してテレビ解説の緒形健一のコメントが「ロングスパッツの選手が、決勝に残れなかったのは残念だ」というのも、シュートボクシングらしいユニークな価値観である。

その中でも、もっとも個性的だったのは、やはりシーザー会長。決勝戦の前のコミッショナー宣言で、協賛スポンサーのカタカナ名が、どーしても舌が回らずに言えず、また、優勝したブアカーオに表彰状を渡すときも、ブアカーオ・ポー・プラムックというフルネームが、これまたどーしても舌が回らずに言えずに、会場をざわざわとした笑いに包んだのであった。なんで笑っているのかわからずに、会場をキョロキョロと見渡すブアカーオが印象的だった。

我らが前田日明と同じく、長年の闘いの脳へのダメージを感じずにはいられない、元大阪の不良のオヤジに、迫力と「やっぱ信用できるな」という親近感を覚えた。会場の皆さんも、きっと一緒の気持ちだったに違いない。

最後にこの興行のスペッシャルマッチで行なわれた、SB vs DREAMの対抗戦で、SBの及川知浩にKO勝ちした、DJ・taikiには驚かされた。次の展開にも期待したい。

と、いうことで今年はおしまい! 来年もよろしくお願いします。

これが噂の関根〝シュレック〟秀樹だ! その顔、その身体は見てのとおりインパクト抜群! 12.12『DEEP51』では誠吾にTKO勝ち。ホントに『Dynamite!!』でも観たいぞ!!

大巨人モンターニャ狩りに成功！
〝新暴走王〟が大晦日に殴り込み!?

俺は犯罪者からヒーローになった

ブランニュースクールなゲノム戦士

鈴川真一

『INOKI BOM-BA-YE』を締めたのはこの男でごわす！デビュー2戦目にして大舞台のメインに抜擢、ふてぶてしさ全開でモンターニャ・シウバを一蹴してみせた鈴川。この規格外の〝新暴走王〟に大晦日参戦の噂について直撃だメ〜ン！

聞き手／小松伸太郎（THE PEHLWANS）　構成／鈴木佑
撮影／笹井孝祐　試合写真／平工幸雄

――まずは鈴川さん、モンターニャ・シウバ戦の勝利はお見事でした！あの大巨人と対戦するのに何か参考

――え？　何をですか？
鈴川　ドラゴンスクリューですよ（ニヤリ）。早く蹴ってこいって待ってま

7年ぶりの『INOKI BOM-BA-YE』じゃないですか？　まあ、俺がプロレスを何年もやっていた

を踏ませてたッス。無意識っていうわけではないですけど、べつに考えてやったわけでもないし。

――ひょっとしたら、相撲協会が怒るかなと思ったんですけど。
鈴川　ねえ（笑）。でも、とくにあり

試合後の四股にクレーム？ そんなの誰にも言わさないですよ

——まずは鈴川さん、モンターニャ・シウバ戦の勝利はお見事でした！　あの大巨人と対戦するのに何か参考にしたモノはあるんですか？

鈴川　いや、あのでかさに当てはまる人間がまずいないッスよね、ハハハハ！

——そりゃそうですよね（笑）。角界でもいなさそうですし。

鈴川　まあ、琴欧洲や把瑠都がでかい力士ですけど、そいつらよりも断然でかいし。

——昔、猪木さんがアンドレ・ザ・ジャイアントという大巨人と試合をしたことがあるんですけど、そういったVTRなどはご覧になられました？

鈴川　もちろん、今年の3月に上京してから、一回とは言わずにパソコンで何回も観てますよ。

——おお！　では、何か参考になる部分もあったんじゃないですか？

鈴川　でも、やっぱりでかいヤツへの攻め方って、やった人間にしかわからないじゃないですか？　参考にはなりますけど、いざ自分が試合をするとなるとその動きが使えるかはわからないですからね。だから、力まず、そのときそのときで身体が動いたことをするというか。今回は相手がキックの選手だから絶対に蹴ってくる、と。

——まあ、蹴ってきますよね。

鈴川　だから、待ってましたね。

——え？　何をですか？

鈴川　ドラゴンスクリューですよ（ニヤリ）。早く蹴ってこいって待ってました。

——あれはvsモンターニャ用に身につけた技でしたかッ！

鈴川　そうッスね。まあ、前蹴りとか何発か食らってましたけどね。

——強烈なヒザ蹴りも食らってたじゃないですか？

鈴川　けっこう、いいところに刺さってましたね。まあ、紙一重ですけど、全然大丈夫です（ニヤリ）。

——リングで面と向かったときの威圧感はどうでした？

鈴川　いや、リングに立ったら五分です。背の高い、小さいは関係ないッス（キッパリ）。

——いちいち頼もしいですね！

鈴川　でも、試合はもうちょっとやれたことはありますよね。宮戸さんにも「まだ、できた動きがある」って言われましたし、自分でももうちょっとできたなって思いますよね。

——じゃあ、まだ満足のいく内容ではなかった、と。

鈴川　まったく。勝ったからよかったって感じですけどね。

——メイン出場ということに関してはいかがでした？　普通、デビュー2戦目で両国国技館という大舞台でのメインイベント出場ってないと思うんですけど。

鈴川　普通、そうッスよね。しかも、7年ぶりの『INOKI BOM-BA-YE』じゃないですか？　まあ、俺がプロレスを何年もやっていたら、両国はいただきって感じッスけど、正直ビックリしました。

——プレッシャーとか緊張はありました？

鈴川　ないッスね。パワーになりましたよ。前にやっていた会場だから雰囲気が合いますよね。

——勝手知ったる会場ですもんね。

鈴川　あそこにいたメンバーのなかで、あの会場のことは誰よりも知っていますよ（笑）。

——でも、ひさびさの両国帰還で感慨深いものがあったんじゃないですか？

鈴川　そうッスね。会場の上に飾られてた歴代の横綱も笑ってましたよ（ニヤリ）。

——元横綱の曙さんが両国で初めてプロレスの試合をするときに、もの凄い緊張するとおっしゃっていたんですよ。

鈴川　それはその前に総合格闘技で負けているからじゃないですか？

——言いますねえ（笑）。

鈴川　横綱クラスが両国で緊張しないでしょう。おかしいッスよ。

——ちなみに今回の髪型はご自分で考えられたんですか？

鈴川　そうッスね。両国だからチョンマゲです（ニヤリ）。

——試合後に四股を踏んだのもそうですか？

鈴川　まあ、このタイミングだろう、と。身体が勝手に動いたんスよ（笑）。ここで四股を踏んだらヤベエなっていうのがあって、身体が勝手に四股を踏ませてたッス。無意識っていうわけではないですけど、べつに考えてやったわけでもないし。

——本能が四股を踏ませていた、と（笑）。ちなみにクレームとか言ってきた人はいませんでしたか？

鈴川　そんなのはいないッスよ。誰にも言わさないでしょう、うちの興行ですから。

——ひょっとしたら、相撲協会が怒るかなと思ったんですけど。

鈴川　ねえ（笑）。でも、とくにありませんでした。

——入場してきたときは気持ちよかったですか？

鈴川　はい。また違いますよね、プロレスだと。ましてや両国だとね。顔の表情を出さずに入場して、勝負

試合は序盤、身長差のあるモンターニャのヒザ蹴りと張り手に手こずった感のある鈴川だったが、脚をキャッチするとドラゴンスクリュー！　そして逆エビ固めで絞りあげてギブアップ勝ち！　こんな新人見たことない！　でも、プロレス大賞新人賞は岡林裕二（大日本プロレス）さんが受賞されました……。

撮影／笹井孝祐　試合写真／平工幸雄

いろいろストップかかるんですけど会長に直で言うとけっこう通るッス

鈴川真一

終わって、そのまま引き揚げるのが相撲ですから。ガッツポーズするのは朝青龍ぐらいだし。

——あれをやると怒られちゃうという（笑）。

鈴川　そうなんスよね（笑）。

——でも、相撲では怒られることが、プロレスだとみんなから「いいね！」って言われるわけじゃないですか？

鈴川　そうッスね。結局、そうなってるッスよね。最初はやりすぎかなとも思ったんですけど。これでもけっこうストップかけられているんですよ、あれもダメ、これもダメって（笑）。

——あれでブレーキを効かせてるんだ（笑）。ちなみに、あのイカした入場曲はオリジナルなんですよね？

鈴川　そうッスね。今回、リミックスでまた作ってもらったッス。

——もちろん、練マザファッカーさんに？

鈴川　はい。

——その練マザファッカーさんなんですが、デビュー戦のときに登場して、物議を醸しまして、今回はなしになったと聞いたんですけど、やっぱりいらっしゃいましたよね？

鈴川　勝手にいたんですよ、いつのまにか。

——ガッハハハハ！　ホントですか？

鈴川　まあ、自分が声かけましたよ。今回は会長公認なんで（笑）。

——ああ、猪木さんからお墨つきですか！　でも、猪木さんなら言いそうですよね、「好きにやれや」って。

鈴川　感覚が違いますよね、普通の人とは。会長、凄いッス（笑）。直で言ったら、けっこう通るッスね。

——なるほど（笑）。ということで、見事なデビュー2戦目だったわけですけど、試合後に気になることを言われてましたよね？　年末に試合があるかもしれない、と。

鈴川　そうッスよね。

——具体的な話はあったんですか？

（ここで宮戸優光が登場）

宮戸　現段階では話せる話は何もないです。というのは白紙だからなんですけどね。それとは関係なくタイに明日からムエタイ修行に行きます。

——それは大晦日の試合に関係なく、前から決まっていたことなんですか？

宮戸　もう数ヵ月前から決まっていましたね。だって、大晦日に関係なく試合の翌々日から練習しているんだから。とにかく稽古を始めて半年、デビュー2戦目ですからね。何かの試合があるから稽古するっていう状況じゃないんです。まだまだプロレスの新人なんですから。

——でも、凄いですよね。試合が終わってすぐにタイへ行くって。

宮戸　ハハハハハ！　まあ、いろんな経験をしてこいっていう会長の考え方で。本当は夏に行くはずだったんですよ。夏にアメリカって思っていたんだけど、いろいろと入国の問題があって。

——あ、なるほど（笑）。タイという選定は宮戸さんがされたんですか？

宮戸　まあ、打撃のほうでは技術的にはムエタイが最高峰ですから。それと入国もそんなにうるさくないっていう（笑）。

——そこの問題がありましたか（笑）。でも、鈴川さんはタイへ修行に行けっていう話を聞いたときはいかがでした？

鈴川　いや、行ってみたいッスよね。打撃を覚えたら、もっといい掌底が打てると思うんで。

——マーダービンタをさらに磨く、と。どのくらい行ってらっしゃるんですか？

宮戸　8日に出発して、24日に帰国ですね。ただね、大晦日の試合が決まったら、帰国の日程も変わるかもしれないです。

——大晦日次第っていうことなんですね？　鈴川さんは『Dynamite!!』で試合があるかもしれないって言われたときはどうでした？

鈴川　まあ、けっこうハードな年納めだなって。相撲部屋にいた頃とあいかわらず一緒ですよね（笑）。

——ああ、相撲も初場所が年明けてすぐにありますもんね。

鈴川　はい。クリスマスも正月も関係なくいつも稽古をやってますよ。

——もともと総合格闘技にも興味はあったんですか？

鈴川　ないことはないですけど、いまはIGFを盛り上げるのに頭がいってますからね。まあ、タイミングが合えばね。そのタイミングがいまなのかっていうのはありますけどね。総合もいまはいろんな舞台があるし、出ようと思えばいつでも出ら

メイン終了後、本人いわく「リングを降りそびれた」ため、そのままアントンと並んだ鈴川。アントンの隣で堂々とファッ○・ユーとピースを組み合わせた練マザのサインを作るあたり、怖いもの知らずというか、ムフフ。

今夜もますます絶好調！ 天下無敵のアントン劇場

アントンのマイク中に突如、鳴り響く銃声！倒れ込んだアントンだったが、その口には弾丸が。そして「誰かが俺を撃ちやがったな。でもアゴのおかげで弾をくい止めた」と名調子！

すると今度は宿敵タイガー・ジェット・シンが乱入！ 火炎攻撃を猪木に仕掛けるも、なぜかその後はサーベルと闘魂タオルを交換して熱い抱擁。常人には理解不能な二人だけの世界……。

続いて噂の2億円ベルトのお披露目！ これまたなぜか腰に巻き、満面の笑みを浮かべるアントン。かつての付き人である黒のカリスマが甲斐甲斐しく気遣うのもいいシーンだ。

そして最後はサックス演奏をバックに『道』をジャズ調で熱唱！ このまさかの展開に場内は大喝采。一寸先はハプニング、最後においしいところをかっさらうアントンはさすがだ。

れるじゃないですか？　でも、まだ
技術的にも練習が足りてないんじゃ
ないかっていうのはありますよね。

よ。鈴川さんはそうでもないです
か？
鈴川　それはできないとかじゃなく

ね。あれで先輩たちの腕を壊したり
とかしましたから（笑）。
——人の腕を壊した話を楽しそうに

とはあるんですよね？
鈴川　観たことはあるッスけど、選
手を覚えてないだけッスね。

すよね。
鈴川　俺が一番嫌いな顔をしていま
——嫌いな顔！（笑）。石井選手は柔

で。

石井慧の金メダルを溶かして金歯にしましょうよ（ニヤニヤ）

れるじゃないですか？　でも、まだ技術的にも練習が足りてないんじゃないかっていうのはありますよね。
──まだ基礎をやっている段階ですもんね。
鈴川　はい、修行の身なんでね。
──でも、総合をやってみたいという希望はあるんですか？
鈴川　もちろん（ニヤリ）。ゴーサインが出たら、いつでも行けるように練習をしておきたいッスよね。
──まあ、相撲って、いわゆる組み技の競技じゃないですか？
鈴川　いや、俺はそうは思わないですよ。張り手でしょう。だって、目を潰してもいいんですよ？
──えぇ！　そんなバカな！
鈴川　まあ、故意じゃないって言えばの話ですけどね（ニヤリ）。
──故意じゃなきゃいい、と（笑）。それこそ「なんでもあり」じゃないですか。
鈴川　でも、俺は組み相撲には興味なかったッスね。相撲をやろうと思ったのも、千代大海がいい突っ張りを見せてくれたからなんで。「相撲はこれだろう！」って思って、入門したんですから。
──千代大海の突っ張りが原点でしたか。これからタイへ修行に行かれるように、打撃にも力を入れて練習されていますけど、いままでの相撲出身の方って、なんとなく打撃が苦手そうなイメージがあったんですよ。鈴川さんはそうでもないですか？
鈴川　それはできないとかじゃなくて、教えてもらってないからじゃないですか？　あと、あんまり寝技とかも教わってなさそうッスよね。でも、ここ（スネークピットジャパン）はちゃんと教えてくれますからね。関節技にしてもね……深い。
──深い！
鈴川　深いッスよ。でも、相撲のときも関節技には興味ありましたからね。相撲にも関節技はあるんですよ。たとえば腕を巻いての小手投げとかね。あれで先輩たちの腕を壊したりとかしましたから（笑）。
──人の腕を壊した話を楽しそうに語りますね（笑）。
鈴川　壊したっていうか、相手を封じるにはそれしかないんですよ。だから、不器用なんですよね。でも、突っ張りなんかはまあまあセンスあったしね。打撃も嫌いじゃないし、そういう勝ち方をしたいっていうところでいまはキックボクシングにも興味あるんですよね。
──なるほど。ちなみに具体的に興味のある選手はいますか？
鈴川　総合の選手ですか？　あんまり知らないんスよね（笑）。
──ガッハハハ！　コールマンを知らなかったぐらいですからね（笑）。もちろん、実際に総合自体は観たことはあるんですよね？
鈴川　観たことはあるッスけど、選手を覚えてないだけッスね。
──相撲だと元横綱の曙さんや、安田忠夫さんが挑戦されていましたけど、そういうのはご覧になりました？
鈴川　はい。曙はひどかったッスね〜。恥さらしッスよ！
──は、恥さらし……。
鈴川　あれは力士がナメられた瞬間ッスよね。相撲界の若いヤツらはブーブー言ってましたから。こっちが恥かかされたッスよね。というか、横綱だったのにケガで潰れた人ッスからね。そういう人間がああいうところに行っちゃダメでしょう。あの人はケガして「もうダメだ」って引退して、そういうところに飛び込んでいますからね。試合のときもたいして身体が変わってなかったッスもんね。つくねみたいな身体して（笑）。
──そ、そこまで言いますか（汗）。
鈴川　串が刺さったつくねッスよ（ニヤリ）。脚もマッチ棒みたいだったし。
──たとえば、日本人で同じぐらいの体格だと石井慧という注目選手がいますけど、興味はありますか？
鈴川　俺が一番嫌いな顔をしていますよね。
──嫌いな顔！（笑）。石井選手は柔道の金メダリストということでネームバリューのある人ですけど。
鈴川　だから、俺はあの金メダルがほしいッスよね。溶かしてみんなで金歯にしましょうよ（ニヤニヤ）。
──遠慮しておきます（笑）。ただ、鈴川さんもある意味ネームバリューがありますから、主催者やテレビ局もほしがるのかなと思っているんですが。
鈴川　まあ、そうかもしれないッスね（笑）。でも、今年は本当にいろんなことがあって、いいように転がってますよね。
──この1年の動きはご自分で整理できてます？
鈴川　凄いッスよね。犯罪者からヒーローになって（笑）。
──ガッハハハ！　自分で言いますか。ちなみに禊はもう済んだというお気持ちもあります？
鈴川　済んだんだけど、まだ文句を言ってくるヤツはいますよ、街に出たら。
──そんな命知らずがいるんですね〜。
鈴川　でも、いまやっていることは間違えてないということは言えますよね。周りには心配かけますけど、やっていることは間違いない（キッパリ）。
──いや、そのままのキャラで突っ走ってほしいですね。では、大晦日の登場を期待しています！
【10年12月6日／都内・U.W.F.スネークピットジャパンにて収録】

すずかわ・しんいち■1983年9月21日、兵庫県出身。中学卒業と同時に押尾川部屋に入門。若麒麟の四股名で西前頭9枚目まで昇進をはたす。09年1月に大麻取締法違反の現行犯で逮捕、力士を廃業。その後、プロレス転向を表明し、9.25『GENOME13』でデビュー。今年の大晦日参戦が噂されるが……？ 186cm、137kg。

…!?

…しょう〜?

超ハードスケジュールでお疲れ気味のFEG代表

谷川貞治

ただでさえ経営の立て直しに四苦八苦してるのに大晦日のカードも大変だ! ということで、例年どおりの年末進行で編成される大晦日のマッチメイク。「対世間」へのアプローチが求められるテレビ戦争でサダハルンバの切り札は……!?　K-1 WGPが終わったばかりのドタバタで顔色がすぐれない谷川さんに話を聞いたよ〜!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／今村陽子

谷川　さあ、どうしようか〜、大晦日?

——主催者が何を言ってるんですか(笑)。まずはKID選手のUFC参戦のことか

んあ～!? 目玉カード不在……!?

大晦日、どうし

谷川　さあ、どうしようか～、大晦日？

――主催者が何を言ってるんですか（笑）。まずはKID選手のUFC参戦のことからお聞きしたいんですけど。

谷川　まだ連絡が取れてません。KIDくんから二回ぐらい電話があって、ボクも二回ぐらい電話したんだけど、入れ違いでまだ連絡はとれてないね。

――谷川さんは今回の件をどういうふうに聞いてらっしゃるんですか？

谷川　まだ何も聞いてない。ダナ・ホワイトがツイッターで書いたことしか知らない。いつからそんな話あるの？

――いつからかはわからないですけども、UFCが「軽量級で日本人選手を二人獲得した」っていう話は12月の上旬頃に耳にしました。

谷川　でも、KIDくんのマネージャーは「まだサインしてない」って言ってたよ。

――でも、ダナは参戦を認めてますよね。どうなると思います？

谷川　行くんじゃない？　たぶん。

――あまりに突然のことですけど、そういう気配ってあったんですか？

谷川　ないない、まったくない。9月に「大晦日までにアメリカで一試合したい」って話は聞いたけど。

――ストライクフォースに参戦する話もありましたよね。今回の大晦日もお話はされてたんですか？

谷川　してる、してる。KIDくんに「大晦日に夢のカードをやりたい」と言って。

――夢のカード？

谷川　ここでは言えないようなカード。「これが実現できるように頑張る」って言ってたけどね。

――UFC参戦のニュースを聞いたときはどう思われました？

谷川　う〜ん、DREAMやK-1を含めて、ボクらがしっかりしてなかったという反省点がまず第一。そのなかでKIDくんをうまく活かしきれてないっていう反省点もある。あとはKIDくんはDREAMに出る前から「UFCに行きたい」とは言ってたんで、それはありえるだろうし、決めたらもう実行するだろうなって思うのと、あとは年齢的にもう34歳ですから。残りの少ない時間を日本の格闘技界でやってったほうがホントはいいと思いますけど。

――アメリカで一からやり直すよりは。

谷川　うん。ファイトマネーも高いとは思えないし。

――FEGとの契約はなかったんですか?

谷川　正直に言うと、今年いっぱいはあるんだよ。細かいことは言えないけどね。

――谷川さんとしてはKID選手の決断を尊重するかたちになるんですか?

谷川　いや、それはもちろん説得はするけども……。KIDくんとしてはナショナルスターとして自分のホームである日本のDREAMに出続けたいって気持ちはあるだろうけど。UFCの参戦はKIDくんが損すると思うんだけどなあ……結果的に。

――KID選手も「日本に残ったほうがいいんだろうな」っていう思いもあったんでしょうけど、それでも決断してしまった背景には大晦日とか日本マット界の運営やプロデュース面を含めて、なかなか思うようにいってない現状があると思いますか?

谷川　そのへんはボクがまったくやってないからね。で、FEGの財政面、これをKIDくんから何か言われたことはないんだけど、そういうことも感じ取ってると思うし。そこはちゃんとしてあげたかったという気持ちはあるんだけど。12月の頭ぐらいまではコミュニケーションとってたけどね。12月の3日ぐらいまでは。

――じゃあ、それ以降に話が動いたってことになるんですかね。

谷川　それ以降だと思うよ。だからここ1週間の話だと思う。KIDくんって何かを決めたら、絶対に伝えてくる性格だから。

――先ほど、財政面っておっしゃいましたけど、その問題はやっぱり大きいですか?

谷川　それはわからない。KIDくんはその件に関しては何も言ってこないから。一度話をしてみてからだよね。

――で、大晦日なんですけど、猪木さんがまさかのカムバックという。

谷川　サプライズね。

――これはどういう背景があったんでしょうか。

谷川　単純に大晦日10周年で何か目玉を考えたときに猪木さんが出てくればおもしろいなと思ったのと、猪木さんっていまプチブームだよね。

――コマーシャルに出たりとか。

谷川　ねえ。そういうのもありました。

格闘技界10年のなかで今年ほどつらかったことはないですね。一番大変だった

あの2002年の大晦日以来となる、FEG、アントニオ猪木、旧PRIDEスタッフのミラクルドッキング。「ルールを守れーーーっ!!」が合い言葉だそうだ(ウソ)。

――つまり宣伝塔としての起用ということですか?

谷川　いや、当日、なんかやってもらうつもりだよ。誰と闘わせようかなと思って。本当は海老蔵って言ってたけど。

――んあ〜!　猪木さんも歳なのに頑張りますねぇ。

谷川　思えば、『猪木祭り』は高田延彦vsマイク・ベルナルドから始まって今年で10年目ですよ。

――どうですか、この10年をざっと振り返ってみて。今年が一番つらいんじゃないですか?

谷川　まあまあ、格闘技界10年のなかでは今年ほどつらかったことはないですね。一番大変だった。

――何が大変でした?

谷川　会社を立て直さなきゃいけなかったことが一番だし、あと選手が入れ替わる時期でもあるから。今年のK-1 WGPもそうですけど、ピーター・アーツとかジェロム・レ・バンナってともすれば古く見えちゃう。かといって、凄くいい試合だったんですけど、サキvsジダなんかは「誰だかわからない」って話になっちゃうから。試合内容はメチャメチャいいんですよ。

――でも、よくあのメンバーで平均視聴率13パーセントも獲れましたね。テレビのプロデュース次第でまたなんとかなるんだなって。

谷川　やっぱりそこはフジテレビがうまいからですよ。ホントは15ぐらいは獲りたかったですけどね。プラス、バダ・ハリが出てたら獲れてたと思いますけど。WGPに関しては、セーム・シュルト、アリスター、バダ・ハリの3強と、若手でジダとかサキとかエロール・ジマーマンとか役者は揃ってきましたけどね。ここをどう磨くかが今後のポイントですよ。

――一方、大晦日のカード編成は苦しいですね。

谷川　いいカードを組むことはできるけど、大晦日の特別感を出さなきゃいけないからさ。

――前に、谷川さんに「大晦日の意味合い」について語っていただいたことがあると思うんですけど、まずはいわゆる世間に届かせなきゃいけないっていう。

谷川　そう。

――今回も普通にナンバーシリーズとしてのカードだったら問題ないですよね。

谷川　全っ然、問題ないです。それはK-1の試合をやろうが、DREAMの試合をやろうが、何も問題ないです。

――そんななかで今年は特別感のあるカードが足りてないという意識はあるんですか?

すか?
谷川　そうそう、足りてない。そこを猪木
さんも含めて考えなきゃいけないなと思

――谷川さんのなかでは青木vs自演乙の
MIXルールマッチは特別なものという
意識はないんですか?

やいけないな」っていうのでみんなの知
恵が働いたんですよね。青木選手を地上
波向きにした結果がこのカードでしょう

うことだけだと思う。まあ、ちょっとそこ
は一生懸命やります。
――石井選手の出場は確定でよろしいん

大晦日、どうしよう～？

チェ・ホンマンはもう闘えない。医者からもドクターストップがかかっている。

すか？

谷川　そうそう、足りてない。そこを猪木さんも含めて考えなきゃいけないなと思ってんですけど。極端なことを言うと、大晦日でバダ・ハリvsアリスター、シュルトvsアリスターみたいな試合を組んでも、大晦日だと逆に良く見えないっていうか。桜庭vsザロムスキーとか、ビビアーノvs高谷にしても、ナンバーシリーズなら凄くいいですよ。でも大晦日はそれがメインになりにくいというか。

――今年はそういうカード抜きでの勝負になるんですか？

谷川　目玉のカード？

――はい。

谷川　まだわからないですよ。わかんないです、わかんないです。

――その軸になるのは石井（慧）選手ですか？

谷川　石井選手もその一人だよね。やっぱりいま考えられるのは、KIDくんが出るかどうか知らないけど、KIDとか石井とかアリスターを軸にしないとね。いま時代はそういう感じ。

――谷川さんのなかでは青木vs自演乙のMIXルールマッチは特別なものという意識はないんですか？

谷川　いや、ボクは青木vsギルバート・メレンデスの再戦だけはやってほしかったなあ。

――そうですね。

谷川　これは今年を象徴するカードなんで。だけどできないってなったときに、青木選手ってテレビ向けの試合になりにくいんですよ。川尻選手より難しい。そういう意味では「青木選手に何かやらせなきゃいけないな」っていうのでみんなの知恵が働いたんですよね。青木選手を地上波向きにした結果がこのカードでしょうね。

――なるほど。それは自演乙選手の知名度を利用してってことですか。

谷川　知名度っていうか、華だよね。川尻選手は「復活」っていうテーマがあるし、あんまり異種格闘技戦みたいなことはやらせにくかったんでしょうね。

――大晦日の目標視聴率はいくつくらいですかね？

谷川　15は獲りたいですね。

――数字によっては、TBSとの契約にも影響は出てくると思いますけど。

谷川　そんなのはわからない。

――こないだのMAXが7・6パーセントだったのに対して、今回のWGPが13パーセントだった。谷川さんとしてもホッとしたところはあるわけですよね。

谷川　うん、だからもうちょっと獲りたかった。15だったら安心したけどね。13だと微妙。去年よりは下がってるし。で、大晦日は裏環境が全然違うから。

――NHKをはじめ強敵揃いですよね。

谷川　でも、格闘技のスペシャルな番組をやったら負けないですよ。その〝スペシャルなもの〟がどれだけできるかっていうことだけだと思う。まあ、ちょっとそこは一生懸命やります。

――石井選手の出場は確定でよろしいんですか？

谷川　相手次第。交渉中です。

――いまのところ誰との対戦でお話しをされてるんですか？

谷川　いやあ、だからいなくなっちゃったんだよね。

――本当はチェ・ホンマンの予定だったんですよね。

谷川　チェ・ホンマンはない。チェ・ホンマンは試合ができない。

――聞いたら、もう闘える身体じゃないみたいですね。

谷川　うん、口説いたけど無理なんだよ。金の問題じゃなくて、ホンマンはもう闘えないんだよ。

――やっぱり手術したのが大きかったんですか？

谷川　大きい。医者からもドクターストップが入ってる。

――そうすると、いまのところ候補っていうのは……。

谷川　だから、いないんだよねえ。ホントはアリスターとやってくれると一番ラクなんだけど。いい目玉になるし。

――アリスターはいま一番世間に届いてる格闘家かもしれないですけど、石井選手とは実力に差が……たとえばマヌーフはダメなんですか？

谷川　マヌーフはちょっと微妙なカードだよね。TBS的には。

――TBS的にはアリスターvs石井をやってほしい？

谷川　それだったら大喜びですよ。でも、難しいだろうなあ……。だから世間に届くカードってホントになくなってきつつ

老兵ピーター・アーツが絶対王者のシュルトを判定で破るアップセットに場内は大興奮！（紀香はいつものことだからスルー）。アーツはボロボロになりながらも決勝のリングに足を踏み入れ、壮絶に散る姿は映画『レスラー』を彷彿とさせる……気もするが、娘にも見下されるコールマンのほうがハマリ役であることを声を大にして言いたい。

アリスターと石井慧。今年の大晦日はこの二人のカードがポイントになると思う。

あるよね。

—じゃあ、今年は揃ったカードをテレビ局と谷川さんたちがどう料理するかっていうことなんですね。

谷川 そうそう。厳しいよ。厳しいけど、頑張んないとね。

—ほかに決まってるカードは何があるんですか？ 水野vsバンナとか。

谷川 水野vsバンナはわかんない。成立できるけど、バンナと石井選手を組むかもしれないし。それもどうなるかはわからないんだよ。あとは京太郎とゲガール（・ムサシ）がK−1ルールでやる可能性がある。あとマッハの相手がアンドリュース・ナカハラだったんだけど、ナカハラがケガしちゃって。

—SRCさんとの交流は？

谷川 泉vsミノワマンでしょ。でも、カードが足りなかったら二人ともバラすかもしれない。たとえば泉vsマヌーフとか。

—逆にSRCには派遣するんですか？

谷川 それはたくさんいると思うよ。こっちに出るのは、泉選手くらいかもしれない。

—谷川さん、体調は大丈夫ですか？ なんかいつもより覇気がないですけど。

谷川 体調は……まあ頑張ってますけど。なんとか頑張んないとなあ。なんかいいカードない？ 石井くんとアリスターの相手がいないんだよ。

—う〜ん、厳しいですよね。いまからジョシュとかアルロフスキーは呼べないでしょうし。

谷川 今年の大晦日はこの二人でどんなカードを組むかがポイントになるというか、ハッキリ言うけど、これからはヘビー級の時代だよ。中量級や軽量級じゃないと思う。こないだのWGPのときにそう思った。ちょっとみんな中量級、軽量級は見慣れちゃったかな。

—飽きてますか。

谷川 で、ウチはDREAMでヘビー級をやってなかったからさ、選手がいないんだよ。みんなストライクフォースやUFCと契約してるから選手がいない。

—谷川さん、レスナーの試合とか観てます？

谷川 観てない。

—ホントに凄いですよ！ "スーパー谷川モンスター軍"というか（笑）。

谷川 わかりやすいよね。いま日本の格闘技界に必要なのはヘビー級。

—しかし、アリスターなんて足にも棒にも引っかかってなかったのが、この1〜2年であんなに魅力的になるのは、ヘビー級だからこそですよね。

谷川 そうそう。ボクらが一生懸命やって「年末はアリスターを主役にさせよう」っていうムードを作ったじゃない。やっぱ変わるもんね。選手も変わるし、みんなの見方も変わる。

—アリスターって1ラウンドにスポーンのパンチでフラついたじゃないですか。昔の"リングス・オランダ病"のままのアリスターだったらあれで倒れてますよね。

谷川 終わってる、終わってる。でも、イベントを支える責任感が出てきたし、トレーニング含めて変わってきたよ。そして「大きい人を待ってる」格闘技のムードにハマったと思う。魔娑斗くんがいるあいだは中量級の時代でしたよ。だけど、いま中量級で強烈に引っぱっていける選手がいないしね。でも、K−1のヘビー級には引っぱっていける人材が揃ってるから。ちょっとこの10年間はさ、レミー（・ボニャスキー）とセーム・シュルトと武蔵の暗黒の時代だったからさあ。

—ガハハハハ！ 暗黒時代って（笑）。

谷川 アリスターとかバダはいいよぉ。やっぱ格闘技のわかりやすさをちゃんと持ってるから。

—使い古された言葉ですけど、やっぱりKOの魅力なんですかね。

谷川 ホントにKOの魅力。

—でも、シュルトもレミーもKOはしてますよ？

谷川 でも、テクニック主体でしょ。この10年間、K−1もそうだし総合もそうだけど、ヘビー級がテクニックに走ってたから、速くて軽い階級に負けてたんだよね。それがまた変わってきてる。

—まあ、一周したんでしょうね。

谷川 うん。だからホントにね、ジョシュvsアリスターとかやりたいんだよなあ。

—あれだけフジがアリスターをプロモーションしてくれたわけですから、なんとか大晦日に活かしたいですよねぇ。

谷川 そうそう。

—知名度は我々が思ってる以上にあるんじゃないですかね。

谷川 吉本からスカウトがきたからね。

—まさかアリスターに託す時代が来るとは思わなかったなあ（笑）。じゃあ来年のDREAMの方針も変わります？ ヘビー級中心になるという。

谷川 ちょっとウチで育てないと。そうしないと、こういうときに融通が利かないんだよね。K−1ファイターしか融通が利かないんだよ。それはやっぱ痛いよ。

—急に用意できるわけもないですよね。では、本誌の発売日の頃にはアリスターのとんでもないビッグカードが発表されてることを祈ってます……。

谷川 発表されてる！ アリスターvsレスナーとかやりたいなあ。

—また無理なことを言いだす（笑）。

谷川 いまはそんなカードが受けるんだよなあ。とにかくやりきって頑張りま〜す。

【10年12月11日／都内・ANAインターコンチネンタルホテル東京にて収録】

フジテレビの大々的なプロモーション、それに応えてWGP制覇。格闘家として世間に認知されたアリスター。まさかこんな時代が来るとは……。どこにきっかけが転がってるかはわからない。

大晦日、どうしよう〜？

特集

大晦日

大晦日格闘技イベント10周年記念
あのとき歴史は動いた!

殴り殴られ大晦日! 日本の格闘技界が一番燃える日であり、
選手、関係者、ファンのそれぞれの喜怒哀楽が解放される。
それが今年で10年目。いろんなことがありました。
あの頃は良かったな……って、感慨にふけってる場合じゃない。
大晦日、さっそく語ってもらいましょう! トップバッターは我らが永田さんだ!

ダンダン、ダダン!!

この二人のカードがポイントになると思う。

やっぱ格闘技のわかりやすさをちゃんと持ってるから。

なあ、とにかくやりきって頑張りま〜す。

【10年12月11日／都内・ANAインターコンチネンタルホテル東京にて収録】

——永田さん、今年で大晦日の格闘技興行
はちょうど10回目を迎えるんですよ。

を着てて「コイツら、カッコいいなあ！」
と思ってですね（笑）。

インパクトがあったんですよねぇ……（し
みじみと）。そのときは、まさか自分が大

と言ってたら、猪木さんは「じゃあ、テレ
ビの問題や会社のしがらみとか一切抜き

ヒョードル戦はヤケクソでした

白目を剥く永田さんの勇気のチカラ!!

MMAの発展を10年早めた男

永田裕志

いまや伝説のズンドコイベントとして知られる
03年の『猪木祭り』。カードは二転三転でダッチロール状態。
大会開催そのものが危ぶまれたイベントを救ったのは
永田さんの勇気なのである。あの当時、永田さんを嘲笑して
いたそこのアナタ、敬礼してこのインタビューを読みなさい!
永田さんがいなかったらいまのMMAはないっ!!

聞き手／ジャン斉藤

――永田さん、今年で大晦日の格闘技興行はちょうど10回目を迎えるんですよ。

永田　ああ、もうそんなになりますか。10年前はたしかプロレスをやりましたね。

――それは00年大阪ドームの『猪木祭り』！　髙田（延彦）さんと武藤（敬司）さんがタッグを組んだプロレスイベントです。

永田　オレは飯塚選手とタッグを組んでマーク・コールマン&マーク・ケアー組と闘ったんですよ。

――いいカードですね！

永田　あのときコールマンとケアーがPRIDEのテーマで入場してきたんですよ。アレにはシビレたなあ。また二人があのごっつい身体にレスリングの吊りパンを着てて「コイツら、カッコいいなあ！」と思ってですね（笑）。

――確かに画になりますよね（笑）。それで翌年の『猪木祭り』からは格闘技のイベントになりましたよね。

永田　あれが初めてK−1と猪木事務所とPRIDEが一緒にやったイベントですね。大晦日にやるって話を聞いたのは夏ぐらいかな。プロレス誌の表紙でそう謳ってたんですよ。そのおかげで、ボクと秋山（準）選手が新日本とノアの壁を壊してタッグを結成したのに表紙にならなかったっていう（笑）。

――それで覚えてるんですか（笑）。

永田　当時のプロレス界にとってはボクと秋山選手のタッグより格闘技のほうがインパクトがあったんですよねぇ……（しみじみと）。そのときは、まさか自分が大晦日の舞台に出るとは思ってませんでしたけど。

――そもそも年明けの1月4日は新日本恒例の東京ドーム大会があるじゃないですか。普通に考えたら出番はないと思っちゃいますよね。

永田　思ってましたね。藤田（和之）とか小川（直也）選手が出るんだろうなって。

――オファーはいつきたんですか？

永田　11月の上旬ですね。横浜文体で木戸（修）さんの引退試合があったときですから（11月2日）。そのとき猪木さんの控室がですね、PRIDEの控室とは違って、ただテーブルとイスがあるだけですよね。その扱いに猪木さんが凄い不満たらだったんですよ（笑）。

――要は「オレを大物扱いしてねえ！（怒）」と（笑）。

永田　ええ。PRIDEなんか、有名人や芸能人が次から次へと猪木さんのところへ挨拶に行くような状態じゃないですか。それに食べ物はあるし、スタッフの気配りは凄いし。コーヒーはあるし、ところがあのときの控室には食いもんはないし、飲み物もない。猪木さんに気を使う人もいない。

――まあ、不機嫌にはなりますね（笑）。

永田　で、そのとき挨拶に行ったら、ポロっと言われたんですよね。「おまえ、大晦日、出たいか。オレには見えるんだよ」って。「見えるって言われても出れますかね」と言ってたら、猪木さんは「じゃあ、テレビの問題や会社のしがらみとか一切抜きにしたときに出たい気持ちはあるか」と聞いてきて。そういうのがなければ、大舞台に出てみたい気持ちはあるじゃないですか。そう伝えたら「その気持ちを大切にしろ！」って言われて。そうしたら猪木さん、あとで記者に「永田が大晦日に出たいそうだ」と言っちゃったんですね。それが記事になって。

――飛ばしちゃったんですね。さすが猪木さん（笑）。

永田　正直、まったく出たいと思わなかったし、実際に出るとも思ってなかったですよ。ただ、今年一番の話題だったし、いろいろ紆余曲折あって出ると決まったら「とことん勝負しよう！」と思いましたね。べつに総合格闘家として名を成したいと思ってなかったですし、プロレスラー永田裕志というものがこれから成長していくうえで、ここで力試しをするってことじゃなく、一つの色をつけるためにやるって意味合いで。でも、会社は絶対に止めるもんだと思ってましたから。

――1・4も控えてますしね。

永田　ところが会社も猪木さんの顔色をうかがってか、ストップしなかったんです「これはやるしかないな！」と。そのときに印象的だったのが新日本の社員がみんな疲れきってたわけですよ、猪木さんという（当時の新日本プロレスの）オーナーに振り回されて。一番印象的だったのが、ボクが大晦日に出るって決まったら、社員の

永田さんのMMA初挑戦は01年『猪木祭り』のミルコ・クロコップ戦。ミルコは藤田戦でラッキーな勝利を拾ったものの、高田戦では消化不良気味。まだミルコはMMA戦士としては覚醒しておらず永田さんにも勝機を感じさせたが、左ハイキック一閃！

ボクがミルコ戦をやると決まったら新日本の社員がホッとした顔をしてるんです

だって藤田とGK金沢さんがミルコとやったほうがいいって焚きつけるんです

永田裕志

人たちがホッとした顔をしてるんですよ。ボクが大晦日に出ることによって猪木さんの機嫌が柔らかくなるというか、「ヘタしたら猪木さんは新日本を潰すんじゃないか」みたいなムードがあったかもしれないですよね。

――あの当時の猪木さんだったらやりかねないですよね。新日本が大晦日に協力しなかったら。

永田　あのときの社員の表情がね、ボク的には印象に残ってますね。だから1カ月ちょいしか時間はないけど「よし、やってやる！」って。あのときは若かったからできたんでしょうけど。普通に地方シリーズに出てましたから。

――巡業に出ながら調整するって、いま考えると無茶ですよねぇ。

永田　で、試合前の練習がガチンコのスパーリングでヘロヘロになるわけですよ。そして、いくら食ってもみるみる身体が締まってくる。試合で追い込んで、練習でも追い込んで、移動しながら試合して。そのシリーズが終わった12月の上旬にアメリカに行ったんですよね。

――マルコ・ファスのジムですね。これは10年前の話なんですけど、プロレスラーが総合格闘技に出ることは、比較的新しいプロレスファンからすると信じられないと思うんですよね。

永田　そうでしょうね。10年前の格闘技って、まだ異種格闘技の雰囲気を残してるというか、一つの競技として周りが認知してなかったし、そういう他流試合をするのがプロレスラーだろうっていうムードもありましたよね。

――イベントの看板になるのもプロレスラーでしたもんね。

永田　そうそう、実際、日本の格闘技界ってそれで商売してたところがあるでしょう。

――あと新日本はストロングスタイルの精神が根づいてるからこそ、永田さんが打って出たところはあるんですよね？

永田　ええ。いまでこそ「それは違う」みたいなことを言うプロレスの評論家がいるけど、当時はイケイケでしたから。だってマスコミがボクのこと焚きつけるんですよ。「やれ」って（笑）。

――GK金沢さんですか。

永田　そうそう（笑）。あの人が焚きつけるんですもん。それも藤田和之と時間差で電話かけてくるんですよ。「今回だけは焚きつけるよ」って。

――どうして二人は焚きつけたんですかね。

永田　二人で「永田先輩なら勝てる」って話で盛り上がったらしくてですね、焚きつけてきたんですよ。「髙田延彦さんがタックル取れんだよ？」って言ってきて。まあ、当時はボクまだ元気でしたし、そういう練習もけっこうやってましたし。総合格闘技で闘うことで、どういう芽生えが起きるのかなって興味を持ちましたよね。

――実際にやられてみてどうでした？

永田　やっぱりプロレスラーの肉体をいきなりMMAの体型にチェンジするのはけっこう大変だな、と。藤田もハンス・ナイマンとやる前にいろんなところで出稽古したら、おもいっきり痩せたんですよ。125キロぐらいあったのが、107～108キロまで落ちたんですね。それはやっぱ力の入れ方がまだわかんなかったんだろうし、よけいな力が入ってたり、スタミナをロスしたりしたんでしょうけど。それはボクも総合の練習をやってみて感じましたね。

――プロレスとはまったく異なるジャンルですもんね。

永田　でも、マルコ・ファスのところで練習してると、だんだん慣れてくるのがわかるんですよ。たとえば組み合いをすると、なんか無敵になった感じがして。ドン・フライのパンチをかいくぐって組むでしょ。そこから持ち上げて落としたりすると「無敵だな」と思いましたね。

――快感というか。

永田　ええ（笑）。「オレの身体、格闘技仕様になりつつある」みたいな。あの頃はプロレスラーが出てきたことで、プロレスマスコミだけじゃなくて格闘技系のマスコミも、いままでの怨念じゃないですけど、プロレスラーをバカにするような風潮もありましたよね。だからやっぱ「逃げれないな、逃げちゃいかんな」と。武藤さん、蝶野さん、橋本さんができないことをオレはやんなきゃいけないし、偉大な先輩たちを超えるためには失敗しようが勝負しなきゃいけない。じゃあ、あの3人にできな

信じがたい舞台裏を経て実現した03年『猪木祭り』のヒョードル戦。猪木さんは「リングに立っただけで勝利」と永田さんを説得したそうだが、こんな勝者にはなりたくないよ！　誰になりたくないかと言えば、03年大晦日の永田さんである……。

やったほうがいいって焚きつけるんです

いことをやろう、と。そう思ったのも動機の一つでしたね。

――やるしかない状況だったんですね。でも、03年のヒョードル戦のときは……。あのときは「勝負してやろう」とは思ってなかったんですよね？

永田　あれはねぇ、ちょっとねぇ、勝負するとかしないとかの次元じゃなかったですね（苦笑）。

――ワハハハハ！

永田　もうイベント自体が中止になるんじゃないかみたいな状況でしたし。だってオレのとこに話が来たのは12月10日前後ですよ。福井の大会が終わってホテルでメシを食おうとしたら、上井（文彦）さんから電話がかかってきたんですよ。「猪木事務所からこんな話が来てる」と。

――上井さんは当時、新日本のマッチメーカーでしたね。

永田　「断るしかないですけど、東京に戻ったら話だけでも聞いてみますか」ってことになって。まだ大阪、名古屋で試合がありましたから。

――01年のときのように1ヵ月前ならまだしも。

永田　ええ。まだ01年のときは、もう11月の半ばぐらいには「よし、やる！」っていう感じだったんですよ。

――そういう気持ちの高まりが永田さんのなかにあったわけですね。

永田　03年は高まりがあるとかないとかの次元じゃないですからね……。で、東京に戻って猪木事務所に行ったら「ヒョードルとやらないか」と。「なんでいま頃オレに言うわけ？」って聞いたんですよ。いまになってオレに言うってことは、ほかに何も決まってないからだろうと思って頭きちゃって。でも、「日テレはずっと前から永田選手でいきたいみたいなことを言ってて」って。でも、こんな時期にすぐに答えを出せないじゃないですか。

――そうですよね。

永田　「やりたいか、やりたくないかを言ったら、やりたくないですよ」「そこをなんとか」みたいな。

――「そこをなんとか」して闘える相手じゃない（笑）。

永田　ええ。だってヒョードルでしょ？　あれ、強いっすもんね。

――はい（笑）。

永田　あんまりPRIDEとか観てなかったけど、アレが強いのは知ってましたよ、オレだって。

――それで簡単に「やってくれないか」って言われても困りますよね（笑）。その場で話はついたんですか？

永田　つかないです。「ちょっと考えさせてくれ」って言って。そうしたら『日刊スポーツ』に「猪木ボンバイエ中止の方向性」って出たじゃないですか。

――はいはい、一面でドカーンと出ましたよね。

永田　こうなったら断る、断らないの話じゃないなって思ったんですけど、とりあえずなんかあったときのために、コンディションだけは作ろうと朝の走り込みを始めたんですよ。

――え!?　返事をする前から準備はしてたんですか？

永田　いや、結局新日本も猪木さんには逆らえないじゃないですか。どうなるかわかんないからコンディションだけは作ろう、と。

――……凄いっすねぇ。

永田　シリーズが終わったばかりで体調はヘロヘロでしたけど……当時の新日本は何が起こるかわかんなかったですから。

――それが何日時点の話ですか？

永田　それが12月15日、16日ぐらいじゃないですか。猪木事務所からオファーが来たのが12月11日ですからね。で、12、13日は名古屋と大阪で試合をやって。東京に帰ってきて関係者と会ったのが15日です。で、そのあとは電話のやりとりで「本当に開催するんですか？　ヒョードルは来るんですか？」って聞いたら「なんの問題もないんで、心配な気持ちはわかるけど出てくれ」って。

――あと2週間なのになんの問題もないって（笑）。

永田　で、オレは「やります！」って言ったんですよ。

――え!?

永田　やっぱね、「猪木さんを助けると思って」っていう言葉に弱かったですね。「これ以上なんかあったら猪木さんのイベントがダメになっちゃうから頼むよ」って。その一言に弱かったです。で、その次の日、記者会見に出るために赤坂プリンスに向かったんですけど……。

――ああ、有名な引き返し事件ですね。

永田　そうそう（笑）。

――ヒョードルvs永田を発表するはずが、会見そのものが土壇場で中止になったという。ボク、あの会見場にいましたよ。

永田　自分の車でホテルに向かっていたら、猪木事務所の関係者が電話をかけてきて、冷静な声で「ちょっと都合で記者会見ができなくなったので、一回、引き返してください。また詳しいことはあとで電話します」って。

――記者は1時間近く待たされたあげく会見自体が中止になったんですよね……。

永田　そのまま新日本の事務所に戻って上井さんに事情を聞いたら、どうもPRIDEサイドの選手を引っぱったことでゴタゴタしてるらしい、と。「じゃあ、もうやんなくていいんだ。もう終わり！」。もうここまできたらさすがに猪木さんのイベントもクソもねえだろう、と。

ヒョードル、ノゲイラ参戦も危うくなった『猪木祭り』側は永田さんの相手にマイケル・マクドナルドを用意！　青木vs自演乙以上の"誰得カード"だ。マクドナルドは『猪木祭り』で"猪木軍入り"した天田ヒロミとK-1ルールで対戦した。

出ないつもりだったが、何が起こるかわからない。コンディションだけは整えてました……

――そうですよね。

永田　ええ。その日の夜は、テレ朝の6時間番組にボクと棚橋くんが出てたんですよ。『朝まで大宴会』っていう芸能人がいっぱい出てて、ゲームやったりカラオケ歌ったり、酒を飲んだり。忘年会番組なんですけどね。その収録に行くためタクシーに乗っていたら猪木事務所の関係者から「とにかくいまからホテルオークラに来い」っていう連絡がばんばん来るんですよ。

――オークラって猪木さんの常宿ですね。

永田　オレは仕事が入ってるんで「それはできない」と断ったんですけど。で、番組の収録が終わったのは夜12時半ぐらいだったのかな。もうかなり酔ってたんですけど、新日本の広報の人間が「いまからすぐオークラに行ってくれませんか」と。しょうがないから行きましたよ、オークラに。深夜1時頃ですかね、猪木さんと二人っきりで真っ暗なロビーで話をして。オレ、あのときは初めて猪木さんに言いたいことを言いましたよね。猪木さんはニコニコしながらほめ言葉みたいなのを言ってきてですね、「PRIDEと揉めちゃって、ヒョードルは使えなくなっちゃったけど、ウチはノゲイラが使えるんだ」。

――ああ、今度はノゲイラとやってくれ、と。

永田　「なんとしてもこのイベントは成功させなきゃいけないんだ。頼むからノゲイラとやってくれ。リングに立っただけで、おまえはもう勝利者だ」って。オレは「ちょっと考えさせてください」と。そうしたら「考えてる時間はねえんだよ!」って。それはそっちの都合なんだけど(笑)。

――ノゲイラ戦をその場で即答してくれっていうのも凄い話ですよね(笑)。

永田　ねぇ。ノゲイラにしろヒョードルにしろ日本の格闘家がどんなに練習したって勝てるような相手じゃないですもん。そのちょっと前にノゲイラってミルコに勝ってるんですよね。だから「ミルコと再戦しないのか」とよく突っ込まれたときに「べつに逃げてるわけじゃないし、じゃあミルコより強いヤツとやりゃあいいんだろ?」っていう気持ちがどこかにあったんですよ。それで「ノゲイラはミルコに勝ったんだよな。じゃあもういいや」って。

永田　大声で「やります!　やらせていただきます!」って言ったんですよ。もう酒も飲んでたし(笑)。

――ヤケクソですか(笑)。

永田　ヤケクソですねぇ。もうアッタマきたから立ち上がって「やらせていただきます!」って言ったら、そうしたら猪木さんも立ち上がってオレにビンタするんですよ(笑)。

03年『猪木祭り』の最後を飾ったビンタ暴動。落ち込んだときに観ると元気が湧いてくる。元気ですかーっ!?

もうアッタマきたから立ち上がって「やらせていただきます!」って言いました

――ワハハハハ!　猪木さんも興奮したんでしょうね。

永田　あのときばかりはオレがぶん殴りたかったですよ(笑)。

――それを遠目で見ていた上井さんは「カッコイイ!」とシビれていたとか(笑)。

永田　そうみたいですね(笑)。で、次の日に会見はやったんだけど、永田 vs ノゲイラのカードを発表しないんですよ。「永田選手は『誰とでもやる』と言って、『誰でもいいからやらせてくれ』と言って手を挙げてくれました」という発表だけ。

――結局、ノゲイラもダメだったんですよね。

永田　あのときはなんで発表しないのか不思議で不思議で。それでクリスマスイブのときに長島一茂さんのスポーツ番組にゲストで出たんです。その前に猪木事務所の関係者と打ち合わせをしたら、急におかしなことを言うんです。「ボクは今回の永田選手の勇気ある出場宣言にはホントに頭が下がる。新日本は常に闘う集団でなくてはいけなくて、それは小川 vs 橋本のときからそういうことが世から問われている。本来、新日本が持っていなきゃいけないものを、いまの選手は持ってない。でも、そのなかで永田選手がやってくれることをおおいに胸を張って誇らしく思う」みたいな。突然、何を言い出したのかな、と思ったんですよ。で、「プロモーターとして、永田選手にはぜひ勝ってほしい。ホントはプロモーターはそういうことを思ってはいけないんだけど、実際のところは勝ってほしい。だからノゲイラとやるのはいいけど、ノゲイラは本当に強い。こんなことを言うと失礼だけど、勝てる可能性はないかもしれない。でも永田選手はミルコより強い人とやりたいんでしょう?　だったらミルコに勝ったマイケル・マクドナルドとやらないか?」って。

――ワハハハハ!　なぜマイケル・マクドナルド(笑)。

永田　まあ、確かにミルコに勝ってる。でも、世間的にミルコより凄いって思います?　オレが無理してやる試合じゃないですよね……(あきれ気味に)。

――全然、思わないです(笑)。

永田　ええ。そこでオレが「ん!?」ってなってたんですよ。で、テレビの収録でもスタッフの態度がおかしいんですよ。「ノゲイラ」って言葉を出すと、みんなそこで顔を曇らせるんです。「言わないでほしい」みたいなムードで。それが12月24日ですよ。で、上井さんと道場に集まって話し合いですよ。あれは深夜1時近かったですね。

――クリスマスイブに災難ですねぇ。

永田　「ノゲイラじゃなかったらやんなくてもいいよね、上井さん」「ここまできたら、さすがにいい」って。そうしたらまた一部でまたヒョードルを引っぱり出す動きもある、と。

っていうのも凄い話ですよね（笑）。
永田　ヤケクソですねぇ。もうアッタマ

みたいな。突然、何を言い出したのかな、
きもある、と。

——ヒョードル戦が再浮上。いいかげん、嫌になりますねぇ。

永田　「どうなっちゃってんの!?」と。で、ウチの親戚が日テレ関係の会社に勤めてて、そのへんからの情報で「あのイベント、なくなるよ。もう差し替え番組が考えられてる」という情報がきたんですよ。お笑い番組を考えてるって。

——あ、日テレ側はそんな準備をしてたんですか！　ラーメン特番のウワサはありましたが（笑）。

永田　それがたしか12月26日。でも、いろんな方面からオレのところに「出てくれ」って連絡が来るわけですよ。

——4日前でも相手は決まってないけど「出てくれ」と（笑）。

永田　結局、オレが出ないことでイベントがなくなるっていうことは、アントニオ猪木の顔をオレが潰すことになんのかなと思ったんです。みんなは「もう出なくていいよ」って言ってくれたけど、それでもオレ、練習はやってたんですよ。

ヒョードル戦は気持ちが全然奮い立たなかった。「ヒョードルって意外に細いな」って凄く冷静で

永田裕志

ヒョードル戦直前の永田さんを心配そうに見つめるジョシュ・バーネット。インタビューを読んだらもう一度ヒョードル戦を観てみよう。あのときとは違った印象を抱くはずだ。永田さんが身体を張ったからPRIDEの発展はあり、それは今日のUFCにつながっているのだ……。

——何が起きてもいいように。

永田　巡業からの疲れが残っててボロボロでしたけどね。あちこち出稽古行ったりして、当日までにそこそこのコンディションは作りましたよ。それで29日に神戸に入ったんですけど、その夜の時点でも相手は決まってなかったんです。

——凄い話ですよねぇ……。

永田　「ほぼヒョードルとやる」みたいな話なんだけど、PRIDEサイドの完全な許可を取ってなかったらしくて。最終的にオッケーが出たのが30日の朝。会見を開いたのが30日の昼前後だったんですね。そこで初めて正式決定。

——永田さんにとってはリングに立つことだけが求められたという感じですね。

永田　アントニオ猪木の顔を潰さないことだけだったですね。あれはホントに自分のためっていうよりも人柱っていうか、猪木さんのためにやったというか。だってヒョードルなんて、日本人のヘビー級が地道に練習したって勝てるかどうか。だからぶっちゃけ、気持ちが盛り上がらないですよね。あのとき日テレの番組に対してけっこう調子に乗ったことを言ったんですよ。へんなポーズをとったり、カメラの前でおどけたり、そんなことをすることで自分の萎えた気持ちを奮い立たせようと思ったんですけど、全然、奮い立たない。普通、試合するとなったら武者震いみたいなのするじゃないですか。ミルコ戦のときはそういうものがあったんですよ。ヒョードルのときは、もうなんも出てこなかった。絞り出そうと思っても。カメラが試合直前まで撮ってて、いま考えると「アホか」っていうようなことをやってましたけど、あのときは気持ちがね……。入場してても燃えてこないし、ビビリもしなかった。「あ、ヒョードル、意外に細いな」なんて凄く冷静で。打ち合いになれば燃えるかなと思ったんですけど、全然。ま、そんな状態でしたね。

——奥さんもかなり心配されてたんですよね。「イベントなんかなくなればいいのに！」と思ってた、と。

永田　みたいですよね。ジョシュ・バーネットもあきれてましたからね。オレが「それでもやる」って言ったから、「わかった、できることをやろう」っていろいろ親切に教えてくれたり。

——いやあ、いま世界でMMAが盛り上がってるのも、永田さんがそうやって人柱になったからなんですねぇ。

永田　オレのおかげです、ハハハハ！　結局一番、視聴率が悪かったのは『猪木祭り』ですけど、イベントがなくなったら、もっと大変なことになってたじゃないですか。

——こういう裏事情が当時はまだ伝わってなかったんで、いろいろ言われたと思うんですけど。事情がわかっても文句を言う前田（日明）さんみたいな人もいましたけど（笑）。

永田　まあ、しょうがない（苦笑）。やっぱ他人のせいにはできないでしょ。オレが勝負して負けました。そのときはそう言わないと。負けた直後に言い訳を言ったらバカみたいじゃないですか。

——永田さん、今年の大晦日、猪木さんプロデュースになる可能性がありますよ。

永田　なんかそんな噂を聞いたけど、ホントなんですか？

——はい。永田さんと『猪木祭り』の歴史を考えると……（笑）。

永田　もういいでしょ!?　もう朝の走り込みはやりませんよ！（笑）。

【10年12月某日／都内・某所にて敬礼収録】

——曙さん、今日はよろしくお願いします！

やないかっていう情報を聞いてましてですね。で、オレの携帯に知らない番号から

感じで。ま、自分がやる仕事だから、あまりよけいな口は出さないです。

大晦日史上最大のビッグサプライズ実現のウラ側!!

格闘技が紅白歌合戦を超えた日

第64代横綱 曙太郎

語り草となっている2003年大晦日興行戦争！『猪木祭り』の百八つビンタ暴動など興味深いトピックも数多いが、世間を揺るがしたのは元横綱・曙のK−1参戦だ。対戦相手は前年に大ブレイクしたボブ・サップ。その試合の瞬間最高視聴率は43.0パーセントを記録して史上初めてNHK紅白歌合戦を超えた瞬間だった。

聞き手／ジャン斉藤

電話があって外に出たら谷川さんが電信柱の陰から顔を出していた

——曙さん、今日はよろしくお願いします！

曙 よろしくお願いしま〜す。

——さっそくですが、今年で大晦日の格闘技イベントが10周年を迎えるということで、その10年間の歴史のなかで瞬間とはいえ『NHK紅白歌合戦』の視聴率を超えた（43・0パーセントを獲得）曙さんに、その当時のお話を聞かせていただければな、と。まず03年の『Dynamite!!』出場にはどんな経緯があったんでしょうか？

曙 あれはですね、ちょうど親方として相撲業界に残るか、別の道を歩むかって考えていたときにそういう話があって。まあ半分は勢いのままで決断したんですよ。

——勢いですか！（笑）。

曙 ええ（笑）。あの頃、自分のなかで相撲業界に残って若い人に教えるべきか、教えたとして彼らの人生の責任が取れるのか……っていろいろと考えてましたね。最後の結論はですね、自分自身が失敗してもそれは自分にしか跳ね返ってこないじゃないですか。たとえば人様の子どもを預かってですね、預けたときは「強くするから」って口では言うけど、現実としてはうまくいかないこともある。使い捨てっていうわけじゃないですけど……。

——相撲の世界で成功するのはほんの一握りですもんねぇ。

曙 そうなんですね。やるならば自分自身が挑戦して責任も含めて背負ったほうがいいですね。

——そんなタイミングで『Dynamite!!』のオファーがあって。

曙 あのときはですね、たまたま身体を鍛えるためにレイ・セフォーさんのところで練習してたんですよ。遊び程度でしたけど運動のために。その情報がK−1に入ったみたいなんですね。

——なるほど。オファーが来たときはどう思われました？

曙 驚き半分、残りの半分は「やっと来たか！」って。

——「やっと来たか！」？（笑）。

曙 いや、K−1が俺をオファーするんじゃないかっていう情報を聞いてましてですね。で、オレの携帯に知らない番号から電話がかかってきたんだけど、あの頃は知らない番号だとまったく出なかったんですよ。そうしたら何回も何回もその番号から電話があるから、「よっぽどこの人は用事あるんだな」と電話に出たんですよ。

——そうしたら「んあ〜！ 谷川で〜す！」と。

曙 そうそう。「別の用事で福岡（福岡場所前だった）に来たんですけど、横綱に挨拶をと思いまして、ちょうど相撲部屋の近くに来てるんですけど」って。

——絶対に「別の用事」はウソですね。曙さん目当てだ（笑）。

曙 でも、ちょうどそのときに相撲業界のゴルフコンペがあって部屋にはいなかったんですよ。そうしたら翌日の朝早くから電話がかかってきて、「また部屋の近くにいるんですけど、外に出てきてもらえませんか？」って。それで外に出たら電信柱の陰から谷川さんが顔を出して。

——凄いなあ（笑）。そこで立ち話ですか？

曙 立ち話です。ストレートに「じつはですね、大晦日に横綱と闘いたいって言う人がいるんですけど」って言われて。

——それがボブ・サップだったってことですよね。

曙 勝負師なんで、そう言われると勝負勘が目覚めてきてね。まあ、そこでは一人で決められないんで「ちょっと待ってくれ」と言って。

——曙さんもいろんな方に相談しなきゃいけないでしょうし。

曙 いや、いないですよ。相談するのは奥さんだけですね。

——奥さんはどういった反応でした？

曙 同じように「やっと来たか！」という感じで。ま、自分がやる仕事だから、あまりよけいな口は出さないです。

——しかし、相撲関係の方には誰も相談しなかったんですね。

曙 そういうことは中途半端な気持ちで言ったら止められるんで。振り返るとですね、もうそういう道ができてたんですよね。っていうのは、タイミングよく次から次へと決まっていったんですよ。谷川さんと会った翌日にCMの撮影があってちょうど東京に戻るはずだったの。だから、その撮影のあと奥さんを連れて谷川さんと話をして、その次の日に谷川さんにオッケーの返事して。

——「やります！」と。

曙 で、オレとしては福岡場所の前だったから、へんな騒ぎになって場所のジャマだけはしたくなかったんですよ。場所が終

瞬間最高視聴率43・0パーセント、番組平均でも19・5パーセントを記録した『Dynamite!!』。PRIDE男祭りは平均12・2パーセント、『猪木祭り』は平均5・1パーセントと他を圧倒するかたちとなった。なお『猪木祭り』の瞬間最低視聴率はNHK教育テレビを下回り１パーセントを切ったとか。

相撲時代に曙のライバルだった貴乃花が特別解説！ 魔裟斗と並ぶ豪華な布陣は格闘技黄金時代を感じさせる。なお谷川さんの計らいでターザン山本！さんもリングサイドで観戦。曙夫人の真うしろの席だったので全国にあの顔が抜かれたのだ！

大晦日参戦発表会見の前日に引退届を相撲協会理事長に提出しました

わってから引退届を出そうとしたんだけど、そうしたらK―1のほうが「一日も早くやめてほしい」って。

——K―1としても早く発表しないといけない事情があったんでしょうね。

曙 そうみたいです。それでちゃんと筋を通すために親方のとこに行って「次の仕事が決まったので辞めさせていただきたいんですよ」と。もう親方が驚いて驚いて。

——そりゃ驚きますよ（笑）。

曙 親方は何がなんだかわからなくて「とりあえず一門の長と話してくれ」と。で、高砂一門の一番偉い親方のところに行って話をしたら「こればっかりは自分はなんとも言えないから、理事長に話してくれ」って。

——どんどん上に話が上がっていきましたか（笑）。

曙 もちろん、そうですよ。普通の親方じゃないじゃないですか。「元横綱」だから。だから協会としては残ってほしいわけよ。

——そうですよね、曙さんは元横綱ですもんね。

曙 それで理事長と話をして「気持ちは決まったんか」って言われて「決まりました」と。K―1に出ることを理事長だけには言いましたけどね。「明日記者会見があるから」って。

——会見前日のことだったんですか!?

曙 だって、谷川さんと会って3日後に記者会見だったから。

——なんたる電光石火ぶり（笑）。

曙 それで理事長がその引退届を受け取ってくれて、「発表まではこの胸のポケットにしまってあるから、気持ちが変わったら電話をくれ」と言ってくれてね。

——なるほど。曙さんのなかでは激動の3日間だったんじゃないですか。

曙 ほとんど寝てないですね。「これでいいのかな……」って考えちゃって。

——当然不安はあったでしょうね。

曙 そりゃありますよ。すべて不安ですよ。だって相撲業界にいたら安定してるじゃない。65歳まで仕事が約束されてるし。そこを飛び出すのは凄く不安だったよ。

なんとスティービー・ワンダーがこの一戦の国歌吹奏のためだけに来日！ 06年には矢沢永吉のミニライブもあったけど、格闘技がメチャクチャ元気だった時代だなー。

——それでも勝負したのは……。

曙 やってみたい気持ちがあったから。だから日本中が観てみたかったことだし。だからその記者会見でも異例の記者会見でしたよね。スポーツ紙だけじゃなく『読売新聞』とかにも記事が載ったし。

——「元横綱」っていう看板がどれだけ大きいのかっていう。そもそもK―1にはどんなイメージを持っていたんですか？

曙 K―1というものは、自分の相撲人生の横を走ってるような状況でしたもんね。95年にK―1のでっかいイベントがあったでしょ。

——ゴールデンタイムで初めてK―1が放映されたときですね。

曙 オレも現役の横綱で優勝とかバリバリしてる頃で、自分がやってることが一番強いって思ってるから、「自分がK―1に出たらどうなるんだろう？」っていう思いはやっぱりありましたね。でも、いまから考えると挑戦した時期が遅かったですね。

——やっぱり現役バリバリの時期に挑戦してみたかったですか？

曙 それもそうだし、95年と03年のK―1だとまったく違うじゃない。

——競技として進化してるっていう。

曙 そう。谷川さんにも言われたけど、「これは一番最初だったら通用したかもしれないけど、いまはもうみんなテクニックとかだいぶ進化してるから」って。一番最初のK―1だったら、殴り合いが中心でしょう？

——かなり荒々しい感じですもんね。

曙 でも、やった結果としては、楽しかったですよ。

——楽しかったですか。

曙 楽しかった！（ニッコリ）。01年に引退して、そこからまったくハードな練習はしてなかったから、またすべてがイチからやるわけでしょ。きつかったすよ、時間も2ヵ月しかなかったし。その決められた時間のなかで身体を仕上げなきゃいけない。しかもトレーニングだけじゃなかったもんな。あのときはテレビつけたら必ず自分が出てたもんな。

——いわゆる大晦日の宣伝塔としても活動しなきゃならないってことですね。

曙 東京だけじゃないんだもんな。北海道にも飛んだから。それこそスパーリングパートナーやトレーナーとかみんな連れてって。移動して、練習して、テレビに出て、また練習して。

——もっと時間はほしかったですか？

曙 うん。だって試合に出たときはルールもわからなかったんだもん。経験がないから、身体がルールに対応しきれてないんだよな。いまビデオとか観ても、コーナーに寄ってるところとかあるんだもんな。で、試合中に「なんで勝負が終わらないのか？ ……そうか、ここは相撲じゃないんだ」って気づくんだよ。

——相撲が身体に染みついてるんですねぇ。あのときは他局でも格闘技イベントの放送が二つもあって、視聴率戦争でもあったんですけど、曙さんは自分が出ることによって視聴率がとんでもないことになるなって考えたりしてたんですか？

曙 そこまで考える余裕はまったくなかったんですよね。でも、視聴率を獲ったときにはホッとしましたね。やっぱり「元横綱」という看板なんでしょうね。なんでそんな視聴率が獲れたかっていうと、いままで格闘技を観たことがない人までテレビをつけたっていうことだから。いままで紅白をずっとつけっぱなしの人が、その瞬

間だけTBSを観たってことでしょ。

——格闘技を観るのって20～40代の男性

——あの敗戦はそんなにショックだったんですか……。

K―1参戦が新横綱になった22歳の

曙　それで理事長がその引退届を受け取し。そこを飛び出すのは凄く不安だった

曙　楽しかった！（ニッコリ）。01年に引紅白をずっとつけっぱなしの人が、その瞬

間だけTBSを観たってことでしょ。

——格闘技を観るのって20～40代の男性が中心ですから……。

曙　だからそのときはお年寄りが初めて格闘技を観たってこと。でも試合後は負けたことでかなりヘコんだんですけど。家の近くの公園で帽子を深く被って座ってボーッとしてたり……。

——でも、身体で横綱ってわかっちゃいそうですね（笑）。

曙　そうしたらある夫婦が来て「曙さんですよね。大晦日、ありがとうございました」って。もうそれを言われたとき救われたよね。あのひと言がなかったら、たぶん次の試合はなかったと思う。

——あの敗戦はそんなにショックだったんですか……。

曙　だって相撲のときはアクシデント的なことで負けることが多いじゃないですか。引かれたり、足がすべって手がついたとかだから、KOされての完全な負けって自分のなかではきつかったね。

——相撲では力負けしたことがなかったわけですもんね。

曙　ない（キッパリ）。

——競技は違えど、ああいうふうに負けたことがかなりショックだった、と。横綱にとっては、ただの負けではなかったわけですね。

曙　ただの負けじゃない。

曙太郎

あけぼの・たろう■1969年5月8日、米国ハワイ州出身。怪物的な強さで第64代横綱に就く。90年代、貴乃花らとともに相撲ブームを牽引した。03年にK-1へ転向、その後は総合格闘技にも挑戦。いずれも戦績は芳しくなかったが、現在はプロレスラーとして各団体から引っぱりダコ状態。センスがありすぎのプロレスムーブは評価が高い。みんな観たほうがいいよ！

K-1参戦が新横綱になった22歳のときだったら、まったく結果は違います

——それで大晦日って、曙さんが出て以来、毎年何か世間を振り向かせるものを投入しなきゃならないっていうムードができてますが、いまだに曙さんを超えられてない現状があるんですよ。

曙　超えられたら困るよ（苦笑）。偉そうにするわけじゃないけど、いいことだったんじゃないの？　だっていまの紅白も視聴率で抜かれたくないから一生懸命考えてるでしょ。だからみんなが考える場面を作ったってことでもあるんですよ。

——それまでは紅白の一人舞台でしたもんね。

曙　紅白も力を入れてるもんな。それくらい大きなことをやったわけだけど、一つだけ悔いがあるとすれば、これが新横綱になったときの22歳のときだったら、まったく結果が違うと思うんです。

——でも、仮にそういう話があったとしても現役横綱だと動くことはなかなか難しいんじゃないですか。

曙　いや、22～23歳の頃だったら、誰にも相談しないで行ったよな。言うことなんか聞かないもん（笑）。

——そうですか（笑）。

曙　オレ、22～23のとき、世界で一番強いと思ってたからね。

——そういう意味では石井慧さんも誰にも相談しないで転向しちゃいましたけど、彼の気持ちってわかりますか？

曙　わかりますよ。わかる。だってオレ、22～23のとき、凄いヒタチ（相撲用語でいじめっ子）だったよな。普通に飛んだり跳ねたり普通にしてたし、走っても普通に速かったし。

——あの身体で飛んだり跳ねたり!!（笑）。

曙　うん。あの頃は稽古を百番やっても全然、疲れなかったし。22歳のときちょうど新大関に上がって、足を折って初めて休場した。足を折ったときもオレは「出る」って言って、周りにすっげえ反対されたもんな。

——骨折してるのに動けたんですか？

曙　動けた。テーピング巻けばなんとかなったし。それで稽古場に行って稽古場でシコを踏んだよ。

——とんでもない重症患者ですね（笑）。

曙　あと初めて優勝したときのエピソードがクイズ番組に出たもんな。15日間、全部の取り組みで何分何秒動いたか、って。

——何分働いたんですか？

曙　1分53秒。

——すべて秒殺ですね（笑）。そういうお話を聞くと全盛期でのK-1挑戦を観たかったですよ！

曙　ボクは外国人の一人目の横綱じゃないですか。そのあと外国人がどんどんあとに続いてる。だから、できれば、脂がのってる若いバリバリ現役の横綱に一回やってもらいたいよ。「これこそ横綱だ！」っていうものを見せつけてほしい。オレ思うけど、朝青龍だったらいい線いくよ！

——曙さんの怪物エピソードを聞いてるとそう思っちゃいます！　今日はありがとうございました。

【10年12月某日／都内・某所にて収録】

元祖・大晦日男が語るバンナ戦のズンドコ舞台裏

「あの試合が万馬券だったのは俺じゃなくて猪木さんだよ」

借金王 安田忠夫

元祖・大晦日男といえばこの男！ 01年にジェロム・レ・バンナと対戦、下馬評を覆して愛娘に奇跡の勝利を捧げた安田忠夫だ！ 来年2月4日に引退を控えたやっさんが、全国のお茶の間を感動に包んだその舞台裏を激語り！

聞き手／佐藤篤（THE PEHLWANS）
構成／鈴木佑　試合写真／平工幸雄

——今回は大晦日特集ということで、ここはやはり〝元祖・大晦日男〟である安田さんに、2001年の『INOKI BOM－BA－YE』のジェロム・レ・バンナ戦を中心にお話をうかがいたいと思います！

安田　バンナの話って、あれはもう何年前になるんだ？

——9年前になりますね。

安田　もう9年なんだ。

——そうなんですよ。それで、01年は大晦日の前にK－1vs猪木軍の対抗戦（同年8月19日・さいたまスーパーアリーナ）があって、安田さんはレネ・ローゼにハイキックでKO負け……。

安田（さえぎるように）あれはKO負けじゃねえよ！

——えっ、おもいっきりKOされたじゃないですか。それで試合後に「ここがどこかわかるか？」って聞かれて、安田さんが「……両国国技館！」って答えたっていう。

安田　いや、KO負けってみんな言うけどさ、あの試合をよく観てもらえばわかるとおり、あれは俺の反則勝ちだよ。

——話が長くなりそうなんで、ここではそういうことにしておきましょう（笑）。で、その年の大晦日に、当初の発表ではローゼとのリターンマッチが決定していたんですよね。

安田　うん、そうだね。

——ところが、大会直前でK－1軍の大将格であるバンナと闘う予定だった藤田和之さんが練習中にアキレス腱断裂。さらに、小川直也さんはギャラなどもろもろの条件が合わずに参戦断念ということで、バンナの相手が安田さんに回ってきた。

安田　そうそう。猪木さんから電話がきて、「おまえ、バンナでいいか？」って言うから、俺は「K－1の選手ですよね？　じ

やあ、いいですよ」ってOKしたんだよ。

——安田さんのなかでは、「バンナ＝K－1選手」ぐらいの認識でしかなかったんで

に行きたかっただけだろ（笑）。要するに、

新日本の選手からしてみれば「シリーズにも参戦しない奴が……」っていう感じで、

さんとの練習は、四つの体勢からテイクダウンを取りにいくとか、そういう感じで？

安田　そうそう。アメリカでみっちり練

——あのフィニッシュになったギロチンは作戦の一つだったんですか？

安田　練習でギロチンをやられたときに、

ゃあ、いいですよ」ってOKしたんだよ。
——安田さんのなかでは、「バンナ＝K——1選手」ぐらいの認識でしかなかったんですか？
安田　うん。だから、「だったら寝技は得意じゃないな」みたいな感覚でしかないんで、ローゼだろうが、バンナだろうがなんら問題はなかったんだよ。
——確かに当時のコメントで安田さんは、「レモネード（レネ・ローゼ）がバナナ（バンナ）に変わっただけ」っておっしゃってましたよね（笑）。
安田　そんなこと言ってたねえ。
——ということは、作戦そのものは同じK——1選手が相手だから、ローゼ戦とそんなに変わらない、と？
安田　そうそう。パンチ一発もらう代わりに俺は捕まえるよ、みたいな（笑）。
——そういった練習っていうのは繰り返しやってこられてたんですよね。
安田　まあ、あの頃は総合自体のレベルがまだ低かったからそれでOKだったんだよ。いまみたいな寝技の練習は全然してないからさ。そういう時代だったでしょ。
——当時はロサンゼルスでマルコ・ファスに指導を受けてましたけど、帰国してからの練習というのは？
安田　いや、ほとんどしてねえよ。
——え、それは練習相手がいなかったんですか？
安田　まあ、いまとなっては笑い話になるんだけど、新日本の道場で鈴木健想（現KENSO）に「ちょっと練習に付き合ってくれる？」ってお願いしたら、「嫌です」って断られたからな。冷てえもんだよ（笑）。
——それはケガをしたくないとか、そういう理由で？
安田　いや、単に練習が終わったから遊びに行きたかっただけだろ（笑）。要するに、新日本の選手からしてみれば「シリーズにも参戦しない奴が……」っていう感じで、俺が総合に出ることに関して周りは冷めてたからさ。
——どうぞ勝手にやってください、と。
安田　そういうこと。まあ、仲がいい人なんかは「頑張れよ！」とは言ってくれるけど、練習までは付き合ってくれないじゃん。それで、しょうがないから吉江（豊）に聞いたら、「いいですよ」って言ってくれたんだよ。
——格闘モンスターが練習パートナーを買って出たんですね（笑）。ちなみに、吉江さんとの練習は、四つの体勢からテイクダウンを取りにいくとか、そういう感じで？
安田　そうそう。アメリカでみっちり練習はやってきてるから、日本に帰ってくるときは調整段階だし、ケガするようなことをやるわけでもなかったんだよ。だけど、結局は吉江しか付き合ってくれなかったんだよな。
——なるほど。ところで、安田さんが指導を受けたマルコ・ファスの教え方はどうだったんですか？
安田　練習のときは口うるさい人だけど、彼自身も現役を続けながらコーチをやっていたから、俺ら選手の気持ちもわかりながら教えてくれてたし、いい人間関係は築けていたよね。でも、マルコが「クスリは一切やるな」って言うのは俺もわかるんだけどさ、「タバコをやめろ」って言われたのはきつかったな（笑）。
——禁煙は無理（笑）。
安田　酒を飲まないのは平気なんだけど、タバコはやめられねえもんな！
——マルコから指導を受けることによって、総合に対しての自信は日を追うごとについていった感じでした？
安田　いや、自信なんてないない。そんなに強くねえよ、俺。練習だって、言われたことをやるだけで必死だったからさ。
——そうは言っても、バンナ戦のギロチンは見事だったじゃないですか。
安田　まあ、あれはラッキーパンチみたいなもんで、俺にとってはラッキーなギロチンだったよな（笑）。
——あのフィニッシュになったギロチンは作戦の一つだったんですか？
安田　練習でギロチンをやられたときに、「なんだこれ？」って思って、それで「いまの技を教えてくれ」って頼んだんだよ。まあ、いろいろ連鎖して肩固めとか腕十字とか入れるかもしれないけど、そんなの俺はできねえからさ（笑）。
——ギロチンなら俺でもできる、と。
安田　そうそう。「これ、いいな。簡単じゃん」っていう感じで。マルコには「ほかの技も教えてやる」って言われたけど、「そんなのいいからギロチンだけ教えてくれ」ってお願いしてさ。
——肩固めよりもギロチンだ、と。
安田　だって、一回闘ってみたらわかるじゃん。セコンドが言ってることを俺はできねえんだからさ。だけど、この前たまたまバンナ戦の映像を観てみたら、セコンドのみんなが「肩固め！」って言ってるんだよな。でも、あの当時の俺からしてみれば、「肩固め……、ん？」って感じだったんだよ。
——無茶言うな、と（笑）。
安田　そうしたら、セコンドから「ギロチン！」って言われて、「あっ、そうか」って感じでやったらバンナがタップしちゃったみたいな（笑）。
——ラッキーギロチンが（笑）。
安田　そうそう（笑）。だから、皆さんが思ってるほどそんなに深い話じゃないんですよ。
——これまでの大晦日興行のなかで、安田

猪木の肝入りで総合に挑戦した安田。バンナ戦こそ見事な勝利だったが、あとはPRIDEのリングで佐竹雅昭に判定勝ちを収めたのみで、その戦績は2勝4敗と決して振るったものではなかった。

新日本の選手は俺が総合に出ることに関して冷めてたな

安田　覚えてねえよ。とりあえず、●●●●万円もらえればいいって思ってたから

けど。

――一番の勝利者は猪木さんだと（笑）。

俺のギャラが高いのは、同じ額だけ

バンナ戦のおかげで借金というイメージがついて回ったのはイヤだったよな

さんほど人生が変わった選手もいないと思うんですけど、ご自身のなかではいかがですか？

安田　俺？　変わったかな……だけど、もう10年近く前のことだしなあ。

――バンナ戦に勝ったことでいい思いをしたほうが多かったのでは？

安田　う〜ん、どうかな。まあプラスとマイナス、両方だね。あれがあったから、いままでもそのへんを歩いていると「安田さんですか？」って言われることはあるけどさ。でも、そのおかげで借金というイメージがついて回ってたから、その部分ではイヤだったよな。

――試合以外の部分におけるテレビ側の煽り方についてですよね。

安田　そうそう。

――確かに03年の大晦日なんかは、「負けたら自己破産」っていう煽り方でしたもんね（笑）。

安田　あれはひどいよな（笑）。だから、俺はテレビっていうのはあまり好きじゃないんだよ。

――たとえば、バンナ戦のときは誰もが予想もしていなかった大金星、そして試合後の勝って喜ぶ安田親子の肩車シーンが日本全国のお茶の間で流れて大きな感動を呼んだわけじゃないですか。あのときは周囲の反響もかなりあったんじゃないですか？

「安田忠夫親衛隊」「アントニオ猪木近衛軍団」を名乗るヒール軍団として新日本を席巻した魔界倶楽部。安田はそのリーダーとして君臨。星野総裁の決めゼリフ「ビッシビシいくぞ!」は流行となった。

安田　だからあのあと、娘の学校に謝りに行ったんだよ。

――えっ、それはどうして？

安田　娘が当時通ってた中学校が私立だったんだけど、ああいうテレビとかに出ちゃダメだったんだよ。

――それで安田さんが父親として学校に謝りに行った、と。

安田　そう。「すいません……」って（笑）。

――あと、バンナ戦以降、新日本の選手内での反応は変わりました？

安田　いや、べつに変わんねえよな。まあ、外国人選手だけかな。態度が急に変わったのは。

――「あいつ、シュート強いぞ！」みたいな？

安田　そうそう。まあ、あの頃来ていた外国人はみんな手のひら返したように態度が変わったからな。（スコット・）ノートンとか。

――超竜が急変しましたか（笑）。

安田　まあ、彼らはシュートをやってないから、強いっていうのを知ったら何も言わなくなったもんな。

――なるほど。安田さんは、バンナ戦以降の大晦日は02年のヤン・〝ザ・ジャイアント〟・ノルキヤ戦、03年のレネ・ローゼ戦と計3回出場していますが、ご自身のなかではやっぱりバンナ戦がクライマックス？

安田　まあ、バンナ戦以降の2回は、正直言ってしまえば「ギャラさえもらえればいいかな」っていう感じだったから。

――ということは、あとの2回に関しては、試合内容も覚えてないくらい？

追悼・魔界倶楽部総裁 安田が語る星野勘太郎

去年の2月に星野さんが倒れて、そのあとに俺も電話はしたんだけど、全然出てくれなかったんだよ。ある人に聞いたら、星野さんは誰とも会おうとしなかったみたいで、猪木さんが会いに来るのも嫌がったみたいだからね。あの人のことだから、自分が弱っている姿を人に見せたくないっていうのがあったんだろうな。だから、俺も星野さんと会いたかったけど、それがあの人なりのプライドだと思ってたから……最後までプロ根性を貫き通した人だよ。

星野さんには、俺がプロレスの世界に入ったときから世話になりっぱなしだからね。あの人は橋本（真也）さんのことをかわいがってたから、橋本さんの付き人を務めていた俺も一緒にかわいがってもらってたんだよ。星野さんの家がある千歳船橋にもよく行ったし、あとは赤坂にメシに連れていってもらったり、飲みに行ったりとかさ。「麻雀やってるから来い！」って呼び出されたこともよくあったな。

だから、魔界倶楽部で星野さんと一緒にやってたときは毎日が充実してたし、俺のプロレス人生のなかで一番楽しかったのがあの頃だよな。試合が終わって魔界のメンバーでメシを食いに行ったときなんかも、星野さんが全部払ってくれてね。本当に俺たちの総裁だったんだよ。

だから、来年2月の引退興行のときには、魔界を復活をさせようっていうプランが俺のなかであってさ。もちろん、そのときには星野さんを必ず呼ぼうと思ってたんだけど……それがかなわなかったのが残念だよね。

そういうこともあって、俺のなかでの星野さんっていうのは元気だったイメージのままなんだけど、引退興行の前にお墓参りに行って、引退の報告とお礼をしてくるよ。

安田　覚えてねえよ。とりあえず、●●●万円もらえればいいって思ってたからさ。まあ、あの頃は勝とうが、負けようが、俺自身が総合に対して冷めてたもん。もちろん、出るんであれば勝ちたいし、それなりの練習をしっかりやってから臨みたいっていう気持ちもあるんだけど、なんの準備もしてねえのに急に話が来るわけじゃん。プロレスなんて右頬殴ったら、左頬出して待ってなきゃいけないお仕事なのにさ、そんなこと総合でやってみい、殺されるって。

――へんな話、当時はそれに近いことを求められていたと思いませんか？

安田　だから、試合でケガしてプロレスやれなくなるのもイヤだし、バンナ戦のあとなんかはプロレスだけでも食っていけたわけだからさ。

――ちなみに01年はK―1 vs猪木軍の対抗戦でしたけど、安田さんのなかで猪木軍を背負っているという自覚は？

安田　そんなこと、考えたこともねえよ（キッパリ）。

――自覚ゼロ（笑）。

安田　そもそもバンナとやったときだって、もしあの試合で賭けがあったら、誰も俺が勝つほうには賭けないし、賭けが成立しねえだろ。まあ、もちろん俺は自分が勝つほうに賭けるけどさ。

――さすがギャンブラー！

安田　それか、保険のために俺が負けるほうに賭けるか（笑）。

――ダハハハハ！　そう考えると、バンナ戦の勝利っていうのはまさに万馬券をゲットしたようなもんですよね。

安田　いや～、みんなが思っているほど、俺はそう思ってないんだよ。まあ、猪木さんは万馬券を取ったみたいなもんだろうけど。

――一番の勝利者は猪木さんだと（笑）。ちなみに04年以降の大晦日に関してオファーはなかったんですか？

安田　まったくなかったねえ。っていうか、俺のギャラが高いって言われてたんだけど、俺自身は「なんで？」って感じだったんだよな。まあ、あとで気がついたんだけど、俺に提示している額と同じぶんだけ猪木さんが抜いてるから、ほかの選手よりもギャラが高くなるのは当然なんだよな（笑）。

――そういうカラクリが（笑）。では、大晦日興行に参戦しなくなってからは毎年どうすごしてました？

安田　たぶん遊んでたんじゃない？

やすだ・ただお■1963年10月9日、東京都出身。大相撲で孝乃富士（最高位・小結）として活躍。廃業後、新日本プロレスに入門。05年に解雇処分となってからはZERO1 MAX、『ハッスル』、IGFなどに参戦。来年2月4日に引退。「安田忠夫引退興行実行委員会」ブログ→http://yasudatadao.cocolog-nifty.com/

安田忠夫

俺のギャラが高いのは、同じ額だけ猪木さんが抜いてたからなんだよ

――テレビでご覧になることもなかった？

安田　まったく観てないね。「ご自由にやってください」っていう感じだったよ。

――まあ、観たからってギャラが入ってくるわけでもないですしね（笑）。

安田　そういうこと（笑）。

――それではあらためて、安田さんにとって大晦日興行は人生においてプラスでしたか？

安田　まぁ、いまでもこうやって話を聞いてもらえるんだからプラスだったんじゃないの。

――そういう意味では猪木さんには感謝している、と？

安田　そういう意味ではね。まあ、人間素直に感謝しないといけないだろ（笑）。

――そういえば、猪木さんを引退興行には呼ばないんですか？

安田　高いギャラとか余分なカネがかかるから、こちらからは呼びません（笑）。だけど、この前会ったから引退の話はしたけどね。

――猪木さんはどういう反応でした？

安田　いや、引退についてはとくになかったけど、「おまえ、最近儲けてるらしいな」って猪木さんから言われたんだよ。だけど、俺、何も儲けてねえし（笑）。

――完全な誤報が猪木さんの耳に入ってたんですね（笑）。

安田　どんな情報が入ってるんだって思ったよ（笑）。

――もし、万が一、今年の大晦日にオファーがあったらどうしますか？

安田　いや～、もう勘弁してくれよ（笑）。あとは来年2月4日に引退興行をやって、この世界からきれいさっぱり足を洗うんで。

――ちなみに今年の大晦日のご予定は？

安田　引退興行に向けて、海外へ合宿に行きます！

――おぉ、年越しは海外で！　どちらへ行かれるんですか？

安田　さあ、それは秘密です（ニッコリ）。ちょっと暖かいところね。

――ちょっと暖かいところ（笑）。ということは、今年の年末は有馬記念の予想に集中できそうですね。

安田　ハハハハ、そういうことでございます。

――では、有馬記念での万馬券ゲット、期待してます！

【10年11月29日／都内・某所にて収録】

安田も
サップも曙も
みんな
出てこーい!!

祝・10年目!

大晦日興行史 2001-2009

今回で10回目を迎える大晦日格闘技興行。これまで大晦日興行によってさまざまな分岐点を迎えてきたマット界を、ここであらためて振り返ってみたい。かいてかいて恥かいて、ホントのマット界が見えてきた!?

文／ジャン斉藤、田中太陽

'01

興行

猪木祭り

語録

銭ゲバ、死ねーーっ!!(アントニオ猪木)

大晦日の混乱はここから始まった!!

史上初の大晦日格闘技興行開催となった2001年『猪木祭り』。このイベントは、新日本プロレスからマット界の盟主の座を奪って勢いに乗るK―1が主催し、アントニオ猪木がメインキャラクターに、PRIDEチームが大会運営を行なうという黄金の図式で進められた。

大会コンセプトは「猪木軍vsK―1」の全面対抗戦。ところがマッチメイクは思うように捗らず、それどころか大会まで1ヵ月を切った12月上旬にまさかのアクシデントがイベントを襲う。

猪木軍の総大将・藤田和之の負傷――。異国の地タイでアキレス腱を断裂したというのだ。なぜタイ!?(この事件は多くの謎に包まれている)。

本来の予定では、藤田はK―1軍の総大将ジェロム・レ・バンナと対戦。あの当時最強幻想をまとっていた両雄の激突の消滅は、コンセプトの根幹を揺るがす事態を招いてしまう。そこでイベント側は藤田の代役として、政治的事情によりK―1やPRIDEと深い溝があった小川直也に緊急オファーをかける。提示した条件は「ファイトマネーは7000万円、相手はバンナ」。破格である。しかしネゴシエーターとして知られる小川陣営は「1億円、ピーター・アーツ戦」の要求を譲ることなく話し合いは決裂。このため、陣頭指揮を執っていた石井館長はわざわざ記者会見を開いて小川直也の姿勢を糾弾。顔に泥を塗られた猪木もイベントプロモーション中の渋谷駅ハチ公前で拡声器をもちいて「銭ゲバ、死ねーーっ!!」と吠えたり、舞台裏では「こうなったら最終的に俺がバンナとやればいいんだろ!?」と開き直っていたというからさすがだ!

そんなアントンの常識を覆すアイデアは止まらない。「若くて強いヤツがいる」とバンナの対戦相手にある若者を推薦する。誰あろう、いまをときめくLYOTOである。さらに、武藤敬司や橋本真也にもオファーはあったが、破壊王にはいちばん最後に話を持っていったため「なんで俺が最後なんや!」と大激怒したとか。

そうしていよいよ策に窮したイベント側は「アントニオ猪木→昭和新日本プロレス」という連想ゲームのはてに、なぜかガイ・メッツアーに虎のマスクを被せるタイガーマスク計画も検討。最終的に安田忠夫が総大将に大抜擢されるわけだが、今日まで続く大晦日動乱はここから始まっているのである。

なお、藤田とGKにそそのかされて出陣を決めた永田さんは「ミルコをハイキックで倒す!」とリップサービスを決めたところ、当のミルコが大激怒。逆に左ハイでKOされたばかりか、ミルコに「このテープを100回、見直せ!」と吐き捨てられる始末なのであった……。

試合結果/INOKI BOM-BA-YE 2001

[K-1 vs 猪木軍 第1試合 3分3R]
△マイク・ベルナルド vs 髙田延彦△
(3R終了 ドロー)

[K-1 vs 猪木軍 第2試合 3分5R]
△サム・グレコ vs 佐竹雅昭△
(5R終了 ドロー)

[K-1 vs 猪木軍 第3試合 3分5R]
△エベンゼール・フォンテス・ブラガ vs ゲーリー・グッドリッジ△
(5R終了 ドロー)

[K-1 vs 猪木軍 第4試合 3分5R]
△子安慎悟 vs 石澤常光△
(5R終了 ドロー)

[プロレススペシャルマッチ]
○アントニオ猪木&ザ・グレート・サスケ vs ジャイアント・シルバ&紅白仮面×
(4分02秒 卍固め)

[K-1 vs 猪木軍 第5試合 3分5R]
×シリル・アビディ vs ドン・フライ○
(2R 0分34秒 チョークスリーパー)

[K-1 vs 猪木軍 第6試合 3分5R]
○ミルコ・クロコップ vs 永田裕志×
(1R 0分21秒 TKO)

[K-1 vs 猪木軍 第7試合 3分5R]
×ジェロム・レ・バンナ vs 安田忠夫○
(2R 2分10秒 ギロチンチョーク)

TOPICS

瞬間最高視聴率は佐竹雅昭 vs サム・グレコだった!

その後のTBSの格闘技路線(親子モノ、感動モノ)を決定づけた安田忠夫の人生劇場が瞬間最高視聴率!……と思われがちな2001年だが、じつは佐竹雅昭vsサム・グレコのMMAマッチという謎のカードが一番だったりする。90年代、フジテレビのK-1WGPでさんざん世間に顔を売ってきた両者が判定フルラウンドまで闘うんだからあたりまえと言えばあたりまえ(判定にもつれ込んだほうが視聴率はよかったりする面もある)。「おもしろい、つまらない」が数字を左右することがもちろんあるけど、視聴率ってそんなもんだ!

'02

興行

猪木祭り

語録

オレはスネている。スネたついでにスネ相撲はどうだ!?（アントニオ猪木）

「マスとコア」が分かれる分岐点の年末に

大晦日格闘技史の10年間のなかでよくも悪くも印象に残っていないのがこの2002年ではないだろうか。

前年の大成功を受けて2年連続TBSで放送された『猪木祭り』。メインイベントに登場したのは、世間に大ブームを巻き起こしていた人気絶頂期のボブ・サップと、ドン・フライとの壮絶な殴り合いで男を上げたこの年のプロレス大賞受賞者〝帝王〟高山善廣。

確かに大晦日にふさわしいマッチメイクではあるし、その脇を固めるのは吉田秀彦vs佐竹雅昭の異種格闘技戦、そして藤田和之vsミルコのリベンジマッチ。なるほどお祭り感にあふれたラインナップとなったが、観るほうからするとイベントのテーマは見いだしづらく（TBSの打ち出しは「猪木軍vsK－1vsPRIDE」。どこがだよ！）、実際になんだかボンヤリとした大会内容になってしまったのである。

理由を考えると、2002年の格闘技興行がそれを上回るほど刺激的大会内容になっていたこともあった。たとえば真夏には初の国立競技場進出となった『Dynamite!』があったし、同じ月には芸能界の実力者・川村龍夫氏がプロデュースした『LEGEND』という〝伝説〟のイベントもあった。大晦日の直前にはボブ・サップとアーネスト・ホーストの再戦で東京ドームがフルハウスになった！　それと比べると大晦日のなんと物語性のないことか……。

さらに考察すると、この大晦日には、人気爆発前夜のPRIDEファイター勢が起用されていないことも興味深い（グッドリッジやランペイジはK－1ルールでの出場）。この年には皇帝ヒョードルがPRIDEに初上陸するも、大晦日出場の候補にはすら挙がっておらず、それはノゲイラやヴァンダレイ・シウバも同様だ。TBSやイベントを事実上取り仕切るK－1側からすれば、彼らは格闘技ファンには知られていても、世間的には無名という判断だったのだろう。ある関係者は、ファンのあいだで待望されていたノゲイラvsヒョードルの頂上対決を指して「大晦日でやるなら第3試合になる」と口にしていた。その程度の扱いなのだ……。

運営側がプロデュースする格闘技と、変態たちが望んでいた格闘技。少しずつではあるがこの時点で「マスとコア」の捻れが生じていき、TBSが作り出す「テレビ格闘技」は、ある意味で格闘技の価値観を大きく変えることになる。一方、翌年初春の〝クーデター〟によりK－1から〝独立〟したPRIDEは、TBSが捨てたコア路線を突き進めるかたちで、K－1から盟主の座を強奪することになるんだから、ずいぶんと皮肉なものである。

試合結果／INOKI BOM-BA-YE 2002

［第1試合 総合格闘技ルール 5分3R］
×安田忠夫 vs ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤ○
（2R 0分57秒 TKO※タオル投入）

［第2試合 総合格闘技ルール 5分3R］
×中邑真輔 vs ダニエル・グレイシー○
（2R 2分14秒 腕ひしぎ十字固め）

［第3試合 総合格闘技ルール 5分3R］
×滑川康仁 vs ヴァリッジ・イズマイウ○
（3R終了 判定0-3）

［第4試合 K-1ルール 3分3R］
×ゲーリー・グッドリッジ vs マイク・ベルナルド○
（1R 2分12秒 KO）

［第5試合 K-1ルール 3分3R］
○クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs シリル・アビディ×
（3R終了 判定3-0）

［第6試合 総合格闘技ルール 5分3R］
×藤田和之 vs ミルコ・クロコップ○
（3R終了 判定0-3）

［第7試合 総合格闘技ルール 5分3R］
○吉田秀彦 vs 佐竹雅昭×
（1R 0分50秒 フロントチョーク）

［第8試合 総合格闘技ルール 5分3R］
○ボブ・サップ vs 高山善廣×
（1R 2分16秒 腕ひしぎ十字固め）

TOPICS

"総合格闘技で成り上がった"最後のレスラー・中邑真輔総合デビュー！

この年にプロレスデビューをはたしていた中邑真輔がアメリカ武者修行から帰国。『猪木祭り』のダニエル・グレイシー戦で総合デビューを飾っている（直前まで試合に出ることは知らなかったそうだ）。中邑は試合には敗れたが、当時の新日本プロレスが推進していた"プロ格"路線の中心人物として大抜擢を受けていく。1年後に史上最年少でIWGPヘビー級王者に就くなど、当時のプロレス界がいかに格闘技方面に軸を傾けていたことがわかる。もともとプロレスマニアで"プロレス志向"が強かった中邑だが、"総合格闘技で成り上がった"最後のプロレスラーかもしれない。

'03

興行

猪木祭り PRIDE男祭り Dynamite!!

語録

ルールを守れーーーーっ!?(怒)

(アントニオ猪木)

大晦日三派分裂興行はPRIDE消滅の引き金に……

フジテレビ、日本テレビ、TBSが競って格闘技番組を放映するという格闘技バブルの頂とも言える日であり、のちのPRIDE消滅への引き金となった03年の大晦日――。

マット界史上最大の興行戦争となった大晦日三派分裂は、2年連続の『猪木祭り』の成功を受けて、同イベントのアイコンだったアントニオ猪木が「今年の『猪木祭り』は〝一番高い山〟から放送する」と公言したところから物語は始まってゆく。

この年の春、PRIDEはK―1からの〝独立〟をはたしており、これまでの座組みでの大晦日開催は事実上不可能となっていた。

三派に分裂する背景は非常に複雑だった。〝PRIDEの怪人〟百瀬博教氏のプロデュースでなければ『猪木祭り』の開催はしない、という猪木氏の念書が一般週刊誌に流出するなど、一寸先は魑魅魍魎な世界となっていたのである。

三派分裂の流れをもの凄く簡単に説明すると、PRIDEと協力関係にあった川又誠矢氏が『猪木祭り』放映に向けて日本テレビと交渉。FEGは独自で『Dynamite!!』の開催を決定。放送はTBSである(曙の引っぱり出しが不発に終わっていたら開催しなかったらしい)。

PRIDEは当初『猪木祭り』への協力をする向きもあったが、同イベントをレギュラー放送するフジテレビでの放映による『PRIDE男祭り』の開催を決定する。

一説によれば『猪木祭り』側はPRIDE勢の合流を強く望んでいたという。選手派遣の話もあった関係が崩壊したのは〝選手争奪〟がきっかけだった。

そもそも『猪木祭り』のメインカードは、ミルコ・クロコップvs高山善廣だった。ところがミルコ出場の最終調整がじつは済んでおらず、そのため「ミルコの出場はない」というのが業界筋の見方であった。

そこで『猪木祭り』側がミルコの代打として白羽の矢を立てたのがPRIDEヘビー級王者、エメリヤーエンコ・ヒョードルだった。所属するロシアン・トップチームでの待遇に強い不満を持っていたとされるヒョードルは、ちょうどこの時期にロシアの新興勢力レッドデビルへ移籍。

ロシアン・トップチームとPRIDE間に契約は存在するが、ヒョードルとPRIDEのには契約はないとして、『猪木祭り』側は皇帝参戦を発表した。

これを受けてPRIDE側は「契約は存在する」と反論。こうして大晦日当日までに至るヒョードルをめぐる泥沼劇の幕は切って落とされ、のちに『週刊現代』報道の種火を作ることになる――。

PRIDEの抗議を受けて、皇帝参戦

一方、『猪木祭り』との選手争奪戦で疲労し、曙vsサップを擁する『Dyama

試合結果/INOKI BOM-BA-YE 2003 ~馬鹿になれ 夢をもて~

[第1試合 イノキボンバイエ2003公式総合ルール 5分3R]
×安田忠夫 vs レネ・ローゼ○
(1R 0分52秒 TKO)

[第2試合 イノキボンバイエ2003公式総合ルール 5分3R]
○LYOTO vs リッチ・フランクリン×
(2R 1分00秒 KO)

[第3試合 イノキボンバイエ2003公式総合ルール 5分3R]
○エメリヤーエンコ・アレキサンダー vs アンジェロ・アロウージョ×
(2R 4分28秒 TKO※ドクターストップ)

[第4試合 キング・オブ・パンクラス無差別級選手権 5分3R]
○ジョシュ・バーネット vs セーム・シュルト×
(3R 4分48秒 腕ひしぎ十字固め)

[第5試合 イノキボンバイエ2003公式立技ルール 3分3R]
×天田ヒロミ vs マイケル・マクドナルド○
(2R 0分46秒 KO)

[第6試合 イノキボンバイエ2003公式立技ルール 3分3R]
×村上和成 vs ステファン・“ブリッツ”・レコ○
(1R 1分08秒 KO)

[第7試合 イノキボンバイエ2003公式総合ルール 5分3R]
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs 永田裕志×
(1R 1分02秒 TKO)

[第8試合 イノキボンバイエ2003公式総合ルール 5分3R]
○藤田和之 vs イマム・メイフィールド×
(2R 2分25秒 肩固め)

[第9試合 イノキボンバイエ2003公式総合ルール 5分3R]
○アマール・スロエフ vs ディン・トーマス×
(1R 4分23秒 TKO)

[第10試合 イノキボンバイエ2003公式総合ルール 5分3R]
×橋本友彦 vs アリスター・オーフレイム○
(1R 0分36秒 TKO)

[第11試合 スマックガールSGS公式ルール 5分3R]
○辻結花 vs カリオピ・ゲイツイドウ×
(3R終了 判定3-0)

TOPICS

VIP待遇のターザン山本！さん ご満悦のキメポーズ!!

視聴率で紅白超えをはたした『Dynamite!!』の視聴率にターザン山本も貢献!? なぜかリングサイドで、しかも曙夫人の真うしろで観戦。当時まだ影響力があったターザンをサダハルンバがVIP待遇したんだろうか。その後、各プロレス格闘技イベントに知り合いの一般ファンをプレスパスで入場させて試合後にごはんをおごらせたり、恋人をみんなに紹介するためだけに会場を訪れたり、マスコミにあるまじき行為に走って凋落していくわけだが、格闘技と同様ターザンのバブルもこの03年だったのかもしれない……。今日の四字熟語は「諸行無常」にする。人生ははかないものなのだ（ターザンカフェ調）。

桜庭和志戦を蹴った田村潔司 なぜかロニー・セフォーと対戦

本文でも触れているが、田村潔司vs桜庭和志戦の交渉は難航をきわめた。連絡がとれなくなった田村を探すためDSE関係者が登戸のジムに早朝から張り込んだり、ジムに田村の車を発見して喜び勇んでジムのドアを叩くも田村は裏口から姿を消したというエピソードもあったとか。タッグマッチ案も却下され、結局、田村はロニー・セフォーと対戦。桜庭に提示された相手はホジェリオと、なんと伝説のルチャドールのソラール!!「ボクにも意地がありますよ！」と桜庭はランデルマン戦の傷も癒えぬままホジェリオ戦へ……。両雄らしい選択なのである。

代』報道の種火を作ることになる——。

PRIDEの抗議を受けて、皇帝参戦がいったんは白紙に戻され、代わりにノゲイラ参戦の報が業界を駆けめぐるも、PRIDE側はノゲイラとも契約が有効であることを主張。そして再びヒョードル投入が持ち上がり、PRIDEが譲歩するかたちで参戦が決定したのが大会前日の12月30日のことである。ほかのカード編成も混乱をきわめ、『男祭り』に参戦した小路晃がなぜか出場予定選手として『猪木祭り』のパンフレットに記載されていたほど。

ズンドコの頂点は試合当日。まずスタッフの不備でゴングがないことが発覚！ 大阪プロレスに問い合わせるも大会中で連絡がつかず。大阪在住の格闘家・三島☆ド根性ノ助のジムから借りることで難を逃れた。ゴングを持った三島には会場に到着したときにスタッフから万雷の拍手が送られたという……。

クライマックスは全試合終了後の百八つビンタ。仕切りが悪く、ビンタが続かないため猪木氏の「みんな上がってこい！」という号令のもと、観客がリングに押し寄せ大混乱。視聴率でも平均で5パーセントと惨敗を喫して、00年から開始された大晦日『猪木祭り』の幕は落とされたのだった——。

一方、『猪木祭り』との選手争奪戦で疲労し、曙vsサップを擁する『Dyamaite!!』には視聴率では勝てないことを早々に悟っていたPRIDEは「PRIDEらしさ」を追求するために桜庭和志vs田村潔司実現に走る。"赤いパンツの頑固者"田村を説得するため榊原代表は田村の誕生会（12月17日）を催し「ハッピバスデ〜、タムちゃ〜ん♪」とバースデーソングまで披露。

一時は「桜庭和志&松井大二郎vs田村潔司&上山龍紀」のMMAタッグマッチがまとまりかけるが、「プロレスと差別化を図りたい」フジテレビ側の反対により頓挫。それぞれ別の対戦相手との試合となったが、しかしながら桜庭vs田村の機運が作られた大晦日となったのだ。

試合結果／PRIDE 男祭り 2003

[第1試合 1R10分、2-3R5分]
×美濃輪育久 vs クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン○
（2R 1分05秒 TKO）

[第2試合 1R10分、2-3R5分]
○ヒース・ヒーリング vs ジャイアント・シルバ×
（3R 0分35秒 裸絞め）

[第3試合 1R10分、2-3R5分]
○桜井"マッハ"速人 vs 高瀬大樹×
（3R終了 判定3-0）

[第4試合 1R10分、2-3R5分]
×小路晃 vs ムリーロ・ニンジャ○
（1R 2分41秒 KO）

[第5試合 10分2R]
△吉田秀彦 vs ホイス・グレイシー△
（2R ドロー）

[第6試合 1R10分、2-3R5分]
×ドン・フライ vs ゲーリー・グッドリッジ○
（1R 0分27秒 KO）

[第7試合 1R10分、2-3R5分]
×坂田亘 vs ダニエル・グレイシー○
（1R 7分12秒 腕ひしぎ十字固め）

[第8試合 1R10分、2-3R5分]
○近藤有己 vs マリオ・スペーヒー×
（1R 3分27秒 TKO※ドクターストップ）

[第9試合 1R10分、2-3R5分]
○田村潔司 vs ロニー・セフォー×
（1R 2分20秒 腕ひしぎ十字固め）

[第10試合 1R10分、2-3R5分]
×桜庭和志 vs アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ○
（3R終了 判定0-3）

試合結果／K-1 Premium 2003 Dynamite!!

[オープニングファイト K-1 MMAルール 5分3R]
○クリストフ・ミドゥ"ザ・フェニックス" vs "グリーンベレー"トム・ハワード×
（1R 4分21秒 チョークスリーパー）

[第1試合 K-1 MMAルール 5分2R]
○須藤元気 vs バタービーン×
（2R 0分41秒 ヒールホールド）

[第2試合 K-1 MMAルール 5分3R]
×ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤ vs 成瀬昌由○
（1R 4分40秒 チョークスリーパー）

[第3試合 K-1 MMAルール 5分3R]
×マウリシオ・ダ・シウバ vs ザ・プレデター○
（1R 0分13秒 TKO※タオル投入）

[第4試合 K-1ルール 3分3R]
×フランソワ・"ザ・ホワイトバッファロー"・ボタ vs 藤本祐介○
（3R終了 判定0-3）

[第5試合 K-1ルール 3分3R]
○フランシスコ・フィリォ vs TOA×
（3R終了 判定2-1）

[第6試合 K-1ルール 3分3R]
○アーネスト・ホースト vs モンターニャ・シウバ×
（3R終了 判定3-0）

[第7試合 K-1 MMAルール 5分3R]
×ハハレイシビリ・ダビド vs 中尾芳広○
（2R 1分13秒 タップアウト）

[第8試合 K-1 MMAルール 5分3R]
アレクセイ・イグナショフ vs 中邑真輔
（ノーコンテスト）

[第9試合 K-1ルール 3分3R]
○ボブ・サップ vs 曙×
（1R 2分58秒 KO）

'04

興行

PRIDE 男祭り Dynamite!!

語録

中村選手とは闘いません（ハイアン・グレイシー）

コアな価値観で世間に勝利！ 格闘技界は最盛期へ

2003年の3大会開催という大混乱状態を経験した格闘技界だが、そのことが翌2004年に大きな影響を与えることはなかった。しかるべき選手がしかるべき場所でしっかりと活躍し、熱を高めていった。そんな印象である。

最大のヒット企画となったのはPRIDEヘビー級GPだ。エメリヤーエンコ・ヒョードル、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、ミルコ・クロコップの3強が揃って出場し、セルゲイ・ハリトーノフが台頭。さらに〝ハッスル布教〟を旗印に掲げて小川直也まで出場したのだから盛り上がらないはずはなかった。

『男祭り』のカードも、このヘビー級GPの流れをくんだものになった。ミルコは1回戦で屈辱的なKO負けを喫したケビン・ランデルマンとの再戦に挑み、フロントチョークで一本勝ち。メインではヒョードルvsノゲイラ、すなわちノーコンテストとなったGP決勝の〝やり直し〟が行なわれている。

当時のPRIDEは世界最大・最高峰の総合格闘技イベント。その最重量級の頂点を決める闘いということは、イコール世界最強を決める闘いである。一年のなかで最も〝対世間〟が意識される大晦日興行だが、この年のPRIDEはストレートな〝最強決定戦〟で世間と対峙したわけだ。〝数字を持ってる〟と言われたジャイアント・シルバの出場や吉田秀彦vsルーロン・ガードナーの金メダリスト対決などもあったが、それが目立ちすぎることはなかった。

試合は、ヒョードルの判定勝利という結果になった。KOや一本で勝負が決したわけではなく、派手な打ち合いが展開されたわけでもなかったが、観客はこの試合の内容と結果に納得していたはずだ。〝最強が決まる〟ということの重み。格闘技の試合において、これ以上の説得力はない。

また、この2004年はPRIDE武士道が軌道に乗り始めた時期でもあった。『男祭り』にも連勝中の五味隆典が出場し、ジェンス・パルヴァーを豪快にKOしている。「大晦日に判定はダメだよ、KOじゃなきゃ」という有名なセリフが飛び出したのは、この試合のあとだった。

ヒョードルvsノゲイラ、ミルコ、五味、吉田、それにこの大会ではヴァンダレイ・シウバvsマーク・ハント戦も行なわれている。豪華としかいいようがないメンバーだ。このとき、確かにPRIDEは最盛期を迎えていた。

『Dynamite!!』。第0試合として、ボビー・オロゴンvsシリル・アビデ

な展開になった。判定で魔裟斗が勝ったものの、KIDの株が下がったわけでも

TOPICS

大雪に見舞われたさいたまでノゲイラ入れ替わり事件発生!?

都内が大雪に見舞われて交通機関が一部ショート。その影響はさいたまスーパーアリーナで開催された『PRIDE男祭り』にも現われた。車やバスで会場を目指す選手たちが渋滞により大幅に到着が遅れるという事態になったのだ。長南亮は車から降車して近くの駅まで疾走。なんとか会場入りしてアンデウソン・シウバに勝利。メインでヒョードルとの決着戦を控えていたノゲイラは完全に大遅刻（もともと遅刻癖があったわけだが）。PRIDE名物のオープニングセレモニーにも間に合わず、弟のホジェリオがフードを深く被って代役を務めて難を逃れている。

『からくりTV』の人気タレントボビー・オロゴンがデビュー！

TBSのバラエティ番組『さんまのSUPERからくりTV』の企画がきっかけとなり、タレントのボビー・オロゴンが格闘家デビュー。番組内でホイス・グレイシーと対戦して善戦。勢いをそのままに『Dynamite!!』のシリル・アビディ戦でプロデビュー。脅威の身体能力と柔道黒帯のバッグボーン、菊田早苗の指導もあって判定勝ちを収めた。その後も大晦日のたびに引っぱり出され、曙、チェ・ホンマン、ボブ・サップとTBSらしいマッチメイクで視聴率獲得に貢献。テレビ格闘技時代のあだ花ともいえる存在だった。ちなみに弟のアンディ・オロゴンもついでに格闘家デビューしている。

ンバーだ。このとき、確かにPRIDEは最盛期を迎えていた。

〝最強路線〟のPRIDEに対し、『Dynamite!!』は〝お茶の間向け〟の強力なカードを用意してきた。曙の総合格闘技転向マッチである。しかも相手はホイス・グレイシー。いかにも『Dynamite!!』らしい破天荒なカードは、わずか123秒で終わる。曙はホイスをマットに倒したつもりが引き込まれ、腕を絡めとられてタップアウト。

この曙vsホイスをメインに、セミではボブ・サップvsジェロム・レ・バンナのミックスルールマッチ、秋山成勲のデビュー戦（相手は総合初挑戦のフランソワ・ボタ）と〝らしい〟カードが連発された『Dynamite!!』。第0試合としてボビー・オロゴンvsシリル・アビディ戦も行なわれている。バラエティ番組の企画で格闘技に挑戦し、意外なポテンシャルを見せた〝素人〟を本当にプロのリングに上げてしまう。そんな試合が成立したことも含め、FEGもまたこの年に〝らしさ〟の最盛期を迎えていたのだ。

ただ忘れてはいけないのは、この大会で魔裟斗vs山本〝KID〟徳郁戦も行なわれているということだ。階級もジャンルも違う両者だが、当時のKIDは70キロ級でも凄まじいインパクトを残していた。「KIDなら何かやるんじゃないか」、そんなムードがあったのは確かだ。

実際、試合はダウンの応酬という壮絶な展開になった。判定で魔裟斗が勝ったものの、KIDの株が下がったわけでもない。つまり、理想的な名勝負だったのである。そしてこの試合は、民放で最高となる31・6パーセントの瞬間視聴率を記録した。曙よりサップよりボビーより、〝世間〟が注目したのは優れたアスリート同士の闘いだったのだ。

ヒョードルvsノゲイラがメインで行なわれた『男祭り』。魔裟斗vsKIDが最高視聴率を獲得した『Dynamite!!』。やはりこの年、日本格闘技界は最盛期を迎えていた。

格闘技そのものの魅力で、言い換えるならコアな価値観で、世間との勝負に勝てていたのである。

試合結果／K-1 Premium 2004 Dynamite!!

[オープニングファイト 総合格闘技ルール 5分2R]
○ザ・プレデター vs クリストフ・ミドゥ“ザ・フェニックス”×
（1R 1分11秒 ネックロック）

[第0試合 総合格闘技ルール 3分3R]
×シリル・アビディ vs ボビー・オロゴン○
（3R終了 判定0-3）

[第1試合 総合格闘技特別ルール 5分3R]
○秋山成勲 vs フランソワ・“ザ・ホワイトバッファロー”・ボタ×
（1R 1分54秒 腕ひしぎ十字固め）

[第2試合 総合格闘技特別ルール 3分3R]
○宇野薫 vs チャンデット・ソーパンタレー×
（2R 0分19秒 チョークスリーパー）

[第3試合 総合格闘技ルール 5分3R]
×ドン・フライ vs 中尾芳広○
（3R終了 判定0-3）

[第4試合 K-1ルール 3分3R]
○レイ・セフォー vs ゲーリー・グッドリッジ×
（1R 0分24秒 TKO）

[第5試合 K-1ルール 3分3R]
○武蔵 vs ショーン・オヘア×
（2R 0分44秒 KO）

[第6試合 K-1ルール 3分3R]
○魔裟斗 vs 山本“KID”徳郁×
（3R終了 判定2-0）

[第7試合 総合格闘技ルール 5分3R]
○藤田和之 vs カラム・イブラヒム×
（1R 1分07秒 KO）

[第8試合 K-1＆総合格闘技MIXルール 1・3R3分K-1ルール、2・4R5分総合ルール]
△ボブ・サップ vs ジェロム・レ・バンナ△
（4R終了 ドロー）

[第9試合 総合格闘技ルール 10分2R]
×曙 vs ホイス・グレイシー○
（1R 2分13秒 リストロック）

試合結果／PRIDE 男祭り 2004 -SADAME-

[第1試合 1R10分、2-3R5分]
○美濃輪育久 vs ステファン・レコ×
（1R 0分27秒 かかと固め）

[第2試合 1R10分、2-3R5分]
×ジャイアント・シルバ vs チェ・ムベ○
（1R 5分47秒 肩固め）

[第3試合 1R10分、2-3R5分]
×安生洋二 vs ハイアン・グレイシー○
（1R 8分33秒 腕ひしぎ十字固め）

[第4試合 1R10分、2-3R5分]
○長南亮 vs アンデウソン・シウバ×
（3R 3分08秒 かかと固め）

[第5試合 1R10分、2-3R5分]
○瀧本誠 vs 戦闘竜×
（3R終了 判定3-0）

[第6試合 1R10分、2-3R5分]
×吉田秀彦 vs ルーロン・ガードナー○
（3R終了 判定0-3）

[第7試合 1R10分、2-3R5分]
○ミルコ・クロコップ vs ケビン・ランデルマン×
（1R 0分41秒 フロントチョークスリーパー）

[第8試合 1R10分、2-3R5分]
×近藤有己 vs ダン・ヘンダーソン○
（3R終了 判定1-2）

[第9試合 1R10分、2-3R5分]
○五味隆典 vs ジェンス・パルヴァー×
（1R 6分21秒 KO）

[第10試合 1R10分、2-3R5分]
×ヴァンダレイ・シウバ vs マーク・ハント○
（3R終了 判定1-2）

[第11試合 PRIDEヘビー級王座決定戦＆PRIDE GP 2004決勝戦 1R10分、2-3R5分]
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ×
（3R終了 判定3-0）

'05

興行

PRIDE 男祭り Dynamite!!

語録

ハッシモト！ ハッシモト!!

（PRIDE男祭りの観衆）

コア路線のPRIDEが視聴率でTBSを撃破

2004年から2005年にかけては、日本で格闘技が最も人気を博していた時期だと言っていいだろう。その充実ぶりは、いまから振り返ってみるとタメ息が出るほどだ。

2004年に魔裟斗vs山本〝KID〟徳郁という〝直球〟のカードが最高視聴率を記録した『Dynamite!!』は、この年のメインにシビアなカードを据えた。『HERO'S』ミドル級（70キロ）トーナメント決勝戦、須藤元気vsKIDである。実力は申し分なく、たぐい稀な〝華〟も持つ両者は、『HERO'S』の上質な部分を象徴するような存在。その二人がしっかりトーナメントを勝ち上がり、決勝で対戦するのだから、これ以上のカードはない。結果は1ラウンドでKIDがパンチによるKO勝ち。そのインパクトも含めて、やはり〝充実〟という言葉がふさわしい。

セミファイナルでは所英男がホイス・グレイシーと特別ルールで対戦し、判定なしのドローに。体重差があるだけにメチャクチャなカードともいえるが、同時に「もしかして」とも思わせる試合でもあった。実際、試合は所が体重差を感じさせない真っ向からの勝負でホイスに鼻血を出させている。〝企画倒れ〟にはならなかったのだ。

さらにK—1新旧王者対決であるアーネスト・ホーストvsセーム・シュルトも行なわれたこの大会。だがもちろん〝らしさ〟も存分に見せてくれた。ピーター・アーツとジェロム・レ・バンナが総合ルールに挑戦し、ヒース・ヒーリングvs中尾芳広戦では格闘技史上に残る〝KISS事件〟が起きる。きわめつけは〝元横綱対最強の素人〟と銘打たれた曙vsボビー・オロゴン。格闘技的な魅力もあれば、お茶の間への話題性もあり、としてマトモなファンなら「それ誰が得するんだ?」と言いたくなるようなカードまで。あらゆる意味で『Dynamite!!』らしい興行だった。

そんな『Dynamite!!』とは対照的なのがPRIDE……というのが常識だったが、この年の『男祭り』とフジテレビには、TBS格闘技に対して視聴率でも真っ向勝負しようという姿勢があった。

第0試合として、俳優の金子賢vsチャールズ・〝クレイジー・ホース〟・ベネット戦がマッチメイクされたのだ。いくら真剣に格闘技に取り組んでいるとアピールされても、金子は格闘技ファンがPRIDEに求めているものとはかけ離れた存在。そういう試合を組んでまで視聴率へのこだわり

TOPICS

中尾さん vs ヒーリング KISS 事件 !!

『Dynamite!!』で最も衝撃的結末を迎えたのがヒーリングvs中尾芳広だ。両者激しいにらみ合いの末に、興奮がMAXに達したのか、中尾はたまらず接吻。この予想外の挑発に怒りに震えたヒーリングは、反射的に中尾を右フックでぶん殴り、なんと中尾は病院送りとなってしまった。この試合はゴング前に対戦相手を殴ったとしてヒーリングの反則負けとなっていたが、その後、「過剰な挑発をした中尾選手にも非がある」として無効試合に。ちなみに、病室で目を覚ました中尾さんのケータイには大変な数の着信があったことがのちの取材であきらかになっている……。

ベネット vs シュートボクセ場外乱闘 !?

PRIDE男祭りに幻の12試合目が実現。控室で試合の様子を見ていたチャールズ・"クレイジー・ホース"・ベネットとシュートボクセ勢が、なんと壮絶な乱闘騒ぎを起こしていたのだ。この模様が撮影された動画では、ベネットがシュートボクセの柔術コーチ、クリスチャーノ・マルセロに飛びかかり、馬乗りになって殴りかかったが、最後には三角絞めで絞め落とされる様子が映っている。ネット上では「オレがヴァンダレイをKOした」というベネットのセリフが出回ったが、動画は絞め落とされたベネットの画でフェードアウト……。真相も気になるところだが、この男はやっぱりクレイジーだぜ。

を見せたわけだ。

ほかに大晦日の常連ジャイアント・シルバがジェームス・トンプソンと〝2メートル対決〟を行ない、エメリヤーエンコ・ヒョードルはズールと、桜庭和志は美濃輪育久と対戦。これらは大晦日でなければ実現しないカードだったはずだ。

もちろん、PRIDEらしい勝負論優先、実力重視の試合も多かった。菊田早苗vs瀧本誠、近藤有己vs中村和裕といった〝濃いめ〟のカード。ミルコ・クロコップはマーク・ハント（前年大晦日にはヴァンダレイ・シウバに勝利している）とヘビー級ストライカー最強決定戦で敗れ、シウバは夏のミドル級GPで屈辱を味わった相手ヒカルド・アローナとベルトを賭けて再戦。スプリット・デシジョンで辛くも勝利を収めている。このあたりの、観ていて胃が痛くなるような感覚を味わう闘いこそPRIDEの真骨頂だろう。ウェルター級GP決勝ではダン・ヘンダーソンがムリーロ・ブスタマンチを下し、ライト級GP決勝では五味隆典が桜井〝マッハ〟速人をKO。PRIDE10連勝で王座を獲得している。

こうしてPRIDEらしさと〝対世間・対TBS〟の両輪を用意した2005年の『男祭り』。メインではその両輪を兼ね備えた試合が行なわれている。吉田秀彦vs小川直也である。柔道の五輪メダリストにして明治大学の先輩と後輩、ともにプロのリングで活躍。共通点がありながら（いや、だからこそか）そりが合わないとも言われた両者の対決は、ヒリヒリするような緊張感と世間へのアピール度、ともに最大級だった。

試合は1ラウンド、小川が足を負傷したこともあって6分4秒で吉田が勝利（腕十字）。しかしPRIDEとフジテレビの〝勝負〟は実を結ぶことになった。平均視聴率は『Dynamite!!』16・8パーセントに対して『男祭り』14・8パーセント。一般的知名度のFEGとコアなファンの支持されるPRIDEという構図が崩れ、PRIDEが視聴率で上回ったのだ。このとき、PRIDEは名実ともに格闘技界の覇権を完全につかみ取ったのである。

試合結果／K-1 Premium 2005 Dynamite!!

[第1試合 HERO'Sルール 5分3R]
×ピーター・アーツ vs 大山峻護○
（1R 0分30秒 ヒールホールド）

[第2試合 HERO'Sルール 5分3R]
○ジェロム・レ・バンナ vs アラン・カラエフ×
（2R 1分14秒 KO）

[第3試合 HERO'Sルール 5分2R]
中尾芳広 vs ヒース・ヒーリング
（ノーコンテスト）

[第4試合 HERO'Sルール 5分2R]
○永田克彦 vs レミギウス・モリカビュチス×
（2R終了 判定3-0）

[第5試合 K-1ルール 3分3R]
○レミー・ボンヤスキー vs ザ・プレデター×
（3R終了 判定2-1）

[第6試合 K-1ルール 3分3R]
○武蔵 vs ボブ・サップ×
（3R終了 判定3-0）

[第7試合 K-1ルール 3分3R]
○魔裟斗 vs 大東旭×
（2R 1分58秒 TKO）

[第8試合 K-1ルール 3分3R]
○セーム・シュルト vs アーネスト・ホースト×
（2R 0分41秒 TKO）

[第9試合 HERO'Sルール 5分3R]
×曙 vs ボビー・オロゴン○
（3R終了 判定0-3）

[第10試合 HERO'S特別ルール 10分2R]
△ホイス・グレイシー vs 所英男△
（2R終了 ドロー）

[第11試合 HERO'Sミドル級世界最強王者決定トーナメント決勝戦 5分3R]
○山本"KID"徳郁 vs 須藤元気×
（1R 4分39秒 KO）

試合結果／PRIDE 男祭り 2004 -ITADAKI-

[PRIDEスペシャル・チャレンジマッチ 5分2R]
×金子賢 vs チャールズ・"クレイジー・ホース"・ベネット○
（1R 4分14秒 腕ひしぎ十字固め）

[第1試合 1R10分、2-3R5分]
×近藤有己 vs 中村和裕○
（3R終了 判定0-3）

[第2試合 1R10分、2-3R5分]
○ジェームス・トンプソン vs ジャイアント・シルバ×
（1R 1分28秒 KO）

[第3試合 1R10分、2-3R5分]
×瀧本誠 vs 菊田早苗○
（3R終了 判定0-3）

[第4試合 1R10分、2-3R5分]
○エメリヤーエンコ・アレキサンダー vs パウエル・ナツラ×
（1R 8分45秒 裸絞め）

[第5試合 1R10分、2-3R5分]
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ズール×
（1R 0分26秒 KO）

[第6試合 PRIDE GP 2005 ウェルター級トーナメント決勝戦 1R10分、2R5分]
○ダン・ヘンダーソン vs ムリーロ・ブスタマンチ×
（2R終了 判定2-1）

[第7試合 PRIDE GP 2005 ライト級トーナメント決勝戦1R10分、2R5分]
○五味隆典 vs 桜井"マッハ"速人×
（1R 3分56秒 KO）

[第8試合 1R10分、2-3R5分]
○桜庭和志 vs 美濃輪育久×
（1R 9分39秒 TKO）

[第9試合 1R10分、2-3R5分]
×ミルコ・クロコップ vs マーク・ハント○
（3R終了 判定1-2）

[第10試合 PRIDEミドル級タイトルマッチ 1R10分、2-3R5分]
○ヴァンダレイ・シウバ vs ヒカルド・アローナ×
（3R終了 判定2-1）

[第11試合 1R10分、2-3R5分]
○吉田秀彦 vs 小川直也×
（1R 6分04秒 腕ひしぎ十字固め）

'06

興行

PRIDE男祭り Dynamite!!

語録

え？ じゃあミノワマンで出てくるんですか……？

（田村潔司）

世紀の大騒動、秋山のクリーム塗布事件勃発

最後の『PRIDE男祭り』のサブタイトルは〝FUMETSU〟と最終回を暗示するものとなっていた。

この年の6月、K−1をも視聴率でしのぎ人気絶頂だったPRIDEは、フジテレビから突然中継を打ち切られ、一転して奈落の底に叩き落とされた（『週刊現代』報道に端を発するコンプライアンスの問題と言われているが、フジテレビは理由をあきらかにしていない）。

10月には起死回生のラスベガス進出。アメリカという巨大市場に活路を見いだしたが、UFCやボードッグ（懐かしい！）の勢力は強まるばかり。

この大晦日に地上波中継の再獲得がなければ、ますます苦境に立たされることは明白。そのようなシチュエーションで大会運営を迫られていたのだ。

そのためこの年は例年以上にあらゆる怪情報が飛びまくった。「テレビ朝日のPRIDE放映説」は根強く流布されたが、テレビ朝日に近い関係者は「現場レベルではそんな話はない」と否定。また、地上波獲得を妨害するためなのか「PRIDEの名刺を持った人間が暴力沙汰を起こした」という不思議なニュースも関係者間を駆けめぐった。

カード編成も苦戦。当初は世間へのアピールカードとして吉田秀彦vsフランシスコ・フィリォが内定していたが、最終決定には至らず、対戦相手が二転三転した吉田秀彦は、調整不充分のままジェロム・トンプソンに玉砕する。

結局、大晦日『PRIDE男祭り』というキラーコンテンツをもってしても地上波の再獲得がならなかったことが、ドリームステージエンターテインメントのPRIDE運営撤退を決断させたとも言われる。また大会当日には、PRIDE繁栄の立役者だったミルコ・クロコップのUFC参戦が電撃発表されたこともファンに大きなショックを与えた。一つの時代は確実に幕を降ろしたのだった。

そんな苦しい1年を象徴するかのようなネガティブな事件で06年の大晦日は締めくくられる。『Dynamite!!』桜庭和志vs秋山成勲で勃発した〝ヌルヌル事件〟である。

この試合の最中、桜庭は秋山の身体が異様にすべることを指摘。タックルやサブミッションを容易に取られないように、秋山がオイルやクリームを身体に塗っているのではないか？ というものだ。

桜庭は「タイムポーズ」で試合の中断を求めたが、攻防中ということなのか、レフェリーは取り合わずに試合は続行。そのまま秋山はパウンド連打でTKO勝ちを収めるが、桜庭は殴られながらも「すべるって！」と絶叫。試合後も秋山の身体を指差しながら抗議するという異常事態となった。

行為が確定すると、秋山陣営セコンドの「すべらせろ！（すべるようにローキックを打て）」という指示をもって確信犯

をえないものが多発していた。

この件を受けてジャッジ陣は試合前のボディチェック等の厳守を宣言する

TOPICS

美濃輪育久、ミノワマンに改名！

いまではすっかりおなじみになっている「ミノワマン」という名前。改名されたのはじつはこの年の『PRIDE男祭り』からだった。改名の理由は「自分自身が超人になる、その手段としてリングネームを変えます」と話しており、そのリングネームこそが「ミノワマン」ということなのだ。改名後、初の対戦相手だった田村潔司はキョトンとした表情で「じゃあ、『ミノワマン』で出てくるの？」と疑問符だらけ。その後、現在でも「ミノワマン」で闘い続け、3年後の大晦日にはハルク王者になってるんだから、もう凄いとしか言いようがないです。

須藤元気、突然の引退表明！

KID、所英男、宇野薫らとともに『HERO'S』軽量級を牽引した須藤元気が、『Dynamite!!』のリング上で突然の引退表明。あまりに突然だったので、観客も「まさか」というリアクションだったのだが、引退の理由については「(KIDにKOで負けたとき)神の啓示があった。天の声はどこにでも存在する」と早くも元気ワールド。その後、小説家、アーティストとして幅広く活躍し、DREAMライト級GPでは復帰の期待が最高潮に高まるも、現在も復帰予定はなし。というか、最近はアブダクション経験のあるUFO研究家としても活躍しており、違った意味で目が離せない存在となっている。

「すべるって！」と絶叫。試合後も秋山の身体を指差しながら抗議するという異常事態となった。

桜庭の抗議を受け、秋山サイドは身体に何も塗っていないと潔白を主張。しかし、その後の調査でまさに試合直前、保湿クリームを身体にまんべんなく塗っている秋山の姿をカメラが撮影していることがわかった。証拠映像を突きつけられた秋山は反則を認め、謝罪会見を開いて自分の非を詫びた（多汗症のための保湿クリームであり故意ではなかったとのこと）。

この事件で大騒ぎになったのはウェブ上だ。試合直後から各BBS、ブログ等は秋山への非難で大炎上。秋山の反則行為が確定すると、秋山陣営セコンドの「すべらせろ！（すべるようにローキックを打て）」という指示をもって確信犯とする声や、また秋山のグローブに金属を仕込んだという説まで流れるなど、バッシングが止まることはなく、はては大会スポンサーへの抗議活動にまで発展。スポンサーから撤退する企業も現われてしまった。

ここまで大炎上となってしまった原因には、柔道家時代から秋山へ対する反則疑惑（柔道着に細工をするなど）があったこと。また、ファンのFEGに対する競技的不信がついに爆発した結果でもなかったか。FEG系イベントの判定、レフェリングは正直、首を傾げざるをえないものが多発していた。

この件を受けてジャッジ陣は試合前のボディチェック等の厳守を宣言するも、次回大会の『HERO,S』第1試合でメルヴィン・マヌーフが足に松ヤニを塗ったままリングに上がっていたことが試合直前に発覚。リングに上げる前に気がつかないのか、「ほらほら、ちゃんとやってますよ～！」というパフォーマンスなのか……どちらにせよ、あきれてモノが言えないのである。

というわけで、2006年大晦日はPRIDE終焉と秋山の反則がキーワードとなったが、まさか翌年の大晦日につながるとは誰も予想だにしなかっただろう──。

試合結果／K-1 Premium 2006 Dynamite!!

[オープニングファイト HERO'Sルール 5分3R]
×キム・ドンウック vs 内藤征弥○
(3R 1分11秒 タップアウト)

[第0試合 HERO'Sルール 5分3R]
×金子賢 vs アンディ・オロゴン○
(3R終了 判定0-3)

[第1試合 HERO'Sルール 5分3R]
○永田克彦 vs 勝村周一朗×
(1R 4分12秒 TKO)

[第2試合 HERO'Sルール 1R10分、2R5分]
×石澤常光 vs 金泰泳○
(1R 2分48秒 KO)

[第3試合 HERO'Sルール 5分3R]
○所英男 vs ホイラー・グレイシー×
(3R終了 判定3-0)

[第4試合 HERO'Sルール 5分3R]
×曙 vs ジャイアント・シルバ○
(1R 1分02秒 アームロック)

[第5試合 K-1ルール 3分5R]
○バダ・ハリ vs ニコラス・ペタス×
(2R 1分28秒 TKO)

[第6試合 K-1ルール 3分5R]
○武蔵 vs ランディ・キム×
(3R 0分33秒 KO)

[第7試合 K-1ルール 3分5R]
○セーム・シュルト vs ピーター・グラハム×
(5R終了 判定3-0)

[第8試合 HERO'Sルール 5分3R]
○須藤元気 vs ジャクソン・ページ×
(1R 3分05秒 三角絞め)

[第9試合 HERO'Sルール 5分3R]
○山本“KID”徳郁 vs イストバン・マヨロシュ×
(1R 3分46秒 KO)

[第10試合 HERO'Sルール 5分3R]
○チェ・ホンマン vs ボビー・オロゴン×
(1R 0分16秒 TKO)

[第11試合 K-1ルール 3分5R]
○魔裟斗 vs 鈴木悟×
(2R 2分22秒 KO)

[第12試合 HERO'Sルール 1R10分、2R5分]
秋山成勲 vs 桜庭和志
(ノーコンテスト)

試合結果／PRIDE 男祭り 2004 -FUMETSU-

[第1試合 1R10分、2-3R5分]
○田村潔司 vs ミノワマン×
(1R 1分18秒 KO)

[第2試合 1R10分、2R5分]
○青木真也 vs ヨアキム・ハンセン×
(1R 2分04秒 トライアングルチョーク)

[第3試合 1R10分、2R5分]
○郷野聡寛 vs 近藤有己×
(2R終了 判定2-1)

[第4試合 1R10分、2-3R5分]
○マウリシオ・ショーグン vs 中村和裕×
(3R終了 判定3-0)

[第5試合 1R10分、2R5分]
×川尻達也 vs ギルバート・メレンデス○
(2R終了 判定0-3)

[第6試合 1R10分、2-3R5分]
○藤田和之 vs エルダリ・クルタニーゼ×
(1R 2分08秒 KO)

[第7試合 1R10分、2R5分]
○五味隆典 vs 石田光洋×
(1R 1分14秒 KO)

[第8試合 1R10分、2-3R5分]
×吉田秀彦 vs ジェームス・トンプソン○
(1R 7分50秒 TKO)

[第9試合 1R10分、2-3R5分]
×ジョシュ・バーネット vs
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ○
(3R終了 判定0-3)

[第10試合 ヘビー級タイトルマッチ
1R10分、2-3R5分]
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs
マーク・ハント×
(1R 8分16秒 羽根折り固め)

'07

興行

PRIDE 男祭り Dynamite!!

語録

「今日、試合をしておまえの心が俺に届いた」「……？」

（三崎和雄 vs 秋山成勲）

ケジメのイベント『やれんのか！』大爆発！

2007年の12月31日は、ゼロゼロ年代における恒例かつMMAブームの象徴となっていた〝大晦日の格闘技祭り〟とはやや意味合いを異にする一日であった。

前年に地上波放送を打ち切られたことにより、イベント規模の縮小を余議なくされていたPRIDEが、興行権の譲渡を発表したのは2007年3月27日のことだった。譲渡先はいまをときめくUFCの主催会社、ズッファである。

しかしながら新体制によるPRIDEは始動することができず、ズッファ社は協力不足を理由にPRIDE日本事務所の閉鎖と、スタッフの全解雇を決行する。つまりはズッファ社が権利を保有したまま運営を断念したため、MMAイベントとしてのPRIDEは事実上、この時点で消滅したのだ。

PRIDEという〝戦場〟を失なった選手たちの多くは、当然ながら他団体へと流れていった。だがそのなかでもPRIDEにこだわり、UFCや『HERO'S』といった興行スタイルの異なるMMAイベントへの参戦をよしとしなかった選手たちと、かつてPRIDEを創りあげた運営スタッフにより、この年の大晦日、〝最後のPRIDE〟として『やれんのか！　大晦日！　2007』が開催される。このイベントが例年における〝祭典〟とは異なる、〝けじめ〟と〝幕引き〟という特別な主旨をもっていた。

さらに『やれんのか！』が異質であったのは、『Dynamite!!』との協力開催として行なわれたことだ。言うまでもなく『Dynamite!!』はFEG主催のMMAイベントである『HERO'S』、およびK−1の〝年末祭典〟として例年開催されている格闘技イベントであり、PRIDEの『男祭り』シリーズとはライバル関係にあった。『やれんのか！』は権利問題からPRIDEという名称を冠しておらず、さらに地上波放送もないイベントであったとはいえ、このニュースは〝格闘技界の大連立〟として業界とファンを大きく騒がせることとなる。

その具体的な協力内容とは、FEGから2名の選手を『やれんのか！』へ派遣し、試合を『Dynamite!!』の地上波放送枠で流すという異例のものだった。が、真に人々を驚かせたのは、派遣された選手の一人が、あの秋山成勲であったことだ。

ある意味では2007年の格闘技界において、秋山はPRIDEの消滅よりも注目を集めた存在であったかもしれない。彼が2006年の大晦日に引き起こした〝ヌルヌル事件〟、すなわち桜庭

カードでもあった。

人々がこの闘いに期待を寄せたかと

山が倒されれば大歓声が上がる。そして

三崎が秋山を蹴り倒したその瞬間、会場

TOPICS

前田日明、トロフィー投げつけ事件!!

吹き飛ばされんばかりの強烈なミドルキックに加え、最後はアームバーという圧倒的勝利で所英男との“U対決”を制した田村潔司。しかし、田村の闘いぶりが前田日明の怒りに火をつけてしまった……。（運悪く）この試合のプレゼンターを務めた前田はリングに上がるやいなや、いきなり「カッコつけんな！」と田村にトロフィーを投げつける暴挙！　この理不尽すぎる行為に田村は「なんなんすか！」と噛みつくも、前田は怒りに震えながらさっさとリングを降りてしまう始末。なんともザワっとさせる一幕だが、ひさびさの日明兄さん節に一部ファンはときめいたとか、ときめかなかったとか？

ミルコ、『ハッスル』で金ちゃんKO！

PRIDEが事実上消滅したこの年、PRIDEの象徴だったヒョードルの『やれんのか！』参戦が発表され、マット界は期待感MAXとなっていたが、さらにUFCに移籍したミルコも大晦日に帰ってくるというからもうお祭り状態。しかし、そのミルコが参戦したのはなんと『ハッスル』！　『ハッスル・ウェポンマッチ』の“ウェポン”として登場したミルコは、金村キンタローに強烈なハイキックをお見舞いするという素晴らしいウェポンぶりを披露。そのおかげで金ちゃんがマジ失神してしまうという事態まで起きてしまったから、その破壊力にまだまだ幻想を抱くばかりであった。もちろんノーガードで受け身をとった金ちゃんにも脱帽！

ない。彼が2006年の大晦日に引き起こした〝ヌルヌル事件〟、すなわち桜庭和志との試合において行なったクリーム塗布による勝利失効は、いちスポーツの反則行為としては前代未聞といえるほどの反響を呼び、社会現象と呼べるレベルにまで発展していたのだ。

しかも秋山の対戦相手として発表されたのは、PRIDE最後のウェルター級王者、三崎和雄である。PRIDEと『HERO'S』の頂上対決にして、ヒールとベビーフェイスのわかりやすい対立という勝負論にあふれたカードだが、PRIDEを見送るために用意された『やれんのか！』という舞台のなかで唯一、テーマにまったくそぐわない異質なカードでもあった。

人々がこの闘いに期待を寄せたかといえば、むしろ試合そのものに対する否定と嫌悪のほうが目立っていたというのが実際のところである。2007年の秋山はヒールというよりもただの〝嫌われ者〟にすぎず、多くのファンから「試合すら観たくない」と吐き捨てられるような存在だったのである。

ところが『やれんのか！』当日、秋山と三崎の試合は、ほかのどんな試合よりも観客をエキサイトさせたのだ。秋山に対する怒号のようなブーイングと、遠目にも見てとれるほど緊張した三崎の姿により、会場の意識はまたたく間に一つとなった。三崎が倒されれば悲鳴が、秋山が倒されれば大歓声が上がる。そして三崎が秋山を蹴り倒したその瞬間、会場は過去のPRIDEにも類を見ないほどの熱狂に包まれたのである。

間違いなくこの日、秋山は場を盛り上げるヒールとして最高の存在だった。そして多くの観客もまた、秋山に対して〝気が済んだ〟のである。周知のとおりこの試合は後日ノーコンテストとなり、またしても〝秋山問題〟は再燃することとなるが、あくまでもこの『やれんのか！』の日だけは〝魔王討伐物語〟が完全に成立していたことを忘れてはならない。そしてそのインパクトは、〝PRIDEの最終回〟をも食ってしまうほどのものだったのである。

試合結果／K-1 Premium 2007 Dynamite!!

[K-1甲子園リザーブファイト 3分3R]
○村越凌 vs 藤本新×
(1R 2分00秒 KO)

[オープニングファイト K-1ルール 3分3R]
○立川隆史 vs 井上由久×
(1R 1分43秒 KO)

[第1試合 K-1甲子園1回戦 3分3R]
○HIROYA vs 才賀紀左衛門×
(3R終了 判定3-0)

[第2試合 K-1甲子園1回戦 3分3R]
×久保賢司 vs 雄大○
(3R終了 判定0-3)

[第3試合 HERO'Sルール 5分3R]
×宮田和幸 vs ヨアキム・ハンセン○
(2R 1分33秒 チョークスリーパー)

[第4試合 HERO'Sルール 1R10分、2R5分]
×西島洋介 vs メルヴィン・マヌーフ○
(1R 1分49秒 KO)

[第5試合 HERO'Sルール 5分3R]
×ミノワマン vs ズール○
(3R 2分13秒 TKO)

[第6試合 HERO'Sルール 5分3R]
○田村潔司 vs 所英男×
(3R 3分08秒 アームバー)

[第7試合 K-1甲子園決勝戦 3分3R]
×HIROYA vs 雄大○
(延長R終了 判定1-2)

[第8試合 K-1ルール 3分3R]
○武蔵 vs ベルナール・アッカ×
(3R 1分26秒 KO)

[第9試合 K-1ルール 3分3R]
○ニコラス・ペタス vs キム・ヨンヒョン×
(2R 0分41秒 TKO)

[第10試合 K-1ルール 3分3R]
○魔裟斗 vs チェ・ヨンス×
(3R 0分51秒 TKO)

[第11試合 HERO'Sルール 5分3R]
○ボブ・サップ vs ボビー・オロゴン×
(1R 4分10秒 KO)

[第12試合 HERO'Sルール 5分3R]
○山本“KID”徳郁 vs ハニ・ヤヒーラ×
(2R 3分11秒 KO)

[第13試合 HERO'Sルール 1R10分、2R5分]
○桜庭和志 vs 船木誠勝×
(1R 6分25秒 チキンウィングアームロック)

試合結果／やれんのか! 大晦日! 2007 Supported by M-1 GLOBAL

[第1試合 5分2R]
×ローマン・ゼンツォフ vs マイク・ルソー○
(1R 2分58秒 前方裸絞め)

[第2試合 1R10分、2R5分]
○川尻達也 vs ルイス・アゼレード×
(2R終了 判定3-0)

[第3試合 1R10分、2R5分]
○瀧本誠 vs ムリーロ・ブスタマンチ×
(2R終了 判定2-1)

[第4試合 1R10分、2R5分]
○石田光洋 vs ギルバート・メレンデス×
(2R終了 判定3-0)

[第5試合 1R10分、2R5分]
秋山成勲 vs 三崎和雄
(ノーコンテスト)

[第6試合 1R10分、2R5分]
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs チェ・ホンマン×
(1R 1分54秒 腕ひしぎ十字固め)

[第7試合 1R10分、2R5分]
○桜井“マッハ”速人 vs 長谷川秀彦×
(2R終了 判定3-0)

[第8試合 1R10分、2R5分]
○青木真也 vs チョン・ブギョン×
(2R終了 判定3-0)

'08

興行

Dynamite!!

語録

この名前でずっとやってきているので変えるつもりもないし、何に変えたらいいのかもよくわかりません（森昭生）

桜庭vs田村、5年越しの実現！

この年にようやく実現した〝宿命の対決〟桜庭和志vs田村潔司は、PRIDEが遺した〝最後の忘れ物〟だった。

黄金期のPRIDEが全勢力を挙げてもついに組むことができなかったこのカード。初めて対戦プランが浮上した2003年の大晦日以降、年末のたびにこの一戦の動向が取りざたされたことによって、いつのまにかスーパーカードへと昇格していったところもある。

もちろんUWFを源流とする二人のドラマはそれ以前から紡がれてきたし、日本格闘技界の一つの終着点ともいえるが、このカードはテレビ戦争の混沌のなかからその価値を高めていった。03年大晦日の三派分裂格闘技興行戦争の際、大会直前までカード編成に苦しむPRIDEが逆転の一手として実現に奔走。『Dynamite!!』が打倒・紅白歌合戦の切り札として、曙vsボブ・サップを投下するなか、PRIDEは格闘技のストレートな世界観を打ち出すために桜庭vs田村の持つドラマに懸けようとした。『猪木祭り』側との選手争奪戦で疲労してしまってほかに有力な手駒がなかった背景もあるが、あのときのPRIDEに残された希望が桜庭vs田村だけ。

その後、桜庭vs田村の実現はPRIDEのライフワークと呼べるものとなり、そのためにPRIDEはU-STYLE Axisなる田村潔司主役のU系イベントまで主催したほど（それでも田村は受諾しなかった。田村から言わせれば、それは瀧本誠戦の条件だったらしい）。

あらゆる場面で放たれるPRIDEの恐るべき執念——。しかし、その思いが成就したのはPRIDEの崩壊後。『Dynamite!!』のリングだった。

「田村vs桜庭は今年（2005年）が賞味期限ギリギリ」（髙田本部長）

あの発言から3年の月日が経ち、両者の全盛期はすぎ、そこには最先端のMMAムーブも、そしてUWFのエッセンスも感じ取れなかった。

しかし、その一方で「これでよかった」という妙な満足感があるのも事実だ。UWFという運動体、格闘家の春夏秋冬——。対戦が先送りされたことによって目に飛び込んできた真実もある。

桜庭vs田村は試合そのものよりも03年から始まった（Uインター全盛期からでもいいが）二人の周囲を含めた群像劇を時代の鏡として見るべきものなのだろう。両雄の師である髙田延彦が立ち会わなかったことも含めて——。

試合結果／Dynamite!!～勇気のチカラ2008～

[K-1甲子園リザーブマッチ K-1甲子園ルール 3分3R]
×佐々木大蔵 vs 平塚大士○
（2R 1分00秒 KO）

[第1試合 無差別級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
○ミノワマン vs エロール・ジマーマン×
（1R 1分01秒 足首固め）

[第2試合 K-1甲子園準決勝 K-1甲子園ルール 3分3R]
○卜部功也 vs 日下部竜也×
（3R 2分29秒 TKO）

[第3試合 K-1甲子園準決勝 K-1甲子園ルール 3分3R]
○HIROYA vs 嶋田翔太×
（3R終了 判定3-0）

[第4試合 K-1ミドル級 K-1ルール 3分3R]
×佐藤嘉洋 vs アルトゥール・キシェンコ○
（3R終了 判定0-2）

[第5試合 DREAMライト級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
×所英男 vs 中村大介○
（1R 2分43秒 腕ひしぎ十字固め）

[第6試合 DREAMウェルター級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
×坂口征夫 vs アンディ・オロゴン○
（1R 3分52秒 KO）

[第7試合 K-1甲子園決勝戦 K-1甲子園ルール 3分3R]
×卜部功也 vs HIROYA○
（延長R終了 判定0-3）

[第8試合 DREAMヘビー級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
×キン肉万太郎 vs ボブ・サップ○
（1R 5分22秒 TKO）

[第9試合 DREAMヘビー級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
○セーム・シュルト vs マイティ・モー×
（1R 5分31秒 三角絞め）

[第10試合 DREAMウェルター級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
○桜井“マッハ”速人 vs 柴田勝頼×
（1R 7分01秒 TKO）

[第11試合 K-1ミドル級 K-1ルール 3分3R]
×武田幸三 vs 川尻達也○
（1R 2分47秒 KO）

[第12試合 無差別級 K-1ルール 3分3R]
×バダ・ハリ vs アリスター・オーフレイム○
（1R 2分02秒 KO）

[第13試合 DREAMヘビー級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
○ミルコ・クロコップ vs チェ・ホンマン×
（1R 6分32秒 KO）

[第14試合 無差別級 K-1ルール 3分3R]
×武蔵 vs ゲガール・ムサシ○
（1R 2分32秒 KO）

[第15試合 DREAMヘビー級 DREAM特別ルール 5分3R]
○メルヴィン・マヌーフ vs マーク・ハント×
（1R 0分18秒 KO）

[第16試合 DREAMライト級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
○青木真也 vs エディ・アルバレス×
（1R 1分32秒 かかと固め）

[第17試合 DREAMミドル級 DREAMルール 1R10分、2R5分]
○田村潔司 vs 桜庭和志×
（2R終了 判定3-0）

'09

興行
Dynamite!!

語録
技の名前は笹原圭一2010（青木真也）

FEGと戦極が合同興行も……

本来ならば『Dynamite!!』がさいたまスーパーアリーナで、『戦極』が有明コロシアムで開催されるはずだった2009年の大晦日。が、事態は信じられない方向へと転がっていく……。

両イベントは早々にメインカードを発表。『Dynamite!!』は魔裟斗の引退試合が内定しており、『戦極』は吉田秀彦vs石井慧という柔道金メダリスト対決を用意するも、11月上旬頃より驚ガクの噂が業界中を駆けめぐる――。

『戦極』が大晦日撤退、そしてそのまま『Dynamite!!』に合流する、という説である。

実際にこの噂は現実のものとなり、11月下旬、一枚のFAXが各マスコミにリリースされた。

「今回の戦極イベントは好カードが予定されておりますため、現在人気が殺到し、有明コロシアムでは収容しきれない可能性もあり、別の大きな会場を調整中であります」

差出人の名義は設立当初より『戦極』の顔として広報業務に携わってた國保氏ではなかった。じつは國保氏は同イベントを運営するワールドビクトリーロードの取締役を辞任しており、國保氏が代表を務めるジェイロックがマネージメントするファイター、つまり『戦極』を支えてきた吉田道場勢もそのリングから距離を置くことになる。

ただ、そもそも『戦極』はなぜ大晦日撤退を選んだのか。

そこには複合的な理由はあるのだろうが、おおまかに言えば、魔裟斗引退以外の目玉カードを狙う『Dynamite!!』と、吉田秀彦vs石井慧をもってしても地上波獲得がかなわなかった『戦極』の思惑が合致したのだろう。

この『戦極』の合流によって視聴率対策の万全を期した『Dynamite!!』だが、思わぬトラブルを誘発してしまう。

両団体の全面対抗戦で勃発した青木真也の腕折り中指事件である。

青木真也はDREAM陣営主導のもと川尻達也とライト級のタイトルマッチを行なうことが内定していたが、『戦極』側は両者の対抗戦出陣をFEGサイドに要請。当初DREAMサイドは難色を示したものの、FEGと『戦極』に押し切られるかたちで青木と川尻は対抗戦へ出陣することに。対抗戦のカード発表会見における両者の冷めきった態度は舞台裏の“政治”を感じさせるものだった。そして大晦日史上に残る惨劇が……。

試合結果／Dynamite!!~勇気のチカラ2009~

[オープニングファイト K-1甲子園リザーブファイト K-1甲子園ルール 3分3R]
○藤門嘩裟 vs 日下部竜也×
(3R終了 判定2-0)

[第1試合 K-1甲子園準決勝 K-1甲子園ルール 2分3R]
×HIROYA vs 野杁正明○
(3R終了 判定0-3)

[第2試合 K-1甲子園準決勝 K-1甲子園ルール 2分3R]
○嶋田翔太 vs 石田勝希×
(3R終了 判定2-0)

[第3試合 スーパーハルクトーナメント~世界超人選手権~決勝戦 5分3R]
○ミノワマン vs ソクジュ×
(3R 3分29秒 TKO)

[第4試合 K-1ヘビー級 K-1ルール 3分3R]
×西島洋介 vs レイ・セフォー○
(3R終了 判定0-3)

[第5試合 K-1甲子園決勝戦 K-1甲子園ルール 2分3R]
○野杁正明 vs 嶋田翔太×
(3R終了 判定3-0)

[第6試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
×柴田勝頼 vs 泉浩○
(3R終了 判定0-3)

[第7試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
×高谷裕之 vs 小見川道大○
(1R 2分54秒 TKO)

[第8試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
×桜井“マッハ”速人 vs 郷野聡寛○
(2R 3分56秒 腕ひしぎ十字固め)

[第9試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
○メルヴィン・マヌーフ vs 三崎和雄×
(1R 1分49秒 TKO)

[第10試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
○所英男 vs キム・ジョンマン×
(3R終了 判定3-0)

[第11試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
○川尻達也 vs 横田一則×
(3R終了 判定3-0)

[第12試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
×山本“KID”徳郁 vs 金原正徳○
(3R終了 判定0-3)

[第13試合 雷電杯 5分3R]
○吉田秀彦 vs 石井慧×
(3R終了 判定3-0)

[第14試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
○アリスター・オーフレイム vs 藤田和之×
(1R 1分15秒 KO)

[第15試合 DREAMヘビー級 5分3R]
○ゲガール・ムサシ vs ゲーリー・グッドリッジ×
(1R 1分34秒 TKO)

[第16試合 DREAMvsSRC対抗戦 5分3R]
○青木真也 vs 廣田瑞人×
(1R 2分17秒 アームロック)

[第17試合 魔裟斗引退試合 K-1ルール 3分5R]
○魔裟斗 vs アンディ・サワー×
(5R終了 判定3-0)

来年はいい年でありますように!!

俺たちの格闘技界2010年変態座談会

毎月毎月『加賀屋』で飲みながら語りまくってきた変態座談会もこれが2010年最後の開催。
というわけで、今回はおなじみ変態メンバーが2010年の格闘技界を一気に振り返ります。
つらいことが多い年だったけど、来年はいいことありますよーに!

構成/堀江ガンツ

ガンツ　え～、早いもので今回は今年最後の変態座談会。というわけで〝変態忘年会〟として、2010年の格闘技界を振り返っていこうと思います！

玉袋　もう年末かよ、はええなあ。

椎名　正月には〝変態新年会〟っていうのもやったよね？

ガンツ　やりましたね。昨年大晦日の〝中指問題〟をおおいに語り合って。

玉袋　でもよ、2010年を振り返ろうにも、まだ今年は大晦日の概要が決まってねえから、着地点がわかんねえんだよな。

椎名　今年こそホントの「やれんのか！」だよね（笑）。

ガンツ　本日12月2日現在、『Dynamite!!』の決定カードはたった一つですから（笑）。

玉袋　おいおい、嘘だろ？　ここまで引っぱるのが芸ならいいよ。でも、芸じゃなかったら、舞台に出てきてなんにもしゃべらない南州太郎と一緒だよ。あれ、セリフ忘れてるだけだから。

椎名　相当顔がおもしろくないと成り立たない（笑）。まあ、このカード発表の異常な遅れが、2010年格闘技界の迷走ぶりを象徴してる気はするけどね。

玉袋　そうだよな～。でも、運営側も大変なんだろ。昨日『ぴったんこカンカン』の収録後、小林くんっていうスタッフからメールがあったんだけどさ、「今日はお疲れさまでした。いま、玉さんと別れたあと、K-1の谷川さんを見かけました。ずいぶんとお疲れの様子でした」って書いてあったんだよ。格闘技に興味ない人なんだけど、疲れた顔でこの寒いなか赤坂界隈を歩いてる谷川さんを見たって。

ガンツ　谷川さんもいろいろ大変なんでしょうね。

玉袋　中国の投資銀行話が聞こえてこねえのがいけねえのかな。あれがまとまらないのは尖閣諸島問題から始まった日中関係のせいにしちまおう！　カードが決まらないことから何から。なんか振り返るどころじゃねえ気分だよ。

ガンツ　でも、振り返っていくうちに、いまの大変な状況になった流れに気づくかもしれませんからね。そもそも去年の〝中指事件〟だって、ドン・キホーテのスポンサードを受けるためのSRCとの対抗戦で、青木の感情が爆発しちゃったわけですから。

椎名　でも、去年の『Dynamite!!』はいま思えば素晴らしい興行だったよね。

玉袋　青木の中指をあれだけ賞賛した人は椎名先生以外にいないよ（笑）。

椎名　青木の腕折り、年越しソバ食べながら観てたら、びっくりして鼻からソバが出てきちゃったからね。

玉袋　マンモス西の鼻からうどん野郎ならぬ、ソバ野郎だったよ！

玉袋　あとは『日刊スポーツ』に「石井弱かった」と書かれた、石井慧のデビュー戦もあったしな。

ガンツ　思えば、あのデビュー戦での大コケが今年の格闘技界の停滞感の原因かもしれないですね。デビュー戦でインパクトある勝ちを挙げて、その後もDREAMのゴールデンタイムで活躍してたら、全然違ったんでしょうけど。

大晦日のカードが決まらねえから一年を振り返る気にもなれねえよ

玉袋　それはあるなあ。石井に勝った吉田秀彦は『アストラ』って興行であっさり引退しちまうしよ。『アストラ』って最初聞いたとき、ウルトラマンレオの弟？　って思ったよ！

ガンツ　で、2010年最初の大一番は、我らが五味隆典のUFCデビューだったんですけど、これまた残念な結果で……。

玉袋　なんか春頃はショックばっかり受けてた気がするよ。五味の前には（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラも（ケイン・）ヴェラスケスにKO負け食らってるしよ。

ガンツ　そんな追い込まれた雰囲気のなか、4月に青木真也が日本を背負ってアメリカに乗り込んだわけですけど……。

椎名　中指野郎がメレンデスを折って、中指の本場のアメ公に中指立ててくれると思ったら……。

玉袋　そうはならなかったな～。だからよ、春ぐれえは毎回、燃えて応援して、毎回ガックリ落ち込んでたような気がする。感情の起伏が凄いんだよ。

椎名　藤田朋子か中森明菜か、っていうくらい（笑）。

玉袋　玉置浩二的な躁鬱ね（笑）。こっちもなかなか精神安定しねえんだよ。ただ、髙田vsヒクソン戦の頃から俺たちはマゾでもあるからよ、そういった負けた悔しささえもドラマに必要だとは思うんだけど、最近はなんかそのドラマがつながらねえんだよな。

椎名　大晦日の青木vsメレンデス再戦も流れちゃったんでしょ？

ガンツ　発表寸前までいきながら、結局、流れちゃいましたね。もうリベンジのためには、向こうに行かなきゃ無理なんでしょうね。

玉袋　兵糧攻めされてる感じだよな。じゃあ、第二次世界大戦と一緒だよ。ABCD包囲網ってヤツだ。これはもう日本軍が打って出るしかねえんだよな。

椎名　でも、打って出たけど青木が負けちゃったことで、いきなり終戦ムードになっちゃってたけどね。

玉袋　真珠湾攻撃に失敗してんだもんな。

ガンツ　あのときナッシュビルで青木が勝ってたら、ムード的にまったく違ってたんですけどね。

玉袋　そうだよ。逆にメレンデスが日本に青木を追っかけてきただろうし、ダナも歯ぎしりしてたんだろうけどな。

椎名　だから、やっぱり格闘技は凄い世界だよね。なんだかんだ言って、勝ったヤツが総取りできるから。去年の大晦日に石井が吉田に勝って、ナッシュビルで青木がメレンデスに勝ってたら、全然いまの状況が違ってたんだもん。

玉袋　あの1敗はデカかったな。4

椎名基樹
1968年4月11日、静岡県出身の42歳。本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみ、変態座談会癒しの重鎮。構成作家、放送作家。昨年の大晦日は青木真也の腕折りに大興奮した。

玉袋筋太郎
1967年6月22日、東京都出身の43歳。子どもの頃から蔵前国技館に通った変態プロレスエリート。『SRS』放映終了後も毎年大晦日はプライベートでさいたまスーパーアリーナで観戦を続けている。

堀江ガンツ
1973年9月14日、栃木県出身の37歳。変態座談会主宰者。ちっちゃい頃から変態的プロレスファン&格闘技ファンとしてならし、UWF研究家を自称。最近では「トップ屋」も自称している。

俺たちの格闘技2010年変態座談会

五味も青木もヒョードルも負けて　そりゃ俺たちも酒が進んじゃうよ

月の負けが大晦日まで効いちゃってるんだから。

ガンツ　さらに青木が負けた2カ月後には、我らが皇帝ヒョードルがついに陥落するという、とんでもないことが起こるわけですよ。

玉袋　そりゃ俺たちの酒も進むわ。飲まなきゃやってらんねえよ。あそこでヒョードルが負けちゃいけねえんだよ。

椎名　しかも、秒殺一本負けっていう、あんな負け方でね……。いまMMAの世界はUFCが完全に支配しちゃってるけど、少なくともこの春までは、俺たちにも望みが二つあったんですよ。青木とヒョードルという。

玉袋　そうなんだよなあ！

ガンツ　こっちにはヘビー級世界最強とライト級世界最強がいるんだ、おまえらが世界を支配したと思ったら大間違いだぞ！っていうのがあったんだけど、その二人が立て続けに負けちゃいましたからね。

椎名　まあ「ヘビー級もライト級もやっぱUFCが一番かも」ってうすうすは気づいてたけどね（笑）。

玉袋　だからよ、青木とヒョードルが負けたことで、直接対決じゃねえのに、あらためてUFCの凄さがクローズアップされたよね。変態もUFCを認めざるをえなくなっちゃったもん。

ガンツ　ヒョードルが負けた1週間後に、ブロック・レスナーがシェーン・カーウィンに勝利するという大復活があって、凄い政権交代感がありましたよね。

玉袋　マジの政権交代。それまで青木とヒョードルに希望を託して、PRIDE残党としてUFCの世界制圧に最後の抵抗をしてたのが、ついに力つきた感じだもんな。その直後にレスナー見せられてよ、すげえタイミングだよ。

椎名　時代の欲求がそうさせたんでしょうね。髙田がヒクソンに負けたあと、一気にPRIDE、総合格闘技の時代が来たように。

玉袋　あれでプロレスの時代が完全に終わっちまったんだもんな。

椎名　だからPRIDE崩壊も含めて、時代の欲求としか言いようがない。だってUWFが崩壊しなかったらPRIDEだってなかったと思うし。

玉袋　そんな時代もあったね。いつか話せる日がくるさ。

ガンツ　我々は、そんな時代を飲みながら語るしかないんですかね。

玉袋　でも、変態座談会っていうのは最後の砦だよ。自分のプロレスファン、格闘技ファンとしての気持ちをつなぎとめておくね。オーちゃんも『MMA Legend』のインタビューで言ってたけど、あのさいたまスーパーアリーナに詰めかけていた人たちはどこに行ったんだよ!?

ガンツ　いま思うと、あんな時代があったことすら幻みたいな感じですもんね。

玉袋　イマジンだよ！　想像してごらん、あんなことがあったよね、ってな。

椎名　ホントですよ。さいたま新都心の駅から会場までの熱気ってもの凄かったもんね。

玉袋　さいたま新都心駅に行く途中、乗り換えで使う赤羽駅構内にある吉野家からもう熱気が凄かったから。俺なんかも会場行って食うための牛皿をどれだけ買ったか。あの熱が戻ってこねえのかな〜。

椎名　7月のDREAMで川尻が青木に勝ってたら、またムードも違ってたんだろうけどね。

ガンツ　あの青木vs川尻戦は、ジャパニーズMMA逆襲のトップをどちらが務めるかという勝負でもあったんですけど、青木が圧勝したことで「メレンデスに完封された青木が、やっぱり国内ではぶっちぎりで最強」ってことになっちゃいましたからね。

玉袋　なんか、日本のMMAっていうのは、コップの中のすげえちっちぇえ闘いを観てたんじゃねえのか？ってなっちゃったもんな。川尻は「俺たちの川尻」になりそこねたよ。会場ではファンの後押しもあったのにさ。

椎名　だから日本格闘技界のことを考えたら、あのときは川尻が勝ったほうがよかったんだけど、こればっかりは実力の世界だからしょうがないよね。川尻にあんな勝ち方できるの、やっぱり青木しかいないもん。

玉袋　あれをナッシュビルでやってくれよ！　青木ならできねえわけねえんだから。

ガンツ　でも、そのあとアメリカに対して、一矢報いてくれたのが、俺たちの五味ですよ。

椎名　あれは今年唯一の明るい話題だよね（笑）。

玉袋　UFCでスカ勝ちしてくれて、あれはうれしかったな。あそこで五味まで負けてたら、俺たちは完全に格闘技インポになってるところだったから。危なかったよ。助けられたよな。

ガンツ　8月は相当気持ち的に盛り上がったんですよ。五味の勝利に始まり、三崎和雄vsサンチアゴの大激闘。そしてRENAが優勝した『Girls S-cup』ですから。

椎名　どれも素晴らしかったよね。

玉袋　よかったな〜。でも、いかんせん三崎vsサンチアゴもRENAも一般にはまだ届いてねえんだよ。

椎名　だいたい観てる人が少なすぎますよね。サムライTV観てるヤツとか、SRCのPPV買ってるヤツが何人いるんだって話だし。

玉袋　だからよ、三崎vsサンチアゴの死闘とか、新しいヒロインであるRENAの輝きみてえなもんを地上波のゴールデンタイムでバーンと流せたら違ってくるんだけどな。ゴールデンじゃなくて深夜でもいいよ。そう考えると、『SRS』がなくなったのはデカいねえ。

椎名　世間の格闘技界への入り口がなくなっちゃいましたもんね。

ガンツ　だから五味勝利、三崎vsサンチアゴの名勝負、RENA優勝が立て続けにあったのに、日本格闘技界復興の機運が思いのほか高まらなくて。しかも9月のDREAMゴールデン放送はコケちゃうし（笑）。

椎名　あの興行はひどかったよ、ホント。

玉袋　これは椎名先生に任せる。ビッシビシ言っちゃってくれ。

椎名　PPV買ったのにさ、途中で飽きて友だちとおしゃべりになっちゃったもん。観てらんねえって感じで。しまいには「音楽聴かねえか？」だって。

3月30日にUFCデビューをはたすもケニー・フロリアンに完敗を喫してしまった五味隆典。「それでも日本にはまだ青木がいる！」と翌4月に青木真也がストライクフォースに乗り込んだが、メレンデスに完封負けを喫してしまった。この2連敗は日本マットの沈滞ムードに大きな影響を与えたといってもいいだろう。

マラソンのために国籍を変える猫ひろしの覚悟を見ろと言いたい

玉袋 そりゃ、ダメだ。せっかく石井慧も日本に帰ってきたところだったんだけどな。それがスカ勝ちしねえし、入場曲でもミソつけたし。

ガンツ 石井慧の『炎のファイター』は年間最低テーマ曲賞を与えたいですよね（笑）。

椎名 9月のDREAMで、三崎vsサンチアゴみたいな試合をやってたら、少しは世の中にも「あいつらすげえことやってるぞ」って思ってもらえたのにね。

ガンツ とんでもない闘いやってるヤツらがいる、という。

椎名 「おいおい、これ殺し合いだぞ」って思うような試合だもんね。

ガンツ そして、せっかく7月に川尻を倒した青木は、マーカス・アウレリオを寝技で完封という、凄いけど届かない強さを見せつけただけになっちゃいましたしね。

玉袋 青木はテーマを失なったな。

椎名 それを青木もわかってやってるんですよ。テーマがないときはああいうことをやるんですよね。「勝つだけの試合をやったら勝つんだ」っていうことを見せたいんだよね。

玉袋 でも、テーマがないとダメだろ。命削ってんだから。それが世間に届かねえっていうのが切ねえよ。

ガンツ 青木は日本でやるべきカードがもう残ってないんですよね。川尻も倒しちゃったし、SRCのチャンピオン廣田も倒しちゃったし。ベラトールのチャンピオンであるエディ・アルバレスまで倒してるんだから、もうメレンデスぐらいしかいないんですよ。

玉袋 桜庭vsヒクソンが実現しなかったときは、俺たちほかに観たいカードがいくらでもあったから我慢できたけど、いまは青木vsメレンデスに代わるカードがねえんだよな。主催者サイドも大変だろうけど、夢のカードを出してもらわねえと。

椎名 もう青木はアメリカに行くしかないでしょ。

玉袋 そうだよな。そりゃ、厳しい闘いが待ってるかもしれないよ。ピンク・レディーのアメリカ進出みたいにさ。でもパフィーだって当たったんだから。青木は格闘技界のプリンセス・テンコーを目指してほしいよ。

ガンツ 青木はジャパニーズMMA、DREAMを守ることにこだわりが強いですけど、一度外に出ることで日本の強さを見せつける時期に来てると思うんですよね。青木だったら、UFCもすぐさま契約を結ぶだろうし。

玉袋 ダナは青木のこと「ベスト10に入ってねえ」みたいなこと言ってるけど、あれブラフだよな。

ガンツ ヒョードル同様、ほしいのにUFCに来ないヤツほどメチャクチャ言う人ですからね（笑）。

玉袋 好きな女の子をいじめる小学生男子みてえなもんだろ。

椎名 じゃあ、青木は「UFCに入りたい」って言えば入れるの？

ガンツ 契約がきれいになっていれば、すぐにでも入れると思いますよ。アメリカのMMAサイトのランキングでも、ライト級3位か4位に入ってますしね。

椎名 行けばいいじゃん。もう、自信がある強い選手は全員UFCに行けばいいって思う（笑）。

玉袋 こんだけアメリカに押されてると、やっぱり向こうに乗り込んで勝ってほしいって思うよな。日本の格闘技界は一度、下火になるかもしれねえけどよ、東京大空襲されたあと、そこから復興すればいいんじゃねえかと思うよ。髙田がヒクソンに負けたときだって、俺たちは玉音放送を聴いて、そこからサクが出てきたんだからさ。

世界の格闘技界にとって、2010年最大の事件といえば、ヒョードルがついにファブリシオに一本負けを喫したことだろう。10年間無敗の皇帝が敗れたことで、UFCの一党独裁ムードがさらに加速してしまった。2011年、ヒョードルの逆襲はあるのか？

椎名 この閉塞感を打ち破るには、日本のトップ格闘家がガンガン、アメリカに攻め込んでいって、勝つしかないと思う。

玉袋 ここまできたら、打って出てほしいよ。猫ひろしだって世界に出ていくんだからさ。

椎名 猫さんは、何しに世界に出るんですか？

玉袋 マラソンだよ。あいつすげえんだよ。このあいだカナダの大会でも表彰されるところまでいってるんだよ。素人なのに。

椎名 へ～え。マラソンが得意な芸能人の枠を超えてるんだ。

玉袋 はるかに超えちゃってる。俺なんかもマラソンはやってっけどさ、猫ひろしの場合は、もうアスリートの記録だもん。で、猫ひろしがこのあいだ『スナック玉ちゃん』に遊びに来たから「これからおまえどうするんだよ？」って聞いたらよ、「カンボジアに行きます」って言うんだよ。

ガンツ カンボジア？

玉袋 そう。「なんだよ、それ？」って聞いたら、カンボジアマラソンに出たら、猫ひろしの実力なら1位になれるんだって。で、「僕は日本国籍を捨てて、カンボジア人になるんです。そしてカンボジア代表としてオリンピックに出ます」って言うんだよ。

ガンツ カンボジア人宣言！（笑）。

玉袋 だからよ、いまの日本の総合格闘家に、この猫のダイナミックさを言いたいよ。

ガンツ 思わず、「猫ひろしコール」したくなりますね。ねっこ、ひーろし！ ねっこ、ひーろし！

玉袋 これぞグローバル時代だろ。「いまトンガにするか、カンボジアにするか悩んでる」っていうんだから。

椎名 凄い悩みだなあ（笑）。

ガンツ やっぱり海外で勝負するには、そのくらい退路を断って挑まなきゃ成功できないんでしょうね。昔のプロレスラーもマサ斎藤、ザ・グレート・カブキとかみんなそうですもんね。みんなアメリカに骨を埋めるんだってって言いますから。

玉袋 ヒロ・マツダの時代からそうだよ。国を捨てながら、大和魂だけは忘れずに勝負するってことだろ？ 俺、猫ひろしの話を聞いて「自分ってちっぽけな人間だな」って思ったよ。あんなちっぽけな身体したヤツにそう思わされたからね。

ガンツ いい話ですねえ（笑）。

玉袋 いい話だろ？ 50年後くらいに『知ってるつもり?!』みたいな番組があったら、猫ひろしが特集されてるかもしれないよ。あいつ「税金をどうするか」とか、すでにそこまで考えてるからね。カッコいいよ。芸人とはいえ、猫もマラソンの競技者だからよ、同じ競技者として、猫ひろしのそういう覚悟を格闘家にも見せてもらいてえんだよな。猫ひろしは30歳すぎて、女房もいるのにそこまでやろうとしてるんだからよ。

ガンツ 〝サラリーマン格闘家〟にはなってほしくないですよね。

椎名 でも、そう感じさせちゃう格闘家ってけっこういるよね。

玉袋 俺たちファンは格闘家の心意

俺たちの格闘技界2010年変態座談会

気や生き様に乗っかっていきてえんだからよ。そういう姿勢を見せてほ

れるのかよ。それは素晴らしいよ。

椎名 石井もヒョードルなら最高じ

玉袋 そんなもんマニー・パッキャオを連れてきて「知名度がない」って言

EAMでの
た。今年

椎名 俺、家でどん兵衛食べながら観ようと思ってたんだけど（笑）。

気や生き様に乗っかっていきてえんだからよ。そういう姿勢を見せてほしいんだよな。こうは言いたくねえけど、このままじゃ「明るい未来が見えませーん！」だろ。鈴木健想だよ。この時点で大晦日のカードが全然聞こえてこねえもんな。ガンツは何か情報ねえのかよ？

ガンツ 一応、情報は仕入れてるんですけど、ちょっと微妙な情報ばっかりなんですよね。

椎名 石井慧の相手はまったく決まらず？

玉袋 これは前回言ったとおり、オーちゃんでいってもらうしかねえだろ。

ガンツ 当初はその案もあったんですけど、交渉の前段階で消滅してしまったようなんですよね。

玉袋 やっぱり先立つものがねえか。

ガンツ その代わり、石井慧 vs ヒョードルが実現できるっていう話もあったんですよ。

玉袋 おいおい、皇帝が日本で観られるのかよ。それは素晴らしいよ。

椎名 石井もヒョードルなら最高じゃん。負けたっていいからやるべきだよ。

ガンツ でも、TBS側から「石井の相手はもっと知名度がある選手で」ってことで、却下だったみたいです。

椎名 マジで!? そんな知名度なんてテレビのプロモーション次第でどうにでもなるじゃん！

玉袋 要は金が集まんねえんだよ。金が集まったらなんだって出せるよ。朝青龍だってなんだって出せる。で、来年以降も格闘技は安泰だっていうなら、琴光喜だって出てくるわ。それが出てこねえってことは、明るい未来が見えてねえから飛び込んでこねえんだから。

椎名 それにしても「ヒョードルなんてみんな知らない」ってふざけてるよね（笑）。

ガンツ 60億分の1世界最強の男に対して何を言ってるんだ、と。

ナッシュビルでメレンデスには敗れたものの、7月に川尻達也の足を破壊して圧勝。あらためてDREAMライト級実力ナンバーワンを証明した青木。それだけに日本国内ではもはややるべきカードがないようにも思えるが……。

玉袋 そんなもんマニー・パッキャオを連れてきて「知名度がない」って言ってるようなもんだろう。切ねえな～。TBSはアントニオ猪木を担いで大晦日に格闘技っていうもんを始めたテレビ局なんだからよ。変態もホントは感謝してるんだよ。だからこそ、いろいろ言いたくもなるよ！

ガンツ じつはその猪木さんなんですけど、今年の『Dynamite!!』におおいに関わってくるらしいんですよ。

椎名 えっ!? 猪木が出てくるの？

ガンツ まだ（この時点では）発表されてませんけど、〝猪木プロデュース〟っていうことになるみたいです。ま、実際は広告塔として出るだけなんでしょうけど。

玉袋 おいおいおい、ちょっとそれはどうなんだよ。俺は自問自答しちゃうよ。昔だったら「やっぱり猪木がいねえとダメなんだ！」って言えたよ。でもよ、いまの格闘技界がこうなっちまった原因は2003年の『猪木祭り』を日テレでやっちまったからっていう部分もあるわけだろ。

ガンツ そうなんですよね。

玉袋 その猪木さんが〝プロデューサー〟っていう肩書きだけで戻ってきても、いったい誰がそんな神輿を担ぐんだよ!?

椎名 だったらいっそのこと、猪木にメチャクチャにしてほしい気もするけど、そんな元気もなさそうだよね。

玉袋 そうなんだよ。猪木さんもプロレスとか格闘技に興味なさそうだもんな。

椎名 永久電機とか沈没船には興味ありそうだけど（笑）。

日本格闘技界復興には欠かせない逸材である石井慧。DREAMでの2試合はいずれも完勝だったものの、試合内容に注文がついた。今年の大晦日、デビュー戦での汚名を返上することができるか？

玉袋 それなら〝猪木の大晦日〟っていうのも、思い出としてそっとしておいてほしいよ、こっちは。それこそ『あしたのジョー』や『宇宙戦艦ヤマト』の実写版映画みてえなもんだよ。リメイクはいらねえって。桜庭vsホイスの再戦だって『Dynamite!! USA』でやらなくてよかったんだから。

ガンツ そっとしておいてくれ、と。

玉袋 そうなんだよ！ あ～、いまの猪木情報は効いたな。マジで効いた。今日、うなされるよ。

ガンツ なんだか、ズンドコ最終回のムードが漂ってきてるんですよね。

椎名 連載終了間際のマンガみたいに、いろんな人が出てきちゃって（笑）。

玉袋 か～、つれえなあ。……わかった！ それでも俺はさいたままで観に行く。絶対に行くぞ俺は。

ガンツ 見届けるって感じですよね。

玉袋 これはケジメのためにも見届け人として行かなきゃダメだ。今回ばかりは椎名先生も重い腰を上げてくれるだろうから。

椎名 俺、家でどん兵衛食べながら観ようと思ってたんだけど（笑）。

玉袋 いや、今回ばかりは行くんだよ。ひょっとしたら最後の大晦日興行かもしれねえんだからよ。いっそのこと、「最後の大晦日」をあえて匂わせたほうがいいんじゃねえか？ 俺もUインター最終興行とか、リングス最終興行に行ってるからね。〝崩壊マニア〟が集まるかもしれない。

ガンツ 崩壊ビジネスですか（笑）。

玉袋 それで一旦店じまいしといて、DREAMも来年名前変えて新装開店すりゃいいんだから。

ガンツ 靴流通センター方式で、閉店セールと開店セールを繰り返して盛り上げていく、と（笑）。

玉袋 そう！ 御徒町の宝石屋みてえなもんだよ。

椎名 じゃあ、『Dynamite!!』は年末の大棚ざらえってことで（笑）。

玉袋 おし！ 大晦日は赤羽駅の吉野家で牛皿たっぷり買い込んで、『Dynamite!!』を見届けるぞ！

【10年12月2日／都内・『加賀屋』中野坂上店にて収録】

第61回

年末はしんみり

花くまゆうさく

豆リングの汁

これを書いてる時点では、大晦日のカード一試合しか（ビビアーノvs高谷）発表されてないけど、どうなるのかしら？ 青木vsメレンデスの再戦を日本でやろうとするセンスがまったくノレないので、このカードが流れたのはよかったけど（この再戦は海外でやってほしい）。

「TBSは曙vs桜庭を提案した」とかのウワサにますます萎えるジャパニーズMMAなので、小見川vs青木ぐらいはやってほしいなぁ。そんなことを思いながらサムライTV観ると、『全日本プロレス・セレクション』で1980年の世界最強タッグのリッキー・スティムボート&ディック・スレーター組vsアブドーラ・ザ・ブッチャー&キラー・トーア・カマタ組という大好物モノ（70年代後半〜80年代初頭の全日本プロレス）が流れてたので、懐かしさで胸キュンとしながら癒された。

『ライディーン』で入場する初登場のリッキー。巨体のカマタにアームホイップ連発するリッキー。いま観ると、片手だけ地につけてやるあのアームホイップをカマタにやって、よくケガしないよなと感心してしまう（カマタのやわらかい受け身がうまいのもあるけど）。

リッキーの独特な間や身体をヒクヒクさせるのも懐かしい。客席のファッションやリアクションや空気感も最高だ。

プロレスファンとしてあの時代が一番幸せだったとつくづく思い、ふといまも最強タッグやってるのかなとちょっと調べたら、ジョー・マレンコの名がありビックリした！ いまも来てるのか……。

南海の黒豹

Hanakuma Yusaku
◎映画『キック・アス』凄いいいよ！

金ちゃんのどこまでやるの？

第53回 20周年に向けての目標の巻

12・11『DEEP 51』ディファ有明大会に参戦し、飛鷲輝選手に判定勝ちすることができました。KOか一本ではなかったけど、しっかり勝てたんで、これを次につなげたいね。

で、この日はディファ有明の隣にある有明コロシアムでK-1 WORLD GPも開催されていたから、自分の試合がありながら、そっちも気になってたんだよ。だから、自分の試合が終わったあと、帰る前に「K-1は誰が優勝したの？」って周りの人に聞いたら「アリスターが優勝しました」って言うんで、ビックリしたよ。俺はてっきり今年もセーム・シュルトの優勝だと思ってたからね。

それで帰宅してから早速、録画しておいたK-1を観たんだけど、アリスターはよくやったと思うけど、運も良かったね。今回のアリスターは"つかみ禁止"のルールに手こずって、1回戦からかなり苦戦してたし、もしシュルトとやってたら、やっぱり勝てなかったと思うんだよ。でも、そのシュルトはアーツが倒してくれたし。アーツはアーツで、シュルトを倒すことですべてを使いはたして、決勝ではほとんど力が残ってない感じだったからさ。準決勝もグーカン・サキはあきらかに1回戦のダメージが大きかったし。そういう意味で、あらためてK-1というトーナメントの過酷さと、運が左右するっていうことを感じたよね。

やっぱり立ち技で一日3試合はキツいよ。打撃だと、どうしても身体のどこかを痛めるからね。MMAより身体を痛める率は高いと思う。そんなK-1 GPでMMAファイターが優勝したんだから、やっぱり素直に「アリスター凄いな」とも思うよね。

それと同時に俺はリングスでまだペーペーだった頃のアリスターも知ってるからさ、いつの間にかとんでもなく差をつけられちゃったな〜って、悔しい思いもあるよ（苦笑）。

有明コロシアムという大会場で、優勝賞金も40万ドルだもんね。俺はそれと時を同じくして、隣の小さなディファ有明で必死になって闘ってるんだからさ。自分でもよくやってると思うよ（笑）。

K-1では俺と同い年のピーター・アーツが凄い闘いを見せてて、俺も負けてられないとは思ったけど、アーツぐらい収入があれば、俺ももっとモチベーションが高まるのに、とも思うからね（笑）。

今回なんかも控室は大部屋だったんだけど、周りは若い選手ばっかりでさ。もう名前を知ってる選手も少ないのよ。絶対に俺、浮いてるだろうなって思って。よく考えたら、俺と同世代の選手ってみんなだいたい指導者になって、セコンドで来てるケースがほとんどなんだよね。

今回もひさしぶりに田村（潔司）さんと会ったんだけど、田村さんも中村大介のセコンドだったからね。田村さんとはちゃんと話もしてね、俺は来年デビュー20周年だからさ、かつてのUWFインターの仲間を集めて記念興行をやりたいなって思ってるんだよ。それで田村さんにも「そのときはよろしくお願いします」って、言っておいたんだよね。

田村さんは「凄いこと考えるねえ」って言いながら「うん、わかった」とは言ってくれたんだけど、ギャラはリーズナブルでお願いしないと難しいからね（笑）。

俺もこれだけ長いことやってきたんで、何かかたちになるものができたらと思ってるんで、来年は記念興行開催を目指して頑張りますよ。その実現のためにも、スポンサーを随時大募集してますんで、金原弘光公式HPまでよろしくおねがいします（笑）。

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

本誌人気企画が唐突に復活!
発言から読み解く本音&変節

語録で振り返る2010

本誌ではひさびさとなる人気企画が復活!
ここではマット界の住人が発した後世に語り継ぎたいような名言から、
思わず度肝を抜かれたトンデモ発言までを一挙網羅!
声に出して読みたくなるようなコク深いフレーズに触れて、マット界激動の2010年を振り返ってみてください!

文／ジャン斉藤、堀江ガンツ　構成／鈴木佑

石井、弱かった

▲『日刊スポーツ』／1月1日号

2010年の元旦。『日刊スポーツ』の一面大見出しを飾った「石井、弱かった」。デビュー戦で判定負けしただけでこの言い草。2011年の元旦はどんな見出しなのか、いまから楽しみだ。

宇宙人の支配下で人間が生活してもいいと思います

▲船木誠勝／『kamipro』No.143

なぜか毎年組まれる『kamipro』恒例の企画「UFO特集」。2010年1月にはUFO評論家のザ・グレート・サスケと船木誠勝の対談が実現！「宇宙人、幽霊などはすべて存在してほしい」と語る船木は、「宇宙人の支配下で人間が生活してもいい」とまで発言。さすがマッドネス、常人とは考えが違うようだ。明日また宇宙人の支配下で生きるぞ！

クソだ、あのイベント！

▲小見川道大／『kamipro Special 2010 FEBRUARY』

2009年に「くそったれ！」の雄叫びでブレイクした小見川。大晦日の『Dynamite!!』では高谷裕之をKOし、あらためてその実力を証明したが、大会直前に國保氏が解任されるなど、ゴタゴタがあったこともあり「クソだ、あのイベント」と激怒。2010年はDREAMに参戦したものの、結局、UFCへと行ってしまった。

あの手ブラの下はどうなってたんですか？

▲熊久保英幸／『kamipro Special 2010 FEBRUARY』

2009年に「女子格はエッチな目で観ていいか」論争を巻き起こした女子格報道の第一人者クマクマンボ。『ジュエルス』のテレビ解説では杉山しずかのお尻の素晴らしさを熱弁するなど、その活躍はとどまるところを知らないが、自身のサイト『GBR』でも美女格闘家・長野美香の"手ブラ・セミヌード"をアップする快挙を達成！　その後、本誌での直撃インタビューでは、長野本人に手ブラの下はどうなっているかを確かめる取材熱心ぶり。まさに格闘技マスコミの鑑と言えるだろう。見習いたくはないが。

俺たちが観たいものって結局ブラッドスポーツだもん

▲椎名基樹／『kamipro』No.143

青木真也の"中指問題"に対し、ある意味、最も爽快な意見を述べたのが変態座談会でおなじみ、構成作家の椎名さん。テレビの前で「折れ」コールをしながら観戦していたという椎名さんは、青木vs廣田に大興奮。多くの識者・関係者が発言に気を使うなか「俺たちが観たいものって結局ブラッドスポーツだもん」という、格闘技の残虐性を全肯定する意見を堂々披露した。さすが！

いったい何があったんでしょうね

▲國保尊弘／『kamipro』No.143

2009年の年末、DREAMとSRCの対抗戦が発表された日、SRCを運営するワールドビクトリーロードが、事実上の団体代表であった國保尊弘取締役を突如解任！　國保氏は吉田道場勢をマネージメントする会社ジェイロックの社長でもあることから、SRCから吉田道場勢も離れることとなった。この解任劇の裏で何があったのか、年明けに本誌が直撃すると、國保氏は「いったい何があったんでしょうね」とコメント。國保氏が知らないのならしょうがない。シャキーン！

SRCをどうにかしたい気持ちはないです

▲北岡悟／『kamipro Special 2010 FEBRUARY』

PRIDE、『やれんのか！』時代から大晦日にはなぜか縁がない北岡。『戦極』の体制が変わり、SRCとなると「SRCをどうにかしたい気持ちはないです」と、正直な気持ちを吐露。これがパンクラス退団にまでつながったのか……。

DREAMは開き直って中指のオブジェを作るしかねえだろ

◀玉袋筋太郎／『kamipro』No.143

年が明けても論議は続く青木真也の"中指問題"。正月に行なわれた、おなじみ変態座談会でも話題はやはりこの問題へ。そこで玉ちゃんが、PRIDEのナンバーワンを示す人差し指のオブジェに代わり、DREAMは中指のオブジェを作ることを提案！　これが実現すれば、アメリカで放送禁止確実だ！

（熊久保さんは）なんかエロそう

▲SACHI／『kamipro』No.144

まだまだ続く、"エロい声とエロい顔を持つ男"熊久保英幸の女子格シリーズ。本誌144号では、辻結花の妹分、SACHIを直撃！　いつものようにエロい声でエロい顔でインタビューを始めようとすると、SACHIは開口一番「なんかエロそう」と一言。やばい、バレちゃった！

気楽なチャレンジのつもりだった

▶五味隆典／2月4日・オフィシャルブログ

PRIDE消滅後、『戦極』ではなかなか燃えることができず、燃えない五味としてファンをやきもきさせていた五味隆典がついにUFC参戦を決断！　ところが、ケンフロ相手に燃えきらずこの発言。気楽にUFCに行かないでくれ！

彼をその影響下におき、あおり立て、結果としてかかる振る舞いに至らしめたと推測される関係者に対し、然るべき処罰を強く求めます

▲福田富昭／1月7日『FieLDS Dynamite!!〜勇気のチカラ2009〜』廣田vs青木戦における青木選手の廣田選手に対する侮辱行為に関する意見書』

09年大晦日の『Dynamite!!』で廣田瑞人の腕を折り、さらに中指を突き立て、物議を醸した青木真也。その騒動は年が明けても収まらず、SRCを傘下に置く日本格闘競技連盟の福田富昭会長名義で意見書が提出された！　この意見書では、青木の"侮辱行為"や腕を折ったアームロックに「笹原圭一2010」という、タイガースープレックス84ばりの名前をつけたことに対して、強い抗議と処分が求められていた。これを受けてDREAMの笹原イベントプロデューサーは青木に対して厳重注意。それにしても「彼をその影響下におき、あおり立て、結果としてかかる振る舞いに至らしめたと推測される関係者」って、いったい誰なんでしょうね。

モチベーションは4年に一回しか上がらない

▲五味隆典／3月29日・『UFC FIGHT NIGHT』公開練習

せっかくのUFCデビューというのに、なぜかモチベーションが上がらない五味は、『こち亀』の日暮熟睡男ばりのこんな言い訳。周期的には佐藤ルミナを破り修斗王者となった01年、桜井“マッハ”速人を破りPRIDE王者になった05年、修斗王者・中蔵隆志にスカ勝ちして復活した09年ということなので、次の爆発は2013年か……。

ナイス！ナイス！

▲秋山成勲／4月8日・テレビ東京『UFC』中継の解説より

髙阪剛や郷野聡寛のわかりやすい技術解説、髙田本部長の鳥肌の立つ驚き解説など、格闘技の名解説者は多いが、また一人、新たな解説のジャンルを開拓した男がいる。我らが魔王・秋山成勲だ。例によって日サロで真っ黒に焼いて、五味のUFCデビュー戦解説に臨んだ秋山は、解説というより応援。セコンドのように声を出し続けるという新たな芸風を披露。その微笑ましさで、アンチをファンに変えてしまうという、魔王ぶりをいかんなく発揮したのだった。

UFCを始めて10年経つが、これまでで最低の出来事だった

▲ダナ・ホワイト／4月11日・『UFC112』大会後のコメント

2008年、親会社が経営危機に陥り、思わぬところでピンチを迎えたUFC。それを救ってくれたのがADCC開催で知られるアブダビ王子の会社だった。その恩人のお膝元アブダビで初めて開催されたUFC。そこではミドル級とライト級のダブルタイトル戦をマッチアップするなど、最高のラインナップを用意したが、なんと肝心のミドル級王者アンデウソンが、デミアン・マイアを終始おちょくるような試合を披露。これに激怒したダナは「次に同じことをやったらクビだ！」と、暴君ぶりを見せたのだった。

こお～けえ～のお～～～♪

▶ASKA／4月25日・『ASTRA』

吉田秀彦引退試合の前に、ASKAによる「国歌独唱」が行なわれた。ASKAによる『君が代』とはいったいどんなものなのか、大観衆が耳を傾けると、オリジナリティにあふれすぎなASKA節で『君が代』を披露！とくに「苔のむすまで」の部分での高まりっぷりは、武道館を爆笑が包むほどであった。また歌って！

國保尊弘、最高！

▲吉田秀彦／4月25日・『ASTRA』

4月25日、日本武道館で『ASTRA』と題した引退興行を行なった吉田秀彦。愛弟子である中村カズに判定で敗れた吉田は、引退の挨拶で「國保尊弘、最高！」と、盟友でもある事務所社長の國保氏に独特すぎる表現で感謝の意を表わした。

弱いから負けた、それだけです

▲青木真也／4月17日・『ストライクフォース』ギルバート・メレンデス戦後のコメント

日本を背負ってストライクフォース・ナッシュビル大会に出陣した青木真也。しかし、結果はテイクダウンをことごとく防がれ、メレンデスに判定負け。試合後、「弱いから負けた」と言い訳をしなかったのは立派だったが、青木が弱かったらほかのDREAMライト級ファイターはどうなってしまうのか？ とも思ってしまうのだった。

山口も決して無責任な男じゃないんです

◀坂田亘／4月30日・『坂田“ハッスル”亘～審判の日～』

数々の無責任すぎる活動で、事実上終焉を迎えた『ハッスル』。今年、規模を大幅に縮小し、名前を変えてリスタートしたが、いきなり坂田亘の説得力抜群すぎる発言が飛び出すなど、上井ステーション的な楽しみ方をする団体に生まれ変わった様子を感じさせたのだった。

来週からは中村屋「どて煮」で勝負かけていきます

▶中村和裕／5月19日・オフィシャルブログ

今年の春、あの中村カズがプロデュースするおでん屋『中村屋』が華々しくオープン！ 相田みつをが裸足で逃げ出す、カズ自筆の詩がディスプレイされた斬新すぎる店内、そしてオーナー自らが「セブンイレブンの味にかなわない」と早すぎる白旗を揚げたおでんで勝負をかけるなど、当初から話題沸騰の店だったが、オープンして2カ月でおでん屋からどて煮の店に鞍替え！ さらに10月には閉店と、試合中に道着を脱ぎ捨てるかのような変わり身の早さを見せたのだった。

暴力柔術

▲ニック・ディアス／『kamipro』No.145

2010年の格闘技界で『kamipro』が勝手に騒いで盛り上がったファイターといえば、“21世紀のレジー・ベネット”中井りんと、このニック・ディアス。本誌インタビューでの知性ある不良ぶりで人気に火がつき、「暴力柔術」と命名すると、その異名がまたたく間に広まり、ついには「暴力柔術」Tシャツまで発売！ このTシャツに対し「公認だけどオフィシャルじゃない」という意味不明ないちゃもんが届くほどの人気を博したのだった。

ETみたいな顔しやがって

▶才賀紀左衛門／『kamipro』No.144

K-1 63キロトーナメントがついにスタート！ そこで毒舌プリンスぶりを発揮したのが才賀紀左衛門。長年、キック界でトップを張っていた石川直生に対して「ETソックリ」と暴言！ しかも、こんな暴言を吐いた若造に敗れてしまったナオキックの立場っていったい……。

ナカムライス

▲中村和裕／5月24日・オフィシャルブログ

中村屋がどて煮に続いて勝負をかけた新メニュー。その名もナカムライス。チャーハンをオムライスのように包み、マヨネーズをたっぷりかけるという、体育会系メニュー。学生街ならウケたかもしれないが、どうやら立地を間違えたようだ。

シャー！

▲青木真也／5月29日・『DREAM.14』

カード発表時、会見などでなんだかいっつも不機嫌さをまき散らしている青木真也。川尻達也戦が決まったあと、DREAMの会場で意気込みを語るべくマイクを渡されると「シャー！」と叫んだだけで、バックステージへと戻ってしまった。館内ブーイングの嵐。観客の気持ちを逆なでする天性の才能を持っているようだ。

ゲージorゲージは引退します

▶桜井“マッハ”速人／5月30日・オフィシャルブログ

青木真也のナッシュビルでの敗戦を受けて、ホワイトケージで開催された『DREAM・14』。そこでニック・ディアスと対戦したが、ケージがジャマで腕十字から逃げられずタップアウト負けを喫したマッハ。事前に「負けたら引退」を匂わせていたが、結局、ケージでの試合を引退に落ち着いた。そもそも「ケージ」と「ゲージ」を間違っている天然ぶりだったので、まったく問題なし！

それでもAVに私は出ていない

▶ザ・グレート・サスケ／『kamipro Special 2010 JUNE』

岩手県議会議員時代から常にささやかれるＡＶ出演疑惑。本誌がいまになってあらためてことの真偽を問いただすと、ＵＦＯ議論を例に出した持論を展開。そして「それでも私はＡＶに出ていない」と、マスクを指差しての「これが私の顔なんです」ばりの説得力抜群の発言をしてくれたのだ。

:D

▲ダナ・ホワイト／6月26日・『ストライクフォース』大会後のツイート

全世界に衝撃を与えたヒョードルの一本負け。その直後にダナ・ホワイトはツイッターで、何をつぶやくわけでもなく、ニッコリマークのみをツイート。それだけでいまの気持ちを表現するからさすがなのであった。

ガラパゴスMMA

▲笹原圭一DREAMイベントプロデューサー／『kamipro Special 2010 JUNE』

UFCを中心とした、ケージで闘うMMAに対し、リングで行ないルールも違うジャパニーズMMAを表した言葉。「独自の進化を遂げた」という意味で「ガラパゴス」と言われたのだが、いまや「絶滅の危機」という意味に変わってしまったような……。

うふっふ〜〜、さあ〜♪

▲藤波辰爾／6月12日・フジテレビ系『めちゃ×2イケてるッ!』

ザ・グレート・サスケと並んで、その破壊的歌唱力がプロレスファンに知られていた我らがドラゴン。そんなドラゴンの美声がついに世間に認められ『めちゃイケ』の「歌がへたな王座決定戦」に出陣。井上陽水の名曲『夢の中へ』を独自のアレンジで披露し、お茶の間に衝撃を与えたのだった。

19時は女子プロレス!

▲帯広さやか／6月1日・『19時女子プロレス』旗揚げ戦

今年、新たな試みとしてアイスリボンが始めた、USTREAMでの女子プロレス無料中継番組。入団わずか1カ月の「帯広ちゃん」こと、帯広さやかが代表となり、毎週無観客で試合を開催。女子プロレスに新風を巻き起こした。

ノゲイラ兄弟にもらった黒帯なんてお子様ランチのおまけについてたおもちゃみたいなもんだ

▲チェール・ソネン／8月6日・『UFC117』前日のQ&Aセッション

2010年、トラッシュトークでブレイクしたチェール・ソネン。とくにアンデウソン・シウバとのミドル級タイトル戦前は名誉毀損寸前の暴言を連発したが、ノゲイラ兄弟を侮辱する発言にアンデウソンが激怒。哀れソネンはノゲイラ直伝の三角絞めで逆転負けを喫したのだった。

私も皆さんと同じ普通の人間です

▲エメリヤーエンコ・ヒョードル／6月26日・『ストライクフォース』

ファブリシオ・ヴェウドゥムに一本負けしたあとの、ヒョードル敗戦の弁。試合前はアメリカのメディアから「熊を倒したことはあるか？」などと、人間扱いされていなかった最強皇帝の人間宣言だった。

もう外歩けない

▶ターザン山本／6月18日・『金権編集長』出版後

ついにお金に困り暴露本を出したターザン山本。じつは小心者として知られる〝おじいちゃん〟は、この本が発売される直前まで、『ターザンカフェ』の日記でもこの本について一切触れないなど、ビクビクと怯える日々を送っていた。なお、最後の切り札を切ってしまったターザンは、現在、ワンルームマンションでひっそりと暮らしているそうです。

反社会性力とのつながりを連想させる入れ墨を禁止したいと思います

◀向井徹SRC代表／『kamipro Special 2010 AUGUST』

今年、その言葉のフルスイングぶりで、一部で話題となったSRC向井代表。公明正大ぶりを発揮しようと、まずは「反社会性力とのつながりを連想させる入れ墨禁止」を打ち出したが、SRC育成選手の大澤茂樹が入れ墨だらけなのは、はたしていいのだろうか……。

私事ですが、僕結婚します

◀青木真也／7月10日・『DREAM.15』

新婚の川尻達也さんはこのマイクをリングに倒れこんだまま聞いておりました。頑張れタッチャン！

クソ雑誌!

▼青木真也／『kamipro』No.149

今後、青木真也の試合の勝敗予想は禁じます。

僕は“塩漬け”の選手に勝ったことがない

▲DJ.taiki／7月2日・『DREAM.15』記者会見

『DREAM.15』で石田光洋との対戦が決まったDJは、会見で石田くんを前にして“塩漬け”(＝つまらない試合をする選手) 呼ばわり。このあと石田くんと対戦するウィッキーもDJに習うかたちで石田くんのタックル戦術を牽制。石田くんは精神戦に惑わされず連勝したものの、あまりの言い分にノイローゼにならないのか不安である……頑張れ石田くん！

2～3年以内に200～300億の資金調達を目指す

▲マイケル・チェン／7月17日・FEG&PUJI共同会見

地上波放映権料の減額、不況によるスポンサードの減少、追徴課税などにより経営が圧迫し、ファイトマネーの未払いが表面化していたFEG。じつは消滅危機もささやかれていたが、中国の投資銀行PUJIキャピタルと提携（詳しくは各自調査）。新たなビジネススキームを構築して再出発することになったが、最大の問題は投資家が現われるのかどうかである。また同時期にターザン山本さんも経済破綻を迎えて一軒家を引き払いました……。

ビビアーノにファイトマネーはお支払いしました

▶笹原圭一DREAMイベントプロデューサー／9月5日『DREAM・16』会見

海外で連発報道されるFEG系イベントのファイトマネー未払いニュース。なかには未払いがあるにもかかわらずオファーを受け激怒するファイターがいたり、ジョシュ・トムソンは未払いを危惧して参戦を見合わせたい発言をするほど。噂によれば大晦日の川尻戦は前払いを要求したという話。しかし、ホントに恐ろしいのはこの手の話題にファンが慣れてしまってることだ！

相撲を辞めたのも野球賭博の借金が原因

▲安田忠夫／『アサヒ芸能』7月29日号

朝青龍の暴行事件、ドラッグ問題、そして野球賭博が発覚して大揺れに揺れた相撲界。反社会勢力とのつながりも指摘され（朝青龍が事実上追放されたのはそこが問題視された）、NHKが中継を見合わせるも一場所かぎりで放送再開。国営放送とは思えない甘い判断をPRIDEにも適用してほしかったものである。あと安田、おまえはその姿勢でいけ！

負債に関して無責任な対応をするつもりはないです

▶坂田亘／7月20日・『ハッスルマンズワールド』会見

選手、外注先、関係各所、そして本誌スタッフを瀕死状態に追い込んだ『ハッスル』の崩壊劇。現在は『ハッスルマンズワールド』と名を変えて新宿FACEといった小会場でひっそりと活動中。「昔、好きだった彼女のいま」を見て興奮できる変態たちは、絶頂期からの落差をぜひ味わってほしい。ハッスルハッスル!!

夜のお供だけでなく、リングのお供にもなりたい

▲愛川ゆず季／8月23日・愛川ゆず季プロレスデビュー会見

女性であることを中途半端に武器にしている○○や△△とかのプロモーションを見ると「ハンチクなことしやがって！」（アントン調）とイライラするが、どうせだったらゆずポンばりにフルスイングしてほしいものである。それでは皆さん揺れますかーーっ？　ダッダーン、ボヨヨンボヨヨン!!

大麻吸ってんじゃねえよ! 大枚稼げよ

▲アントニオ猪木／9月7日・『デビュー50周年記念DVD』発売会見

猪木さんって“すべり芸”だよね。ムフフフフ。

サワーはK－1の王者なのに打撃で勝負してくれなかった

▶日菜太／9月18日・オフィシャルブログ

SBルールで対戦した日菜太は、試合開始早々サワーのスタンディングチョークの前にまさかのタップアウト！　まあ負けてしまったことは仕方がないが、ブログでグチってしまったからさあ大変。そのボヤキぶりは勝負師として「甘いっ!!」（ドラゴン調）としかいいようがないもの。金ちゃんのように芸になってないのである。誰がブログにアップする前に止めてあげて！

キューバのカストロさんからもらった島に1000億円の銀貨が眠っている

▲猪木快守／『kamipro』No.151

“永遠の夢追い人”とはアントニオ猪木のことだが、その実兄である快守氏はさらに上をいくロマンの持ち主である。癌と闘病中にもかかわらず、壮大な夢を有明の癌研センターでとうとうと語ってくれたのであった。世の中、快守氏のような人間ばかりならゴキゲンなんだが、それはそれで無政府状態になりかねない。結論として快守氏は世の中で一人でいいし、1000億の財宝は眠ったままなのだ。

半分も入ってないでしょ

▶杉浦貴／9月27日・『ノア』日本武道館大会

数年前から観客動員の苦戦が伝えられていたノアの武道館大会。主力選手の負傷欠場が相次ぎ、さらに拍車がかかったため現GHC王者の杉浦が危機感を表明！　すべてをさらけ出すことで周囲に奮起を促したが、こういうときだけYahoo!ニュースに取り上げられ、ますますプロレス凋落のイメージを深めてしまったのであった……。

こっちはブランニュースクールメ～ン！　要チェックメ～ン。ディス・イズ・鈴川真一。ユー・ノウ?

▲D.O／9月25日・『GENOME13』

大麻所持で逮捕され相撲界を追放された若麒麟こと鈴川真一がIGFでプロレスデビューしたが、なんとコカイン所持で逮捕された練マザファッカーをマネージャー的役割で帯同。宮戸優光が鬼コーチという激ヤバな布陣。右手に大麻、左手にUWFインターなのである。違うか。練マザは対戦相手のコールマンをさんざんディスったあげく、鈴川は堅いプロレスを仕掛けてコールマンを粉砕。憎まれっ子はプロレス界にはばかるか？　メ～ン！

ホリエモンが大晦日に闘います

▲谷川貞治／10月30日・ツイッターでのつぶやき

サダハルンバがツイッターで衝撃発表!?……なわけがなく、ホリエモン誕生会でのジョークをツイートしただけのようだが、どういうわけか確定情報として拡散。というか、ホリエモンがデビューするならもっと大々的にやるよ！

凛とした武家の娘にオファーする

▲向井徹代表／11月15日・『戦極 Soul of Fight』記者会見

「公明正大」から始まり独特のコピーセンスをフルスイングしてくれるSRC。年末のイベントの出場資格は「男前」であり「凛とした武家の娘さん」とくるから最高だ。意味はちょっとわからないがそのハッタリ買った！　そういうのって凄く大事だ。

喝っ!!

▲向井徹代表
10月6日・ツイッターでのつぶやき

ツイッターでおもむろにマット界のモラルの低下を嘆いた向井代表。どうやらその原因は北岡悟のパンクラスの離脱にある模様。詳しくは本誌に掲載された両者のインタビューを読んでほしいが、その内容は確執があることを充分にうかがわせ、「『kamipro』は無駄に煽るな！」という非難の声も届いてるが、聞こえないふりをして今月も掲載する次第である。まあ煽ってるわけじゃないんですけどね。

バーサクと闘いたい

▶石井慧／10月6日・成田空港での囲み取材

リップサービスがファンからおおいに誤解されてる男、石井慧。スポーツ新聞向けに桜庭戦ネタを髙田本部長のモノマネで吹いたところ珍しく桜庭本人が大激怒！　ファンも「失礼だ！」とバッシング。本誌の取材でその現状が伝えられると「そんなつもりはなかったのに……」と落ち込む、とんだ毒舌柔道王なのであった。

ハズカシイけど頑張りました

▲中井りん／9月15日・オフィシャルブログ

"21世紀のレジー・ベネット"として下半期のマット界と男性諸君の下半身を騒がせてきた中井りん。浅草キッドの玉ちゃんに「太ももで締めつけられたい！」と言わしめる数々の衝撃セクシーショットを本誌や自身のブログで披露。その際に寄せられた本人コメントがこれだ。これは「アイ・ネバー・ギブアップ」「やれんのか!?」「明日また生きるぞ！」と並んで、自分自身に叱咤激励するコメントとしてマット界に定着しそうだな〜。

@UEXILEはスゴ玉

▲山口日昇／10月27日・『ハッスルマンズワールド』

ターザン山本！、セルゲイ・ハリトーノフに並ぶ劣化ではないだろうか。

みんなで手をソナGO

▶アントニオ猪木／9月25日・『GENOME13』

銃弾で撃たれたり、タイガー・ジェット・シンにビッグファイヤーで襲われたかと思いきや、突然抱擁したり、意味不明すぎて大好評のIGFのアントン劇場。あるときはリング上でマグロの解体ショーを行ない、アントンが書道で「みんなで手をツナGO」というダジャレパフォーマンスを披露したが、「ツ」と「ソ」と書き間違えてしまう！　かつて政界スキャンダル時に「猪木は漢字が書けない」などと暴露されたことがあったが、本当はカタカナだったとは……。

猪木を殺すまで私は死ねない

▲ユセフ・トルコ／『kamipro』No.151

プロレス界統一に人生のすべてを捧げる男、ユセフ・トルコがまたまたまたまた吠えた！　そしてその野望の障害となるのはアントニオ猪木！　ならば、殺すしかないんだ！……と吠えても逮捕されないのはプロレスだからか、それとも……。とりあえず御年80歳、おへその下は40歳の革命戦士の行方を見守ろうではないか。

まぁ、この試合は次期挑戦者決定戦だったので対戦はしてもらう

▲ダナ・ホワイト／11月13日・『UFC122』大会後会見

日本人UFCファイター岡見勇信がネイサン・マーコートを下してミドル級王者アンデウソン・シウバの次期挑戦者に！……という快挙を達成したが、ダナ・ホワイトはあまりエキサイティングではなかった試合内容にご立腹。「勝てないと思うけど」という前置きをつけて言い放つから無礼千万！　本誌の取材でも「俺は昔から岡見を一番評価していた！」などとあきらかに適当なのでここは岡見にギャフンと言わせてほしいものだ。

今日集まってくれたお客さんも結婚して、子どもを作れば、20年後にはネズミ算式に2000人が1万人になり、日本武道館が埋まっちゃう

▶マッスル坂井／10月6日・『マッスルハウス10』

文化系プロレスとしてジャンル外からも高い評価を受けていた『マッスル』が最終回。主宰者のマッスル坂井が実家の金型工場のあとを継ぐので引退する流れになったのだが、最後は20年後のマッスルのチケットを観客に配るという感動のエンディング……だったが、本誌編集部で最も話題となったのはマッスル坂井の実家は豪邸で、しかもトイレが4つもあるということだった。どんなお金持ちだよ！

救急車を呼んでください……

▲佐伯繁／10月23日・『DEEP 50 IMPACT』前日軽量後

DEEP50回開催記念大会までに83kgまでに減量することを誓った佐伯代表。リミット当日、サウナにこもり急激な減量をしたため体調不良でDEEPジムで倒れるアクシデント！　こうしてMMAの減量問題に一石を投じてわけだが、危うく記念大会が追悼大会になりかねなかったのである。

去年の大晦日のファイトマネーをまだもらっていない

▲ゲーリー・グッドリッジ／8月11日・『mma fighting.com』

09年の大晦日、急なオファーでゲガール・ムサシ戦を受諾。結果ボコボコにされたのにファイトマネーはまだもらってないと夏頃にボヤいたグッドリッジ。なんと12月になっても支払われないどころか連絡がとれないと嘆くからどうなってるんだ……。まさにFEG系イベントに出るのは「勇気のチカラ」が必要なのだろうか。

大会終了後に飲み会をやります

◀橋本宗洋／随時・ツイッターでのつぶやき

大晦日も飲みオジと飲もう！

受賞筆頭候補はこのモンスターか——？

来年1月11日発売の

『kamipro Special 2011 FEBRUARY』で

乞うご期待!!

2010年『kamipro』大賞発表！

お いおい、さっきヤフーのトップページを見てたら、「気になる女子格闘家」として中井りんの名前が出てたじゃないか。いったい、世の中はどうなっているんだい？もうすっかり有名人ってわけか？　そうなってくると、WILD宇佐美館長も気が気じゃないだろうな。しかし、せめて『いいとも!』には出たほうがいいと思うぜ!　クックックック。

153号へのお便り紹介

アリスター・オーフレイムのインタビューがよかったです。　アリスター選手の数々の頼もしい発言にゾクゾク、ワクワクしています。Ｋ・1ＷＧＰをすべて1ラウンドで終わらせ、大晦日も1ラウンドで勝利するというのはとてつもないことだと思うけど、こんな凄いことができるのは、アリスター選手だけだと思うから。伝説をぜひ達成してほしいです。

【兵庫県・田丸仁志さん・会社員・25歳】

D 伝説どころじゃないぜ!　なんてったってＫ-1で優勝してしまったんだからなあ。ホント、どこまで強くなってしまうんだい？　しかし、『kami-pro』もいいタイミングでアリスターを表紙にしたってもんだぜ。まったくとんだお調子ものだぜ。クックックック。

ケイン・ヴェラスケス選手のインタビューがよかったです。インタビューのなかに出てくる「ひたむき」という言葉がとても印象に残りました。ひたむきっていいですよね。ひたむきは凄く美しい行為の一つだと思うし、幸せのステップだと思うから、僕もひたむきに頑張ろうと思いました。

【兵庫県・田丸仁志さん・会社員・25歳】

D おいおい。ユーはいったい何枚『kami-pro』にハガキを送ってきてるんだい？　さっきのハガキもユーじゃないか。そもそもユーは以前もタカノリ・ゴミのサイン入りTシャツほしさに11枚送ってくれたことがあるよな。こっちとしてはうれしいけど、ユーの部屋が『kami-pro』であふれかえってることを想像すると、ちょっとゾッとするぜい。

ヒョードルのインタビューがおもしろかった。闘うモチベーションがあるようなのでホッとした。最高のときのヒョードルの拳はアリスターやヴェラスケスの比ではないと思うので、もう一度、地上最強を実証してほしい。できたら日本で!

【福岡県・向野征雄さん・職人希望・26歳】

D ヒョードルは大晦日に来るんじゃないかって話もあったみたいだけど、あれはいったいどうなったんだい？　ひょっとしてオレの聞き間違いってヤツかな……？

船木誠勝夫人、いづみさんのインタビューがおもしろかったです。マッドネスな男にはこういう常識的な女性が陰で支えになっているのだなあ、と。でも、幼稚園児にして入場シーンの再現や巡業ごっこをするライアン君には、間違うことなくマッドネスの血が流れていると思います。

【福島県・毒柴さん・呪術師・39歳】

D イヅミさんって人は非常にキュートじゃないか。どうしていままでどこにも出てこなかったんだい？　しかも、ライアンくんというボーイはミスター・フナキにそっくりだな。まったく、ハッピーなファミリーでうらやましい以外の言葉が出てこないぜ。

kamipro153号 おもしろかった記事 RANKING

NO.1 安田忠夫
NO.2 アリスター・オーフレイム
NO.3 北岡悟
NO.4 小見川道大
NO.5 エメリヤーエンコ・ヒョードル

今回はプロレスも格闘技も、新旧ファイターも入り乱れたランキングになっているな。こんなランキングが成立するのはきっと『kami pro』だけだろうな。アッハッハッハ!　そのなかでもヤスダっておっさんが1位というのは、やっぱりヤスダってヤツに共感しているヒマでモテないプロレスファンなのかい？　クックックック。

向井徹SRC代表のインタビューが興味深かった。北岡選手の行動について厳しい意見を言っていますね。お互いに言い合うようなかたちなので、うまくいっていなかったのかなと思います。私たちファンはこんな裏での出来事が公になることで何がどうなっているのかが知れるので、ありがたい内容でした。

【福島県・紺野春樹さん・会社員31・歳】

D プレジデント・ムカイはサトルに怒ってるみたいだな。しかし、サトルもいろいろ怒ってるみたいだから、これはお互いに誤解があるってヤツなのかい？　それにしてもオトナの世界ってのはたいへんだぜ、まったく……。

急にオファーされたって
俺は出られないからな!
クックックック

香川県・大森繁治さん／ユーはまたしても絵はがきの上に強引にイラストを描いてきたな。そんなに大量に絵はがきが余ってるのかい？　クックックック。

静岡県・浩二さん／おお、これはファンタスティックなほどにリアルじゃないか。ユーはタツヤのことが好きなのかい？　この調子でどんどん送ってくれよな！

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ" ジャクソン

マッハと長南の対談がおもしろかった。以前闘い、舌戦も繰り広げていたあの二人が仲良しになっているのがよかった。【石川県・浅田浩伸さん・団体職員・40歳】

Dそんなことより、オレはカズ・ナカムラのおでん屋のほうが気になってしょうがなかったぜ。閉店する前に行っておけばよかったな……。誰か行ったことのあるヤツ、オレに中村屋情報を送ってくれよな！

佐伯さんのインタビューがおもしろかった。この人に日本の総合格闘技会を任せてしまったらいいんじゃないでしょうか？ 金脈、人脈、すべて含めて。……体調がますますひどくなりそうだから無理かな（笑）。【静岡県・佐久間孝さん・会社員・38歳】

Dミスター・サエキに日本の興行を任すのもいいが、一大会がいつも20試合ぐらいになって、延長料金がたいへんなことになるんじゃないのかい？ クックックック。ま、試合数が多いのも含めてDEEPだっていうボーイズ＆ガールズもいるけどな。

小見川道大のインタビューがおもしろかった。ミッチーの意見は一本筋が通っていますね。大晦日で勝った、俺のほうが強いから、まずは俺が先だろ？ だけど今回は63キロになったから仕方がない。65キロの俺はどれだけ強いか

挑戦したい。気持ちいいですね。世界にはばたけ、クソッタレ劇場！【神奈川県・大内和彦さん・会社員・35歳】

Dおいおい、世界に羽ばたくのはいいが、本当にUFCと契約してしまったみたいじゃないか。確かに、どこまで通用するのかも見てみたいけど、ちょっとこれはジャパニーズとしては痛手じゃないのかい？ オレとしてはミスター・ムカイ並みに喝だぜ！

北岡悟インタビューがおもしろかった。やはり、つかみどころがない印象で、また「キモ強」なファイトを見たいと思えたから。【広島県・小川哲史さん・男性・21歳】

Dサトルは自分の結婚観なんて語ってる場合じゃないぜ。プレジデント・ムカイにたいへんなことを言われてるじゃないか。きっと怒りに震えているところだろうけどよお。

マッスル坂井のインタビューを読んだが、引退するなんて寂しすぎる。「異端児、いーからリングに戻ってこい！」ってなった!!【千葉県・八木健太さん・コピーライター・29歳】

Dそうはいっても、マッスルってヤツは新潟の御曹司って話じゃないか。実家にトイレが3つ以上あるボーイズ＆ガールズはもう人生の3分の1は決まってるってヤツだ。ちなみにオレの実家は一つだから……それなりの人生だぜ。アッハッハッハ！

安田忠夫の記事がおもしろかった。10年ほど前にあんなに世間の人気者になった人が、すっかりマット界からフェードアウトしたことがプロレス界の厳しさと

努力の力の大切さを感じさせたから。【愛媛県・戸田幸隆さん・会社員・33歳】

Dプロレス界は厳しいといっても、いまのレスラーも10年前とあんまり変わってないって思うのは気のせいかい？ それにしてもヤスダっておっさんはたいへんな人生だぜ。オレの憧れの南米に進出するみたいだが、ギャンブルのしすぎで家まで歩いて帰るってのはやめてくれよお。

しなしさとこの記事がおもしろかった。あんなに勝ち組オーラを出していると、ほかの女子格ファイターから恨まれそうだと思いました。しかし、旦那さんはとんでもないセレブなんだということが伝わってきて、しなしの打算的な感じが凄く伝わってきましたが、おもしろかったです。【埼玉県・逆セレブさん・会社員・35歳】

Dおいおい、打算的ってのは……確かに当たってるんだけどよお。しかし、取材に行った編集部員さんたちはケーキをごちそうになったそうじゃないか。たまにはオレにもおこぼれを分けてくれよお。

石井慧座談会と石井選手のインタビュー記事を読んで、石井選手もいろいろ悩みながら試合をしていることがわかった。スターというか、有名人であるがゆえの悩みだと思い、ちょっとかわいそうになった。大晦日も応援したいと思う。【千葉県・のいるのいるさん・芸人見習い・22歳】

Dそれにしても大晦日のカードが決まらないじゃないか。え？ 携帯サイトkamiproMoveの『kami-の一週間』は毎回そのネタだって？ 原稿作ってるヤツもたいへんだよなあ。

中井りんの記事がおもしろくなかった。写真をのせてください。【匿名希望さん】

D今回、フォトが一枚も載ってないじゃないかという苦情がたくさん来ていたが、いったいどうなっているんだい？ そう思って今回のリン・ナカイのページをのぞいてみたら……OH！ なんだか凄いことになってるじゃないか!! 苦情をよこしたボーイズはズバリ言ってヘンタイってヤツだろ？

静岡県・浩二さん／これもコージが描いてくれたのかい？ ユーはなかなかやるなあ。遠慮せずに、オレを描いてくれたっていいんだぜい。

OKAMI

愛知県・ひでんちゅうさん／またこれはいい味出してるじゃないか。今回UFOをたっぷり語ってくれたサスケも大満足だろうよ。また描いて送ってくれよお。

SASUKE BAND

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって！ 待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。
●譲ってほしいもの
●タレコミ情報
●選手に対するコメント、試合の感想
●その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先は

〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1
ザ・フタガミハウスNo.1
kamipro編集部「事故」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできます。

団体オフィシャルおよび関係者のツイッターアカウント

※オフィシャルや代表者のアカウントを集めたんだが、載ってないものがあったらぜひ教えてくれよな!

谷川貞治 FEG代表「K1_Tany」
FEG宣伝熊「K1_Kuma」
DREAM「dreamPR」
笹原圭一 DREAM EP「sasaharakeiichi」
SRC「SRC_mobile」
向井徹 SRC代表「SRCbyWVR」
DEEP「deep_official」
佐伯繁 DEEP代表「sigeru_saeki」
パンクラス「_PANCRASE_」
UFC「ufc」

ダナ・ホワイト「danawhite」
ジュエルス「JEWELS_info」
ヴァルキリー「valkyrie_cf」
久保豊喜 GCM代表「kubotoyoki」
WWE「WWE」
新日本「njpw1972」
菅林直樹 新日本プロレス代表「NJPWSUGABAYASHI」
武藤敬司「muto_keiji」
DDT「ddtpro」
高木三四郎「t346fire」

マッスル坂井「musclesakai」
ゼロワン「zero1_fos」
ハッスル「321hustlehustle」
山口日昇「noboru_yama」
SMASH「SMASH_2010」
酒井正和 SMASH代表「SMASH_Sakai」
アイスリボン「ice_ribbon」
さくらえみ「sakuraemi」
19時女子プロレス「19pro」
アントニオ猪木「Inoki_Kanji」

さらば突貫小僧
再録インタビュー

追悼

星野勘太郎
ケンカ一代記

“突貫小僧”の異名を持ち、ケンカの強さでは右に出る者はいないと言われた星野勘太郎さんが、
11月25日、肺炎のため入院先の病院で亡くなった。享年67。現役時代は故・山本小鉄さんとの
ヤマハブラザーズで一世を風靡し、晩年は「魔界倶楽部」の総裁としても活躍した星野さん。
プロレスラー魂を全身から発していた星野さんの生前のインタビュー再録し、あらためて心意気を感じたい。

聞き手／堀江ガンツ

——今日は星野総裁のプロレスラー人生をビッシビシとうかがっていきたいと思います！

星野　はいはい。

——星野さんはプロレスラーになろうと思ったきっかけが「ケンカでお金がもらえるから」だったらしいですけど、これはホントなんですか？（笑）。

星野　まぁ、間違ってはいないけど、俺は「お金がもらえる」っていうことはそんなに重要じゃなかった。まず「ケンカができる」ってことだな。

——お金よりケンカがしたくてプロレス入りですか！（笑）。そんなにケンカ好きだったんですか？

星野　ケンカは一日3回やっとったから。

——一日3回！　じゃあ、食事みたいなもんですね。朝ケンカ、昼ケンカ、夜ケンカみたいな（笑）。

星野　まぁ、朝昼晩というわけじゃなくて、ケンカは夕方からやるわけだな。

——夕方からがケンカタイムでしたか（笑）。それはいつ頃の話ですか？

星野　学生時分。小学校6年ぐらいからかな。

——なぜ、そんなにひんぱんにケンカになったんですか？

星野　ケンカするとスカッとするからね。

——スカッとするためにケンカ（笑）。スポーツ感覚でやってたわけですか？

星野　そう、スポーツ感覚だよ。

——何か相手に対して腹が立ったとかそういうのはないんですか？

星野　なんもない（アッサリ）。

——じゃあ、ちょっと強そうなのがいたら……。

星野　すぐ因縁つけて裏に連れてくわけ。おもしろいですよ、ケンカは。

——その〝おもしろさ〟ってどんな感じなんですか？

星野　勝ったら気持ちいいじゃない。負けたことないけどね。

——ケンカ全勝ですか？

星野　ああ。全部勝ってる。

——そうなると、学生の頃は子分なんかもいたりしたんですか？

星野　そんなもん、みんな子分や。

——みんな子分！（笑）。じゃあ、神戸ではかなり有名だったわけですか？

星野　まぁ、学生時分、俺のことを知らんヤツはおらんかったよな。お山の大将やったから。先輩後輩問わずみんなね。

——「あいつには気をつけろ」というか。

星野　気をつけろじゃなく、誰も逆らわんかった。

——凄いなぁ（笑）。でも、そういう生活をしていると、裏社会からのお誘いは来なかったんですか？

星野　そういう感覚はなかった。俺はケンカがしたいだけだから。悪いことしたいわけじゃないから。

——純粋に野球やサッカーに打ち込むのと同じように、ケンカに打ち込んでいた、と（笑）。

星野　そうそう（笑）。

——ケンカに勝つ極意とはなんですか？

星野　そんなもん、先手必勝や。

——先手必勝（笑）。向こうから歩いてきた悪そうなヤツに突然殴りかかったりとかするわけですか？

星野　そんなことせえへん。黙ってドツクわけにいかんから、ちゃんと話してね。

——その「話をする」っていうのは、要は「因縁をつける」ってことですか？

星野　そういうこっちゃ。それで裏に連れ込んで、パンチ叩き込んだら、しまいや。

学生時分、一日3回ケンカやっとった。神戸で俺のこと知らんヤツはおらんかったよな

——仕事が早いですね（笑）。そのときはもうボクシングをされてたんですか？

星野　小学校のときはやってない。高校入ってからやな。

——星野さんが経験した一番凄いケンカって何ですか？

星野　野球部の連中、10人とやったときやな。1対10で。

——野球部ひとチーム全員とやりましたか！（笑）。

星野　まぁ、1対10といっても、こっちは闘い方わかってるからね。〝親玉〟みたいなヤツを倒せば、それで終わりなのよ。

——まず、一番強そうなヤツを倒す、と。

星野　そう。そうすりゃ、向こうは俺がどれぐらい強いかわかって、もうかかってこれなくなるから。

——全員倒さなくても一人倒せば済む、と。

星野　そういうこと。あの頃の神戸あたりは喧嘩は絶えなかったよ。だからケンカも学校別対抗戦とかよくやっとったからな（笑）。

——ケンカ甲子園みたいな感じですか（笑）。

星野　そう（笑）。

——もちろん、〝主将〟は星野さんなんでしょうね。じゃあ、ケンカするのはあたりまえの時代だったんですね。

星野　俺はそのなかでも特別だったけどね。

——そのケンカ屋だった学生時代から、将来プロレスラーになりたい気持ちはあったんですか？

星野　最初はボクサーがいいなと思っとったんだよ。ただ、途中からプロレスラーのほうがいいなと思っただけでね。だから、最初に東京に出てきたときは、プロボクサーになろうと思って出てきた。

——ボクサーになるための上京だったんですか。

星野　それでぶらっと来てみたんや。神戸の連中で帝拳ジムに入っとったヤツらが3人ぐらいおったから、そこに遊びに行って、2～3日ジムに寝泊まりしてね。よくしてくれたよ。先代の本田会長にもかわいがってもらったし。

——それでどのようにしてボクシングからプロレスに入ったんですか？

星野　その当時、毎週金曜日にリキパレスでプロレスがやっとって、観に行ったんだよ。それで階段上がったところに力道山先生がいたから、俺と一緒に観に行った人に紹介してもらって、「プロレスに入りたいんです」って頼み込んだんだよ。

——いきなり直談判ですか。

星野　それで親父（力道山）が俺の目をしばらくじっと見て、「よし、おまえ明日から入れ」「来い！」って言われてね。

——その場で決定ですか。でも、身体の小さな星野さんがよく入門を許可されましたね。

星野　なぜだかわからんけどね。俺より前に山本（小鉄）が入門志願して断られてるんだよ。でも、俺が入ったあと、もう一回志願して入ったけどね。

——当時の力道山道場は相撲上がりとか、柔道家とかでかいのばかりですよね？

星野　そう。相撲、柔道、アマレス上がりがゴロゴロいた。オリンピックに出た（サンダー）杉山とかね。

——そのなかでボクシングをやってた小柄な神戸の喧嘩屋がよくやってこれましたね。

星野　そんなもん、みんな練習で倒してやったよ。

——みんな倒しちゃいましたか！（笑）。

星野　当時の道場というのは、いまのＰＲ

星野　ああ。上ちゃん、強かったよ。

——上田さんは関節技やらせたら、当時は

追悼

星野勘太郎 ケンカ一代記

日本プロレス時代の星野勘太郎＆山本小鉄〝ヤマハブラザース〟の勇姿。ジャージの上からでも、鍛えられた上半身がうかがえる。この日本プロレス史に残る名タッグの二人が、相次いで亡くなってしまうとは……マット界の大きな損失だ

―みんな倒しちゃいましたか！（笑）。

星野 当時の道場というのは、いまのPRIDEみたいな実戦をやってたからね。ああいうスタイルの練習をやっとったから。

―それは寝技の極めっこだけじゃないんですか？

星野 立ち技だってありますよ。最初はレスリングとかわからんかったけど、覚えてきたら、みんな倒してやったから。

―でも、当時は足の運動（スクワット）を3000回やったあととかに、スパーリングしたりするわけですよね。

星野 その当時、足の運動なんてヘッチャラ。

―ヘッチャラ（笑）。

星野 3000回ぐらい必ずやっとったから。

―〝必ず〟が3000回ですか（笑）。

星野 そうやってさんざん基礎体力の練習したあと、セメントの練習。

―力道山道場の練習はいまや伝説的ですけど、最初は驚きましたか？「これほどキツいのか」と。

星野 そんなもん驚かない。あたりまえやと思っとったし。ちょうどいいな、と。

―ちょうどいい（笑）。

星野 最初はプロレスはやらせてくれないんだよ。ルールに従えばいいだけで、やってることはセメント。

―まさに総合格闘技だったわけですか。そういう練習は誰とやられてたんですか？

星野 猪木さんとか大木（金太郎）さんとか。アマレスやってた吉原（功）さん。あとは大坪（清隆）さんとかね。

―上田（馬之助）さんとかもやったりしました？

星野 ああ。上ちゃん、強かったよ。

―上田さんは関節技やらせたら、当時はナンバーワンという伝説もありますけど。

星野 一番強いっていうのは、そのときそのときで違うけど強かったよ。上ちゃんとは若手のトーナメントの決勝でやって、俺が極められたんだよ。そのときはちょっと油断してたから（笑）。

―油断しちゃいましたか（笑）。

星野 悔しかったね～。悔しくてたまらないから、道場に戻ってから「もう一回やろう」って言って、そのときは俺が取ったんだよ（ニヤリ）。

―道場へ帰ってすぐさまリベンジしましたか（笑）。

星野 取り返さないことには気持ちが収まらなかったから。

―上田さんも、道場ですぐ再戦させられるとは思わなかったでしょうね（笑）。

星野 上ちゃん得意の腕がらみ（チキンウイング・アームロック）で取られたから、俺も腕がらみで取り返してやってね。

―これは本で読んだんですけど、日本プロレスの前座では星野さんたちが、勝手にガチガチの試合をやってたって話ですけど。

星野 やっとったよ。ガチガチの試合したら親父（力道山）が喜ぶから。でも、こっちはあくまでルールに従ってやってるだけだからね。

―星野さんはそのあとアメリカに行かれるわけですよね。そしてアメリカでもメインイベントを張ったということは、ガチガチな練習をしていながらも、プロレスラーとしても技術もあったということですよね。

星野 それもあったし、アメリカでもケンカしとったしね。

—アメリカでもやっぱりケンカしてましたか（笑）。

星野　控室でやりますよ！　向こうの連中はちっちゃいと馬鹿にしてくるからね。

—やっぱりそういうのあるわけですか。

星野　だから控室で四つん這いになって「来い！」って言ってね。ディック・マードックとそういうこともあった。

—マードックといえば、ケンカが強くて有名じゃないですか。

星野　負ける気はしなかったけどね。

—負ける気しませんでしたか（笑）。なんか星野さんは周囲のレスラーをビビらせるために、わざと控室でガンガン練習してたって話ですけど。

星野　そういうのもあるしね。殴っちまえばてっとり早いし。それぐらいやらないと、トップに上がれない。

—やっぱりプロレス界っていうのはジェラシーが渦巻く世界ですもんね。

星野　蹴落とそうとする連中ばかりだからね。でも、メインイベントに出て客を呼べばみんな黙るのよ。客が呼べてケンカが強ければ待遇もよくなるし、試合内容でも優位になるのよ。

—なるほど。トップに立つためには、お客が呼べて、なおかつ腕っぷしが強くなきゃいけなかったわけですね。

星野　そういうこと。

—星野さんはアメリカで相当売れっ子だったんですよね？

星野　売れたね〜。ロサンゼルスとテネシーにいたんやけど、小鉄ちゃんとのコンビでも売れたし、シングルでも売れた。

—伝説のヤマハブラザーズですね。あの「ヤマハ」っていうのは、どこから来た名前なんですか？

星野　あれはモーターサイクルでホンダとヤマハが流行っとって、ホンダよりヤマハのほうが売れとったからヤマハにした。

—バイクの名前なんですか（笑）。

星野　そう。日本製でちっこいけど馬力があるっていうことで、俺らのイメージに合っとったし、あとは語呂がいいんだよな。アメリカ人にとって、ホンダよりヤマハのほうが言いやすかったから。

—当時のロスやテネシーはどんなレスラーがいたんですか？

星野　ルー・テーズもジン・キニスキーもデストロイヤーもいたよ。NWA加盟テリトリーだったからね。テネシーは。

—じゃあ、なかりハウス（観客動員数）も良かったんじゃないですか？

星野　ああ。客はいっぱい入ったよ。でも、金はそんなにくれないんだよ（笑）。

客が呼べてケンカが強くなかったら アメリカでトップを獲れないから

—そうでしたか（笑）。1ドル360円の時代だから、かなり儲けたんじゃないかと思ったんですが。

星野　確かに儲けたよ。ただ、当時の日系マネージャーに、かなりコレ（懐に入れるしぐさをしながら）されてると思うんだよね（笑）。

—やっぱり〝仲介手数料〟があったわけですね（笑）。

星野　なかったら逆におかしいんだけど、馬場さんなんかはそういうマネージャーがしっかりいて、ニューヨークで仕事がもらえたわけだからね。誰も知らない日本人がぽっとアメリカ行ったって、仕事もらえるわけないんだから。やっぱりマネージャーの売り込み、コネがあってこそだからね。

—ただ、その〝仲介手数料〟の比率が大きかった、と（笑）。

星野　そう（笑）。

—でも、当時（60年代末）のアメリカで日系のヒールをやるというのは、かなり危険な目にも遭ったんじゃないですか？

星野　危険なことはいっぱいあったよ。テネシーはとくに荒くれどもが多いからね。お客がみんなナイフ持ってるから。

—みんなナイフもってますか！　じゃあ、実際に斬られたことも……？

星野　斬られた（アッサリ）。

—そんなにアッサリと（笑）。

星野　試合が終わって、控室に走って戻る途中で頭をバッと斬られたんだよな。

—頭ですか！

星野　血がばーっと出た。あの頃は、真珠湾（攻撃）の記憶がまだ残ってる時代だからね。しかもテネシーみたいに労働者の町で気性が荒いところだろ。そんなところで俺たちは、真珠湾アタックだって、ゴングが鳴る前に攻撃しかけてるんだから。

—毎回、奇襲を仕掛けてましたか（笑）。

星野　そんなもんだから客がヒートして、こっちがワンツースリー取ろうもんなら、もの凄い騒ぎですよ。そしてリングから降りてきた俺たちを刺してやろうと待ってるわけ。

—ナイフを持った客がいるところに入っていくって凄いですねぇ……。

星野　ああいうときは、走ったらダメ。グッと周囲を睨みつけながら、ゆっくり控室に戻るのよ。ちょっとでも近づいたらぶん殴ると威嚇しながらね。

—そういう時代を生き抜いてきたというのは凄いですね。

星野　俺の時代はそれがあたりまえだったけどね。俺一人がヒールじゃないんだから。みんなヒールは危険に晒されてるわけだからね。

—そういう経験したら度胸もつくし、プロレスラーとして一人前にもなりますよね。

星野　だから僕は自分で契約もしたし、交渉もしたしね。最初は小鉄っちゃんとタッグでやってたんだけど、いつも二人でいたら勉強にならないってことで、マネージャーのミスター・モトさんが、俺をテネシーに残して、小鉄っちゃんはテキサスのフ

リッツ・フォン・エリックのところに行かせてね。それでレスラーとして独り立ちできるようになった。

——なるほど。

星野　なんにもわからないところに飛び込んで、プロレスも英語も交渉事も全部覚えたから。

——アメリカから日本に凱旋帰国して、そのあと二度目の海外遠征がメキシコだったそうですけど、メキシコでもトップだったんですよね？

星野　そりゃそうだよ。

——そりゃそうですか（笑）。

星野　アメリカでトップ獲ってたんだから、メキシコぐらいでトップ獲ってあたりまえでしょう。

——じゃあ、最初から大物として参戦した、と。

星野　そうそうそう。お金も良かったよ。あのときも1ドル360円の時代だから。ホテルの近くにオフィスがあって、週に一度そこにギャラ取りに行くのが楽しみだったから。

——いや〜、ホントに海外で大成功されてたんですね。

星野　海外でここまで成功したのは俺と小鉄っちゃんぐらいなもんじゃないですか。あとは馬場さんか。金使う暇なかったけどね。忙しいし。俺がテネシーにおった頃、一週間に7試合あって、さらに追加で2試合あったりしたから。

——一週間で10試合ですか。

星野　一日3回やったこともあるしね。朝10時頃、テレビの試合やって、お昼と夜も試合してね。

——当時のアメリカのテレビ中継って、スタジオで試合したものを録画放送するかたちだったらしいですね。

星野　おう、だからアメリカでは一日2試合なんてザラや。俺はTVチャンピオンだったから、テレビの試合やってから、夜の試合に出たりしとったからね。メキシコでも同じような感じでしたよ。

——メキシコで印象に残っているレスラーは誰ですか？

星野　やっぱりエル・サントとソリタリオやな。

——当時はメキシコもお客さんは入ってたんですか？

星野　おう、もの凄かったよ。アレナ・メヒコで毎週金曜日に試合があって、毎週満員。それで俺は最初、サントと組んでた。

——じゃあ、リンピオ（ベビーフェイス）だったわけですか。

星野　そう、ベビーフェイス。メキシコ人っていうのは日本びいきなんですよ。「ハポン、ハポン」言うてね。それでサントと組んどったから、よけい人気があった。サントいうたら向こうでは英雄やからね。

——それこそ日本でいう力道山ですよね。

星野　そんな英雄と組んどったんだけど、途中で仲間割れしちゃったから、そこから凄いヒールになってね。

——そりゃもの凄いヒート買ったでしょうね。

星野　もう凄かった。サントと組んどった頃はファンが騎馬を作って、担がれながら入場してきたけど、ヒールになった途端、な〜んもしてくれん。それどころか、石とかおしっことか投げつけられて、えらい違いや（笑）。

——最大の裏切り者ですからね（笑）。

星野　エル・トレオでやったときなんかヒドいもんだよ。あそこは闘牛場だから、石

勘太郎さんが生涯のベストバウトに挙げるのが、70年に猪木と組んでニック・ボックウィンル＆ジョニー・クイン組と決勝を争った第１回NWAタッグリーグ戦での試合。猪木＆星野組は見事なタッグワークでニック組を翻弄し、優勝をはたしている。猪木を"神"とあがめる星野が二人でつかんだ栄冠だけに、感慨もひとしおだったのだろう。

星野　やりたくてというか、あれが普通だんですよ。前田もタレントが試合に出る

星野　やっとったやろうな（笑）。

としたら、猪木さんに「水飲むな！」って

95年に引退後、地元神戸でプロモーターを務めていたが、2002年に「魔界倶楽部」星野総裁としてリング復帰。黒ずくめのスーツ姿に「ビッシビシいくからな！」のキメゼリフで大人気を博した。

総合格闘技なんかを観ると血が騒ぐね！
俺は生まれてくるのがちょっと早すぎたわ

でもなんでも投げ放題で、凄かったよ。だからエル・トレオは檜舞台なんだけどやりたくなかったから。控室も汚いしね。

——まぁ、普段は牛がいるところですからね（笑）。そこで当時のルチャの動きを覚えたわけですか。

星野　そう。トペとかプランチャね。いま○○がやってる技なんて、俺が30年前から使っとった技だから。

——そういうこともあって、ミル・マスカラスの来日第一戦の相手は星野さんが務めたんですよね？

星野　そう。いいとこ引き出してやったんだよ。あれが人気出たのは俺のおかげ。敵に塩を送ってやったんや（笑）。

——どんな闘い方をしたら、マスカラスの良さが一番出るか、よくわかってたわけですね。

星野　こっちはプロだからね。だから初来日（で相手を務めるの）は俺ばっかりよ。（スタン・）ハンセン、（ハルク・）ホーガン、ベイダー、（アンドレ・ザ・）ジャイアント。みんな俺がやってるから。

——いわゆる〝ポリスマン〟だったわけですか。

星野　やっぱりプロだからね。お客が喜ぶようなことをやらなあかんやない。俺はあいつらの〝大工〟だよ（笑）。

——あの人気は俺が作ったんだ、と（笑）。星野さんが大事な第一戦の相手を務めるというのは、身体は小さいながら、デカい相手とやっても壊れないということもあったんでしょうね。

星野　背がないだけで、横はあったからね。実際105キロあったから。

——昔の写真を見せてもらうと、ホントに凄い身体ですよね。腕から太ももから、胸板から。

星野　腕は俺が一番太かったから。

——どうやって、ああいう身体を作り上げたんですか？

星野　食べたからね。食べて練習、食べて練習。その繰り返し。若いときっていうのは、それでどんどん大きくなるんですよ。だから亀田（興毅）なんて試合が延期になったけど、あれはケガじゃなくて、目方落ちなかったんじゃないかと思うんだよな。（小声で）あれ、減量失敗やろ？

——いや、真相はわかりませんけど（笑）。

星野　たぶんそうや。だから記者会見にも出てこれん。だいたいやってたらわかるんだよ。「これ以上、落ちないな」って。無理してギリギリまで落としても、試合でふらふらになったらしょうがないしね。

——僕らぐらいの世代（30代前半）で言うと、星野さんで一番印象に残ってるのは、UWFが新日本に戻ってきた頃の闘いなんですけど。

星野　ああ、あれね。

——身体が小さくて当時、お歳もけっこういっていた星野さんが、20代後半でバリバリのUWF総大将・前田日明とガチガチでやり合ってたのは、凄いインパクトありましたよ。

星野　負ける気がしないからね（アッサリ）。

——負ける気がしない（笑）。ああいうケンカマッチになってしまうのは、星野さんが試合中にプチッとキレちゃうんですか？

星野　キレる以前に好きだから。

——ダハハハハ！　単にケンカが好きだから（笑）。じゃあ、UWFが戻ってきたときなんか……。

星野　「おいしいの来たな」ってね（笑）。

——やりたくてやってたわけですね。

星野　やりたくてというか、あれが普通だから。ナチュラル！

――ナチュラルに控室にまで殴り込んでいたわけですか？(笑)。

星野　リング上で納得いかなかったら、そのあと、納得いくまでやるしかないじゃない。

――あの当時は、巡業中も毎日のように新日本vsUWFの6人タッグが組まれていて、必ず星野さんが入ってましたけど、毎回ボコボコやってたわけですか？

星野　そう。歳なんて気にならなかったし、負ける気全然しないんだから、そらやるわな。

――やっぱり前田日明はやりがいありました？

星野　そら名前がある相手やしね。あいつは新弟子の頃からかわいがっとったんだよ。でも、リングに上がれば、あいつも遠慮しないしね。リング降りたら常識的なことも言うんだけど、リングに上がったらプッツンしてるから。このあいだも『HERO'S』の会見で、納得いくようなこと言っとったやろ。

――金子賢の参戦についてかなり怒ってましたね。

星野　プロレスでも総合（格闘技）でも、タレントが上がることが多くなってるからね。ただ、批判でもなんでもああやって活字になるものは「よし」としなきゃダメなんだよ。前田が怒ったことで大きく報道されて、所英男vs金子はどうなるんだろう？　と思うやろ。だから、あれは俺から見たら、いい宣伝なんだよ。

――確かにスポーツ新聞に「前田抹殺指令」とかドーンと大きく出るわけですからね。

星野　あれはお金に換えられないものなんですよ。前田もタレントが試合に出ることに対してホントに怒ってるんだろうけど、俺たちはプロだからね。批判さえも興行の宣伝になることがわかってるんだよ。ちょっと、マジで怒ったかどうか、前田に電話して聞いてみようか？(笑)。

――いまこの場で直電ですか(笑)。

星野　いまでもよく一緒に飯食うからね。

――星野さんは『HERO'S』とか『PRIDE』は、ご覧になってますか？

星野　もう血が騒ぐね！

――血が騒ぐ(笑)。

ほしの・かんたろう■1943年10月9日、兵庫県出身。本名・星野建夫。61年に日本プロレスでデビュー。67年に山本小鉄とヤマハブラザーズを結成してアメリカで名を売り、日プロ崩壊後は新日本プロレスに参戦。喧嘩屋として恐れられ、「突貫小僧」と呼ばれた。95年に引退。67歳没。

星野　若かったらすぐ出てるよ。ちょっと俺は生まれてくるのが早すぎたわ。

――星野勘太郎vsヴァンダレイ・シウバとかメチャクチャ観たいですけどね(笑)。

星野　(拳を握りしめながら)クゥ～～～！

――あ、燃えてきちゃいましたか(笑)。

星野　あれこそケンカで金がもらえる商売やないか。技術も必要やけど、ケンカが強いもんが勝つんや。

――それで納得いかなかったら、控室でもシウバと殴り合っちゃったり(笑)。

星野　やっとったやろうな(笑)。

――まぁ、40代の頃に全盛期の前田日明と殴り合ってるわけですからね。

星野　だから、前田とやり合ってたのはリング上の話でね。納得いかなかったら、控室でも殴り合うけど、終わったらかわいい後輩や。

――昔の新日本プロレスっていうのは、そういうホントの感情や揉め事みたいなものが、うまくリング上に活かされていたような気がするんですけど。

星野　そうやね。ナチュラルにやり合ってたしね。焚きつけみたいなこともあったけど、猪木さん一流の考えもあったんやろうし。やっぱり猪木さんには敵わないよ。

――それを何年もやってきたわけですもんね。

星野　「やってきた」じゃない。いまでも「やってる」んだよ。わかる？

――成田でよく会見やってますよね(笑)。

星野　一番新日本プロレスのことを気にしてますよ。プロレスのことを忘れるわけないんだから。

――では、最後に星野さんの長いキャリアで一番印象に残ってる試合をうかがいたいんですけど。

星野　よく聞かれるんだけど、やっぱりNWAタッグやな。

――猪木さんと組んで、ニック・ボックウインクル&ジョニー・クイン組と決勝を争った、NWAタッグリーグ戦ですね(70年11月、日本プロレス)。

星野　あとはマスカラスとやった試合ね。相手に塩を送って、これもプロの仕事だから。

――猪木さんとのタッグの試合はどんな試合だったんですか？

星野　60分の試合でね。途中で水飲もうとしたら、猪木さんに「水飲むな！」って言われてね。60分フルタイムやって、そのあと延長戦やって優勝したんですよ。優勝カップをもらったことが、凄く思い出に残ってますよ。

――その優勝が、星野さんの新日本プロレス入りにつながった感じですか？

星野　そうでしょうね。俺はずっと猪木さんと一緒に行動してきたわけやからな。

――わかりました。では、インタビューはこれくらいにして、写真撮影をお願いします。

星野　おう。じゃあ、ちょっと着替えるから(と言って、おもむろにシャツを脱ぎだす)。

――うわ～、いい身体してますね。星野さんはいまでも身体鍛えてるんですか？

星野　馬鹿言っちゃいかんよ！　あたりまえやろ！

――あたりまえでしたか、それは失礼しました(笑)。

星野　身体見たらわかるやろ。

――星野さんは引退して痩せちゃったのかと思ったら、絞っただけなんですね。

星野　冗～談よしこちゃんだよ！　いまでも俺はケンカやってるからね！

――いまだにケンカしてますか！(笑)。

星野　車乗っててうしろからクラクションなんか鳴らされたら、すぐ降りていくから！

――まだケンカでは現役なんですね(笑)。

星野　せっかくこの歳までケンカ無敗できたのに、ここで負けたらもったいないやろ。だから練習してるんだよ。若いヤツが相手でもビッシビシやるから！

――いや～、やっぱり昭和のプロレスラーは凄すぎます！

【06年10月4日／新日本プロレス事務所にて収録】

11.23 S-cupで
MVP級の
大活躍!

シュートボクシング

SBルールでサワーを破った MMAファイター!!

TOBY IMADA
トビー・イマダ

ツータイムス王者アンディ・サワーのみならず、ブアカーオ・ポー.プラムックまで参戦し、K-1 WORLD MAX以上の豪華メンバーで開催された、シュートボクシング世界トーナメント『S-cup2010』。この大会で最もインパクトを残したのが、クレイジーホース・ベネットの代役として急きょ参戦した総合格闘家のトビー・イマダだ。トビーは柔道式の投げと多彩なパンチを武器に、SB日本王者・梅野、さらにはサワーをも破り決勝に進出。決勝でブアカーオには敗れたが、MVP級の活躍を見せた。来年以降、SBの台風の目となりそうなこの男を大会翌日に直撃した!

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／丸山剛史　協力／"ブッカーK"川崎浩市

――『S―cup』ではMVP級の活躍で

的にリラックスすることができたんだ。

は散打に似た日本の競技ということをネ

わけじゃないんだよ。もちろん、やってみ

――『S-cup』ではMVP級の活躍でしたが、大会の感想を聞かせてください。

イマダ　ハードな大会だったよ。かなりキツかったけど、それ以上に最高に楽しかった！

――未知のルールで一日3試合が楽しかったんですか？

イマダ　1回戦のウメノ（梅野孝明）との試合は、初めてのルールということで少しナーバスになったけどね。でも、いままでやってきた自分のトレーニングや経験を信じて試合に挑んで、ウメノもアグレッシブに攻めてきてくれたので、いい結果になったと思う。この試合は自分にとって、シュートボクシング（以下、SB）に慣れるためのいいウォーミングアップになった感じだね。

――SB日本チャンピオンを倒した試合がウォーミングアップですか！

イマダ　これはウメノを低く見ているわけじゃなくて、難しい試合ではあったけど、この試合によってSBルールで闘う自信が持てたし、この試合があったからこそ、準決勝でも（アンディ・）サワーに勝つことができたんだと思う。

――SBの世界王者サワーを判定で下したのには、ホントに驚きましたよ。

イマダ　自分自身、相手は世界チャンピオンでビッグネームであることはわかっていたので、1回戦よりもさらにシリアスに挑んだし、プレッシャーもあったんだけど、序盤戦で一本背負いを決めて、シュートポイントを奪えたことで、気持ち的にリラックスすることができたんだ。

SBルールで闘うことによって、自分がベターなファイターになれると思ったんだ

――あの投げは試合を左右する大きなポイントでしたよね。

イマダ　そして決勝のブアカーオ戦は、前の2試合で脚にかなりのダメージが蓄積されたうえでの試合で、しかも初の立ち技だけの大会だったということもあり、このあたりが限界だったかな、と思う。でも、全体としては初のSBルールでいい闘いができたと思っているよ。

――初めてのSBで日本王者と世界王者を倒してしまったわけですからね。これまでSBだけでなく、キックボクシングの経験もなかったわけですか？

イマダ　一度もないよ。立ち技の試合はこれが初めてだったね。

――では、なぜこの大会にチャレンジしてみようと思ったんですか？

イマダ　いい経験になると思ったからさ。SBはただのキックボクシングやムエタイとは違うし、このルールで闘うことで、よりベターなファイターになれるとも思ったしね。そして実際に俺はウメノと試合をすることでベターになったと思うし、そのベターになった自分がサワーと闘い、さらにベターになることができた。ブアカーオには勝てなかったけど、それだって大きな経験だからね。

――このオファーが来る前、SBについてどのくらいの知識がありましたか？

イマダ　二つの種類のSBというものを聞いたことがあったんだ。一つはケン・シャムロックがやっていた競技、もう一つは散打に似た日本の競技ということをネットで見たんだ。

――ケンがやっていたのはシュートボクシングではなく、シュートファイティング（UWFスタイル）ではないですか？

イマダ　いや、シュートファイティングもやっていたけど、それとは別に打撃と投げを中心にした“シュートボクシング”もケンはやっていたんだ。

――そうなんですか!?　ちゃっかりシーザー会長の許可もなしにSBを輸出してたんですね（笑）。

イマダ　そうなんだろうな（笑）。

――日本で知ったUWFスタイルとSBをアメリカに持ち帰り、どちらも自分が創始者と名乗っていたとは……さすがケン・シャムロック（笑）。

イマダ　だから、まったく知らなかったわけじゃないんだよ。もちろん、やってみたことはなかったけどね。

――実際、SBをやってみていかがでしたか？

イマダ　本当にエキサイティングなルールだし楽しかったよ。

――イマダ選手は順応する能力が素晴らしいですね。あの絶妙なタイミングで投げを決められたというのは、もともと投げが得意だったんですか？

イマダ　小さい頃から柔道をやっていたんだ。投げられたのは、まずそれが要因の一つだと思う。ただ、柔道をやっているだけじゃ、このルールで投げを決めることは不可能だっただろう。いつも柔道、柔術、レスリング、打撃の練習をミックスコンバインしていたからこそ可能になったんだと思う。そして、そういった練習があ

1回戦でSBの新エース候補・梅野孝明をKOしたトビーは、準決勝で優勝候補の筆頭、『S-cup』ツータイムス王者のアンディ・サワーと対戦。1ラウンドに一本背負いでシュートポイントを奪い、そのまま判定で勝利してしまった。SB史上に残るアップセットだ。

ったからこそ、SBルールの試合を通して自分の順応力が上がったんだろうね。

——MMAファイターでもレスリングと打撃、柔道をミックスできている人ってなかなかいませんからね。

イマダ　アリガトウ。ただ、自分としては特別なことだとは思っていないけどね。これが自分の闘い方なんだよ。

——でも、対戦相手にとっては特別だったんでしょうね。

イマダ　確かにMMAファイターはみんなレスリングの練習はしているけど、柔道を知らない人は多いからね。あと、じつはちゃんとしたパンチを打つ本職のストライカーは投げやすいんだ。腰が高いからね。でも、前屈みだったりする〝ヘタウマ〟なファイターは投げを決めにくいんだよ。今回はみんな打撃のスペシャリストばかりだからね。その点で投げるには、比較的簡単な相手だったんだよ。

——なるほど。そうだったんですね。イマダ選手はこんなに打撃ができるのに、ずっとグラップラーのイメージがありましたけど、それは打撃以上にグラップリングが得意ということなんですか？

イマダ　確かに打撃というのは自分のなかではウイークポイントではあるよ。でも、いままで闘ってきた相手は、みんな高いレベルのファイターだったからね。彼らと闘うためには、厳しい練習をしなければいけない。それを繰り返しているうちに、打撃のレベルも徐々に上がっていったんだと思う。あと、自分はクリンチが得意なので、打撃勝負で相手が自分より上でも、そのときはクリンチに持ち込む。そしてクリンチできたら、投げにいくことができる。常に先を見て、局面局面で試合を動かしていくので、SBでもそれがうまくハマったんだと思うね。

——そのクリンチ技術があるからこそ、今回のSBでも相手がパンチを打ちにくい感じでした。

イマダ　そうだね。

——だから梅野選手もサワーも、イマダ選手の投げを警戒していたことでパンチで勝負をなかなかかけられず、ローキックが中心の攻めになっていた感がありますからね。

イマダ　まあ、そのおかげで脚にダメージが蓄積されて、決勝戦では勝つことができなかったんだけどね（苦笑）。

——今回は3試合目での対戦でしたけど、次はフレッシュな状態でブアカーオと再戦したい気持ちはありますか？

イマダ　もちろん！　今回、いい経験を積めたし、次にSBルールで闘えばもっといい試合ができる自信があるからね。

——今度はローキック対策もできますしね。ブアカーオの首相撲はどうでしたか？

イマダ　彼のネッククリンチを含めたすべてのテクニックを尊敬しているよ。でも、次にフレッシュな状態で闘えれば、彼がネッククリンチにきても投げることができるだろうし、勝つ自信があるよ。昨日の試合については、ウメノやサワーは自分のことをほとんど知らずに闘わなければならなかったけど、ブアカーオは自分の試合を2試合観ることができたから、ウメノやサワーよりスマートな闘いができたんだと思う。俺が組みにいっても突き放してローキックを放ってきたからね。

——次はお互いが研究したうえで、よりハイレベルな闘いを見せられるということですね。

イマダ　それはブアカーオにかぎらず、サワーやウメノも次は俺のスタイルを研究してくるだろうし、俺もSBをより研

TOBY IMADA

一本背負いをはじめとした柔道式の投げが目立ったトビーだが、多彩なパンチを持ち打撃だけのレベルも高い。来年以降、SBの"外敵"として、台風の目になりそうだ。

SHOOT BOXING
WORLD TOURNAMENT
S-cup 2010
11.23 JCB HALL
REVIEW

[S-cup2010トーナメント1回戦]
○アンディ・サワー vs ボーウィー・ソーウドムソン×
（3R 0分47秒 TKO）

サワーとムエタイの破壊神ボーウィーの優勝候補同士の闘いがいきなり実現。サワーは1Rに右フックでダウンを奪われるも、2Rにダウンを奪い返し、3Rには二度のダウンを奪い逆転勝ち。

[S-cup2010トーナメント1回戦]
○トビー・イマダ vs 梅野孝明×
（3R 3分00秒 KO）

SBの新エースとして優勝が期待された梅野だったが、総合格闘家トビーのSBとは異質な動きに苦戦。なかなか自分のペースがつかめぬまま3Rを迎え、ワンツーからのアッパーでKO負け。

[S-cup2010トーナメント1回戦]
○ブアカーオ・ポー.プラムックvs 宍戸大樹×
（3R終了 判定 3-0）

K-1 MAXでブアカーオに秒殺負けしている宍戸のリベンジマッチ。しかし、首相撲が許され水を得た魚のようになったブアカーオの勢いは止められず、フルマークの判定で敗れてしまった。

祖父が日本人だから"ひらがな"と"カタカナ"はスコシOK。来年はもっと日本で闘いたいよ

究して挑むから。次にSBに上がったときは、誰と闘っても今回以上の試合が見せられるだろうね。

――サワーも梅野選手も絶対にリベンジしたいでしょうからね。あと『S-cup』での活躍で、日本でのバリューが大きく上がったと思いますけど、SBでの闘いと同時に今後は日本でMMAの試合もしたいと思いますか？

イマダ モチロン！（日本語で）。

――闘いたい相手はいますか？

イマダ 特別誰と闘いたいという希望はないよ。ただ、日本で闘うことは自分にとって特別だから、SBはもちろん、とにかく日本でもっと試合がしたいんだ。

――特別な意味とはどういうことですか？

イマダ 自分は日本人の血を引いているからね。

――あ、そうだったんですか!?

イマダ 祖父が日本人なんだよ。俺は3世で、"ひらがな"と"カタカナ"はスコシOK（笑）。

――へぇ～、日本語が読めるんですか？（紙にカタカナを書いて）じゃあ、これ読めますか？

イマダ ……ホ……リ……エ？

――大正解！　僕の名前です（笑）。

イマダ ああ、ホリエサン（笑）。

――日本語が読めるなんて、日本のファンもみんな親近感を覚えると思いますよ。

イマダ だとうれしいね。日本語ももっと勉強したいと思っているから。

――ファイターとしての目標はどこに置いていますか？

イマダ 自分のゴールとして、まずはベストなことができる状態になること。自分が納得できるファイターになること。二番目がチャンピオンになることだね。俺は有名になりたいとか、雑誌のカバーになりたいとか、そういった欲はないんだ。ただ、試合をすることが好きだから、よりよい試合をするために、トレーニングをして、ベターな試合を見せたい。

――もともとMMAファイターになろうと思ったきっかけはなんだったんですか？

イマダ もともとは柔道が大好きな趣味だったんだけど、UFCを観てから柔術という新しい趣味を見つけて、ADCCに出たとき周りから勧められて、NHBをやってみようと思ったんだ。

――MMAではなく、NHBですか。

イマダ ああ。第1回のアブダビに出たあと、総合のトレーニングをして、最初はオープンハンドのパンクラススタイルで闘った。

――パンクラスルールがアメリカでもあったんですか？

イマダ それがトーナメントだったからね。そのあと、3試合目は頭突きもヒザもヒジもありのNHBを経験しているよ。

――掌底ルールと"なんでもあり"までやってたんですか。次の試合はいつ頃を考えていますか？

イマダ 決まってないけど、いつでもいいよ。脚の痛みが引いたらすぐにでも練習を再開するしね。SBからはすでに来年のオファーをもらっているし、もちろん出るつもりだよ。

――今回の『S-cup』はアンディ・サワーをはじめSBの選手が決勝に残れなかったので、来年は打倒ブアカーオ、打倒トビー・イマダがテーマになってくるでしょうからね。では、来年はイマダ選手の試合が日本でたくさん観られそうなので楽しみにしていますよ。

イマダ 俺も楽しみにしているよ。今回以上に楽しい試合にするから期待していてほしいね。

【10年11月24日／都内・某ホテルにて収録】

TOBY IMADA■1978年、米国カリフォルニア州出身のフィリピン系アメリカ人。祖父が日本人の日系3世でもある。98年に第1回ADCCに出場し、同年、総合格闘技デビュー。09年に行なわれたベラトールのシーズン1、2010年のシーズン2のライト級トーナメントではどちらも準優勝の成績を残している。173cm、70kg。

［S-cup2010トーナメント決勝］
○ブアカーオ・ポー.プラムック vs トビー・イマダ×
（2R 2分29秒 TKO）
ここまで柔道式の投げを駆使して勝ち上がってきたトビーだが、ブアカーオは投げを警戒して組ませない。逆にダメージが蓄積したトビーの右脚に狙いを定め、ローキックの連打でTKO勝ち。

［S-cup2010トーナメント準決勝］
○ブアカーオ・ポー.プラムック vs ヘンリー・ヴァン・オプスタル×
（3R終了 判定 3-0）
仮想ブアカーオvsサワーともいうべき一戦。ブアカーオは首相撲からの崩しを多用して、ヘンリーに自分の試合をさせず、ほぼワンサイドの展開。実力差を見せつけて決勝に進出した。

［S-cup2010トーナメント準決勝］
○トビー・イマダ vs アンディ・サワー×
（3R終了 判定 2-1）
1回戦で梅野を破ったトビーがその勢いのまま、王者サワーに挑み、1Rに払い腰、2Rには一本背負いと二度のシュートポイントを奪取。結局そのポイントによりサワーを破る大金星で決勝進出。

［S-cup2010トーナメント1回戦］
○ヘンリー・ヴァン・オプスタル vs ルイス・サリーバ×
（3R終了 判定 3-0）
サワーと同門のヘンリーが、オーストラリアのサリーバと対戦。サワー譲りのワンツーからのボディへのコンビネーションやローキックを叩き込み判定勝ち。準決勝進出。

11.23『S-cup』大会で快勝するも、MMA継続危機!?

2010年は大失敗でした

今年最も(?)試合をした男

D.J.taiki

11.23『S-cup』での及川知浩戦で見事なKO勝利を挙げたDJ.taiki。今年は茨の道を歩みながらも、なんだかんだ言ってメジャーイベントで数多く試合をした選手の一人であるのは間違いない。そういうわけで、先日の勝利とともに、今年の闘いぶりを振り返っていただいた。が、今回のインタビューも魔性のDJワールドへ……。

聞き手／松下ミワ　試合写真／丸山剛史

――今日は、今年なんと4団体で5試合も

いました。でも『S−cup』ではトビー・

ってたとしても、「あのときタイムがかか

――それは大変失礼しました！　しかし、

――今日は、今年なんと4団体で5試合も闘った男、DJ・taiki選手にお話をおうかがいしたいと思います！　のちほど撮影もよろしくお願いします。

DJ　あ、撮影ですか。じゃあこれを……（と言って、カバンから『寄生獣』のミギーを取り出す）。

――お、おお……。それは会見でも使用してたものですね。けっこうリアルですねえ。

DJ　いや、これはボクの右手です、ククク……。

――そ、そうですか。あのー、お答えいただければでいいんですが……これはDJ選手自らが作られたんでしょうか？

DJ　………材料は東急ハンズで揃えました。

――意外と近場ですね（笑）。ちょっと、先にミギーだけ写真撮ってもいいですか？

DJ　……ボクの右手が写らないようにしてください。

――気をつけます（笑）。

［と言って写真を撮る。DJは右手を隠す］

――いやー、ミギーも非常に気になるところですが、やはりここはDJ選手が見事なKO勝利を挙げられた11月23日の『S-cup』のお話からおうかがいしたいな、と。

DJ　ええ。もう、ひさしぶりの勝利でホッとしたというのが一番にくる感想ですよね。これで来年も格闘技が続けられる、みたいな……。

――じゃあ、少し大げさかもしれませんが、格闘技人生を懸けて闘った部分もあったんですか？

DJ　いやあ、もう4連敗しちゃうとさすがに罪悪感もあるし、このまま続けていいのかなというのは普通に考えますよね。

――確かに、石田光洋戦、久保優太戦、今成正和戦と、ちょっと厳しい闘いが続いていました。でも『S-cup』ではトビー・イマダに並ぶMVPという声も挙がっていますよ。

DJ　フフフ、ホントですか。1試合しかしてないのに……。

――率直に、初めてのSBルールはいかがでした？

DJ　いいですね。非常にやりやすいです。もう、試合前のアップでは投げばっか練習してたっていう。

――やはり狙ってましたか。

DJ　でも、いざ試合だとやっぱ出なかったです。総合の試合ではずーっと「組まれたくない、組まれたくない」って感じで練習してきたんで、それが出ちゃいましたね。でもまあ試合自体はうまくいったんで、それはよかったというか。

――じゃあ、またオファーがあったら出てみたい、と。

DJ　出たいですよね。出してくれるんだったら……。

――ただ、試合中には思わぬハプニングもありました。

DJ　ああ、試合時間のことですよね？

――ええ。1ラウンド3分のところが、2分でストップがかかってしまったということがありましたが、あれはやっぱり「短いんじゃないか」って思いました？

DJ　うーん、自分としては全然わからなかったですね。考えもしなかったというか。だからいつものクセでコーナーに戻ったら、レフェリーが「まだ終わってないから」みたいな感じだったんで。

――その後、あのままの流れでDJ選手が勝ったからよかったものの、相手が体力回復して逆転されてたら大変でしたね。

DJ　結局、ダメージを回復させることになるわけですから。もし仮に向こうが勝ってたとしても、「あのときタイムがかかったから」ってずっと言われるわけだから、お互いにとってあまりいいことじゃないですよね。まあ、ボクも思わず「マジかよ」みたいな。タイムキーパー見て、「ふざけんなよ」って……。

控室で入場の練習をしていたら石田選手から「こんな近くで見れるとは……」って

――言ってしまいましたか！

DJ　つい言っちゃいましたね。でもまあ、勝ったんでよかったです。

――しかし、今大会は入場シーンから目が離せませんでした。あのダンスにシーザー会長も思わず笑ってたという話も聞こえてきましたし。

DJ　あれはDEEPの今成戦から変えたんですよね。『DISCOTHEQUE』っていう水樹奈々の曲なんですけど。アニメ『ロザリオとバンパイア』のオープニングテーマの曲なんですけど。……全然、何言ってるかわかんないですよね。

――あとで検索します（笑）。

DJ　一応、紅白歌手ですよ。アニメ界のなかで一番有名です。

DJ.taikiひさびさの快勝となった11.23『S-cup』での及川知浩戦。途中、タイムキーパーが試合時間を間違えるというトラブルが起きたものの、得意の打撃で打ち勝ちKO勝利。この日はミギーも起きてたということかな？

――それは大変失礼しました！　しかし、DJ選手はなぜあのパフォーマンスをやろうと思ったんですか？

DJ　いや、一回、エキシビションマッチで水樹奈々をやったら凄い評判がよかったんで、ちょっとやってみようかなっていう。

――エア氷室の『KISS ME』は評判がよくなかったんですか？

DJ　評判っていうか、「そろそろいいんじゃないか」っていう声を……。たしか、5回ぐらいやって、振り付けの練習もおざなりになってきたんで、そろそろ新しいのをやったほうがいいんじゃないかって。

――しかし、新しい曲で入場するとなると、またイチからの作業になりますね。

DJ　だからけっこう練習しますね。今回の入場も、iPhoneに動画をダウンロードして、それを見ながら控室で練習してたんですけど、控室が石田（光洋）選手と一緒だったんですよ。だから、石田選手にずっと見られてましたね……。

――ほう。石田選手はどんな反応だったんでしょうか？

DJ　「こんな近くで見れるとは……」みたいな感じでボソッと。控室で話した会話はそれだけです……。

――ぜ、絶妙すぎます！　それで、SBの試合を含めて今年のDJ選手はいろんな団体に出てかなり試合をされてます。いろんな団体に引っぱりだこだったという意味では、今年は一番のラッキーボーイなんじゃないかなって。

DJ　でも、なんといっても2勝3敗ですからね……。全然ラッキーじゃないですよ。アンラッキーボーイですよ。戦績はいままでで一番悪いんで。

――アンラッキーボーイ……。非常に悲しい響きですけど、でもそれだけだんだん

厳しい相手と当たるようになってきたということじゃないんですか？

DJ まあ、そうですねえ……。まあ、ありがたい話ですよね。

――やっぱりこれだけオファーがあったということは、DJ選手のパフォーマンスもさることながら、周りの方々も協力的だったんでしょうね。佐伯さんとかも含めて。

DJ ……でも、佐伯さん、ボクの悪口ばっかり言いますよ。

――わ、悪口!? なぜ佐伯さんがDJ選手の悪口を?!（笑）。

DJ わからないですけど、面と向かってどんどん悪口言ってくるからイヤなんですよ。マネージャーがいるんで、マネージャーを通して話をしたほうが、直接話さないほうがいいと思うんですよね。

――そこまで険悪なんですか？ でもそれは、悪口というより何かしらの〝注意〟なんじゃないかという気もしますけども……。

DJ （聞かずに）なんか言おうと思ったら、「もう、オマエはいいから」みたいな感じでしゃべらせてもくれないし。

――それが耐えられない、と。たとえばどういうことを言われるんでしょうか？

DJ たとえば、「ローを出すな」とか。

――ローを出すな！ これはまたけっこう技術的な〝悪口〟ですね（笑）。

DJ 「それはオレのスタイルですから」みたいな感じで言うんですけど。あとは、記者会見とかで「ガンガン打ち合って、おもしろい試合をします！ って言え」とか。

――そんな指示までくるんですか。

DJ だから最近はしゃべらせてくれないんですよ。「全部こういうふうに言え」って言われて。でも、おもしろくないから言わなかったら、「なんで言わないんだ！」ってまた怒られるっていう。

――完全に負のスパイラルです（笑）。確かにDJ選手ってけっこうみんなが言えないようなことをアッサリ言えるタイプですよね。たとえば石田選手に対して目の前で「塩漬け」とか言ってみたり。

DJ.taiki

DJ だから結局、みんな怒るんですよ。そういうことに対して「あまりよろしくない」みたいに。ただ、ボクは関係者よりもファンを大事にしたいんで。

――ほう。といいますと？

DJ みんな関係者に媚びるから、そういう正直なことを言わないんですよね。でも、そんなんねえ、お金を払ってくれるのはファンなんだから。媚びを売らなきゃいけないんだったらほかの団体に行けばいいし、格闘技じゃなくてもいいわけだから。

――とにかくファンが第一なんだ、と。あと、蒸し返すようで申し訳ないですけど久保優太戦のときも、「TBSの思うようにはさせない」とかいう発言がありました。

DJ だから、TBSさんからあまりいいようには思われないですよね、正直。でも、あのあと本当にTBSさんに謝りましたけど。あのときは盛り上げるために言っただけだったんで、ホントに悪いと思ったんですよ。

――そういうのはやっぱ周りに誤解されてる部分もありますよね。

DJ そうですね……。でもファンに喜んでもらえるんなら、そっちのほうが全然いいんで。関係者よりも、ファンにいいものを提供しないといけないわけだから。だったらファンが望むような、耳に残るようなことを言って盛り上げたいですよ。たとえば「塩漬け」って言ってオレが悪者になって、逆に石田選手のファンが燃えたりすることもあるわけじゃないですか。でも「全力で頑張ります」ってコメントでは右から左というか。

――そういうのは自分がヒールになることもいとわないという感じなんですか？

DJ それで試合がおもしろくなってくれれば全然かまわないですけど、関係者に嫌われますね（苦笑）。まあ、ファンに嫌われるよりは関係者に嫌われたほうがいいんで。べつに格闘技界から干されてもいいと思ってるんで。

――でも、さすがにそれだと、試合ができなくなっちゃいますよ。

K-1初参戦となった3.27K-1MAX。次の大会から63キロ級トーナメントが始まることもあり渡辺（一久）との対戦は注目を集めたが、勝ったのはキツいローを連発したDJ。この勝利がDJのトーナメント出場を導いたのだ。

63キロトーナメント1回戦の相手は、結果的に準優勝に輝いた久保きゅんだった。キュートな顔とは裏腹に、左ミドルでDJを徐々に削っていき、最後は判定で決着をつけた久保きゅん。DJの悔しさは写真からもにじみ出ている。

なんと大会二日前に決定したDREAMでの石田戦。「どう闘おうか困ってます」と会見でこぼしたDJだが、試合はDJが予想していたとおり〝塩漬け〟に。試合後には「いっそKOか一本で負けたほうがよかった」というコメントも。

DJと〝犬猿の中〟だという佐伯さんが代表を務めるDEEPの記念大会では今成正和と対戦。足関を狙う今成のベースを崩したいDJだが、なかなか打ち合ってくれない今成。結局は試合が今成ペースで進み、判定負けを喫した。

DJ そしたら辞めます……。

――辞めないでくださいよ（笑）。

ーナーから出してくださいよ」みたいな。

DJ まあここまでの実力がないと、とい

でやりたいんですけど……。

――ちなみに、総合で目標にしているとい

ルとか参考になるんで。でも上の選手と

かは、すぐに海外に行きたがるじゃないで

DJ　そしたら辞めます……。
——辞めないでくださいよ（笑）。
DJ　ぶっちゃけね、実際、格闘技さえやめればいまの3倍の収入が保証されるわけだから。
——3倍も！　いったいなんの仕事に足を突っ込もうとしてるんですか⁉
DJ　（聞かずに）だから自分のやりたいことができないんだったら格闘技をやってる意味がないんで。関係者に媚びるのだけはしたくないっていう。
——夢のためである、と。
DJ　やっぱ好きじゃなければ続けられないですよ。
——そういう意味では、今年は、勝敗は抜きにして試合もたくさんできたし、会見などでの発言もけっこうみんな気になってましたし、これはもうDJプロモーションは成功ということになるんですかね。
DJ　いや、大失敗です（キッパリ）。
——それでも大失敗！
DJ　いやあ、今年はダメですね。今年はこの反省を活かして来年につなげるっていうことですね。
——なるほど。で、肝心の試合の話ですが、今年の5試合の中でもけっこう急なオファーがあったり、なかなか大変だったんじゃないですか？
DJ　まあ、厳しかったですね。一番苦しい年でした。でも、しょうがないですね。結局は青コーナーで、主役は相手なんで、不利な条件を飲まなきゃいけないというか……。
——そういうのを自分の中で飲み込みながら試合に出たこともある、と。
DJ　まあ、しょうがないです、多少、無理するのは。
——そういう欲はないんですか？「赤コーナーから出してくださいよ」みたいな。
DJ　まあそこまでの実力がないと、という話ですよね。もっと勝たないと。でも急なオファーでも、今年だったらやっぱりDREAMには出たかったですし、万全な状態で試合をするよりもDREAMに出たいというのが先というか。
——ちなみに、今年は結果的に立ち技ルールでの試合のほうが多かったわけですが、来年のプランとしてはどうなんでしょう？
DJ　どうなんですかね。最近、総合に対して自信がなくなってきてるんで。総合は向いてないんじゃないかな、みたいな……。
——そんな悩みがありましたか。
DJ　もともと一番はじめは総合の選手なんですけど。最近、負けまくってて自信がちょっと……。総合は向いてないんじゃないかなあ、なんて思い始めてますね。
——迷ってる最中なんですね。
DJ　もう、かなり悩んでますね。総合をやりたい気持ちは凄くあるんですけど、弱いから。立ち技のほうが向いてるんじゃないかなって。
——じゃあ、来年は立ち技一本でとか、そういう計画もあるんですか？
DJ　総合をやりたいことはやりたいですけど、勝てないからなあってことですね。
——いまそれを打開しようというような作戦とかも練ってるわけですね。
DJ　あとはもっと立ち技のほうを強くして、立ち技でチャンピオンになるという二つの道がありますけどね。でもマネージャーと相談してると、「総合はどうかな」みたいな感じになるんで………。
——ちょ、ちょっと悩みすぎなんじゃないですか？
DJ　まあ、難しいですよね。本当は総合でやりたいんですけど……。

たとえばレスラータイプだったら いくらヤンキーでもやりたくないですし……

——ちなみに、総合で目標にしているといいますか、闘いたい選手っていますか？
DJ　いっぱいいるんですけど、誰ですかねえ。とりあえずずっと高谷（裕之）選手とやりたいって言ってるんですけどね。
——ああ、以前も言われてましたけど、それはやはりヤンキー的な匂いがするからですか？
DJ　いや、どちらかというとファイトスタイルですよね。まあ、ヤンキーっていう煽りもいいですけど、たとえば向こうがレスラータイプだったら、いくらヤンキーでもやりたくないですし……。
——寝技系のヤンキーとはやりたくない（笑）。
DJ　どっちかといったら立ち技のヤンキーとのほうがいいですよね。だからヤンキーだからいいというわけでもないんですよね。
——ひょっとして、もうヤンキーという部分はどうでもいいんですか？
DJ　いや、どうでもよくはないですけど。
——どうでもよくないんですね（笑）。
DJ　まあ、それよりも先に競技なんで。対戦希望選手はいっぱいいます。高谷選手とか、ウィッキー選手とか。やっぱ打撃系の選手とやりたいですね。
——ああ、いいですね。DJ選手は宮田選手とか石田選手とか、レスラータイプの選手との試合が多いですもんね。
DJ　まあ……。
——ちなみに、海外なんかも気になったりしてますか？　先日UFCとWECが統合したりしましたけど。
DJ　もちろん、世界のトップレベルの選手が集まる舞台ですから、技術とかスタイルとか参考になるんで。でも上の選手とかは、すぐに海外に行きたがるじゃないですか。で、負けてリリースされて帰ってくるじゃないですか。結局、国内で勝てないのに海外で勝てるわけないんですよ。
——そこは冷静に見てるわけですね。
DJ　海外で勝つには日本で充分な実力がないと。すぐに3連敗してリリースされてっていう選手をいっぱい知ってるんで。国内で勝てないのに海外でって言ってもしょうがないなっていうのは思ってますね。
——まず国内で実力を固めてというか。
DJ　じゃないと、みんなすぐ帰ってきちゃってますからね。
——じゃあ、やっぱり当面は日本でやる方向ですね。
DJ　とりあえずそうですね。でも、総合やるかまだわからないんで……。
——またしても堂々めぐり（笑）。
DJ　まあ、悩んでるんで……ちょっと………。どうなるかわからないです……（どんより）。
——……ぜひ佐伯さんにも相談してみてください（笑）。今日はありがとうございました！

【10年11月30日／神奈川・小港食堂 亀鷹にて収録】

でぃーじぇい・たいき■1982年8月24日、千葉県出身。04年にDEMOLITIONで総合デビュー。その後、パンクラス、DEEPで実績を積み、09年4月にDREAM初参戦。打撃の技術も評価され、10年3月にはK—1初参戦をはたした。ぜひ11年も総合格闘技を続けてほしい魅惑のファイター。172センチ、65キロ。

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

中邑真輔の一見さんお断り

プロレス界史上最高に難解な男の脳みそを解き明かす!!

昨年、唐突にアントニオ猪木への挑戦をリング上でブチ上げて物議をかもすなど、その行動と発言が刺激的な男・中邑真輔。そんな男が初の単行本をリリース。"プロレス界で最も難解な男"がつぶやく10万字!! その名も『中邑真輔の一見さんお断り』。タイトルとは裏腹に一見さんは大歓迎だったりする内容です!

B6変型判 224ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)

悪役道 ヒールたちのブルース

悪の道を歩けるのは選ばしれ者のみ!

"悪の道"に精通する豪華16名が珠玉の"ヒール哲学"を激白! 反則攻撃、挑発行為、ラフファイト、モンスター、エゴイスト、アナーキスト、アンチヒーロー……。悪とは何か? 悪役とは何か? 本書は因縁の内藤大助戦に勝利を収めた亀田興毅をはじめ、『kamipro』誌上に掲載されたさまざまな悪役のインタビューを厳選収録。時代に憎まれし、ヒールたちのブルースを聴け!

B6変型 304ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

新日本プロレス学習帳

"業界の盟主"の魅力を凝縮したインタビュー12連発!

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に! これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり!

B6変型判 320ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男

秋山成勲なのかチユ・ソンフンなのか――。

2006年12月31日大晦日、秋山成勲vs桜庭和志戦で発生したクリーム塗布事件。この一件以降、秋山は日本では悪質な反則選手、片や韓国では悲劇の元・在日韓国人と、評価が真っ二つに分かれた。本書籍は秋山成勲が、柔道界での挫折ののち、総合格闘技家としてデビューして"魔王"と呼ばれる怪物に至るまでを検証するノンフィクションだ。

B6変型判 264ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

生前追悼 ターザン山本!

え、ターザンが死んだ!? 90年代プロレスを徹底検証!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判 304ページ
定価=1,470円(本体1,400円+税)

PRIDE機密ファイル 封印された30の計画

ついにその秘密のベールを解禁!! PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★高田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早2年――世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘! さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

U.W.F.変態新書

ダメな大人たちへ捧げる"変態"とUWFの晩餐!

★UWF★前田日明★船木誠勝★高田延彦★桜庭和志★ターザン山本!★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か?(菊地成孔スペシャルインタビュー)★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

八百長★野郎

ミスター高橋本から7年…… "呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊池孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載!

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考! "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る!

B6変型判 296ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

PRIDEはもう忘れろ!

フジテレビショックから始まった日本マット界激動の歴史を追う!

フジテレビショックは日本格闘技界に何をもたらしたのか? 本誌でおなじみのライター橋本宗洋が送るMMAクロニクル。本書は、本誌携帯サイト『kamipro Move』で好評連載中の週刊コラムを厳選収録したものである。PRIDE凋落の時期からスタートした連載は、あらためてPRIDEの存在意義、役割を見つめ直し、そしてPRIDE消滅後、それでも生き続ける格闘技のおもしろさを綴っている!

B6変型判 336ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1

吉田豪インタビュー11連発!! インタビュー本の最凄傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ
定価=1,890円(本体1,800円+税)

eb! enterbrain

おかげさまで10周年 エンターブレイン ANNIVERSARY 10th

発行/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
発売/株式会社角川グループパブリッシング
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

UFO研究家

ザ・グレート・サスケ

宇宙存在バシャールと対談した男

須藤元気

kamipro年末恒例のUFO企画!

NASAの隠蔽を暴け!!

驚ガクの"真実"があきらかに!

UFO頂上対談

年末恒例『ビートたけしのTVタックル』超常現象特番に合わせて、なぜか年末恒例となっている『kamipro』のUFO特集。今年はおなじみUFO研究家ザ・グレート・サスケが、宇宙存在バシャールと対談したという須藤元気とUFOについておおいに語り合います! NASAがどんな発表をしようと、これが"真実"だ!?

聞き手/堀江ガンツ　撮影/笹井孝祐

――サスケさん！ 今年も『kamipro』でなぜか年末恒例になっているUFO対談のお時間がやってまいりました！

サスケ 来ましたね～。今日は須藤元気さんとの対談だからUFCについてかと思ったら、UFOだったというね。

――サスケさんと元気さんといえば、UFOへの造詣が深いことで知られてますからね。

サスケ いやいや、私なんてまだまだ。やっぱり須藤さんこそ、格闘技界のUFO研究においては希望の星ですから！

元気 じつは明日、ちょうどUFOの番組に出るんですよ。

サスケ えぇ!? そうなんですか？

元気 『やりすぎコージー』という番組でUFOについて語るんです。

――実際、最近はUFO関係の仕事も増えてますよね？

サスケ 去年は年末の『ビートたけしのTVタックル 超常現象ファイナルウォーズ』にも出られましたもんね。

元気 サスケさんは、どのくらい前からUFOは目撃してたんですか？

サスケ 私は18歳のときに初めて見ましたね。

――お二人とも実際にUFOを目撃してるんですか？

サスケ （立ち上がって）あたりまえじゃないですか！ モチのロンですよ！

――あたりまえでしたか（笑）。

サスケ まあ、私自身も実際に見るまでは「UFOなんてありえねえよ」「嘘っぱちだ」と思ってたんですけどね。ところが本物を見ちゃったもんだから、人生観が変わりましたよ！

元気 変わりますよね。

サスケ 具体的にそのときの様子を話してもいいですか？

――どうぞどうぞ（笑）。

昔は「UFOなんて嘘っぱち」と思ってたのが本物を見てしまって人生観が変わりましたね

サスケ 盛岡駅近くで車を運転中に信号待ちしてたんですよ。そしたらフロントウインドウから斜め45度にピカピカ光るものがあったんですね。「あれ、飛行機かな？ 待てよ、飛行機にしちゃあ大きいな」と。で、丸いんですよ。ゆっくり点滅を繰り返して、そのあと瞬間移動したんですね。それが5～6回続いて、ジグザグ航行で「うわっ！ なんだ、なんだ」と。で、最後にジグザグ航行から水平飛行にチェンジしてそこからは猛スピードですよ。もう、たとえて言うならジェット戦闘機の150倍ぐらいのスピード！

――戦闘機の150倍ですか！

サスケ 150倍です（キッパリ）。で、一直線に南下していったんですね。ギューッっと！ それを見て、もう人生観が変わりましたね。「これは地球上の技術じゃ無理だ」と。我々人間の力がおよばないものがあると知って、そこから「人生、好きに生きていいんだ」と、悟ったんですね。

元気 18歳でそこまで考えたんですか。

サスケ 考えましたね。小さなことで悩んでるのがバカらしくなりましたから。元気さんは、いつUFOをご覧になられたんですか？

SUDO THE GREAT SASUKE

元気 僕はちょっと変わった体験なんですよ。

サスケ ほうほう。

元気 中学生のときに友だち3人と河原で夜釣りをしてたんですね。僕は目が悪くてメガネをかけてたんですけど、友だちが「どれだけ目が悪いかちょっとメガネ貸して」って言って、そいつが僕のメガネをかけたら「UFOだ！」って叫んだんです。

サスケ でも、元気さんはメガネがないから見えないんですよね？

元気 見えないんです。でも、僕を騙してる雰囲気じゃなかったんですよ。3人がホントに焦ってて。で、メガネを返してもらったときには、もうUFOは見えなくなってたんですけど。僕がメガネを貸した瞬間に現われるなんて、ちょっとタイミングがおかしすぎるなと思って。

サスケ 偶然とは思えませんね（真顔で）。

元気 だから、僕は「あのときアブダクションされたんじゃないかな」って思ってるんです。

サスケ うん、そうかもしれない！ それはありえますね、うん！

元気 実際は宇宙人に会ってるのに、記憶を消されたんじゃないかなって。

サスケ その可能性はきわめて高いですね。うんうん。

――あの……基本的な質問を恐縮ですが、アブダクションとはどういうものなんでしょうか？

サスケ あれ!? ご存知ない。

――すいません（笑）。

サスケ ま、一言で言えばね、誘拐です（アッサリ）。

元気 ポジティブな誘拐ですよね。

――ポ、ポジティブな誘拐……？ それは宇宙人に誘拐されるということです

か？

サスケ　あたりまえじゃないですか。宇宙人以外に誰がアブダクションするんですか。

——知りませんけど（笑）。それは宇宙人に何かされてしまうんですか？

元気　まあ、いろんなことをされると言われてますね。いまはインプラントを入れたりするって言われてますけど。僕がバシャールという地球外生命体と対談したときも「インプラントが入ってる」って言われて。

——バ……バシャールと対談？

サスケ　（意に介さず）じゃあ、やっぱり中学生時代にアブダクションされたときに入れられてますね。

元気　高校の頃も何度かそういう体験があって、寝ているときに夢の中でインプラントを入れられる場合もあるそうですね。

——宇宙人に誘拐されたあと、戻ってこられるんですか？

サスケ　まあ、基本的には戻してくれますよ。ここからはかなり専門的な話になっちゃいますけど、宇宙人というのもやはりいろんな種族がいるんですね。ディスクロージャープロジェクトっていう暴露計画を、2000年代に入ってやってるんですけど、関係者の証言によると、過去、地球で54種族の宇宙人が確認されてるんです。

元気　そうなんですよね。

——元気さんもご存知なんですか？

元気　はい。

サスケ　研究家のあいだでは、よく知られた話ですから。で、いわゆるグレイタイプの宇宙人がアブダクションを行なっているのではない、と。そして80年代のアブダクションが多発した時代には、宇宙人がガンを治してくれたり、そういった事例もあるんですよ。なぜ、病気を治してくれるのかはわかっていないんですけど、何か明確な目的があってやってることだということは間違いないですね。

——サスケさんは、アブダクションされた経験はないんですか？

サスケ　ないんですよ、残念ながら。私も宇宙人に治してほしいところがたくさんあるんですけどね。ガッハハハハ！

——………。

元気　でも、サスケさんもインプラント入ってると思いますよ。

サスケ　（身を乗り出して）じつは、私もうすうすそうじゃないかと思ってたんですよ。アブダクションされても、本人は気づかないことが多いって言いますもんね。もう私なんかアブダクションしてほしいと思ってる人間ですから。夜空に向かって「どうか私をさらってくれ！」って叫びたいくらいですから。

元気　アハハハハ！

サスケ　『インディペンデンス・デイ』という映画があったじゃないですか。あれで熱狂的なUFOファンがビルの屋上に上がって「私をさらって〜！」ってやるじゃないですか。あんな心境ですよね。でも、映画では「私をさらって〜！」って言った瞬間に「ドーンッ！」ってUFOに砲撃されて死んじゃうんですけどね（笑）。

——ダメじゃないですか（笑）。

サスケ　ま、私もリング上か、UFOに砲撃されて死ぬなら本望ですよ。ガッハッハッハ！

——元気さんは、そのアブダクションされた経験以外で、実際にUFOはご覧になられてはいないんですか？

元気　いや、実際にこの目で見たのは高校2年生の頃ですね。学校帰りに錦糸町駅前のロータリーで歩道橋を渡るときに、白い卵型のがポツーンと。

サスケ　ほーお。

元気　まったく動かなかったんですよ。白い卵がただ単に浮いてるだけで。

サスケ　それは90年代の話ですよね？

元気　そうです。

サスケ　白い卵型UFOは90年代のトレンドなんですよ。

——UFOにもそんなトレンドがあるんですか（笑）。

元気　その卵型UFOを見たとき、なんの感情もなかったんですよ。怖いとも思わなかったし、普通に「あ、飛行機だ」みたいな感じで「あ、UFOだ」って。

——そんな平常心で目撃してたんですか？

元気　全然驚いたりとかはしなかったんですよ。その後、バシャールと対談したとき、バシャールいわく、実際にテレパシーで「怖がらなくていいよ。ボクはキミの転生体だ」って伝えてきたらしいんですね。未来の自分がやってきたらしいです。

サスケ　なるほど、なるほど。じゃあ、中学時代のアブダクションっていうのは、もしかしたらそこにつながってるんでしょうか。それともまた別なんですかね。

元気　いやあ、どうなんですかねえ。ただボクは、やはりそういった転生ストーリー

僕は中学生のときにアブダクションされて宇宙人に記憶を消されてると思うんです

GENKI SUDO TH

なんだなって考えてますけど。サスケさんと一緒で、ボクもそこから価値観が変わって、目に見えないものに興味を持ちだしましたから。

――元気さんは北海道の網走に移り住んだのも、UFOを呼ぶためだったらしいですね？

元気　そうですね。バシャールと対談したときに、ちょうど家を建てようと思っていて、何がいいかって聞いたら「ピラミッド型か円形がいい」って言われたんです。で、ボクの家はギザのピラミッドと同じ黄金比のログハウスなんですよ。

サスケ　へえ〜。

元気　で、東西南北の面を合わせて。黄金比だと家にならないので、ベースはちょっと角度を広げて。

サスケ　屋根がちょうどそんな感じってことですね。

元気　はい。で、てっぺんの部分だけ屋根を潰して、完全な黄金比で作ってます。そこは瞑想室なんですけど。

――瞑想室がありますか。

元気　あと、地中に大量の水晶を埋めてますね。これもバシャールが「それがいいよ」って言ってたので、じゃあそういう家を建てようと思って。「そうすれば3年以内にUFOに出会う」って言われたんで、UFOがいつでも降りてこられるためには広いほうがいいなと思って、1万坪の土地を買って。

――UFOの〝駐車場〟のために1万坪の土地購入ですか！

元気　そうですね。実際、物理的に出会うためには、それぐらい必要だなって思って。

サスケ　そこまでやれば間違いなく飛来しますよ！

元気　で、今年の1月2日に実際に来たんですよ。

――来ましたか！

元気　UFOサイズが無茶苦茶デカくて。ホント、映画に出てくるインディペンデンス・デイサイズです。雲からグオーッて出てきて、もうあまりにも驚いてしまって。やっぱ怖かったんですよ。想像以上のものだったんで。で、怖がった瞬間、ブワンッってボクの家の屋根の向こうのほうに行ってしまったんですけど。

サスケ　うわーッ！　それは凄い！　それは凄い体験ですよ！

元気　まあ、こう言ったって、結局、信じてもらえないかもしれないので、言ってもなかなかあれなんですけど。

サスケ　いや、でも私には手に取るようにわかります（キッパリ）。

――そんな巨大なUFOが突然現れて、網走の人たちはパニックにならなかったんですか？

元気　現われたのが早朝だったんですよ。たまたま、まだあたりが暗い早朝に起きてトイレに行って、なんか外が気になって出たんですよ。そしたらその瞬間、ブワンッと出てきて「おおーッ」みたいな。いまでも鮮明に覚えてますね。

サスケ　たぶん、あまりにも見事なログハウスだったんで、宇宙人も気になって来たんでしょうね。いわゆる、いま流行りのパワースポット、須藤さんはパワースポットを作っちゃったんですよ！　しかも、言ってみれば日本の最北端に近いところじゃないですか。う〜ん、須藤さんの家は今後、重要な拠点になりますね。

核兵器開発がベースの冷戦構造時代には米軍の基地へUFOが監視に来てましたから

THE GREAT SASUKE

元気　盛岡とかもそうだと思いますけど、北海道は物理的にUFOが来やすいんですよね。ノイズが少ないんで。

サスケ　ホントそうですね。

元気　東京だと、なかなか来れませんから。

――ノイズがあるとダメなんですか？

元気　ダメですね。彼らはエネルギーの震度数が低下しないとこっち側に来れないので、けっこう疲れるんですよ。だから彼らがこっちに来るのは、僕らが海中で服を着て歩いてるようなものですから。息苦しいというか。だからノイズ、煩悩が極力少ないところのほうが来やすいんですよ。逆にいろんな欲が渦巻いている東京には現われにくいんです。

――では、メキシコにたくさんUFOが飛来してたのは、なぜなんでしょうね。メキシコシティみたいな大都会にもたくさん来てましたよね？

サスケ　あれは私がメキシコ修行に行っていた91年から92年にかけて急に増えだしたんですよ。ところがしばらくしたら急に現われなくなって、今度は同じような数百機のUFOが韓国に現われたんですね。そして、いまは中国でUFO目撃が多発してるんです。これらの事象をもとに考えるに、おそらく各国の経済発展を見守ってるんじゃないかと思いますね。

――UFOが地球上の経済に注視してましたか。

サスケ　もっちろん、宇宙人は地球上のいろ

んですよね。これはデバンキング・オペレーションっていうんですけど、映画『未知

UFOが降りられるように1万坪の土地を買ったら1月2日に実際に来たんですよ

したか。

サスケ　もちろん、宇宙人は地球上のいろんなことを探ってますからね。70年代から80年代初頭にかけては、核兵器開発がベースの冷戦構造のなかで、米軍の基地にだいぶＵＦＯが監視に来てましたからね。要は、ＵＦＯが心配して来てくれたんですよ。

—パトロールに来てましたか（笑）。

元気　宇宙人がこれまで唯一、人類に対して介入したのが冷戦のときの核だっていいますよね。核兵器のスイッチを全部オフにしたって。

—そんな話があるんですか!?　キューバ危機の頃ですか？

元気　そうです。あれ、もうホントにギリギリだったんですね。ホントに数秒で地球が終わってた状況だったんですよ。そのときに唯一、宇宙人が介入して地球滅亡を防いでくれたんです。で、宇宙人がなんで人類に直接関わらないかっていうと、『スター・トレック』と一緒で「地球人に対して介入しちゃいけない」っていうルールがあるんですよ。なんで介入しないかっていうと、人類の成長を見守るというか、そこで手を貸してしまうと自分たちで力をつけられなくなるので。

—人類が自力で進化するために、あえて力を貸さない、と。

元気　そうなんです。そして宇宙には宇宙連合っていうのがあるって僕は聞いたんですけど。

サスケ　ありますね（当然のように）。

元気　その宇宙連合から、いま地球は隔離されてる状態なんですよね。メンバーじゃないんですよ。

—まだ発展途上星であり、常任理事星入りしてないというか（笑）。

元気　まだメンバーに入れてないんです。だからそこも踏まえて介入しちゃいけない状態で、「まだメンバーじゃないので彼らに任せる」っていう状態なんですね。で、よく「２０１２年に地球滅亡」って言われますけど、あれは２０１２年に宇宙連合内の「地球に介入しない」というルールが解除されるんですよ。で、２０１５年に地球が宇宙連合の正式なメンバーになる予定です。

GENKI SUDO

—5年後には地球が宇宙連合入りですか！

元気　ただ、それが公になるのは２０３３年まで待たないとダメみたいですね。だから人類と宇宙人が公にコンタクトし始めるのは２０３３年ですね。

—……ホントにそんなことになってるんですか？

サスケ　これは矢追（純一）さんとよく話してるんですけども、ここまで明かしてしまうと、やっぱり皆さん驚くじゃないですか。

—いや、にわかには信じ難いですよ。

サスケ　もし、いま宇宙人が目の前にジャンジャン現われたら、ショック死する人も出るかもしれない。だから驚かないように、過去何十年もかけて教育してるんです。宇宙人情報を少しずつ刷り込んでるんですよね。これはデバンキング・オペレーションっていうんですけど、映画『未知との遭遇』から始まって、『E.T.』とか『インディペンデンス・デイ』しかり、最近ではかっぱ寿司のCMもそうですね。

—ホントですか（笑）。

サスケ　はい。みちのくプロレスの「宇宙大戦争」も、もちろんその一環です（キッパリ）。で、これだけＵＦＯや宇宙人の情報が世の中に出回っているので、じつは我々は凄く免疫がついてる状況なんですね。だから２０１２年以降も以外と人類は宇宙人に対して驚いたり、必要以上に怖がったりしないんじゃないかと思います。

元気　そうですね。

サスケ　「おおー、やっと来たかー」っていう感じですよね。

元気　たぶん、そういったものに対してまったく縁がない人は見れないんだと思いますね。人間って、深層心理のなかで見たいものだけ見るっていう習性があるので。

—では、本誌読者にもＵＦＯだったり不思議な体験に興味がある人はたくさんいると思うんですけど、なかなかその入口がわからないと思うんですよ。ＵＦＯに会いやすい方法っていうのはあるんですか？

元気　それはまず「会いたい」って思わないことですよ。

サスケ　うんうん！　そうですよね！

元気　シンクロニシティっていうのは、自分自身が考えてるときはやってこないんですね。偶然の一致っていうものはそれについて考えてないときにやってくるんです。なにかをずっと「かなえたい」って思ってると、それはかなわなくて、忘れてるとそれがかなうっていう。

—ほうほう。人との出会いなんかもそうかもしれないですね。

元気　そうなんです。思考がそれを邪魔してしまうんですよ。考えてる状態はβ波なんですけど、それは計算してる状態なんで現われないですね。だから興味があるっていうアンテナだけ張っておいて、あとは忘れる、と。「現われるかもしれない」って思ってるときは絶対に現われないです。だからUFOを見るために空を見上げたときは、ないんですよ。

――じゃあ、元気さんもある日突然、会ったんですか？

元気　そうですね、ボクは全部で3回ですけど。なんにも考えてないときにポンと現れましたから。

――サスケさんはどうですか？

サスケ　私も3回見てるんですけど、共通してたのは「見よう、見よう」って意識してないのはもちろんなんですけど、心がまっさらなときでしたね。で、なおかつ3回ともポジティブなときでした。試合を終えたあとの解放感とか、「最近、調子いいな」とか、そんなプラスの状態のときに見てましたね。

元気　宇宙人はポジティブですからね。

――それに引き寄せられるんですか？

元気　ポジティブに引き寄せられるっていうか、『インディペンデンス・デイ』に出てくるような侵略型の宇宙人っていないですよ。戦争とかやる時点で意識レベルが低いじゃないですか。逆に言うと、人類はこれまでずっと戦争を続けてますよね。まだそのレベルなんで、宇宙連合から隔離されてるんですけど。

――そういった理由もありましたか。では、お話はつきませんが、そろそろ……。

サスケ　(さえぎって)えぇ～～っ！　もう終わりですか？

――まだ話し足りないですか？

宇宙人が現われても市民が驚かないように過去何十年もかけて情報を刷り込んでる

地球は宇宙連合から隔離されてる状態。2015年には正式に加入できる予定です

THE GREAT SASUKE

GENKI SUDO

ざ・ぐれーと・さすけ■1969年7月18日、岩手県出身。90年にユニバーサル・レスリング連盟でデビュー。93年にみちのくプロレスを旗揚げ。2003年に岩手県議会議員選挙に出馬し、トップ当選。県議会でUFOに関する質問をするなど、UFO研究家としても知られる。180cm、88kg。

すどう・げんき■1978年3月8日、東京都出身。98年にアメリカでMMAデビュー。その後、パンクラス、リングス、UFCでも活躍。02年にK-1 MAXに参戦してブレイクし、05年大晦日には『Dynamite!!』のメインイベントを務める。06年大晦日に引退。現在は作家、タレントとして活躍中。

サスケ　まだまだほんのさわりですよ！

――でも、テレビ朝日の超常現象番組同様、いいところで終わって、また来年ということで(笑)。

サスケ　うん、残念ですが、今回はここまでにしましょう！　最後に須藤さんに一つお願いをしてもよろしいでしょうか？

元気　なんですか？

サスケ　今度、『WORLD ORDER』の新作プロモーションビデオを撮影されるときに、ぜひ通行人役で出させてもらえないでしょうか？

元気　アハハハ！　サスケさんが通行人で混じってたら、全部、サスケさんに持っていかれちゃうじゃないですか(笑)。

サスケ　そこをなんとか、お願いします。

元気　でも、あれは仕込みなしなんですよ。サスケさんが歩いてたら仕込みだって思われちゃうじゃないですか(笑)。

――一人だけマスクマンがいるわけですからね(笑)。

サスケ　ということはあれも仕込みなしですか、六本木ヒルズの前かなんかで撮ったやつで、撮影が終わったあと「須藤さんですよね？」って女性が話しかけてくるシーン。

元気　あれも出来レースじゃないですよ。「何が起きるかわかんないから、カットがかかってもカメラを回しといてくれ」って言っといたんですよね。

サスケ　あれは奇跡的な画でしたね。

元気　ありがとうございます。

――でも、サスケさんにも奇跡が起こるんじゃないですか？「見たい」と思ってないときにUFOに遭遇するのと同じで、偶然、元気さんの撮影に遭遇しちゃったりして(笑)。

元気　それなら仕方ないですね(笑)。

――サスケさんは普段からマスク姿ですから、偶然、通りかかっても「サスケ」として登場できますよ。

サスケ　そりゃそうですよ。これが私の顔なんですから！

――では、そんな奇跡の遭遇を期待してお開きにしたいと思います！

【10年11月30日／都内・某秘密の場所にて収録】

――武蔵さん！　今回はドラマ版『サザエさん』の穴子さん役に抜擢されたわけで

――Vシネ方面というか（笑）。
武蔵　そういうアウトロー的な役ならま

に似てるって言われたりしたんですか？
武蔵　そうですね、やっぱりポテッとした

夫婦初登場」みたいなストーリーがあるんですよ。収録は埼玉まで行ったりしたん

いその

な、な、な〜んとドラマ版『サザエさん』に出演！

K―1ヘビー級の日本人最高の功労者が愉快で切ない〝武蔵流〟半生を激語り！

僕が穴子さんになるまで

K―1ワールドGP 2003&2004準優勝者

武蔵

今年10月に実弟TOMOとの一戦を最後に引退した武蔵が、来年1月2日に放送されるフジテレビ系新春スペシャルドラマ『サザエさん』に穴子さん役として出演！　世界と闘える日本人ヘビー級ファイターとしてK―1を支えてきた男が、穴子さんに至るまでの涙あり笑いありの道のりを語ってくれました！

聞き手／鈴木佑　試合写真／乾晋也

役作りにあたってモミアゲの剃り位置には葛藤がありました

――武蔵さん！　今回はドラマ版『サザエさん』の穴子さん役に抜擢されたわけですけど、この絶妙なキャスティングに巷は話題騒然です（笑）。

武蔵　そうですか、フフフフ。

――やっぱり、唇がソックリということでオファーがきたとか？

武蔵　そうですね、『サザエさん』の制作サイドの方が食いついてくれまして。オファーは9月末くらいにもらって、もう出演シーンは撮り終えたんですけど。

――ズバリ、オファーがきたときの率直な感想は？

武蔵　いや、やっぱり関西人ノリやないですけど、「こりゃおいしいな」って思いましたよ。

――へ～、とくに複雑な思いとかはなかったですか？

武蔵　いやいや、まったく。逆に言うたら歴史があるマンガじゃないですか？　僕らが子どもの頃から慣れ親しんでるマンガって山ほどありますけど、そのなかでも『サザエさん』は別格というか。「アメリカがミッキーマウスなら日本は『サザエさん』」くらいのもんで、知らない人はいないでしょうしね。

――国民的マンガですからね。

武蔵　そういうマンガの実写版ドラマ、しかも過去に高視聴率を稼いでいる番組の続編に、まさか格闘技界から出演できるなんて思いもしませんでしたから。ほら、格闘家って役者の仕事がきてもヤ○ザの役だったりするじゃないですか？

――Vシネ方面というか（笑）。

武蔵　そういうアウトロー的な役ならまだしも、アットホームな『サザエさん』ですからね。いや、ホントありがたいなって思いましたよ。世間に対して〝格闘技＝いかつい〟っていうイメージを払拭できるというか、「格闘家もこんな役がこなせますよ」っていうアピールになると思うし。まぁ、一つの夢を与えれるかな、と（笑）。

――ハハハハ。ちなみに昔から穴子さんに似てるって言われたりしたんですか？

武蔵　そうですね、やっぱりポテッとしたこの部分が（唇を触りながら）。まぁ、若い頃は「おまえ、穴子さんっぽいな」なんて言われたらカチンときてたかもしれないですけど、年をとるにつれて丸くなって（笑）。それに、そもそも穴子さんって『サザエさん』になくてはならないキャラじゃないですか？　貴重な脇役というか。

――確かにマスオさんのソウルメイトですからね（笑）。

武蔵　その役が自分に回ってきたのもひとえにこの唇のおかげだし、「顔に特徴があってよかったな」って思いましたね。

――なんでも役作りにあたって、ヒゲやモミアゲも剃ったとか？

武蔵　まぁ、役作りっていうほどカッコイイもんじゃないですけど、制作側からも言われたので、「宮川大助・花子の大助師匠くらいには剃らなあかんな」と。ただ、番組の収録日が『ムサフェス』に近かったんですよ。

――『ムサフェス』？　あぁ、武蔵さんの引退イベント『MUSASHI ROCK FESTIVAL』ですね。

武蔵　そうですそうです。それがあったんで、あんまりモミアゲを剃りすぎちゃうとっていう葛藤が……。

――ロックなイベントであんまり穴子さんすぎても、と（笑）。

武蔵　だから、剃り位置も微妙なところに設定して（笑）。

――ちなみにドラマの収録期間は？

武蔵　二日間ですね。

――あ、短かったんですね。

武蔵　はい。『サザエさん』って「～の巻」みたいな感じでオムニバス形式じゃないですか？　そのなかにたぶん「アナゴさん夫婦初登場」みたいなストーリーがあるんですよ。収録は埼玉まで行ったりしたんで、登場シーンはそんなに短くはないと思うんですけど。

――現場の雰囲気はどんな感じでしたか？

武蔵　ボクもけっこう必死というか全力投球だったんで、撮影中にほかの共演者の方たちと何か話したっていうのはあんまりないんですよ。ただ、タラちゃんとかワカメちゃん役の子たちがむっちゃかわいかったんで一緒に遊んだりして（ニッコリ）。やっぱり『サザエさん』だけあって、現場もアットホームな感じで凄く楽しかったですね。

――で、穴子夫人役が鬼嫁こと北斗晶さんなのも絶妙というか。

武蔵　フフフフ。僕は夫婦ゲンカでけっこうシバかれるシーンも多いんですけど、あの北斗さんにどつかれるワケですから逆に光栄でしたね。北斗さんとはこれまでにも何度かお会いしたことあったんですけど、仕事でご一緒するのは今回が初めてだったんですよ。でも、テレビの鬼嫁的なイメージとは違って、メチャクチャいい人でしたよ。収録前日とかも「アナタ、明日は頑張りましょうね」とかメールが来て（笑）。

――すでに夫婦の設定に入り込んで（笑）。

武蔵　そうそう（笑）。で、僕も「奥さま、明日はよろしくお願いします」みたいな。まあ、ボクはハイコー（後輩）ですから。

――北斗さんつながりでいうと、何年か前の大晦日の『Dynamite!!』で、武蔵さんが佐々木健介さんとK-1ルールで対戦するっていう噂があったじゃないですか？

武蔵　ああ、ありましたね！　当時、健介さんがK-1の会場に観に来られたときに、

以前から穴子さんに似てるという声があった武蔵だが、まさかそのままの役柄のオファーがくるなんて。さすが天下のフジテレビ、格闘家の扱い方をわかってる!?

僕もご挨拶させてもらって。結局、実現には至らなかったですけど、もともと僕はプロレスが大好きでパワー・ウォリアーとかも観てたんで、健介さんがホンマにやるなら考えますっていうスタンスでしたね。

——で、時を経て健介さんではなく、その妻である北斗さんと『サザエさん』で対決することに（笑）。

武蔵　ハハハハ！　そう考えると健介さんファミリーとは縁があるんやな〜（しみじみと）。

——今回は穴子さん役さんでしたけど、これまでにも武蔵さんは『劇場版・仮面ライダーカブト』に敵役で出演したり、基本的にお芝居は好きなんですか？

武蔵　そうですね。まぁ、一言で表わせば「自分への挑戦」というか。

——自分への挑戦！（笑）。

武蔵　そもそも格闘技を始めたときも、「どれぐらい俺は通用するんやろ」っていう部分で挑戦だったんですよ。まぁ、リングを降りてもそういう気持ちはいつまでも持ってたいし、格闘技しかできないみたいなフィルターでは見られたくないし。

——ちなみに演技の勉強とかもしてるんですか？

武蔵　いやぁ、もうボクはそのまま〝素〟ですね。

——あ、素ですか（笑）。

武蔵　ただ、昔から僕はジャッキー・チェンが大好きなんですね。たとえばブルース・リーやジェット・リーだと、鍛えて強くなるってシーンがほとんどなくて、登場した瞬間から強い。でも、ジャッキーはドジでオッチョコチョイなキャラから、あるとき覚醒して修行を経て強くなっていくっていう。それを自分は食い気味に観てたクチなんで、そういうギャップみたいな

©PFP

©PFP

『ムサフェス』では実弟TOMOと引退試合を行なった武蔵。そして「自分はテンカウントゴングや涙を見せることは苦手なので、最後はSEX MACHINEGUNSとバンドを結成しました!」と、突然ライヴを敢行!

僕はロックやメタルのおかげでここまで頑張ってこれたんです

ものに憧れますよね。強さとマヌケな部分の両方を併わせ持つというか。

——まさに宮本武蔵の二刀流というか。

武蔵　あぁ、その表現はいいですねぇ（ニンマリ）。だから、そういうキャラを演じられるようになればいいなっていうのは凄くありますね。

——さて、先ほど少し話に出たように、武蔵さんは去る10月23日に『MUSASHI ROCK FESTIVAL』を開催したわけですけど、あれはK−1仕切りじゃなかったとか？

武蔵　はい、完全に自主興行ですね。

——また、なんでああいうロック仕立てなイベントになったんですか？　けっこう、穴子さん役ばりに衝撃的だったんですけど（笑）。

武蔵　フフフフ。いや、やっぱり最後の試合は韓国だったし、観に来られなかった人がたくさんいたのが心残りだったんですね。で、そういう人たちのために最後にもう一回闘うところを見せないかんやろ、と。でも、それがK−1の中だと数多い試合の一つになってしまうし、純粋に僕のことを応援してくれたファンだけを呼んでお祭りをやろうということで。

——まずコンセプトとして〝お祭り〟があった、と。

武蔵　そうですね。あとはイベントのテーマが「絆」だったので、縁のある仲間と一緒にイベントを盛り上げようっていう部分で、交流のある国内のアーティストに出てもらったんですけど。

——LOUDNESSにSEX MACHINEGUNSにマキシマム ザ ホルモンと、錚々たるメンツがライブ出演して。

武蔵　やっぱり僕はロックとかメタルが大好きなんで、ホント感無量でしたね！　いまの日本の音楽業界も格闘技界同様に厳しいみたいですけど、そのなかでもゴリゴリのロックを押し通しているバンドが集まってくれて。ライブを観てても「凄いな、こういう勢いのある人間が格闘技界にも必要なんちゃうかな」って思わされましたから。あの3バンドが一堂に集まるっていうのは奇跡的なことだと思いますし、ホントうれしかったな〜……（しみじみと）。

——あれは単発イベントなんですか？

武蔵　いや、僕が試合をやらないまでも、できればなんらかのかたちで継続したいなって思ってますよ。やっぱり僕は入場曲をLOUDNESSさんに作ってもらったり、その前にはモトリー・クルーやメタリカの曲を使ったり、ロックやメタルのおかげでここまで頑張ってこれたみたいなところがあるので。

——そういえば夜中の『テレビ東京』の番組で武蔵さんが、ジューダス・プリーストの『ペインキラー』を熱唱してるのを観たことありますよ（笑）。

武蔵　あぁ、『ヘビメタさん』ね。いや、もうね、縦ノリの激しいのが大好きで、カラオケに行ってもそういう系の曲ばっか歌ってますから。ファ〜スタ〜、ザンナ、バ〜レッ〜ツ!!（突如ノリノリで『ペインキラー』を歌いだす）。

武蔵 僕が穴子さんになるまで

ボロカス言われましたけど正直内面では笑ってましたね！

――お、お見事なシャウトで（汗）。

武蔵　フフフ。やっぱり高音の魅力には憧れますよね。あとはデス声とかね。

――デ、デス声ですか？

武蔵　僕、『ムサフェス』のときも最後はSEX MACHINEGUNSと一緒に、めちゃめちゃデス声で歌ってましたからね！

――へ～、じゃあ、ゆくゆくはCDデビューとかをにらんだりも？

武蔵　いいですねぇ（ニンマリ）。さっきも言いましたけど、なんでも挑戦だと思いますし、何かすることによって自分も周りもおもしろくなればええかな、と。

――まぁ、K－1で歌というと、どうしても角田信朗さんが思い浮かんじゃうんですけど（笑）。

武蔵　あぁ、そういえばパチンコの『花の慶次』の歌とか歌われてましたねぇ。あと『エスカップ』ですか（笑）。

――エスエスエスエスエスカップ～♪（笑）。ほかには小類比巻太信さんも歌ってますよね。

武蔵　え、アイツも歌ってるんですか？

――なんか西島洋介さんの入場曲を歌ってましたよ。

武蔵　は～、いま初めて知りましたわ……。コヒ、やっぱおもろいなぁ（笑）。

――ダハハハ！　さて、引退から少し時間が経ちましたけど、あらためて現役生活を振り返ってみていかがですか？　武蔵さんはK－1日本人ファイターの功労者であると同時に、いろいろたいへんな目にも遭ってたように思うんですけど。

武蔵　まぁ、そうなんですかね（苦笑）。

――たとえば武蔵さんの試合運びがなかなか理解を得られず、揶揄を込めてそのファイトスタイルが「武蔵流」なんて言われてたことについてはどう思ってましたか？

武蔵　いや、単純にわかってもらえるまで頑張ろうと思いましたよ。あの、どのジャンルでもその開拓者っていうのは、絶対に最初は理解されないものだと思うんですよ。「何やってんや、アイツ」みたいな感じで。でも結局、ヘビー級の中に入っちゃうと日本人はまともにはやりあえないですからね。（本誌前号のアリスター・オーフレイムの表紙を指しながら）こんなんがいるわけですから（笑）。

――ハハハハ。

武蔵　じゃあ、どうやって勝つのって話で。よく取材でも「玉砕覚悟で」とか「特攻精神で」とか言われたんですけど、やってる人間からすれば「その言葉自体がおかしいやろ」って。だって「勝たれへんから突っ込め」っていう意味ですからね。そもそも僕は、まずは結果を残さないといけない立場でしたし、「いまは好きなこと言っとけ。いつか『ええ攻撃するやんけ』って思わせたる」って気持ちでしたよ。でもホント、ボロカス言われましたね……ウチの最高師範とかにも（笑）。

――身内である角田さんからも口撃されて。

武蔵　まぁ、でも正直、内面では笑ってましたけどね！

――笑ってましたか！（笑）。

武蔵　それは一線級でやってる人間とやってない人間の差というか、理解できないんだろうなって。でも、03年～04年とワールドGPで準優勝したときは、やっぱり周

K-1 ワールドGP準優勝という実績のほかにも、一大会で金的を3発食らったり、不可思議な判定の被害に遭ったり、他ジャンルのファイターと数多く試合を組まれたりと、誰よりも身体を張ってK-1を支えてきた武蔵。きっと穴子さん役は神からのご褒美なのだ。

りも納得する部分はあったと思いますよ。それにいまの京太郎とかの試合を観てても、真っ向からやりあわずに脚を使って攻撃していくっていう部分では、多少なりとも自分の意志が受け継がれてるのかなって思いますし。

――ホント、恐竜みたいな相手とやってたわけですもんね。

武蔵　もう、『ジュラシック・パーク』みたいなもんですよ（笑）。その中で日本人の可能性を上げたって自負はありますけどね。あとはあの時代、やっぱりK－1が凄い視聴率を稷ってた頃に活躍できたのは財産ですよね。デビュー二戦目の曙さんとやったときの瞬間視聴率なんか、40パーセント近かったんやないかな（正確には37.2パーセント）。

――その曙戦やモンターニャ・シウバ戦、ボブ・サップ戦といった、いわゆるモンスター路線にも武蔵さんは駆り出されてたわけですけど、何かと反則攻撃を受けたりして、切ない場面も多かったというか（笑）。

武蔵　そうですね、マウントで殴られたり、キン○マ蹴られたりね（笑）。そういう路線を否定する気はなかったですけど、K－1自体に技術を見せるという部分がなくなったら、この先は長くないぞとは思いましたね。実際、その頃に参戦してきた選手はいま生き残ってないですから。

――あと変わったところでは、新日本プロレスにも異種格闘技戦で参戦してますね（04年5月3日・柴田勝頼戦）。

武蔵　あれなんかはK－1とかプロレスとか関係なく、子どもの頃に憧れてたリングに上がれるって意味では、やっぱり「おいしいな」って思いましたよ。「頑張ればおもしろいことって広がっていくんやな」って思えた瞬間というか、ケロちゃんの「武蔵、入場！」っていうコールがうれしかったしね（笑）。なんか、こうして振り返るといろんなことありましたけど、いまとなってはみんないい思い出ですね。K－1が自分のことを開花させてくれたっていうか。

――そしていま、そのK－1が非常に厳しい時期を迎えてることについてはどう思いますか？

武蔵　やっぱり悔しい気持ちはありますよ。いまはもっとファイターそれぞれの道のり、成長の過程を見せるのが大切だと思うんですよね。僕、長谷川穂積と仲がいいんですけど、11月のファン・カルロス・ブルゴスとのタイトルマッチなんて凄くいい試合だったじゃないですか？　テレビはお母さんが亡くなってとかそういう部分で引き立たせようとしてましたけど、それよりも穂積が前回の敗戦を乗り越えて、階級を飛び級で上げて挑戦する部分が素晴らしいと思いますし、そこに僕は人間ドラマを感じるんで、K－1もそういう作り方、見方をしてもらいたいっていうのがありますね。

武蔵 僕が穴子さんになるまで

僕を見て「人生、おもしろなるんやな」って思ってもらえたらうれしいです

むさし■1972年10月17日、大阪府出身。1995年にK-1のリングでパトリック・スミスを相手にプロデビュー。その後、日本人ヘビー級ファイターとして活躍、03年と04年にはK-1ワールドGPで準優勝。今年10月に現役を引退。

――本物志向というか。

武蔵　そうですね。いまはそうじゃないと生き残れないですよ。マラソンと一緒ですよね。マラソンは42・195キロの道のりにもの凄い駆け引きがあって、そのなかで日本人が先頭集団から飛び出したら観てるほうも「行った〜っ！」ってなるわけじゃないですか？　そういう駆け引きの見せ方が大事なんじゃないかと思うし。まぁ、とりあえずやってきた人間としては、K－1がどうなっていくのか見守りたいですね。自分は自分にできることを一生懸命やりながら。

――具体的にこれからのビジョンは何かあるんですか？

武蔵　とにかく役者だったり音楽だったり、いろんなことに挑戦していきたいですね。「挑戦」という言葉が自分の原点だと思うし、それによって何かおもしろくなれば。というかね、僕、先々まで考えないタイプなんですよ（笑）。

――なるほど（笑）。

武蔵　何か一つ崩れたときに総崩れしそうなんで。やっぱり何が起こるかわからない、気づいたらエライ凄いことになってるみたいなのが、人生の楽しみというか。だってK－1でデビューした当時は、まさか自分が穴子さん役をやることになるなんて、思ってもみないですから（笑）。

――唇が役に立つなんて（笑）。

武蔵　ハハハ。ホント、人生は何が起こるかわからないですよ。K－1でもさんざん何が起こるかわからない場面に遭遇しましたしね（笑）。だから、引退した身分として一つ言いたいのは、いま格闘技をやってる人でも名を残すようになれたら、いろんなものが広がってくるんじゃないかってことなんですよ。僕を見て「人生、おもしろなるんやな」っていうふうに思ってもらえたらうれしいですよね。

――ロックフェスをやったり、穴子さんをやったり、と。

武蔵　そうそう（笑）。おもしろおかしく楽しい人生であればそれが一番なんで、最終的には笑って死にたいですよね。笑って死ねれば万々歳ですよ。

【10年11月29日／都内・某ホテルにて収録】

サザエさん生誕65年記念!!　アニメ&ドラマ
『新春サザエさんスペシャル』
2011年1月2日(日) 18:30〜22:00
フジテレビ系 ※冒頭1時間はアニメ

キャスト
観月ありさ（フグ田サザエ）、筒井道隆（フグ田マスオ）、片岡鶴太郎（磯野波平）、竹下景子（磯野フネ）、荒井健太郎（磯野カツオ）、鍋本凪々美（磯野ワカメ）、庄司龍成（フグ田タラオ）、田中裕二〈爆笑問題〉（波野ノリスケ）、白石美帆（波野タイコ）、勝俣州和（サブロウ）、戸田恵子（伊佐坂軽）、倉科カナ（伊佐坂浮江）、柳沢慎吾（警官）、武蔵（穴子）、北斗晶（穴子夫人）ほか

ブラジルはちゃめちゃ紀行

「人生で最高の一週間」
ジェイソン・"メイヘム"・ミラー

2010年10月、ジェイソン・"メイヘム"・ミラーは、ストライクフォースと米国MMAサイト『シャードッグ』の協力のもと、総合格闘技ゲームを開発・販売するEAスポーツが主催する『MMAファイターズ交歓プログラム』なるプロジェクトに参加。ブラジル・リオデジャネイロに一週間滞在し、現地のさまざまな格闘技道場を訪問しながらすごすというユニークな体験をするチャンスを得ていた。

このプロジェクトにメイヘムは、トレーニングパートナーであるパトリック・カミングス、トレーナーのライアン・パーソンズを同行させ、現地で一週間のトレーニングキャンプツアーを敢行。その模様をブラジル人MMAジャーナリスト、マルセロ・アロンソが本誌特派員として同行取材。アカデミーでのトレーニング風景のみならず、世界的観光地リオデジャネイロの最高のスポットをお届けします。

文&写真／Marcelo Alonso　訳／石井史彦　構成／堀江ガンツ

"The best week of my life"
in BRAZIL

MAYHEM i

POPO

POPO

DAY 1
MINOTAURO AND BARBECUE
[リオ1日目]
ミノタウロとバーベキュー

リオでのMMAファイターズ交歓プログラム初日は「疲れるけど非常にエキサイティング」というのがジェイソンとパトリックの印象だった。

サンノゼ（米国カリフォルニア州）から飛行機で16時間かけてリオに着いたメイヘム一行はホテルにチェックイン後、すぐにアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラのトレーニングキャンプで、ハードなトレーニングセッションに参加していた。

ジェイソンはほとんど寝ていないのにもかかわらず、いつものユーモアを失なうことはなく、「ちょうど飛行機からケージの中へ投げ落とされたように、デカい男（パトリック）が隣の席にいるんだぜ!? どうやって寝ろっていうんだい?」などと言って、おどけていた。

ブラジルで最初のトレーニングとなったノゲイラ・トレーニングセンターにミノタウロ・ノゲイラは不在だったが、ムエタイとMMAのヘッドコーチであるアレックス・ゴーザの指導のもと、テイクダウンやサブミッションも許されるボクシングとムエタイのスパーリングを行なった。

トレーニング後はみんなで集合写真を撮影したあと、ノゲイラTCのヘッドコーチであるアレックス・ゴーザはライアンに「ジェイソンたちはみんなファイターとしてテクニカルに優れているばかりでなく、素晴らしく紳士的な人たちだね」という言葉を挨拶とした。

ノゲイラTCで温かい歓迎を受けたあと、ジェイソン、ライアンとパトリックは、かつてヒクソン・グレイシーが毎日のようにサーフィンを楽しんでいたというリオでもっとも有名なサーフスポットであり、とても美しいプライニャビーチを訪れた。

ビーチはノゲイラのTCから4キロの位置にあり、メイヘムは感激の声を漏らした。

「オー・マイ・ゴッド! これは美しい……。アメリカの男たちはいつもブラジルへ来ることを夢見ているけど、なかなか実現しないんだ。でも、俺たちはここで素晴らしい時間をすごすことになるのさ」

そう言いながらもジェイソンは、まだ休む時間さえない今回のスケジュールに不満を漏らしていた。

「飛行機から降りたら、すぐにケージに放り込まれて、最初にもらったパンチで目が覚めて、ようやく〝ここはミノタウロの道場だ〟って気がついたんだよ。クレイジーさ!」

プライニャで何枚か写真を撮ったあと、ジェイソンたちはリオで最高のバーベキュースポットであるリオ・ブラッサへエネルギー補給へ行った。

初めて本場のブラジリアン・バーベキュー〝シュラスコ〟を経験したジェイソンは、数えきれないほどの種類の肉が、ノンストップで運ばれてくることに大興奮。

「なんて素晴らしい料理なんだ! ブラジルでは初日からいいスタートが切れたね!」

大量の肉をほおばりながら、先ほどの不満顔はどこかへ飛んでいってしまった。

リオに到着してその足で向かったノゲイラTC。メイヘムらは寝不足のままスパーを敢行!

「ストップ」と言うまで肉が運ばれ続けるブラジル名物シュラスコ。メイヘムもさすがに腹一杯。

DAY 2
GORDO JIU-JITSU AND PEDRA DA GÁVEA
[リオ2日目]
ゴルド柔術とペドラ・ダ・ガーヴェア

リオでの二日目、ジェイソンたちは朝食をすませるとゴルド柔術アカデミーを訪れた。アカデミーの1階では30人以上がギを着ての練習に励んでおり、ホベルト・〝ゴルド〟・コレアへの挨拶を終えたあと、MMAやノーギの練習をする2階へと案内された。

そこにはゴルド柔術アカデミーを代表する柔術家であるデニーロ・モトセラ、ヴァンデル・ニージョ、カーロス・ドナード、ホドリゴ・シンビカらがすでにトレーニングを行なっていた。ジェイソンたちのウォームアップセッション中には、あの伝説的柔術家マリオ・スペーヒーも現われた。

マリオはブラジリアン・トップチーム離脱後、アブダビのシェイク・タハヌーン・ビン・ザイード王子の仲介を経て、ゴルド柔術でトレーニングを続けているのである。

パトリックはマリオにスパーリングを誘われた。マリオは現役を退いてから相当な時間が経っており、年齢もすでに45歳であるが、パトリックはレッグロック、フットロック、ギロチンチョークと、あっさり3回も極められてしまった。その後マリオはパトリックとライアンを交えて10分間ほど話し込んだ。

「柔術家にとってレッグロックとチョークはレスラーを極めるのに最高の技なんだ。あなたはとても力が強いので有利に試合運びができるでしょう」

マリオはいつもどおり紳士的に話しかけ、同時にレッグロックからのエスケープのテクニックを伝授した。

一方、いつもカタコトのポルトガル語で笑いを誘うジェイソンは、ゴルド柔術アカデミーのみんなをとりこにしてしまった。彼はシムビア、モトセラ、ヴァンデル、サンドロらとスパーをしたが、レスリングのテクニックで柔術家に挑んだパトリックと違い、トラジション（攻守を交互に交代する）の練習はできなかったが、お互いにスイープしたり返されたり、またレッグロックなどでタップさせたりと、動きのあるスパーリングを行なうことができた。

このゴルド柔術アカデミーでの素晴らしい歓迎とトレーニングのあとジェイソン&パトリックはシャワーを浴び着替えてから、今日の第二のトレーニングへと向かった。ペドラ・ダ・ガーヴェアを登るのである。

PEDRA DA GÁVEA
ペドラ・ダ・ガーヴェア

リオデジャネイロは美しい景色を見せてくれる山、広大な森と太平洋の海に囲まれたユニークな町だ。

その美しい景色を満喫するには、巨大なキリスト像が立つコルコバードの丘や、巨岩ポン・ジ・アスーカルなどに、ロープウェーやトロッコなどで簡単に登る方法があるが、それ以外にもアスリートが行なう方法がある。

ジェイソンら3人は、リオの柔術家やMMAファイターたちが心肺機能のトレーニングを兼ねて行なう、巨大なテーブルマウンテン、ペドラ・ダ・ガーヴェアへの登山に挑戦した。

バッハ・ダ・チジュッカとサンコンラード地区のあいだに位置する846メートル高い山は、リオで最も美しい景色を見られるスポットの一つだ。バッハ・ダ・チジュッカを西に、東にはコパカバーナビーチ、イパネマビーチにコルコバードの丘のキリスト像。北には首都にある森林保護区の公園として世界最大で知られるチチューカ・フォレストが見渡せる。

しかし、その絶景を見るためには、断崖絶壁をロッククライミングしなければならないのだ。ジェイソン一行は、マリオ・スペーヒーからの「今日も5種類のスパーをしたあとだし、明日もトレーニングがあるんだろう? 今日登山するのはやめたほうがいい。明日トレーニングができなくなってしまうよ」との忠告も聞かずに、トレーニング後、サンドウィッチとフルーツのランチをとったあと、登り始めてしまった。

ゴルド柔術のアカデミーでは、BTTを離脱したマリオ・スペーヒーとも遭遇。いつのまにか金髪になってた!

森の中を歩く2時間は二度の休憩のみ

ヤンドレ・ソッカといった優秀な生徒を育

と狂気じみたポルトガル語を使い話し始

森の中を歩く2時間は二度の休憩のみで順調であったが、頂上に達する直前に、絶対にミスを犯すことのできない30メートルほどの危険な岩壁に直面した。これをロッククライミングしないかぎり、頂上からの絶景は見ることはできない。しかし、この最後の難関もジェイソンたちは10分程度で登りきり、ついに頂上にたどり着いた。

リオ市内で二番目に高い場所に立った3人は全身で感激を表現した。

パトリック・カミングスは「オ〜、神よ！　この絶景は私がブラジルで見た最も美しい景色ではなく、私の人生のなかで最も美しい景色です」と大声で叫び、ジェイソンも「この町は争いが絶えないスラム街さえ美しく見えてしまうほど、信じられないくらいに素晴らしい町だ。いま自分がここですごす一秒一秒に価値があるんだよ」と、その感動を隠すことがなかった。

40分ほど、頂上からの景色を満喫して写真を撮影したあと、午後5時に下山を開始し、ちょうど3時間後にはトラックに戻ることができた。

その後、レストランでアサイーとサンドウィッチを食べながら、「間違いなく今日は最高の日になった」というパトリックの一言で感動の一日は締めくくられたのだ。

DAY 3
GRACIE BARRA + X-GYM
[リオ3日目]
グレイシー・バッハ＋X−ジム

ゴルド柔術アカデミーでのトレーニングに加え、ペドラ・ダ・ガーヴィア登山での5時間とハードな一日を送ったジェイソンとパトリックは、足の指にかゆみを感じて（普通の人であれば全身に痛みを感じるのだが）目が覚め、またこの日は最も有名なブラジリアン柔術アカデミーでグラップリングのトレーニングができることに興奮していた。

バッハビーチから3ブロックのところのバイフィット・アカデミーの4階にあるグレイシー・バッハ本部は90年代にオープンして以来、同じ場所にある。そこではカルロス・グレイシーがヘンゾ・グレイシー、ハイアン・グレイシー、マーシオ・フェイトーザ、ヒカルド・アルメイダ、アレッシャンドレ・ソッカといった優秀な生徒を育て上げた伝説の場所だ。

MAYHEM in BRAZIL
“The best week of my life”

リオの山、海、街が見渡せる絶景ポイントであるペドラ・ダ・カーヴィア登山にチャレンジしたメイヘム一行。頂上で歓喜の咆哮!

アカデミーの入口には、カルロス・グレイシーが彼の弟子である約50人の黒帯柔術家に囲まれた写真が飾られている。それを見ながらジェイソンは「ここは柔術の歴史そのものであり、まさにグレイシー・ハウスの中にいる気分だよ」とつぶやいた。

ジェイソンとパトリックはMMAや柔術のファイターであるグスタボ・シム、エドアルド・シモエス、パウロ・サモア、クレバル・バイウ、ディエゴ・ボクサーら5人とスパーをし、ジェイソンはチョークやレッグロックで数回タップを取れたことから「初日に飛行機からケージに直接飛び込んだのとは違い、今日は調子がいいよ」と、ご機嫌だった。

パトリックもまたいい動きでトレーニングができていたことで、コーチのライアンも上機嫌になり「二日前よりグラウンドゲームが良くなってきているし、グラウンドのポジションでも焦らなくなってるね」と評価していた。

ジェイソンはトレーニングの終わりに「〝カタガタメ〟チョークのいくつかのトリックを見せてほしい」と、グスタボ・シムに頼んだ。シムはいくつかの肩固めの入り方を繰り返し伝授し、お返しとしてレスリングの専門コーチであるライアンがグレイシー・バッハの生徒たちからレスリングに関する質問を受けつけたり、MMAで有効なテイクダウンディフェンスを披露したりした。

そしてジェイソンは、桜庭和志を初めてタップアウトさせたときに使用したポジショニングを披露。グレイシー・バッハのメンバーは皆、その動きを興味深く観察していたのだ。

トレーニングも終わり、シャワーを浴びて着替えをするとミラーはブラジル人と狂気じみたポルトガル語を使い話し始めた。〝Porra（ファック）〟Caralho（ディック）〟など彼が偏愛する狂気の言葉のほかに、グレイシー・バッハのメンバーに「『ブラジル愛してます！』ってなんて言うの？」と確認したあとは、〝Eu Amo o Brazil! Eu amo o Brazil!〟と叫びみんなの笑いを誘っていた。

パトリックはまた、この3日間でとても素晴らしいトレーニングができていることに興奮しており、同時に「誰もがとてもよくボクたちを受け入れてくれ、素晴らしい機会を与えてくれた。また木曜日にスラム街の中にあるボクシングジム『ノーブレ・アルト』でのトレーニング、そしてそこの子どもたちがどのように生活しているのかを見るのが待ち遠しいんだ』と話していた。

その後、2時間ほどホテルで休憩したあと、この日の二番目のトレーニング場となるX−ジムへ向かった。

SYLVIO BEHRING TEACHES SOME TRICKS
シルビオ・ベーリンギ、トリックを教える

午前中のグレイシー・バッハ・アカデミーでのハードなトレーニングのあと、ジェイソンとパトリックは、昼食のアサイーをとりながら、ホテルの正面のビーチで行なわれていたサーフィンのチャンピオンシップを見てリラックスしていた。

アンデウソン・シウバ、ホナウド・ジャカレイ、ハファエル・フェイジャオンらがトレーニングしているX−ジム本部では、通常は午前10時からトレーニングを始めるのだが、アンデウソンとハファエルはクリチバへ、ジャカレイはサンノゼに行っており不在だったため、伝説の柔術師範であるシルビオ・ベーリンギがジェイソンたち3人を夜のクラスに招待し

てくれたのだ。
夕刻、アカデミーを訪れた3人は、最新のジム設備を確認しながら地下2階のフロアに通されたときに「ここはリオでベストのアカデミーである」と痛感した。そこではリングで女子のクラス、その隣のオクタゴンではMMAのクラスが行なわれており、小さな道場では子どもたち10人ほどが柔道を、また大きな道場ではシルビオ・ベーリンギの柔術クラスが行なわれていた。

ファブリシオ・ヴェウドゥムの師匠でもあるシルビオは、ジェイソンら3人に歓迎の挨拶をすると、自分のクラスを中断し、道場内にいるすべての生徒たちに紹介し、その後、1時間以上にわたってベーリンギ柔術のテクニックを披露した。
肩固めを仕掛けるのに最良の方法、いくつかの重要となるスイープ、裸絞めを仕掛ける際の有効なトリックなどである。
ジェイソンは「18歳で柔術を始めたときから、ブラジルに来て本当の柔術マスターから技の詳細を学ぶことを夢見ていました。そして今日がその日なんです」と、マスター・ベーリンギに感謝の意を伝えた。

パトリックも「シルビオ・ベーリンギは真のグレートマスターであると同時に、素晴らしい人間でもある。今日はその偉大なるマスターから多くの詳細を学ぶことができた。これは将来のMMAキャリアのなかで非常に重要となる素晴らしい経験をさせてくれた」と語った。
シルビオはクラスの終わりに、すべての生徒を並ばせてジェイソンら3人の訪問に感謝の意を表した。それを受けてジェイソンが「〝Prazer em conhecer（お会いできて光栄です）〟Bom treino（素晴らしいトレーニングだった）、Porra（ファック）、Caralho（ディック）。これが私の愛するポルトガル語です」と言って、みんなを爆笑させた。

そしてジェイソンたちが道場をあとにしようとしたとき、ちょうどX-ジムでフィジカルトレーニングをしていたマリオ・スペーヒーが挨拶に現われた。
「今回のブラジル旅行でのハイライトは？　って聞かれたら『マリオ・スペーヒーに逢えたこと』って答えるんだ。〝OLD MAN RIVER〟はボクのトキメキのようなもの。将来は彼のようになりたい」
ゴルド柔術アカデミーでのマリオ・スペーヒーからの貴重なアドバイスに感謝するパトリックは、この日の終わり、そんなことを語っていた。
アカデミーをあとにして、3人はパスタ店で一日を終えた。
初日に行った食べ放題のシュラスコ店ではパトリックが勝者だったが、ここではジェイソンが主役の座を勝ち取る番だった。この〝グレイジーマン〟は、ピザを10枚食べたあと、さらにパスタもたいらげてみせ「今日はジェイソンにタップアウトさせられた」と、パトリックに敗北を認めさせた。そして会計時、その合計金額がたったの12ドルだったということにまた全員が驚いてしまった。

MAYHEM in BRAZIL
“The best week of my life”

（写真・上）シルビオ・ベーリンギに柔術の直接指導を受けるメイヘム。“本物の柔術”を学べたことに感激していた。（写真・下）グレイシー柔術の総本山ともいうべき、グレイシー・バッハ本部。ヘンゾら多くの一流柔術家を輩出した名門中の名門だ。

DAY 4
NOBRE ARTE (CANTAGALO SLUM)
【リオ4日目】スラム街の中のノーブレ・アルト

ブラジル滞在中、毎日素晴らしい時間をすごしていた3人だったが、この日こそが旅のハイライトとなることに疑いを持っていなかった。
ファベーラと呼ばれるブラジルのスラム街の中にあるボクシングジム「ノーブレ・アルト」を訪れることが決まっていたのだ。3人はこのボクシングジムに寄付するべく、30個の真新しいボクシンググローブをアメリカから持ってきていた。
「スラム街の人たちに、このグローブをプレゼントしたときの顔を早く見てみたいんだ」
パトリックが、ライアンの大きなスーツケースを車のルーフラックに乗せるのを手伝いながらつぶやいた。
そしてジェイソンは、バッハからノーブレ・アルトのあるカンタガーロ・コミュニティへ向かう途中、通りかかったイパネマビーチの前で、あの有名な歌である『イパネマの娘』を、突然車の窓を開けて半分身を乗り出しながら歌いだした。通りにいる人たちは、髪の毛をピンクに染めたクレイジーな男の歌に驚き、我々同行者は笑い死ぬかと思うほど、笑いが止まらなくなってしまった。
この日、我々が向かったノーブレ・アルトは、クラウジオ・コエーリオによりスラム街に設立されたボクシングジムで、このスラムで暮らす多くの人たちをドラッグの道から救っていた。そしてクラウジオとインストラクターであるカチアは、リオのさまざまなスラム街から連れてきた100人以上の子どもたちに毎週ボクシング教えると同時に、MMAファイターたちにもボクシングを教えていた。
ジムの壁には数多くのトップファイターの写真が貼ってあることでもわかるとおり、ブラジル人トップファイターの90パーセントは、ここノーブレ・アルトでトレーニングをした経験があるのだ。
ノーブレ・アルトに着くと、ジェイソンら3人は拍手で迎え入れられた。そして、30個のボクシンググローブをプレゼントすると、マスター・クラウジオ・コエーリオは感謝のスピーチを述べ始めた。
「あなた方3人の訪問、そしてボクシンググローブの寄付に感謝しています。このアカデミーを設立してから20年、こんな素晴らしい寄付はありません。我々はいつも古いグローブを継ぎ当てしながら使っていました。いただいたこの30個のグローブが何人の人たちを助けるか、想像もつかないことでしょう。本当にありがとう」
そして、ジムにいる30人以上の人たちから拍手が送られた。
ジェイソンたちは1時間近く、子どもたちとともにボクシングのトレーニングをしながら交流し、トレーニング後はスラムの中を案内してもらった。
ここカンタガーロは、リオで〝UPPプログラム〟に指定されている10のスラム街のうちの一つだった。UPPとは政府が常時100人の警察官をスラム周辺に駐在させ、ドラッグディーラーを取り締まるものである。通常、外国人が足を踏み入れられる場所ではないのだ。
スラム街を内側から見ることに興味を持っていたジェイソンたち3人は、スラムで生活する子どもたちの写真をたくさん撮影した。
そしてスラム街ツアーが終わりに近づいたとき、マスター・クラウジオは再度、ボクシンググローブの寄付に感謝し、次にブラジルに来るときは、自宅へランチに招待すると約束したのだ。

NOVA UNIAO: THE BAPTISM OF THE LIGHTWEIGHTS
ノヴァ・ウニオン：ライト級軍団の洗礼

イパネマにあるカンタガーロのスラム街を出たのが14時40分、この日の二番目の訪問地であるノヴァ・ウニオンに到着するには約30分かかった。
アカデミーに到着すると、マスターであるアンドレ・ペデネイラス、ペドロ・ヒーゾ、ゴルベア・テイシェイラら3人が我々を歓迎してくれた。
「オー・マイ・ゴッド！　ペドロ・ヒーゾだ！　一緒に写真を撮ってもいいかい？」
ジェイソンは車を降りてすぐに、伝説のブラジリアンファイターとの記念撮影に収まった。

その後、ジェイソンら3人はアカデミーのトレーニングエリアに足を踏み入れるとすぐに、なぜノヴァ・ウニオンが「世界最強のMMAライト級軍団」と呼ばれるのかを理解した。

アカデミーの中では、ジョゼ・アルドをはじめとして、マルロン・サンドロ、ターレス・レイチ、ホニス・トーレスら20人以上のトップファイターが、激しいトレーニングを展開していたのだ。

すでにトレーニングは始まっており、緊張した雰囲気が立ちこめていたので、ジェイソンらはこのトレーニングが終わるまで待つことにした。そして20分後、MMAのスパーセッションが終わると、ペデネイラスがサブミッションのトレーニングに入るように声をかけてくれたので、ジェイソンとパトリックは、まずレスリングのテクニックを披露し、柔術家たちが持っていたレスリングに関する疑問点を聞く講座のような環境を作り上げた。その瞬間から、アカデミーに張り詰めていた緊張感もほぐれ、とてもフレンドリーな雰囲気が生まれたのだ。

トレーニングが終わると、ジェイソンたちはノヴァ・ウニオンの〝洗礼〟を受けることになる。

ノヴァ・ウニオンの80パーセントは77キロ以下のファイターで構成されており、ジェイソンら3人＋ノヴァ・ウニオンの数少ないヘビー級ファイターであるターレス・レイチら計5人の〝ヘビー級チーム〟が、残り20名以上の〝ライト級チーム〟と一斉にスパーリングするのである。

ライト級チームはリーダーのジョゼ・アルドを中心に素早く動き回り、ジェイソンらヘビー級チームを翻弄し、映画『300（スリーハンドレッド）』のようにチーム全員でジャンプしながら「レヴィ！　レヴィ！　フィニッシュ！」と叫んでいた。

「最初は戸惑ったさ。だってついさっきレスリングのポジショニングを教えたヤツらに、よってたかって痛めつけられたんだからね。でも、最高に楽しかったさ。こんなクレイジーで素晴らしい経験ができたんだからね」

アルドとサンドロに片足ずつ持たれてテイクダウンされ、5人から同時に痛めつけられたあとパトリックは、笑顔でそのクレイジーな体験を振り返ってくれた。ジェイソンの場合はさらにひどく、二人がかりで両腕をアームロックに極められ、さらにもう二人に両足をレッグロックで極められていた。

「ワオ！　こんなクレイジーなスパーリングは初めてだよ」

ジョーク好きのジェイソンは、4人から同時に両腕両足を極められながら、「もっと！　もっと！」と叫んでいたのだ。

ヘッドコーチのライアンもその光景に「この洗礼は敬意そのものだ。彼らのお遊びの仲間に入れたことを光栄に思う」と語った。

ノーブレ・アルトとノヴァ・ウニオン訪問のあと、ライアンは金曜日の朝に予定していたRFTへの出稽古をキャンセルするように提案してきた。

「これまで休みなしでトレーニングをしている。このままでは深刻なケガをする可能性があるし、身体を休める必要があるので、筋肉を回復させるためにも今日一日は休暇を与えたい。明日の土曜日はBTTでトレーニングする予定だが、今日金曜日は休みとし、RTFには月曜日に行くと伝えてくれ」

ジェイソンとパトリックはトレーナーのアドバイスを受け入れたが、この休日をどのようにリラックスしてすごすかは独自の方法を見いだした。リオの上空を自由に飛び回るハンググライダーのダブルフライトでの撮影である。

ファベーラと呼ばれるリオのスラム街の中にあるボクシングジムも訪問。写真・上の中央がクラウジオ・コエーリオ。スラムの中でメイヘムらは、打撃のテクニックを教えたり、子どもたちとの交流を楽しんだ。

DAY 5 HANG GLIDING
[リオ5日目] ハングライダー

この日、3人は身体を休めるために急きょ、トレーニングを休むこととなった。

しかし、リオの晴れた日に休むといっても、もちろんホテルの部屋で寝ているわけではなく、〝アドレナリン中毒〟であるジェイソンとパトリックは、リオの空をハングライダーで飛んでみようというユニークな試みをすることとなった。

「おお、神よ！　この経験は必ず素晴らしい経験となるでしょう」

ジェイソンはホテルから車で15分程度のところにあるサンコンラード地区のペドラ・ボニータの斜面に着いたときリオの素晴らしい景観を見ながらつぶやいた。

ハングライダーのインストラクターであるルシアーノ・ポポがそのジャンプについて細かく説明していると、ジェイソンはその説明をロクに聞かずに踊りながら歌いだし、ハングライダーが飛び立つ斜面の端で馬跳びを始めたので、ルシアーノが怒りだした。

「申し訳ないが、この頭に200ボルトの電気がつながれたような男は、空を飛ぶのにグライダーは必要ないんじゃないか？」

不機嫌そうなルシアーノに対し、ライアンはジェイソンがいかに天然でいま興奮状態にあるのかを説明したら、ルシアーノは「わかったよ」と笑みを浮かべてリラックスしだした。

しかし、ハングライダーの機材を身に着け始めると気候が激変し、急激に風が弱くなったのを見てパイロットは少しだけ緊張を見せた。

「パイロットがハングライダーの飛行を中断するのは、後方からの風が強いか、または風がまったくないときなんだ。少しだけ待ってみよう」

パトリックと一緒に二番目に飛ぶ予定のパイロット、ペドロ・バリージョはそう説明した。しかし、風がどんどん弱まってくるのを見ていた一番目のパイロットが飛ぶのをあきらめたために、パトリックたちが最初に飛ぶこととなった。

それから5分間は非常に弱い風だったが、ペドロは「私の肩につかまり、一緒に走って1、2、3、ゴー！　で飛ぶんだよ」と穏やかに説明したその3秒後には、パトリックたちは驚くほど見事な飛行を体験していた。

その瞬間までしばらく沈黙を守っていた〝MMA界のコメディアン〟だったが、「1、2、3、ゴー！」のかけ声とともに走り出した光景を見て、アドレナリンが再沸騰し、空を飛ぶことの興奮を抑えきれずに騒ぎだしていた。

風が弱かったせいで、斜面からビーチまでの飛行はたった15分程度のものであったが、その飛行の興奮度が落ちるものではなかった。

「なんて素晴らしい経験なんだ！　リオは驚きの毎日で、ますますブラジルが好きになってしまった。もうここを離れたくない！」

リオの空を飛んだあと、ジェイソンは興奮気味その心境をまくしたてた。

DAY 6 BRAZILIAN TOP TEAM
[リオ6日目] ブラジリアン・トップチーム

この日のジェイソンは、ついにブラジリアン・トップチームで練習する機会を持てることに興奮していた。

「ずっと、このブラジリアン柔術のメッカで練習することを夢見ていたんだ。今日は本当にそこに行けるんだよ！」

BTTはシェラトンホテルから車で20分の距離にあるABBBクラブにあり、正面玄関に到着するとリーダーのムリーロ・ブスタマンチは「ようこそBTTへ」と歓迎してくれた。

中では約30人がMMAトレーニングの

MAYHEM in BRAZIL
“The best week of my life”

ウォーミングアップをしており、ジェイソンたちを見かけたミルトン・ヴィエイラが握手を求め、一緒にトレーニングに参加することを歓迎してくれた。そこにはミルトン以外にUFCファイターであるホジマー・〝トキーニョ〟・ハルハレス、ファビアーノ・カポアニら20名もの柔術黒帯が並んでいた。

10分のウォームアップ後、ムリーロは二人一組になるように指示してテイクダウンの練習を開始した。第二のスパーリングはテイクダウンからサブミッションを極める練習。ジェイソンはホジマー・トキーニョを相手にタフなスパーリングを開始。しかしトキーニョはジェイソンをテイクダウンしてバックを奪い、ジェイソンも裸絞めをうまく防御していると思ったら、次の瞬間、トキーニョがUFCデビュー戦で見せたのと同じようにアームロックに移行してジェイソンをタップさせてしまった。

「なんて素早い動きなんだ！」

ジェイソンは休憩しながらつぶやいた。スパーを再開すると、今度はテイクダウンからアンクルロックを狙われたが時間切れになるまでなんとかガードポジションから攻め続けた。

「なんて素晴らしいヤツなんだ！ もう一度練習させてくれ！』

MMAファイターのなかで、世界トップのサブミッションアーティストとのスパーリングに興奮したジェイソンは、トレーニングの継続を懇願した。

ジェイソンはそのほかに、ビトー・ビメンタ、ミルトン・ヴィエイラという二人の黒帯とスパーし、77キロしかないミルトンには得意とするポジションから2回もタップを奪われ、「本当に滑らかに動くヤツだ、こんなに数多くのポジショニングなんて見たことがない」と感嘆し、ミルトンからはそのポジショニングを、ビメンタからはほかの観点から、どのようなポジショニングをすればいいかを教わった。

練習後、ムーリロにより道場の中央に輪をつくり、全員がハグをし合いジェイソン、パット、ライアンにBTTへの出稽古を感謝し、BTTの伝統的な締めである、全員が中央で手をつなぎ合いながら『ブラジリアン・トップチーム！』という雄叫びをあげた。

「素晴らしい経験をさせてもらったよ。アメリカにいると俺は柔術でもビッグドッグなのに、ここに来るとただの初心者扱いだからね。グラウンドゲームでタップさせられると、ここブラジルにもっと来てトレーニングすべきだって痛感させられたよ」

ジェイソンは上気した顔で答えた。そしてブスタマンチに感謝の意を伝えながら、BTT本部を離れた。

「夢をかなえてくれて、ありがとう！」

そしてジェイソンは練習後、リオで最も有名なアサイージュースを出してくれる店「ビビ・スコス」にてサンドウィッチを食べたあと、イパネマビーチで夕陽を眺めながら「リオでの生活ってこんなにも魅力的じゃないか。なんで多くのブラジリアンたちはアメリカに来たがるんだい？」と、ライアン・パーソンに問いかけたのだ。

ノヴァ・ウニオンの“バトルロイヤル”スパーリングの洗礼を受けるメイヘム。小学生がじゃれ合うように大喜び!

ブスタマンチがリーダーとなったブラジリアン・トップチームにも訪問。UFCファイター、ホジマー・トキーニョらの実力に驚いていた。

LAST DAY
RFT (Luta-Livre)
[リオ最後の日] RFT（ルタリーブリ）

リオでの最終日、ジェイソンは朝から機嫌が悪く、ブラジルで唯一のトップMMAルタリーブリチームであるレノヴァカオ・ファイトチーム（RFT）で予定されていたお別れトレーニングには参加しないと決めていた。

ダウンタウンとコパカバーナのあいだに位置するボタフォーゴにあるRFTトレーニングセンターは古い3階建ての建物で、1階にワークアウトのジムと6つのベッドがある寮が、2階には道場、3階にはサッカー場とバーベキューエリアがありチームのレクリレーションの場として使用されている。

伝説のエウジェニオ・タデウから黒帯を授かったRFTのリーダーであるマーシオ・コロマドはアメリカからの訪問者があることに興奮しており、歓迎の挨拶のあとは彼の最も信頼のおける優秀な二人のファイター、ジュニオール・ビゾーロとレオナルド・チョコレートにサブミッションのトレーニングをするように指示した。

ライアンはこの二人がスパーで見せたものにいたく感動し、「彼らは本当に素晴らしいよ、なんでアメリカ人はルタリーブリのことを知らないんだい？ 彼らのフットロックやレッグロックはいままで見たこともないベストのものだよ。パットは今日の2回のスパーで今回のブラジルでのすべてのスパーでタップした回数を超えてしまったよ」と驚きを見せながらコメントした。

トレーニングが終わるとコロマドはRFTの2種のバミューダショーツをライアンとパトリックにプレゼントし、ルタリーブリの歴史を話し始めた。

「多くの人たちは知らないけど、伝説の王者マルコ・ファスのほかにもレナート・ババル、ジェシアス・カバウカンチ（JZカルバン）、ミルトン・ヴィエイラ、アレシャンドリ・カカレコらは皆、ルタリーブリを経験してるんだよ」

コロマドは、訪問者に対してアカデミーのすべてを、誇りを持って話した。

「クロマドの情熱といい、彼のプロフェッショナルな態度には本当に感銘させられた。彼はコーチというよりここにいる全員の父親のような存在だ。ブラジル滞在最後の日に、ここRTFに来てそのクロマドに会えたことは非常に光栄なことだよ。ブラジルでの毎日は常に新しい感動を与えてくれた」

コーチであるライアンはそう分析した。

スパーでいい結果を残せなかったパトリックも興奮ぎみに「最後の日に何度もタップさせられてしまって自分に腹立たしいけど、それ以上にいろいろな新しい発見ができたことに興奮しており、またそれらを習得するためによりハードなトレーニングをしないといけないって実感させてくれたんだ。すぐにでもまたブラジルに戻ってくるチャンスがあることを祈るばかりだ」と述べた。

RTFでのトレーニングのあとホテルでジェイソンをピックアップし、バーベキューハウスへと向かった。ライアンとパットが、RTFでジェイソンが見逃した素晴らしい経験を話すと突然怒りだし「おまえたちがRTFへ出たあと、とても気楽になると同時に、なんで一緒に行かなかったのかって自分自身で凄く後悔していたんだ！」と、悔しがった。

昼食後、ジェイソンとライアン、パトリックは、今回の旅行の最後のビデオレポートを作成するために目の前にバッハビーチが広がるシェラトンホテルのパトリックの部屋へ行った。

ジャイソンら3人は素晴らしい機会を与えてくれたMMAファイターズ交歓プログラムに感謝し、同時に彼らの人生の中で最高の旅行になったとレポートを纏めた。

そしてビデオの最後、ジェイソンは『イパネマの娘』の替え歌を歌っている。

「♪彼らが帰りの航空券を一週間延ばしてくれれば。すぐにリオに戻ってくるよ」

この素晴らしい経験を説明するのにこれ以上のお別れの言葉はないであろう。

――なんと今回、日村さんがオクタゴン登

んの試合はもちろん、子どもの頃からリン

ろいことやってください」じゃないです
か。なんの保険もない感じなんですよね。

所さんの試合とかでも、所さんは寝技が得
意で、あの選手は打撃系だとかあるじゃな

オクタゴンで闘うお笑いの世界!

日村勇紀

所英男

祝・DVD第一弾発売!!

オモノバカ対談!

『kamipro』でなんと3度目の所英男&日村勇紀対談実現! しかも、今回は日村がオクタゴンに上がったことがきっかけである。というのも、オクタゴン内で笑いの闘いを繰り広げる番組『オモバカ』で、日村が輝かしくも優勝したというのだ。いったいその闘いぶりはどんな感じだったのか。闘いのプロである所さん同席のもと、お話をうかがってみた。

聞き手/松下ミワ　撮影/椿チャコ

リハで一回全員オクタゴンに上がるんですよ。リングチェックみたいに（日村）

――なんと今回、日村さんがオクタゴン登場をはたしたということで、我々はさっそく取材に駆けつけさせていただきました！

日村　ガハハハハ！　もう、れっきとしたオクタゴン経験者ですから（笑）。

――というのも、日村さんが出場されているお笑い番組『オモバカ』（フジテレビ系）のDVDが11月24日に発売されたんですが、これがオクタゴンの中で一対一でお笑い対決をやるという番組なんですよね。

日村　ええ、そういうことです。

――そこで今日はオクタゴン経験者にして日村さんの盟友である所英男さんにも同席していただいて、いろいろと番組のお話をおうかがいしたいな、と。

所　よろしくお願いします。

――まず、『オモバカ』という番組なんですが、これはトーナメント形式で優勝者を決めるんですよね。

日村　要するに、相手を笑わせたほうが勝ち、笑ったら負けということなんですけど、けっこうセットとかグローブとか、ディテールまで格闘技っぽくて、もう『オモバカ』のスタッフは本気なんですよ。

所　このグローブはけっこういい感じです（グローブを触りながら）。

日村　「一回じゃ終わらないぞ」というお金のかけ方で、実際10月に第二回を放送してますからね。

――オクタゴンの作りもホンモノさながらでしたが、実際に中に入ってみていかがでしたか？

日村　まあ、ボクは格闘技が好きで、所さんの試合はもちろん、子どもの頃からリングの試合は凄く観てるんですけど、じつはオクタゴンの試合はあんまり観たことがなかったんですね。で、リハで一回全員オクタゴンに上がるんですよ。よく格闘技の方も試合前にいろいろチェックされてるじゃないですか。

――要するに、リングチェックをやったわけですか。

日村　ボクらも全員オクタゴンに上がって、床の感じとかロープの感じとか一回ちょっと試しているんですけど、あれってやっぱりこう、なんとも言えない閉塞感とか追い込まれる感じがありますね。

――所さんも今年『DREAM・14』でオクタゴンデビューされましたけど、やっぱりそういうものでした？

所　あの……地に足が着かない状況です。

――ふわふわしてましたか（笑）。

日村　でも、まさにそうなんですよ。しかも『オモバカ』に関しては男の客が本当に多いんですよ。だから雰囲気としては地下闘技場というか、「うおぉぉーー」って感じなんですよね。「やれー、おまえらぁ」って感じで。そんななかで「はい、おもしろいことやってください」じゃないですか。なんの保険もない感じなんですよね。

――所さんもDVDはご覧になったそうですが、そのあたりは感じてました？

所　いや、ボクは単純におもしろいなって。その緊張とかまでは読み取れることはできなかったです。

日村　いや、そんなに緊張感出していたら笑えないでしょ（笑）。

――そもそも、このお話ってどういう感じで日村さんに入ったんでしょうか？

日村　もちろん最初はマネージャーから聞いたんですけど、後日、片岡飛鳥さんというこれを統括されている方が直々に会いに来てくれたんですよ。そこでルールとか出場選手を説明してくれたんですけど……誰になるんですかね、格闘技でいうと？

所　曙さんをスカウトした谷川さんみたいな？

――素晴らしいたとえです（笑）。

日村　その片岡飛鳥さんが一人ひとりにご挨拶にいってるんですよね。で、けっこう、緊張感をもって伝えてこられたんで「これはヤバい」みたいな。で、実際にスタジオに行ってみたら、カメラアングルから何から全部完璧ですからね。芸人って格闘技好きが多いですから、そういう部分では燃えるんですよね。

――そういう雰囲気でお笑いをやるってどんな感じなんですか？

日村　いざ対決となると、これに関しては所さんの試合とかでも、所さんは寝技が得意で、あの選手は打撃系だとかあるじゃないですか。それと同じで寝技的なギャグをやる人もいれば、けっこう暴れまくるパワー系の人もいるというか。もう、異種格闘技戦みたいな感じですよね。

――しかも「笑わないぞ」と思っている相手を笑わせようとするわけですから、かなりたいへんな仕事です。

日村　だから裏を言っちゃうと、このくらいのメンバーだとほかの番組では番組を盛り上げようとして、ぶっちゃけワンギア上げてくるんですよね、みんな。ちょっとしたところでも反応して笑ってあげるというか。「おもしろいときだけ笑ってましょう」なんてやっているとキツいじゃないですか。でも、これに関しては、まず笑っちゃ負けなんですよ。いままでのバラエティのノリを出していたらダメなんですよね。

――そういう目で見ると、攻撃と守備がちゃんとあって、それぞれテクニックも要求されるという感じですよね。

日村　でも本当は贅沢なんですよ。俺なんか、1回戦で原西（孝幸）さんと闘ってるんですけど、20年間ぐらいずーっとギャグをやっている人が、あの時間は俺だけのためにやっているんですよ。そういうふうに考えちゃうと、どんどんおかしくなってくるんですよね。

所　うらやましいです（ボソッと）。

日村　でしょ？（笑）。ほかでもけっこういいマッチメイクしてるじゃないですか。本当にたまらないメンバーが揃ってますし。だからそういった意味でいうと、ボクはそこまで注目される人じゃないと思うんですよ。原西さん、ホリケン（堀内健）さん、それから河本（準一）くん、（中川）礼二さんだとか、このへんのタイプがしっか

り勝ち上がっていくという予想が立つと思うんですよね。そういった意味で、僕はハードルが下がっていたんですけどね。

所　でも、一回観に行きたいですね。

——確かに。お客さんはどうやって集めているんですか？

日村　第一回は観覧希望もあったと思うし、各事務所の本当の若手的な子たちもいたんじゃないですかね。

——でも、DREAMのリングサイドに日村さんがいるように、オクタゴンサイドに所さんがいるってのもアリですよね。

日村　確かに所さんたちの煽りVってやっぱりカッコいいし、楽しいじゃないですか。この番組には煽りVもあるんで、そこに所さんに出てもらうというのはあるかもしれないですね。

所　またキャッチボールとかやりましょうか。

日村　まあ、キャッチボールはぶっちゃけ関係ないですけどね、格闘技にもお笑いにも（笑）。

——ハハハハ！　そして日村さんが1回戦から決勝まで3回闘われたわけですけど、〝12個しか持ちネタがないというなかでの優勝〟は快挙ですよね。

所　1兆個のネタを持つ原西さんに勝ってましたよね。

——しかも1回戦でいきなり必殺「子どもの頃の貴乃花」を使っちゃったんで、いったいどうするんだろうっていうドキドキ感がたまらなかったんですよ。

日村　でも、結局「何をやってもいい」って言われたんで。「そっか……」ってのはちょっとありましたね。だから、そんなに完成度の高いものじゃなくてもいいんだ、と。

所　だって日村さん、ゲロを吐くとかでしたもんね。

日村　そっちの発想しかなかったです（笑）。それで付け加えていかないと、とてもじゃないけど数で勝てないですし、質でも勝てないですから。

——そして2回戦となると、「1回戦で6個使っちゃいました」という告白もあって、2回戦と決勝でまさかの同じネタという。

所　あの、ロボットのヤツですよね。背後から攻めてたヤツで。

日村　ああ、あれは作戦でもなんでもないです（キッパリ）。

——そうなんですか！

日村　というか、インターバルのときの打ち合わせというか。ボクのセコンドはウチの相方（設楽統）なんで、ガチの打ち合わせが入るんですよ。だから、あのロボッ

8人トーナメントで行なわれた第一回『オモバカ』の決勝はホリケンと日村という顔合わせに。写真のロボット的な動きの裏話は本文中でも出ているが、この“試合”の展開がどうだったのかはぜひDVDでチェックしてほしいぞ。

ボク、あの着地のときに音がしないヤツが一番好きですね（所）

トの動きなんて最初の「12個」のなかに入れてないですから。

所　行き当たりばったり……（笑）。

日村　コント作るときにヒマだから俺がやってた動きの一つでしたから。で、設楽さんが「あれやったらいいんじゃない？」って言うから、「そんなのでもいいのかな？」って思いながらやったんですよ。実際、なんの意味もない動きですからね。

——でも、そのひらめきがよかったんでしょうね。

日村　だから、本当に勝負というものはどうなるかわからないんだなって。

——どうなるかわからないといえば、決勝のホリケン戦では、まさかの反則攻撃を受けてました。

日村　いや、びっくりしました。ホリケンさんがケータイ電話を使っちゃったんですよね。そのときは正直指摘するべきかどうかも迷ったんですよ。

——小道具は禁止ですけど、言うかどうか悩まれてましたもんね。

日村　いや、決定的にケータイでギャグをしたわけではなくて、ギャグに持っていくための前フリで使っただけなんでね。でも、なんか引っかかったんで。一応言っておこうみたいな。

——それで優勝にたどり着けた、と。全試合を観られて、日村さんの闘いぶりはいかがでした？

所　いやー、めちゃくちゃおもしろかったというか。ボク、あの着地のときに音がしないヤツが一番好きですね。

日村　ククク。これ意外と言ってくれる人多いんですよ。あれは、じつはバナナマンを結成してからすぐくらいですかね。その当時、前説の仕事が多くて、でも前説なんてやることないから途中からそんなことばっかりやってたんですよね。まあ「子どもの頃の貴乃花」もそうなんですけど、そのレパートリーが頭ん中にたまたまあったというか。

——というと、やっぱり日頃の練習の賜物（笑）。

日村　まさかあんなのに助けられると思わなかったですから。何が幸いするかわからないですね。

——それで、今回のDVDには入ってないようですが、日村さんは第二回にも出場されたんですよね。

日村　そうなんですよ。優勝させてもらったんで、第二回も行きました。でも、なんかそこでもう〝日村潰し〟じゃないですけど、雰囲気的にはそういう感じだったんですよね。

——優勝者は首を狙われる立場ですからね。

日村　でも、絶対にあのベルトを渡したくなかったんですよ。

所　かっこいいベルトですもんね！

日村　だから本気なんです。手抜きがないんですよ、あの番組。本当に恐ろしい空間なんですよね。

——しかし、それだけスタッフが本気なら まだこれからも続いていく雰囲気が充分にありますよね。

出てほしいのはGO！皆川さん。「ウンチョコチョコチョコピー」の人です（日村）

日村　これ、みんなシャレで、「所さんが年末『Dynamite!!』に出るから、そこに『オモバカ』をぶつけようか」みたいなことも言ってたりしてるんですよ。

――あら、それはもう一気にライバル関係じゃないですか。

日村　そうなんですよ。TBSは『Dynamite!!』やって、フジテレビは『オモバカ』やって、みたいなね（笑）。

――これはマズイですね、所さん。

所　みんな、『Dynamite!!』観ないでしょうね（アッサリ）。

日村　いやいやいやいや（笑）。だってボクら『Dynamite!!』観たいですから。芸人はみんな格闘技大好きな人ばかりですからね。

――でも年末といえば『Dynamite!!』はもちろんですけど、所さんと日村さんはもうバリ気分っていうのもありますよね？

日村　フフフフ。今年は凄いですよ。ついに所さんたちが先にバリ島に飛んじゃいますからね。

所　ホント、申し訳ないです。

――最近はあいかわらずプライベートで飲みに行ったりとかも？

日村　なかなか頻繁には無理なんですけど、ちょこちょこですね。

――でも、所さんは最近付き合いが悪くなったりしませんでした？　例のスキャンダル関係で……。

日村　あー、スキャンダルねえ。スキャンダラス格闘家ですからね、所さんは。

――誘っても「ちょっと今日は……」みたいなことあるんじゃないですか？

所　……全然ないです。

――あ、変わらないですか（笑）。

所　そういう席にも一緒にも行かせてもらったりしたんで。

日村　そうです、そうです。

――なるほど。そういうのも突破する友情である、と。しかし、そうなるとお正月の楽しみのためにも、現時点で年末のカードはどうなるかわからないんですけど、ひと仕事やらなきゃいけないですね。

ひむら・ゆうき■1972年5月14日、神奈川県出身。94年、相方の設楽統とともにお笑いコンビ「バナナマン」を結成。「子どもの頃の貴乃花」のモノマネは天下一品で、今回の『オモバカ』DVDにもその勇士が収録されている。お正月はバリ行きが楽しみな38歳。

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。05年『HERO'S』アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ戦で波乱のKO勝利を奪い一躍時の人に。その後、DREAMを主戦場とし、その煽りVでは盟友・日村にも出てもらったことがある。年末の大一番が気になる33歳。

所英男×

日村　そうですよ。ベストは出て、勝って、そしてバリに行きたいですからね。

所　最悪、ケガしないように……じゃなくて、ケガを恐れず頑張りたいと思います！

――というわけで、ちょっと話が逸れましたけど、『オモバカ』に今後出てほしい芸人さんとかいらっしゃいますか？

所　ええっと、仲良くさせていただいているイマニ（ヤスヒサ）さんとかはやっぱ出てほしいですね！

日村　イ、イマニ!?　……これ、ウチの若手なんですけどね。まだまだイマニはここに出れるタマじゃないですよ。イマニが出てたら、もうこれは誰でも出られますから（笑）。

所　じゃあ……なんすかね。うー、ガイジンですかね！

日村　ガイジン（笑）。まあ、格闘技には外国人選手は重要だけど。でも、芸人でいうとチャド（・マレーン 元ジパング上陸作戦）ぐらいしかいないですけどね。

――ワハハハハハ！

所　ちょっと思いつきで話しました。スミマセン……。

――日村さん、逆にこういう人が来ると、怖いなという芸人さんはいらっしゃいますか。

日村　僕は、Go！皆川さん（よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属ピン芸人）です。あの、「ウンチョコチョコチョコピー」って言う人です。

――おおー、確かにガードが甘くなりそうです（笑）。

日村　もうボクは「ウンチョコチョコチョコピー」が大好きでね。皆さんも一度や二度見たことがあると思うんですけど、あの破壊力、ちょっと凄くないですか？　忘れられないんですよね。あのー、第二回大会がいずれDVDになると思うんですけど、若手の枠があるんですよ。そこに出るために若手が競うんですけど、そこにじつはGo！皆川さんも出ていたんですよ。そのときにダイノジが上がってきたんですけど、ボクはもう一回Go！皆川選手に挑戦してほしいですね。

――そうなると、また怖い敵と闘うことになりますね。

日村　でも、対戦相手は誰でも怖いんですよ。むしろ、イマニとか何者かわからないヤツのパワーのほうが怖いんですよね。あとは、ザキヤマ（山崎弘也）あたりも怖いですし、小木（博明）さんとかも来られたら何されるかわからないですから。

――いいですねえ。そのあたりぜひ第3回、4回に期待したいです。

日村　ええ。そのときはいつか所さんも会場に呼びますから。

所　よろしくお願いします。……やっぱり、イマニさんも出てほしいです。

日村　ガハハハハハ！

――そこは所英男推薦枠で交渉してみてください（笑）。

【10年11月30日／都内・吉本興業にて収録】

第一回放送の『オモバカ』がDVDに！絶賛発売中!!

今回、見どころを解説してもらった『オモバカ』はDVDとして現在絶賛発売中！　所がイチ押しする日村の「着地のときに音がしない」ネタをはじめ、ほかの出場者の闘いぶりもここでチェックせよ！
価格／3,150円（税込）

社長就任一発目は3階級制覇を賭けたタイトル戦!
12.26『亀田祭り』で初の三兄弟揃い踏み!!

「今回闘う相手は世間だけやなく兄弟同士の勝負や」

亀田興毅

12.26『亀田祭り』でアレクサンデル・ムニョスを相手にWBA世界バンタム級王座決定戦に臨む亀田興毅。
「黄金のバンタム級」で日本人史上初の3階級制覇挑戦、初の三兄弟揃い踏み、
そして亀田プロの社長となって初めてのビッグマッチにかける意気込みを語ってくれた。

聞き手／鈴木佑　撮影／笹井孝祐

――お疲れですか、興毅さん？　まだ眠そうですね。

亀田　（あくびをしながら）ファァ～。おとといフィリピンから帰ってきたばっかりやしな。記者さんも朝早くからご苦労さんです。

――いえいえ、とんでもないです（笑）。今月は『亀田祭り』が控えてますけど、コンディションはどうですか？

亀田　まぁ、いつもと一緒やね。べつに普段から調子が悪くなるってことも、なかなかないし。こっちはもう365日、ず～っとボクシングの練習やから、自分のペースもわかってるしな。

――今回は階級の変更もありますけど、減量に影響は？

亀田　まだわからんかな。この時期は減量してないし。

――じゃあ大好物のスイーツも毎日？

亀田　うん、毎日食べてるよ。でも、16日間ぐらい外国行っててずっと日本のもの食べてなかったから。

――最近は海外合宿となるとフィリピンが多いみたいですね。

亀田　そうやな。もう6回ぐらい行ってるかな。

――向こうではWBC世界スーパーウェルター級王者のマニー・パッキャオに会ったとか？

亀田　そうそう、あいだを取り持ってくれた人がいてな。パッキャオは国会議員やから、議員会館まで俺ら三兄弟が招待されて、ちょっとだけボクシングの話をして。

――ちなみにどんなお話を？

亀田　パッキャオも議員さんやから忙しいけど、それでも毎日の練習は欠かさへん、と。だからキミらも絶対に練習は毎日せなあかん、と。そういうことやな。

――11月のパッキャオのタイトルマッチも観に行ったそうですね。

亀田　うん、行ってな。そのことについては本人と話さなかったけど、やっぱり刺激は受けたよ。

――興毅さんは『亀田祭り』で元WBA世界スーパーフライ級王者のアレクサンデル・ムニョスと対戦することになって、「今回がいままでで一番不安がある」って言ってましたけど、それはどういう部分で？

亀田　やっぱり、いままでと闘う階級が違うからな。俺はフライ級でやってて、その前はライトフライ級。そこから考えたら、今回はスーパーフライ級を飛ばしてバンタム級やから、初めての世界戦から3階級上がってる。いままで闘ったことない階級やから、やってみんことにはどうなるかわからへんし。

――同じ飛び級ということでは、最近では長谷川穂積さんがWBC世界フェザー級王座決定戦でファン・カルロス・ブルゴスに見事に勝利しましたね。

亀田　フィリピンにおったから、まだ映像は観れてないねんけど、結果を聞いたらやっぱ刺激になるよ。長谷川選手もずっとバンタム級でやってきて、スーパーバンタ

ム級を飛び越して、いきなりフェザー級で世界タイトルを獲ったわけやから。だから俺も無理なことはないとも思うし。

――『亀田祭り』はWBA世界フライ級王者の大毅選手と、兄弟揃ってのタイトルマッチになりますね。大毅選手は「フライ級はしんどい」って言ってますけど、一緒に練習されててどうですか？

亀田 アイツは減量しんどいと思うよ。でも、いま亀田家にあるベルトは大毅のだけやから、そういう責任感もあるみたいや。今回もホンマは階級を上げようとしてたけど、でもやっぱりそれはチャンピオンである以上はできへんし。

――チャンピオンになって大毅さんが変わったところとか感じますか？

亀田 いや、べつにとくに変わってないな（アッサリ）。

――あ、そうですか（笑）。

亀田 アイツはあいかわらず兄弟で一番独特。また、今回も試合に勝ったら何かやるつもりやろうし。

――そういえば、大毅さんが公開練習で元プロレスラーの一宮章一さんと公開練習をやってたのがちょっと驚いたんですよ（笑）。興毅さんも一宮さんと練習したりするんですか？

亀田 やってるよ。やっぱりもっともっとパワーつけないかんから、一宮さんと押し相撲やったりな。3分間ずっと押す練習、下半身とか体幹を鍛えたる練習な。べつにプロレスの練習はせえへんけど（笑）。

――なるほど（笑）。今回の試合に向けて何か練習メニューを変えたりは？

亀田 そんなないままでと何も変えることはないな。急に新しいことしたってできへんし。やってきたことをさらにレベルアップしていかんと。

――今回の試合は大会まで1カ月切ってから決定ということで、けっこう急な展開でしたよね。対戦相手も変わって。

亀田 うん。初めは（元WBA世界フライ級王者ロレンソ・）パーラって話になってて、それが11月の中ぐらいかな、ムニョスになったって話があって。でも、ずっと年末に向けて準備してるし、相手が決まったから急に練習ってわけでもないからな。

――ムニョスは"日本人キラー"として有名ですね。

亀田 やっぱり世界王者になったわけやし、強い選手やと思うよ。いいパンチ持ってるし、パンチ出てくるところがちょっとわかりにくいから、やりにくいとは思う。

――興毅さんは映像とかでキッチリ相手を研究するんですか？

亀田 そらもう何回も観たで。ムニョスは日本に何回も来てるしな。7回来て、7回とも勝ってるから。まあ、だから今回が初めての負けになると思うけどな（笑）。

――ハハハ、俺が負けを教えたる、と。今回は興毅さんが亀田ジムの社長になって初のビッグイベントですけど、心境的にいままでとは違う部分はあります？

亀田興毅

俺、社長って呼ばれたくないしな。普通に接してくれるほうが気はラク

亀田 まあ、とくに何も気にしてないよ。もう試合まで1カ月切ってるし、試合だけに集中して。

――現役ボクサーと社長という二足のわらじという部分で、しんどいと感じるところもとくにはない、と？

亀田 いまのところはないな。まぁ、選手以外に自分がやらなきゃいけないことっていうのも、周りのスタッフが動いてくれるし、一生懸命やってくれてるから。

――たとえば社長として最終決断をするとか？

亀田 そうそう、そういうのをするだけであって。それにいままでも俺はいろんなことやってるしな。まぁ、ウチも少ない人数でやってるから、みんなたいへんやと思うけど、力を合わして頑張ってるよ。

――社長と呼ばれるのには慣れました？

亀田 うん？ いや、俺、そう呼ばれたくないしな。

――社長と呼ばれたくない！（笑）。

亀田 そりゃ社長って呼ばれて、ええ気はせえへんよ。いままでどおり普通に接してくれるほうが気はラク。まぁ、これからそう言ってもいられへんねんけどな。だからこれからいろんな人と会って勉強もせんと。やっぱりボクサー人生は短いし、そのあとの人生のほうが長いわけやから。

――先々のことも見据えて。

亀田 言っても、もう俺も24になるしな。

――年齢だけ聞くとまだ若いですけど、プロデビューしてからはもう7年経つんですよね。

亀田 うん。30歳までは現役でやろうと思ってるけどで、そう考えるともうあと6年しかない。ということはもう半分、折り返してきてるわけやから。だからまぁ、ボクシングはボクシングでやって、その空いた時間で練習の負担にならんようにいろんな人と会うて、見たり聞いたりして勉強して。やっぱりそれぞれの業種でトップになった人の話を聞いたら、ヒントになることがいっぱいあると思うしな。

――社長になってそういう人々と話す機会が増えてくると、敬語を使う機会も増えてくるんじゃないですか？（笑）。

亀田 全然、普通に敬語できるよ。俺、敬語知ってるよ（笑）。

――失礼しました（笑）。そもそも亀田プロを引き継ごうと思った一番のきっかけっていうのはなんなんですか？

亀田 とくにこれといったものはないよ。時期的なもんでもあるやろうし。

――たとえば、現役時代はボクシングに専念して、社長は外部の人にやってもらうとか考えなかったですか？

亀田 結局、全部は俺ら家族のことやから。そら自分らでやらなあかんよ。これまでもいろんなことあったけど、ずっと家族でやってきたわけやしな。

――なるほど。今回の兄弟でのダブルタイトル戦っていうのは、最初から考えてた案だったんですか？

亀田 うん。というか、やっぱりゆくゆくは三兄弟で世界タイトルマッチ、トリプル

でやることがずっと夢なわけやし、今回は

に見たら俺は経験とかそういうものは何

今年2月、デンカオセーン・カオウィチットを破り、WBA世界フライ級となった大毅。三兄弟で唯一の王者である大毅は、『亀田祭り』でシルビオ・オルティヌを相手に二度目の防衛戦に臨む。

でやることがずっと夢なわけやし、今回はそれに向けて大きい試合やと思う。

――夢への第一歩というか。

亀田 うん。

――あと、『亀田祭り』で驚いたのが500円のチケットを4000枚用意したってことなんですけど、あれは興毅さんのアイデアなんですか？

亀田 うん、今回はクリスマスも近いし、亀田家からのプレゼントっていう意味も込めてな。それに12月26日って、海外なんかじゃ「Boxing Day」って言われてる日やから。

――25日にプレゼントの箱をもらって、次の日にそれを開ける日だからそう呼ばれてるんですよね。

亀田 そうそう。そんならこっちも26日にやるわけやし、「Boxing Day」とボクシングをかけてな。で、今回、三兄弟のなかで「亀田家のビッグイベントやからみんなに観に来てもらいたい」と。500円やったら気軽に来れるやろうし、これがまた次につながると思うし。観に来ておもしろかったら、「今度は違うボクシング観に行こうか」とか、ボクシング自体に興味を持ってもらえたらええかなって。

――ボクシング業界全体のことを考えて。

亀田 一回会場に来てもらったら、その人にとって何かのきっかけになると思うよ。たとえばライブを観に行ったら、「ああ、よかったな。次は違う歌手の観に行きたい」とか、「今日、聞いた曲をカラオケで歌おう」とか、何かにつながると思う。ボクシングも同じじゃし、500円というチケットが何かのきっかけになればいいな、と。

――ボクシングへの入り口というか。

亀田 うん。いままでどおりやってたって、何一つ変わりはないからな。年齢的に見たら俺は経験とかそういうものは何もないかもしれへんけど、若いなりに新しい発想はあるから。昔も500円席を作ったことはあったけど、やっぱりやるんやったら大きくせんとインパクトもないし。実際、ようけ作ったって儲けはないよ。印刷代やら何やらいっぱいかかるしな。でも、目先の金だけ追いかけてたら、絶対そこで終わってしまうから。

――そういう意味では先行投資というか。

亀田 先へ先へ、あとのことを考えてやっていかんと。おかげさんで反響もけっこうあるよ。とにかくいろんな人に観に来てもらって、それがいい方向に向かえば。

――亀田家の試合って凄く視聴率を獲りますけど、それが会場に足を運ぶ数につながるかっていうとなかなか難しい問題ですよね。

亀田 難しい。それに今回は時期的なものもあるしな。やっぱり年末とかなってくると、みんなバタバタしてるやんか？ そういう人らをいかに試合会場に足を運ばせるか、そういう気持ちにさせないかんから。大きな会場を埋めるっていうのは、ボクシングにかぎらず、いまはどのイベントでも難しいと思うしな。

――そういう意味でいかにお客さんに楽しんでもらうかというところでは、大毅さんなんかはリングで歌を披露してますけど、ボクシングのイベントで改善したほうがいいなって思うことはあります？

亀田 う～ん、もっともっといろいろ楽しめるようにしたいなあ。たとえば自分も体感できるように、試合会場にボクシングのアトラクションを置いたりとかかな。パンチングマシーンを置いたり、サンドバッグを吊ってコーナーを作るとか。あとは、試合の合間にイベントを入れたりとかさ。

「俺が一番いい試合をしたる」っていう気持ちが大会をもっとよくする

――アーティストのライブが入ったり。
亀田　うん。大物歌手がメインの前に2～3曲歌ったりとかな。そしたら全然違うと思うよ。前にパッキャオの試合を観に行ったときも、名前は忘れたけど全米を代表するような大物歌手が歌うてたから。それで会場もすっごい盛り上がってたし。総合格闘技やってそうやん、演出の部分ではボクシングより先行ってたよな。
――ボクシング界は古い？
亀田　まぁ古いというか、伝統を守りたいという気持ちもわかるし。だから、守りつつ、ちょっと変えたらいいかな、と。そのへん、俺らは柔軟やから。たとえ失敗してもそれを次につなげて。
――社長として初のビッグイベントということで、視聴率も以前より気にする部分もあるんじゃないですか？
亀田　そうやな。でもそれはそのときの流れもあるっていうか、天気によって人が家にいるかどうかとかでも左右されるし。それに裏番組もあるしな。
――テレビ朝日系では年末の風物詩になった『M-1グランプリ』がありますね。
亀田　強敵やで、それは（笑）。あとはフィギュアスケートもあるし。だからけっこう難しいとは思うけど。
――たとえばTBSサイドと話して何か考えてたりするんですか？
亀田　まあ、いろいろ考えてるよ。たとえば『君が代』を歌う人とかリングアナウンサーとか、そういうところに大物がバンっと入っただけでも違うと思うしな。
――試合以外のところでテレビ的な演出が入ることに関しては、興毅さんのなかではなんともないんですね。
亀田　うん。そんなん全然気にはせえへんよ。もっともっとにぎやかになって盛り上がったほうがおもしろいし、試合に向けてもテンション上がるし。で、そのうえで結局最後は、どういう試合をするかやから。一番の理想は長いラウンドで攻防して、後半にKOすることなんやけどな。
――前半でKOするより視聴者を引きつけますもんね。
亀田　うん。でも、もちろん闘ってるときにはそんなこと考えへんし、真剣勝負やからそこは難しい。あと、大事なのはその日は対戦相手だけじゃなく、兄弟同士の勝負でもあるからな。
――兄弟同士の勝負？
亀田　俺たち三兄弟が初めて一緒のリングで闘うわけやから、それぞれが「俺が一番いい試合をしたる」っていう気持ちやと思うから。その気持ちがイベントをもっとよくすると思うから。
――視聴率という意味では世間との闘いですけど、イベントという意味では兄弟同士での闘いなんですね。
亀田　うん。もちろんムニョスとの闘いでもあるから、こりゃしんどいで（笑）。
――ハハハ。興毅さん、いま格闘技界も視聴率やらでいろいろしんどいんですよ。
亀田　あぁ、よくは知らんけどそうらしいな。
――DREAMも亀田一家の試合とカップリングで放送したり、けっこう助けられたというか（笑）。
亀田　でもそれはええことやと思うで。そうやって同じ格闘技同士で盛り上がるんなら。いつもみたいに今年の大晦日もやるんやろ？
――そうですね。ウチで興毅さんが対談した石井慧さんも出るでしょうし。
亀田　やっぱり彼とは同い年やし、競技は違うけど俺らの世代で小さい子らに「カッコいい」って思われるようにしたいよな。
――今後、『亀田祭り』というのは年末恒例になるんですか？
亀田　そうしていきたいと思ってるよ。今年は俺の3階級制覇への挑戦が目玉。それに大毅の防衛戦と和毅の試合もある。で、来年はもっともっと力をつけた和毅が世界初挑戦。そこで勝てば三兄弟が世界チャンピオンになるわけやから。もしくは大毅の二階級制覇挑戦っていうことも考えられるし。そこに俺は自分のカードをどうもっていくかやな。
――夢はどんどん広がるというか、やっぱり社長として興行的なビジョンも考えてるんですね。
亀田　あぁ、なんやかんや言うてそうかもしれないな。
――興毅さんは今後、亀田プロをどんなふうにしていきたいですか？
亀田　具体的にはまだそこまで考えてないよ。とりあえずいまは試合前やから、それだけに集中して、とにかく終わってからやな。勝つのはあたりまえやけど、内容的にもお客さんが「観に来てよかったな」という思い出になるようにしないと。三兄弟全員が勝って、いい年を迎えたいな。
――兄弟揃っての活躍、期待してます！
【10年12月6日／都内・亀田ジムにて収録】

亀田興毅

かめだ・こうき■1986年11月17日、大阪府大阪市西成区天下茶屋出身。亀田三兄弟の長男。父・史郎からボクシングを教わり、17歳でプロデビュー。前WBCフライ級世界王者。前WBAライトフライ級世界王者。12.26『亀田祭り』ではフライ級から一気に二階級上げての飛び級で、日本史上初の3階級制覇を目指す。左ファイターボクサー。

「口頭弁論にマスク姿で出廷」な読者プレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2011年1月27日(木)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦あなたが選ぶ大晦日の名勝負といえば?⑧あなたがkamiproに望むことは?

【宛先】〒162-0805 東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1 (株)ツー・スリー内『kamipro』編集部 「テキーラぶっかけるぞ」係まで

※応募締切は2011年1月13日(木)当日消印有効

PRESENT 01 SPECIAL PRESENT 1名様

ザ・グレート・サスケ&須藤元気 直筆サイン色紙

今号で実現したサスケと元気のUFO頂上対談! 取材時はみちのくプロレス恒例の『宇宙大戦争』を控えていたサスケ。対談終了後、帰り道で一般人に記念写真を頼まれると、すかさず名刺を取り出し「よかったら後楽園で試合があるので観に来てください」とセールストーク。さすがです!

ブログ(サスケ)■http://ameblo.jp/thegreatsasuke

PRESENT 02 1名様

アートジャンキー ラバーキーホルダー

[アートジャンキー/各¥800(税込)]

ジョシュ・バーネット、藤井惠、ミスター6号のキーホルダーをセットで1名に! 大きさは縦7.8cm×横3.2cm×厚さ4mm(本体部分)。

アートジャンキー■http://www.artjunkie.jp/

PRESENT 03 1名様

映画『イップ・マン 葉問』 イップ師匠&ホン師匠キューピー

[非売品]

映画『イップ・マン 葉問』のかわいいグッズ。『イップ・マン 葉問』は1月22日(土)より新宿武蔵野館ほかにて全国順次ロードショー!

HP■http://www.ip-man-movie.com/

PRESENT 04 1名様

レッドマミー・マスク&コスチュームセット(本人使用)

闘道館からは90年代に鶴見区青果市場を恐怖に陥れた、あのレッドマミーの使用済みコスチューム! もちろんメイド・バイ鶴見五郎。

闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT 05 1名様

DJ.taiki直筆サイン色紙

[非売品]

今年は縦横無尽に活躍したDJ.taiki。ちなみに大事なお友だち(?)であるミギーの作り方に関しては「これは教えられません」とのこと。

ブログ■http://www.artjunkie.jp/

PRESENT 06 1名様

所英男&日村勇紀直筆サイン入り DVD『オモバカ8』ポスター

[非売品]

過去には本誌No.125とNo.139でも対談を行なっている親友同士の所さんと日村さん。いつか互いのセコンドを務める可能性もゼロではない?

HP■http://wwwz.fujitv.co.jp/omobaka/

PRESENT 07 3名様

中井りん直筆サイン入り ブロマイドセット

[非売品]

りん様がまたもや恥ずかしいけど頑張ってくれた悩殺ブロマイドを提供! これを眺めながら貴方も恥ずかしいけど頑張っちゃってください!

ブログ■http://d.hatena.ne.jp/nakarin89/

PRESENT 08 1名様

クレイジー884 Tシャツ

[NO NEED NEW/¥3,675(税込)]

NNNからはRIZEなどで活躍するキックボクサー、クレイジー884のTシャツ。884の好きなメキシコをイメージした配色で、サイズはL。

NO NEED NEW■http://www.no-need-new.com/

PRESENT 09 1名様

PS3ゲームソフト『EA SPORTS総合格闘技』

[ELECTRONIC ARTS/¥7,665(税込)]

ヒョードルや吉田秀彦、青木真也など世界トップクラスの選手が約60名も実名で登場する対戦型格闘ゲーム! なんと島田裕二まで登場!

HP■http://easports.jp/mma/2010/

PRESENT 10 1名様

DVD『JWP激闘史 団体対抗戦3 女子プロレス戦国時代編』

[クエスト/¥5,880(税込)]

95年〜98年に行なわれたJWPと全女、GAEA JAPANやFMWとの団体対抗戦を網羅! とくに禁断の禁断のLLPWとの対抗戦は必見!

PRESENT 11 1名様

DVD『修斗5月伝説 THE LEGEND of MAY』

[クエスト/¥5,880(税込)]

2年にわたるJCBホールでのビッグマッチをカップリング! 廣田瑞人vs石田光洋、中蔵隆志vs五味隆典、リオン武vs日沖発などを収録。

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro154 応募券 投資家

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.154
2011年1月7日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（合格祈願のため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
高橋くん

編集次長（ペルーサ、もう一丁!?）
松林 貴

デザインGM
出田 一（TwoThree）

デザイン隊長
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐺田やっちゃん
白木みのる（以上、TwoThree）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
吉場正和
今村陽子
笹井孝祐
タイコウクニヨシ
梅木麗子
金山フヒト
丸山剛史

出かけるのをやめなさい
入江海老蔵（TwoThree）

営業部
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本“4折全部は禁止”義之

庶務部
原 正典
山内ユリコ

編集チアガール
金川“ナツコ”奈津子
安部“クリン”悠子

毛皮のマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431
東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177
東京都千代田区富士見2-13-3

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間／土日祝祭日を除く 12:00～17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

次号は

昭和プロレス大特集

上田馬之助
120分ロングインタビュー「金狼の遺言」掲載決定!

NEXT ISSUE

12.30『戦極 Soul of Fight』
12.31『Dynamite!!』1.1『UFC125』徹底詳報!
kamipro Special 2010 FEBRUARY
は2011年1月11日（火）発売予定!

年末年始に活躍した選手のインタビュー多数掲載!
No.155は2011年1月22日（土）発売予定!

※地域によっては発売が多少遅れることもありますので良いお年を!

kamipro 2010 154
大晦日格闘技興行開催10周年
猪木で始まり猪木で終わるか……
2011年1月7日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤惇一、青柳昌行
発行所／株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
発売元／株式会社角川グループパブリッシング　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
enterbrain

9784047269569

特別定価：本体895円＋税
雑誌61972-43 Ⓗ2011.04
Printed in Japan 図書印刷株式会社

ISBN978-4-04-726956-9
C9476 ¥895E

1929476008954